

# 三菱トラクタ

## 取扱説明書

GA28・30・32・36  
41・46・50



ご使用前に必ずお読みください  
身近なところに大切に保管してください

# このたびはトラクタをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

## ●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

- ・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
- ・また、この機械を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。
- ・本書では、安全上重要な事項を(⚠)で示し、次のように表示しています。必ず守ってください。

 <b>危険</b>	その警告に従わなかった場合は、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 <b>警告</b>	その警告に従わなかった場合は、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 <b>注意</b>	その警告に従わなかった場合は、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- ・なお、この機械の品質・性能向上あるいは安全のために、使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、機械と一致しない場合がありますのでご了承ください。

## ●機械の使用目的について

- ・機械は、ほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
- ・機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりません。(詳細は保証書をご覧ください。)

# こんなとき、こんなことが知りたいとき、 ここを見てください!

この取扱説明書は、次の通り構成されています。まず、**安全作業のために** からお読みいただき、基本事項から操作、点検まで機械の正しい取り扱い方を理解してください。

## **安全作業のために** 安全な作業をするための注意事項は?

安全な作業をしていただくために、安全に関する基本事項、表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

## **ご使用まえに** 使用前に知っておかなければならないことは?

機械の概要「仕様（装備）」などについて説明しています。

## **各部の名称** 各部の名称を知るには?

機械の主な名称について説明しています。

## **運転のしかた** トラクタを動かすには?

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。  
運転操作のしかた：エンジンの始動・発進・走行・停止のしかた、自動車への積込み・積降ろしのしかた、坂道での運転のしかたなどを説明しています。

## **作業のしかた** ほ場作業を行うには?

作業に必要な装置の使いかたについて説明しています。

## **MACビジョンの取扱い** MACビジョンを使用するには?

MACビジョンの取扱いについて説明しています。

## **キャビン装備機の取扱い** キャビンを使用するには?

キャビン装備機の取扱いについて説明しています。

## **手入れのしかた** 機械を長もちさせるには?

機械をつねに正常な状態に保つために、手入れのしかたについて説明しています。

## **長期格納のしかた** 機械を長期格納するときは?

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

## **不調時の処置** 故障かなと思ったら?

異常を感じたらすぐ原因を調べ処置してください。

## **付 表** 主要諸元、主な消耗部品は?

の安全  
ために  
作業

ご使用  
まえに

各部の  
名称

運転の  
しかた

作業の  
しかた

のMAC  
取扱い  
ビジョン

のキャ  
ビン装  
備機

手入れ  
のしかた

の長期  
格納

の不調  
時の  
処置

付

表

# も く じ

## 安全作業のために ……(安全作業説明編)

### ご使用まえに …… 1

1. 保証とサービスについて …… 1
2. 仕様(装備)について …… 2
3. 用語について …… 3
4. 小型特殊自動車について …… 4
  1. 小型特殊自動車の届出 …… 4
  2. 運転免許 …… 4
  3. 公道を走行するとき …… 5

### 各部の名称 …… 6

1. 運転装置の名称 …… 6
  1. スイッチ, 計器関係 …… 6
  2. レバー, ペダル, シート関係 …… 7

### 運転のしかた …… 8

1. 運転まえの点検 …… 8
  1. 点検項目 …… 8
  2. 運転まえの準備 …… 9
  3. 安全フレームの取扱い …… 10
  4. 灯火類の操作 …… 12
2. 運転操作のしかた …… 14
  1. エンジンの始動と停止 …… 14
  2. 発進・走行のしかた …… 18
  3. 停車・駐車のしかた …… 23
  4. 自動車への積み込み・積降ろし …… 25
  5. 坂道での運転のしかた …… 27
  6. ほ場への出入りのしかた …… 28

### 作業のしかた …… 30

1. ほ場作業のしかた …… 30
  1. ほ場での旋回のしかた …… 30
  2. おまかせmacの取扱い …… 32
  3. P T Oの取扱い …… 33
  4. ポジションコントロールレバーの取扱い …… 35
  5. 安全装置の取扱い …… 39
  6. 深さ自動の取扱い …… 40
  7. 傾き自動の取扱い …… 44

8. ドラフト自動の取扱い(オプション) …… 47
9. 作業に適した速度の選びかた …… 49
10. 4輪駆動とデフロックの使いかた …… 52
11. 作業機降下速度の調節 …… 53

### 2. 作業に必要な装置の使いかた …… 54

1. トレッドの調節のしかた …… 54
2. 3点リンクの取付け寸法の設定のしかた …… 57
3. 作業機の取扱い …… 62
4. 作業機用電源の取扱い …… 62
5. トレーラ用電源の取扱い(キャビン仕様) …… 63
6. バンパウエイト(オプション) …… 63
7. フロントローダの取扱い …… 64
8. サブバルブの取扱い(オプション) …… 65

### MACビジョンの取扱い …… 66

1. 操作部名称 …… 66
2. MACビジョン表示 …… 67
3. 各種設定のしかた …… 69
4. MACビジョンの注意報知機能 …… 72

### キャビン装備機の取扱い …… 73

1. 各部の取扱い …… 73
  1. ドア・リヤウインドウの開閉のしかた …… 73
2. スイッチの取扱い …… 76
  1. 灯火スイッチの取扱い …… 76
  2. 各種スイッチの取扱い …… 77
3. 運転装置の取扱い …… 80
  1. バックミラー …… 80
4. 室内装備の取扱い …… 80
  1. カップホルダ …… 80
  2. エアコン …… 81

### 手入れのしかた …… 84

1. 定期点検整備表 …… 84
2. 給油・給脂・給水のしかた …… 86
  1. 給油・給脂・給水 …… 86
  2. ボンネットの開閉とカバー類の取り外しかた …… 87
  3. エンジンオイルの点検と交換 …… 88
  4. エンジンオイルフィルタの交換 …… 89



## (安全作業説明編)

# 安全作業のために

	ページ
1. 安全作業のしかた	(安-1)
⚠ 作業前に次のことを守りましょう！	(安-1)
⚠ 安全作業のポイント	(安-2)
⚠ 作業前の一般的な注意事項	(安-4)
⚠ 作業前の点検, 整備, 掃除をするときは	(安-6)
⚠ エンジンを始動するときは	(安-11)
⚠ 作業機の装着および作業をするときは	(安-13)
⚠ 走行運転をするときは	(安-17)
⚠ 狭い道路, 凸凹道, 坂道, 傾斜地で運転するときは	(安-19)
⚠ 自動車への積込み・積降ろしをするときは	(安-21)
⚠ ほ場で作業をするときは	(安-22)
⚠ 1日の作業が終わったら	(安-23)
⚠ 長期格納するときは	(安-24)
2. 表示ラベルについて	(安-26)

# 安全作業のために

## 1. 安全作業のしかた

- ・安全上の重要な事項を **⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** の3段階に分類して説明していますので、よく読んで理解し安全作業に努めてください。
- ・なお、この項で説明している安全説明はトラクタ全般についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので必ず守ってください。

### ⚠ 作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆このような人は運転しないでください。

- 酒気をおびた人
  - 妊娠している人
  - 16才未満の人
  - 指導者のいない運転未熟練者
  - 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により、正常な運転操作ができない人
- 運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。

思わぬ事故を起こすことがあります。



◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。



このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり、足をスべらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。



◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して、安全な作業ができるよう説明してください。



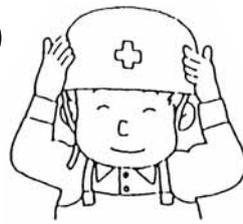
借りた人が不慣れなため、思わぬ事故を引起こすことがあります。





# 安全作業の

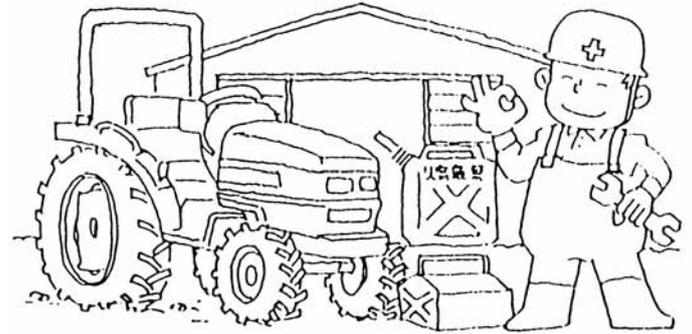
# ポイント



- 取扱説明書、機械のラベルをよく読んでから運転する

## 始業・点検 準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止する
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり、汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
- エンジン、バッテリー、燃料タンクの周辺を掃除する
- バッテリーコードや電気配線、燃料ホースを点検する
- 給油、冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う
- 燃料補給時は火気を近づけない
- 各部の締付けを確認する
- ブレーキの作動具合と左右の遊び量を点検する
- ハンドルの遊びやガタが大きいか確認する
- 方向指示器などの保安部品の作動を確認する
- 作業機を上げて点検するときは作業機降下速度調節グリップを「固定」の位置にして作業機の下に固定脚を置く
- トラクタを移動して作業機を着脱するときはトラクタと作業機の間立たない
- 機械は改造しない
- 油脂類の廃却は、廃却設備のあるところで処理する



- PTO変速を「《N》(中立)」にする。
- PTOスイッチを「切」にする
- おまかせスイッチを「走行」にする
- トラクタや作業機に人や物を乗せない
- 発進時は周囲（特に子供がいないか）をたしかめる
- エンジンコントロールレバーを「低」にし、フートアクセルで走行する
- 急発進、急ブレーキ、急旋回はしない
- わき見運転や手放し運転をしない

## エンジン始動

- すべてのカバーを取付け、安全フレームをおこす
- トラクタや作業機の周囲から人を遠ざける
- 運転席に座り駐車ブレーキをかけ、シートベルトをする
- シャトル、主変速、副変速、PTO変速レバーを「《N》(中立)」にし、クラッチペダルを踏む
- PTOスイッチを「切」にする
- 屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする

## 走行・運転

- 左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認する



## 道路（公道）走行

- 運転免許証を携帯し、交通法規を守る
- 公道走行するときは作業機を装着しない
- 前後左右を確認し、低速車線を走る
- 夜間の移動はライトをつける
- コーナーライトや作業灯は使用しない
- 走行中に飛び乗り、飛び降りはない

## 狭い農道・凸凹道・坂道の走行

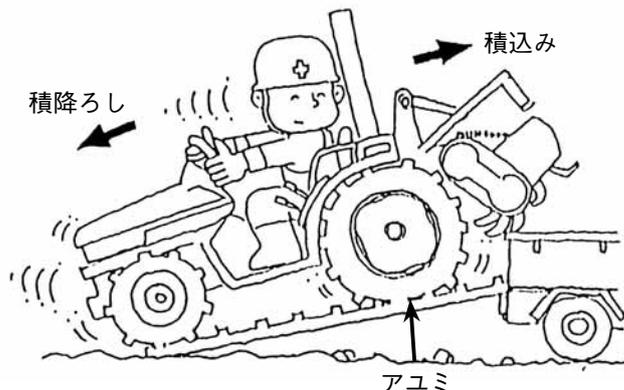
- 狭い農道や凸凹道は低速で走行する
- 対向車を避けるとき、端に寄りすぎない
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
- 登り坂では急発進しない
- 下り坂では速度を下げエンジンブレーキを使用する
- 坂道では走行クラッチを切らない、変速レバーを「《N》(中立)」にしない

## 停車・駐車

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、シャトル、主変速・副変速、PTO変速を「《N》(中立)」にし作業機を降ろしてからエンジンを停止する
- 坂道では駐車しない  
(やむをえず駐車するときは車止めをする)
- 機械を離れるときはキーを抜取る

## 自動車への積み込み・積降ろし

- アユミは十分な強度、幅、長さ（荷台高さの4倍以上）、すべり止め、フックのあるものを使用する
- アユミは自動車の荷台に対し真っ直ぐにかけ、フックが外れないことを確認する
- 周囲を確認し機械のまわりには人を近づけない
- PTO変速を「《N》(中立)」にする
- 積み込みは後進、積降ろしは前進で低速で行う
- ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする
- アユミの上ではクラッチ操作や変速操作をしない
- 片ブレーキ、デフロックは使用しない



## ほ場作業 ほ場の出入り

- PTO変速を「《N》(中立)」にする
- PTOスイッチを「切」にする
- 左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認する
- 低速であぜに対して直角に行く
- 高あぜ、溝越え、急傾斜はアユミを使用する
- 上がる時は後進、降りるときは前進で行う
- あぜがくずれないか確認しゆっくり行う

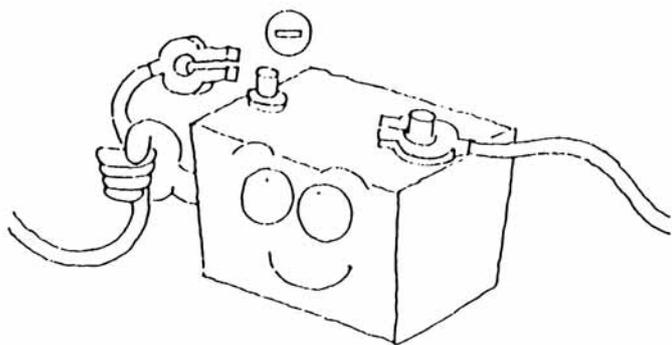


## ほ場での作業

- 子供など、人をそばに近づけない。2人乗りはしない
- ウエイトがわりに人や物を乗せない
- 回転時は周囲を確認する
- わき見運転や手放し運転はしない
- 急傾斜地では作業をしない
- デフロック使用後は解除を確認する
- けん引作業は純正ドローバを使用し、後車軸の高さより上では引っ張らない
- 疲労を感じたら無理に作業を続けず休憩をする

## 作業中途の点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する
- 作業機の点検をするときは作業機降下速度調節グリップを「固定」にする
- エンジンまわりの点検はエンジンが冷えてから行う



## 終業・格納 1日の作業が終わったら

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけて作業機を降ろしエンジンを停止してキーを抜取る
- エンジン、バッテリー、燃料タンク周辺を掃除する
- マフラ、ラジエータなどは冷えるまで直接触れない
- タイヤの交換、輪距の変更はジャッキと固定脚を使用する
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

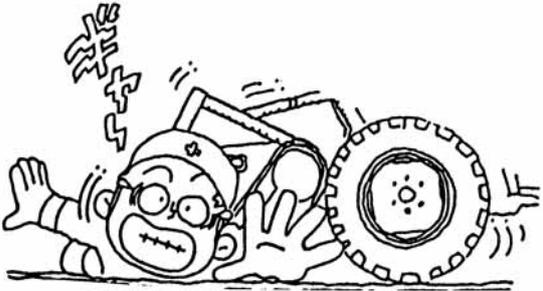
## 長期格納

- 作業機は外すか、降ろしておく
- 燃料は満タンにし、燃料コックを閉めておく
- バッテリーのアースコードを外すか、バッテリーを取外す
- クラッチペダルを踏込んでペダルロックをかける
- 後輪の前後に車止めをし、駐車ブレーキを解除し、キーを抜き取る
- 部品（バッテリーなど）または機械を廃棄するときは「お買いあげ先」に相談する

## ⚠️ 作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p><b>⚠️ 警告</b> ◆機械はほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。</p>	<p>思わぬ事故を引起こすことがあります。</p>  An illustration showing a person wearing a hard hat and safety glasses, lying on the ground in pain. A large gear is positioned over their head, with motion lines indicating it has just struck them.
<p><b>⚠️ 警告</b> ◆機械は改造しないでください。</p>	<p>改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。</p>  An illustration of a person in overalls using a wrench to work on a tractor. The tractor is shown with motion lines, suggesting it is running or vibrating.
<p><b>⚠️ 警告</b> ◆トラクタを使用する前後に点検を行い、異常箇所は直ちに整備してください。</p> <p>1シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。</p>	<p>整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。</p>  An illustration of a person wearing a hard hat and safety glasses, inspecting a tractor. The tractor is shown with motion lines, suggesting it is running or vibrating.
<p><b>⚠️ 警告</b> ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。</p> <p>●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。</p>	<p>排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。</p>  An illustration showing a tractor inside a room with its exhaust pipe running. Thick clouds of exhaust gas are shown filling the room. A person is shown in the foreground, looking unwell and holding their head.

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆トラクタでの傷害事故の大半は  
転落・転倒事故です。安全フレ  
ームを取外して運転しないでく  
ださい。

通常は安全フレームを「おこして」シート  
ベルトを着用してください。



転落や転倒したときは死亡または傷害事故になること  
があります。



◆機械に人や物を乗せたり、人を  
近づけないでください。

- トラクタや作業機の上に人や物を乗せない。
- 子供など、人を近づけない。

思わぬ事故を引起こす原因となります。



◆トラクタへの飛び乗り、飛び降  
りはしないでください。

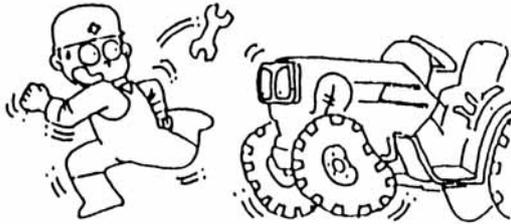
転落や転倒して、傷害事故を引起こすことがあります。



## ⚠️ 作業前の点検・整備・掃除をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p><b>⚠️ 警告</b> ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止させタイヤに車止めをしてから行なってください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●シャトル、主変速、副変速、PTO変速レバーが「《N》(中立)」になっていることを確認する。</li></ul>	<p>機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。</p> 
<p><b>⚠️ 危険</b> ◆給油、注油時はエンジンを停止しエンジン回転中や、エンジンが熱い間は給油、注油をしないでください。</p> <p>◆燃料補給時は、くわえタバコなどの火気を近づけないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとる。</li></ul>	<p>燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因となることがあります。</p> 
<p><b>⚠️ 危険</b> ◆燃料ホースの損傷や燃料もれがないか点検してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●もれている場合は交換する。</li><li>●燃料ホースは2年ごとに交換する。</li></ul>	<p>火災事故を引起こすことがあります。</p> 
<p><b>⚠️ 警告</b> ◆ラジエータが熱いときは、ラジエータキャップを外さないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●ラジエータキャップを開ける場合は、エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。</li><li>●冷却水の点検はリザーブタンクで行う。</li></ul>	<p>熱湯が吹きだし、ヤケドをすることがあります。</p> 

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆バッテリーの点検時、火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。

バッテリーから水素ガスが出ますので、引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。



◆バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。

バッテリー液（希硫酸）で服が破れたり、失明やヤケドをすることがあります。

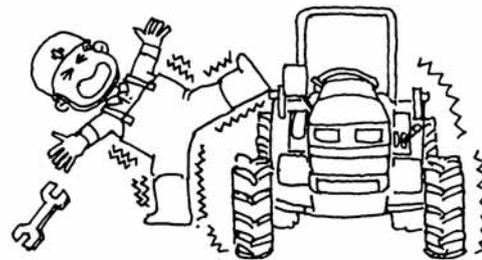
◆バッテリー液が、目、皮膚、衣服、物についたときは、すぐに多量の水で洗い、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入った時や飲み込んだときは医師の診断を受けてください。



◆バッテリー端子から、コードを取外すときは、⊖側を先に取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください。

ショートして、ヤケドや火災の原因となります。

- バッテリーは指定されたバッテリーを使用する。
- ⊕⊖を逆に接続しない。



必ず守ってください

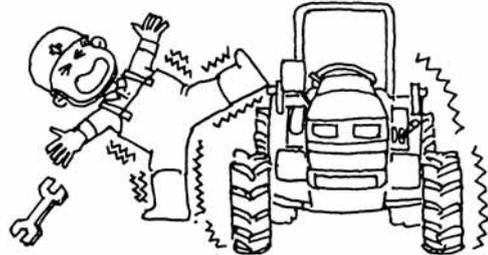
守らないとこんな事故が！



◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか、はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。

- 電気部品を取外す前にバッテリー⊖側のコードをバッテリー端子から外す。

ショートして、ヤケドや火災の原因となります。



◆タイヤの空気圧は取扱説明書に記載してある空気圧を守ってください。

- タイヤの空気は入れすぎない。
- ◆タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。
- ◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。（特別教育を受けた人が行うように法で義務づけられています。）

タイヤに空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と、タイヤが破裂し、死傷事故につながる可能性があります。



◆エンジン、マフラ、バッテリー、燃料タンクまわりにワラズやゴミなどが付着していないか、作業前に点検して付着していれば取除いてください。

火災事故を引起こすことがあります。



◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。

交通事故を引起こす原因となります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆ブレーキの点検調整をしてください。

- 左右のブレーキのきき具合は良いか、また左右ブレーキの踏代が同一になっているか確認する。
- ◆ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認してください。
- ◆前後輪（タイヤ）取付ボルトのゆるみがないか確認してください。

正常な走行運転ができず事故を引起こす原因となります。



正常な走行ができなくなり、事故を引起こす原因となります。

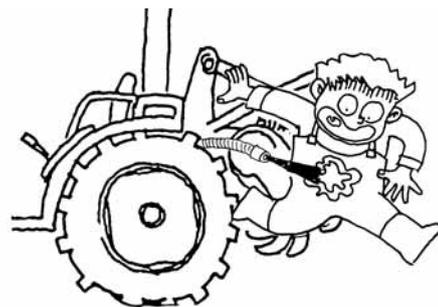


◆高圧噴油に触れないでください。  
◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に、エンジンを停止し、油圧リフト部をもっとも下げた状態にして残圧を抜いてから作業をしてください。

- ◆もし、高圧噴油に触れたら、直ちに医師の診断を受けてください。

圧力がかかって噴出した油は皮ふに浸透し傷害の原因になります。

油が皮ふに浸透した場合、取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



◆点検整備に必要な工具類は、適正な管理をし、正しく使用してください。

◆トラクタには、点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。



整備不良で事故を起こすおそれがあります。



◆点検・整備などで外したカバーなどは、全て取付けてください。

●カバーは正しく取付ける。

機械に巻込まれたりして、傷害事故を起こすことがあります。



## ⚠ エンジンを始動するときは……

必ず守ってください

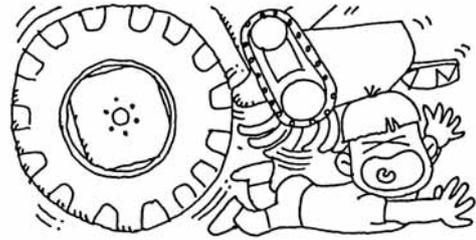
守らないとこんな事故が！



**警告**

◆始動する前に、周囲を確認し、トラクタや作業機の周囲から子供など、人を遠ざけてください。

子供など、人が近づくと、傷害事故を引起こすことがあります。



**警告**

◆始動はシートに座って正しい姿勢で行なってください。

機械が急に動き出し、人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

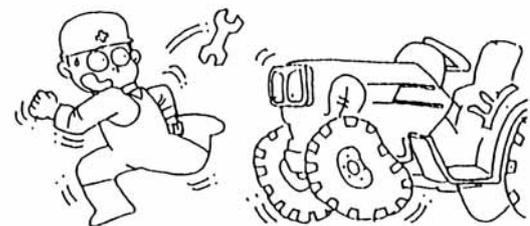


**警告**

◆シャトル、主変速、副変速、PTO変速レバーを「《N》(中立)」にしてください。

変速やクラッチが入っていると機械が動きだし事故の原因となることがあります。

- シャトル、主変速、副変速、PTO変速のレバーが「《N》(中立)」になっているかレバーを手で動かして確認する。
- PTOスイッチを「切」にする。
- クラッチペダルを踏んで始動する。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。

- 換気が不十分な所では暖機運転や作業はしない。

排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。



警告

◆暖機運転は、シャトル、主変速、副変速、PTO変速を「《N》(中立)」にし、平坦な場所で駐車ブレーキをかけて行なってください。

- PTOスイッチを「切」にする。

トラクタが動き出し、思わぬ事故の原因となることがあります。



## ⚠️ 作業機の装着および作業をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

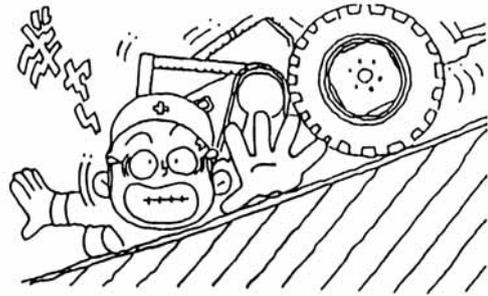


**警告**

◆作業機を着脱する前に、平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。着脱作業は各部の動きが止まってから行なってください。

- 着脱は平坦な場所で、地盤のしっかりしたところで行う。
- 夜間は適切な照明をする。

トラクタが動き出したりして、思わぬ傷害事故を起こす原因となります。

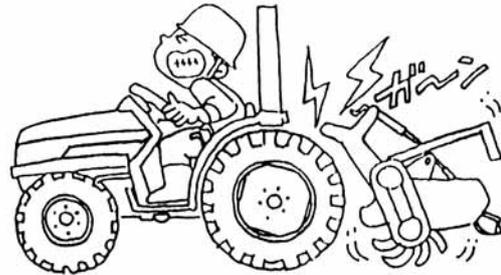


**警告**

◆トラクタに適合した作業機を装着してください。

- 作業機の取扱説明書を読む。
- 吊り穴は作業機に応じて指定された穴位置で使用する。
- 左右のチェックチェーンを調整し、作業機が振れてもタイヤに触れないようにする。

思わぬ事故を起こすことがあります。

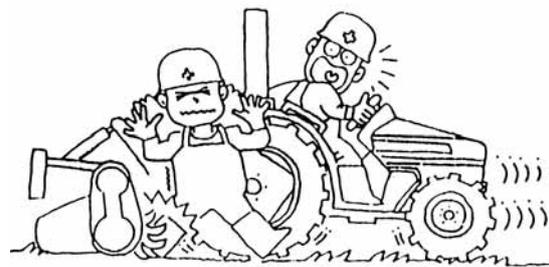


**警告**

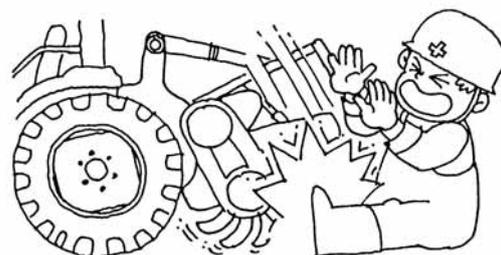
◆作業機の着脱で2人作業のときは合図を確実にし合って行なってください。

- ◆スーパーヒッチで作業機を着脱するときは周囲を確認しトラクタや作業機の周囲から子供など、人を遠ざけてください。
- トラクタを移動して作業機を着脱するときは、トラクタと作業機の間に入らない。
- 装着は手順通り正しく行う。
- 確実に装着して、ピンに抜け止めピンをする。
- 作業員以外の人を近づけない。
- ◆トップリングの調整は作業機を下げてから行なってください。

機械にはさまれたりして、傷害事故を起こすことがあります。



作業機を上げたままで調整を行うと、トップリングが抜けて作業機が落下することがあり、傷害事故を起こすことがあります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

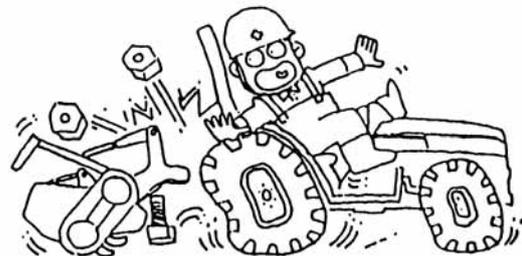
◆ヨーク（ユニバーサルジョイント）の安全カバーは取外さないでください。

- 安全カバーの回り止めをする。
- ◆ヨークを確実にロックピンで固定してください。
- ヨークは作業機に標準装備されているものを使用する。
- ヨークは作業中真っ直ぐになるように装着する。

巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。



作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。



警告

◆各部のボルト、ナット、ロータリの爪などがゆるんでないか確認してください。

- ボルト、ナット類、耕うん爪などの取付ボルトがゆるんだ状態であれば、直ちに締める。

作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。



警告

◆重い作業機を装着したときは、トラクタのフロントに、バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。

トラクタがバランスを崩し傷害事故を引起こすことがあります。



警告

◆フロントローダ作業をするときは、後方にウエイトまたは他の作業機を装着するなどして、バランスを保ってください。

- ウエイトがわりに人や物を乗せない。ローダに見合ったバランスウエイトを装着する。

バランスを崩し転倒事故を引起こす原因となります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

- 作業機の下へもぐったり、足を踏込んだりしないでください。

何かの原因で作業機（ロータリなど）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。

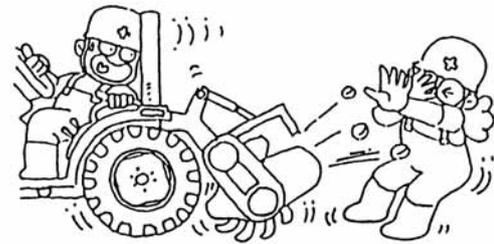


注意

- ◆点検、調整時、爪交換時などに外したカバー類は、すべて元の位置に正しく装着してください。

機械に巻込まれたり、泥や石などがはねたりして傷害事故を起こすことがあります。

- ロータリカバーは泥や石などが飛散しないように調節する。



警告

- ◆作業機ごとに指定されたPTO回転速度で使用してください。

作業機が壊れ思わぬ事故の原因となります。



警告

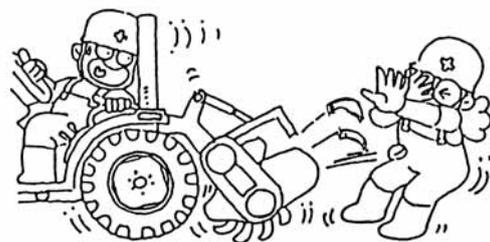
- ◆作業機を上げて点検するときや、草・ワラの巻付を除去するときには、作業機降下速度調節グリップを「固定」の位置にして作業機の下に「固定脚」を入れ、作業機が降りないことを確認してください。

何かの原因で作業機（ロータリなど）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。

- 駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO変速を「《N》(中立)」にする。
- PTOスイッチを「切」にする。
- ◆ロータリの耕うん爪を交換する場合は、メガネレンチを使用し正しい姿勢で締付けてください。

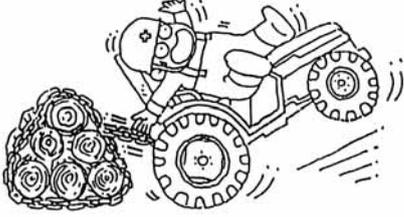
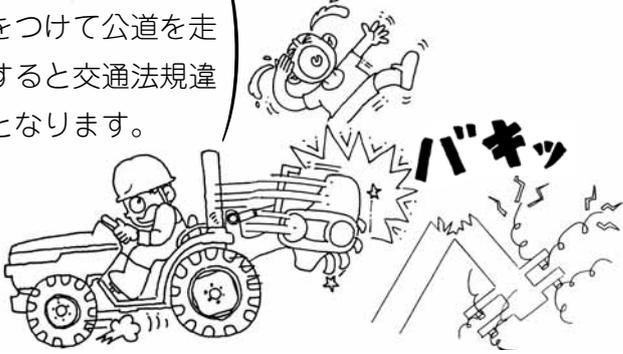
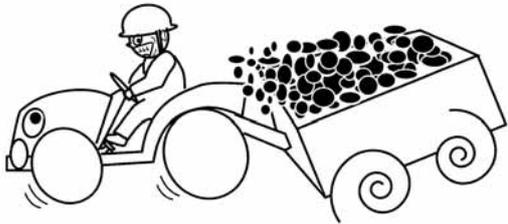


確実に締付けないと、作業中に爪が抜けてとび、傷害事故を引起すことがあります。



必ず守ってください

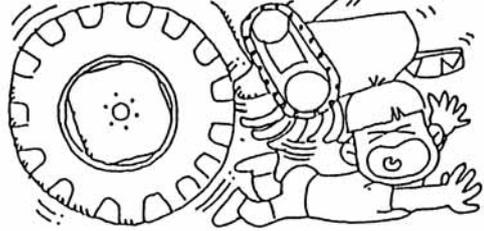
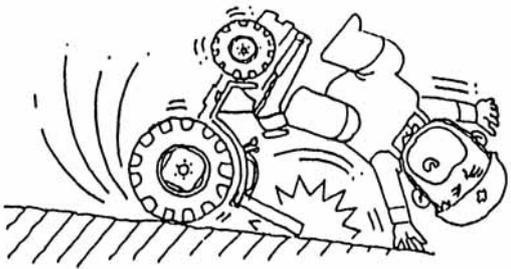
守らないとこんな事故が！

<p><b>警告</b> ◆けん引作業は純正ドロバを使用し、後車軸の高さより上で引っ張らないでください。</p> <p>●けん引するときは、トラクタが後方に転倒しないように純正ドロバを使用し、ゆっくりスタートする。</p>	<p>転倒事故を起こす原因となります。</p> 
<p><b>警告</b> ◆公道を走行するときは、作業機を装着しないでください。</p>	<p>思わぬ事故を起こすことがあります。</p> <p>（ロータリなどの作業機をつけて公道を走行すると交通法規違反となります。）</p> 
<p><b>警告</b> ◆けん引や傾斜地での作業をするときは、支障のない範囲で輪距を広くしてください。</p>	<p>転倒事故を起こす原因となります。</p> 
<p><b>警告</b> ◆最大積載時総質量がトラクタの1.5倍を越えるトレーラは、けん引しないでください。</p>	<p>ブレーキが効きにくくなり、事故の原因となります。</p> 
<p><b>注意</b> ◆PTO軸を使用しないときはPTOキャップを取付けてください。</p>	<p>巻込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。</p> 

## ⚠️ 走行運転をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p><b>⚠️ 警告</b> ◆発進するときは、周囲を確認してから発進してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●子供など、人がトラクタおよび作業機に近づかないようにし、周囲にいる人を遠ざけてから発進する。</li> </ul>	<p>傷害事故を起こす原因となります。</p> 
<p><b>⚠️ 警告</b> ◆左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●左右のブレーキペダルを連結する。</li> <li>●デフロックを解除する。</li> </ul>	<p>ブレーキが片ぎきになったり、ハンドル操作しても旋回できなかつたりして事故を起こす原因となります。</p> 
<p><b>⚠️ 警告</b> ◆倍速旋回の「切」、PTO変速の「《N》(中立)」を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●発進前に、おまかせスイッチを《走行》または、倍速旋回スイッチを「切」にする。</li> <li>●発進前に、PTO変速を「《N》(中立)」にする。</li> <li>●PTOスイッチを「切」にする。</li> <li>●おまかせスイッチを《走行》または、傾き自動、深さ自動を「切」にする。</li> </ul>	<p>傷害事故を起こすことがあります。</p> 
<p><b>⚠️ 警告</b> ◆急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●低速で発進する。</li> <li>●クラッチペダルはゆっくり離す。</li> <li>●旋回するときは、エンジン回転を低速にして行う。</li> <li>●エンジンコントロールレバーを「低」にし、フットアクセルで走行する。</li> </ul>	<p>転倒事故を起こすことがあります。</p> 

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆公道を走行するときは、交通法規を守り、安全フレームを起こし、ヘルメットを着用し、シートベルトをしてください。

- 作業機は装着しない。
- 周囲を確認しながら走行する。
- わき見運転をしない。
- 低速車線を走る。

思わぬ傷害事故の原因となります。  
トラクタ運転中は、気のゆるみが重大事故につながることを忘れないようにしてください。



警告

◆夜間の移動はライトをつけてください。

- 夜間、対向車とすれ違う場合は、前照灯を下向きにして走行する。
- 道路走行時にコーナーライトや作業灯は使用しない。

対向車の運転者が目をくらまし、交通事故を引起こす原因となることがあります。



警告

◆駐車・停車するときは、平坦な場所で駐車ブレーキをかけてください。

- 作業機（ロータリなど）を降ろす。
- 座席を離れるなどはエンジンを停止し、キーを抜取っておく。

トラクタが動き出し、思わぬ事故の原因となることがあります。



# ⚠️ 狭い道路，凸凹道，坂道，傾斜地で運転するときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



**警告** ◆道路の端には寄りすぎないでください。

- 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。
- 雨天や雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。

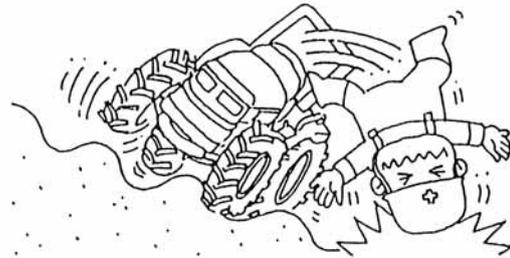
路肩がくずれ転倒事故を起こすことがあります。



**警告** ◆坂道，傾斜地や凸凹道，カーブの多い道路では，高速運転をしないでください。

- スピードを落として慎重に走行する。

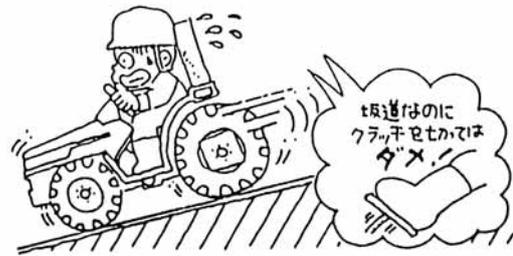
転倒事故を起こします。



**警告** ◆坂道，傾斜地では，主変速や副変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして，ニュートラルで走行しないでください。

- 坂にさしかかったら，坂の手前でいったんトラクタを止めて変速を低速に入れ変えて走行する。
- 下り坂では，速度を下げエンジンブレーキを使用する。

エンジンブレーキがきかなくなってスピードが速くなり事故の原因となります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆坂道の途中や傾斜地での駐車はしないでください。やむをえず坂道の途中や傾斜地で駐車するときは、駐車ブレーキをかけて後輪に車止めをしてください。

- 作業機（ロータリなど）は降ろす。
- ◆変速を入れていてもエンジンを停止するとエンジンブレーキはききません。駐車ブレーキをかけてください。

トラクタが動き出し、思わぬ事故の原因となります。



警告

◆急な傾斜地では作業や走行をしないでください。

トラクタが転倒し傷害事故を引起こします。



警告

◆果樹園作業，ハウス内作業では、走行速度を落とし周囲を確認して、慎重に運転してください。

- ◆高さ制限のある場所では安全フレームを後方に倒すことができますが、この位置では身体を保護することはできません。その際はシートベルトはしないでください。
- ヘルメットをかぶる。
- 切り株に乗り上げない。
- 枝にひっかからないようにする。

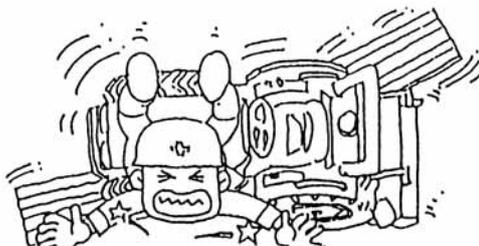
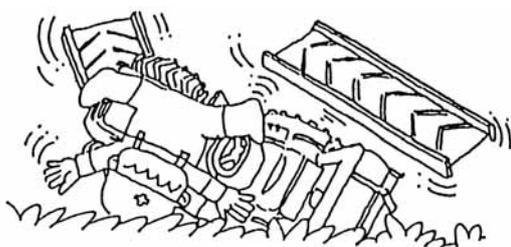
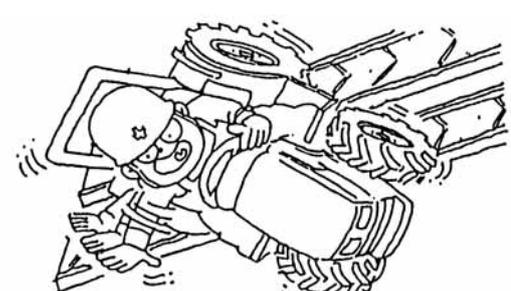
張り出した木の枝や、頭上の障害物で頭部や胸部を打って死亡または傷害事故になることがあります。切り株などで転倒したり、ひっかいた枝にたたかれ死亡または傷害事故になることがあります。



## ⚠️ 自動車への積込み・積降ろしをするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p><b>⚠️ 警告</b> ◆アユミは十分な強度、幅、長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め、フックのあるものを使ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●前後輪のタイヤがはみ出さない幅の広いアユミを使用する。</li> <li>●自動車は積載重量を超えない車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用する。</li> <li>●自動車はエンジンを停止し変速を1速かバックに入れ駐車ブレーキをかけ、車止めをする。</li> </ul>	<p>アユミが折れたりして、転倒事故を起こすことがあります。</p> 
<p><b>⚠️ 警告</b> ◆アユミを自動車の荷台に平行に確実にかけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●2枚のアユミを左右のタイヤの間隔に合わせて置き、荷台に対して真っ直ぐにする。</li> <li>●荷台にアユミのフックを確実にかけ、外れないかを確認する。</li> </ul>	<p>バランスが崩れて、転倒事故を起こすことがあります。</p> 
<p><b>⚠️ 警告</b> ◆積込みは後進、積降ろしは前進で行なってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●補助者立会誘導のもとに行う。</li> <li>●機械のまわりに子供など、人を近づけない。</li> <li>●左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認する。</li> <li>●アユミの上では、必要以上のハンドル操作はしない。</li> <li>●ロータリの爪がアユミに引っかからないようにする。</li> </ul>	<p>進路変更するとバランスが崩れて、転倒事故を起こすことがあります。</p> 
<p><b>⚠️ 警告</b> ◆アユミの上では走行クラッチを切らないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●途中でトラクタを止める必要がないよう、アユミの左右位置や平行、安定を確認し、低速で積込み・積降ろしを行う。</li> <li>●おまかせスイッチを「走行」モードにします。</li> </ul>	<p>エンジンブレーキがきかなくなり、急降下して事故を起こすことがあります。</p>

## ⚠ ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

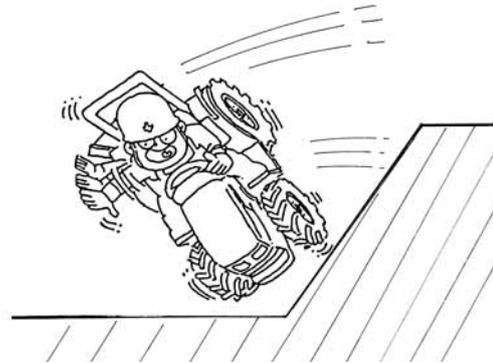


**警告**

◆急傾斜，溝越え，高いあぜのあるほ場への出入りはアユミを使ってください。

- ほ場への出入りは上がる時は後進，降りるときは前進で低速で行う。
- PTO変速を「《N》(中立)」にする。
- PTOスイッチを「切」にする。
- アユミの上では必要以上のハンドル操作をしない。

バランスを崩したりして，転倒事故を引起こします。



**警告**

◆あぜ越えは，低速であぜに直角に行なってください。

- 左右のブレーキペダルの連結，デフロックの解除を確認する。
- あぜが崩れないか確認しゆっくり行う。

転倒事故を引起こすことがあります。



**警告**

●作業中は，トラクタに人を近づけないようにしてください。

- ほ場に子供など，人を入れない。
- 子供など，人が近寄らないようにする。
- わき見運転をしない。特にあぜ際での旋回は，周囲に人がいないことを確認して行う。
- あぜ際での作業はむりをせず，枕地に余裕をとって，周囲を確認しゆっくり旋回する。

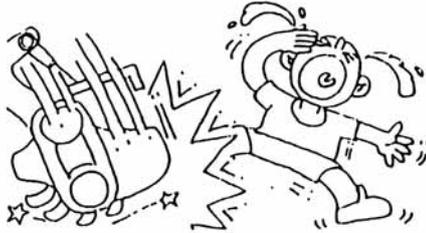
作業機が衝突したりして傷害事故を引起こすことがあります。



# ⚠ 1日の作業が終わったら……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！

<p><b>⚠ 警告</b> ◆作業が終了したら、平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い、掃除をしてゴミなどを取除いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●エンジン、マフラ、燃料タンクまわりのワラ、草などを除去・掃除する。</li> </ul>	<p>火災の原因となることがあります。</p> 
<p><b>⚠ 警告</b> ◆保管は平坦な場所に置き、作業機（ロータリなど）は地面に降ろし、駐車ブレーキをかけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●キーは抜取っておく。</li> <li>●PTO変速は「《N》(中立)」にしておく。</li> <li>●PTOスイッチを「切」にする。</li> </ul>	<p>何かの原因で作業機（ロータリなど）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。</p> 
<p><b>⚠ 警告</b> ◆シートカバーをかける場合は、マフラやエンジンが確実に冷えてから行なってください。</p>	<p>火災事故を引起こすことがあります。</p> 
<p><b>⚠ 警告</b> ◆ラジエータが熱いときは、ラジエータキャップを外さないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ラジエータキャップを開ける場合は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。</li> <li>●冷却水の点検はリザーブタンクで行う。</li> </ul>	<p>熱湯が吹きだし、ヤケドすることがあります。</p> 

## ⚠ 長期格納するときは……

必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆各部を水洗いして、平坦な場所でエンジンを停止し駐車ブレーキをかけ、キーを抜取ってください。

機械から目をはなしたときに子供などがイタズラをしたり、思わぬ事故の原因となることがあります。



警告

◆故障箇所、爪の摩耗があれば、早目に修理、交換します。

◆ボルトやナットがゆるんだ状態であれば、直ちに締付けます。

整備不良が原因で思わぬ事故を起こすことがあります。



警告

◆バッテリーはトラクタから外して保管するか、⊖側のコードを外しておいてください。

●バッテリーをトラクタから外して保管するときは、⊖側のコードから外す。

火災事故の原因となることがあります。



必ず守ってください

守らないとこんな事故が！



警告

◆作業機は外すか、降ろしておいでください。

何かの原因で作業機（ロータリなど）が急に下がったりして傷害事故を起こすことがあります。



警告

◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。

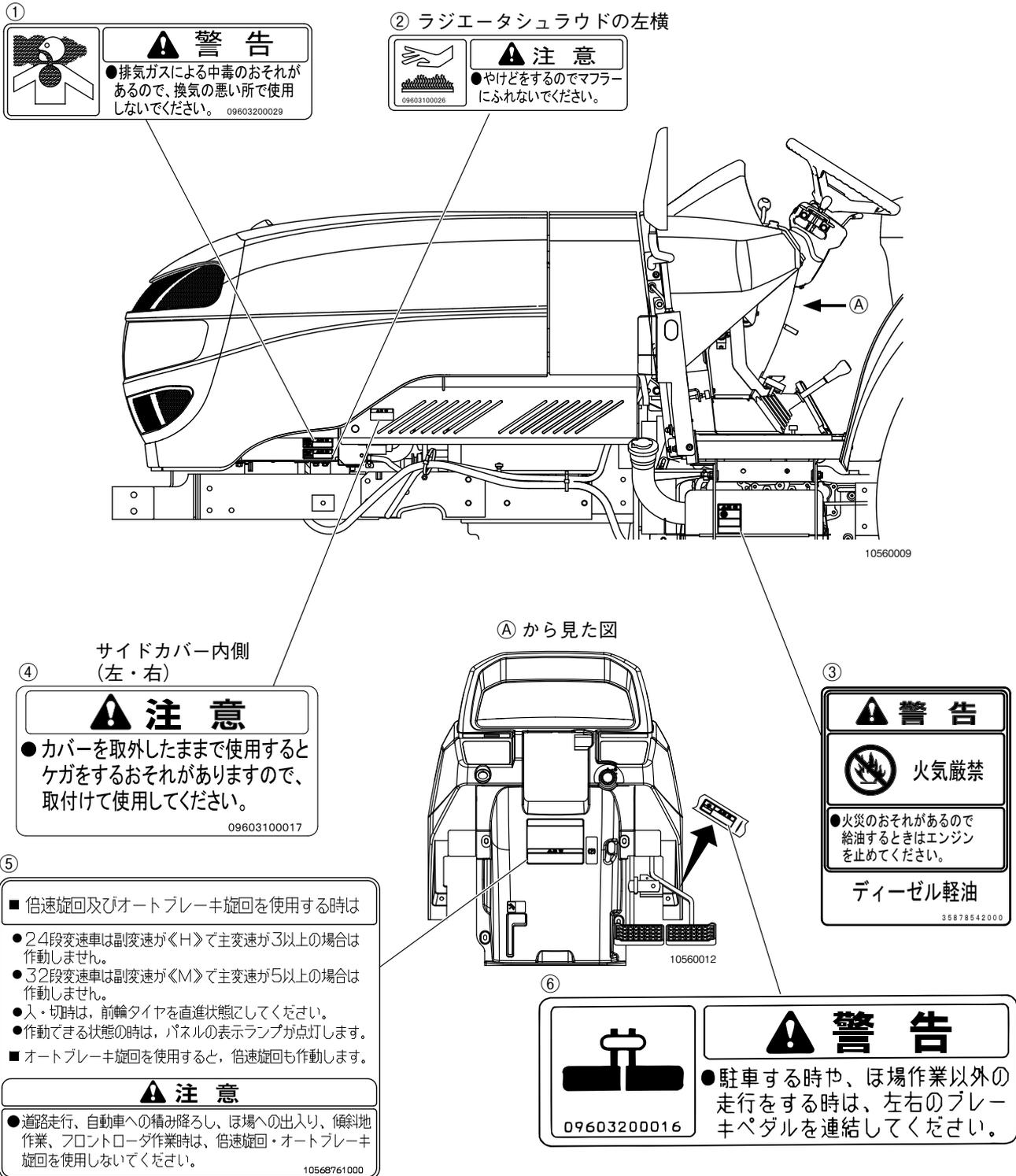
整備不良が原因で思わぬ事故を引き起こすことがあります。



## 2. 表示ラベルについて

このトラクタには各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している「表示ラベル」が貼り付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき、注意を守って操作ください。

また、トラクタに貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「お買いあげ先」に注文して購入し貼り替えてください。



②7

**注意**

●やけどをするおそれがあるのでエンジンが熱い時はキャップに触れないでください。

10568762000

⑦ ラジエータブラケット上面

**警告**

●エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。

09603200013

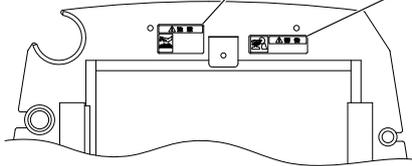
⑨

**注意**

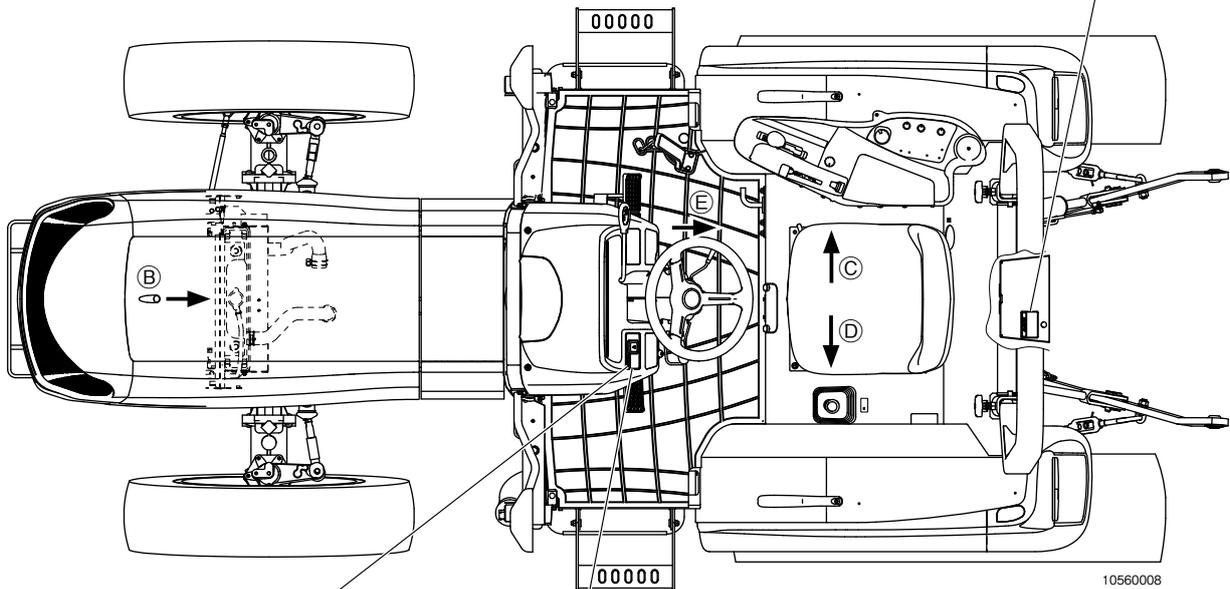
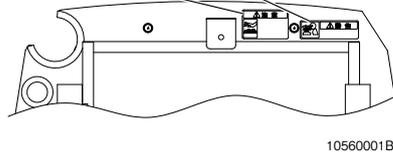
○PTOガードの上に乗らないでください。  
○PTO軸を使用しない時は、PTOキャップを取付けてください。

19682747000

⑧から見た図  
[28・30・32・36型]



⑧から見た図  
[41・46・50型]



⑩ [28・30・32・36型]

**注意**

■公道ではコーナーライト、倍速旋回、オートブレーキ旋回は使用出来ません。

10488759001

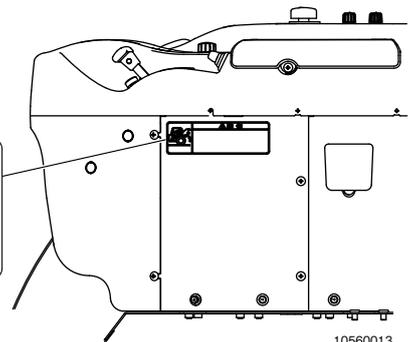
⑪ [41・46・50型]

**注意**

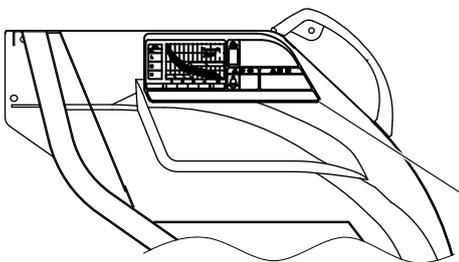
■公道ではコーナーライトは使用出来ません。

10508762000

③から見た図



①から見た図  
[フレーム仕様]



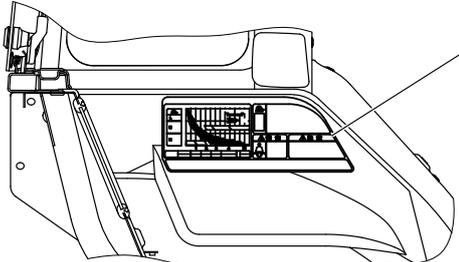
⑫⑬⑭

**警告**

傷害事故や機械の破損を防止するために  
口作業機を装着するときは、本機および作業機の取扱い説明書をよく読み正しく装着してください。  
●作業機高さレバー、クイックアップレバー、バックアップ機能、加回アップ機能を使用する前に上げ高さボリュームで上げ高さを規制してください。

10488772000

[キャビン仕様]



**速度表**

副変速	主変速	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
L 低速																
M 中速																
H 高速																

PTO 変速

エンジン定格	28/30PS	36	46	50	55	60	70
最高回転 rpm	3200	3000	2800	2600	2400	2200	2000

**超低速の使い方**

- 超低速はロー深耕、ロー細土、フタ、農用トラクタ作業に使用。
- 超低速は次の作業に使用しないこと。湿田脱出、ドッキングローダ牽引、土木フロントブレード圃場への出入、車への積おろし作業

**警告**

○運転する時はシートベルトを締めてください。

**注意**

○トラガから降りる時はエンジンを停止してください。乗り降りする時変速レバーに触れると、トラガが動き出すことがあります。

**逆転PTO取扱いのポイント**

石の多い圃場で逆転耕すると故障の原因となりますので、逆転耕は避けて正転で使用してください。  
○未耕地を逆転耕するときは、耕転刃を逆転方向につけて使用してください。

⑯ [28型]

**注意**

本車両は、後輪距を下表の通り調整(調整要領は、取扱説明書参照)した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1050
----------	----	------

⑰ [50N型]

**注意**

本車両は、後輪距を下表の通り調整(調整要領は、取扱説明書参照)した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1150
----------	----	------

10372766001

⑱ [30・30H・32・32H型]

**注意**

本車両は、後輪距を下表の通り調整(調整要領は、取扱説明書参照)した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1095
----------	----	------

⑲ [41・46・46S・50・50S型]

**注意**

本車両は、後輪距を下表の通り調整(調整要領は、取扱説明書参照)した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1220
----------	----	------

10412745000

⑳ [36・36H型]

**注意**

本車両は、後輪距を下表の通り調整(調整要領は、取扱説明書参照)した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1110
----------	----	------

㉑ [41A・46A・50A型]

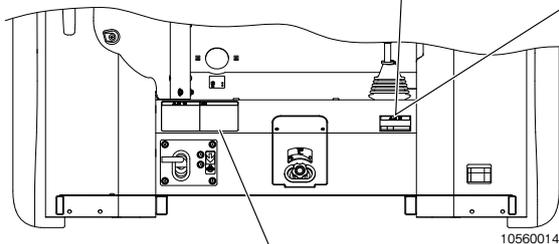
**注意**

本車両は、輪距を下表の通り調整(調整要領は、取扱説明書参照)した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	前輪	1210
	後輪	1220

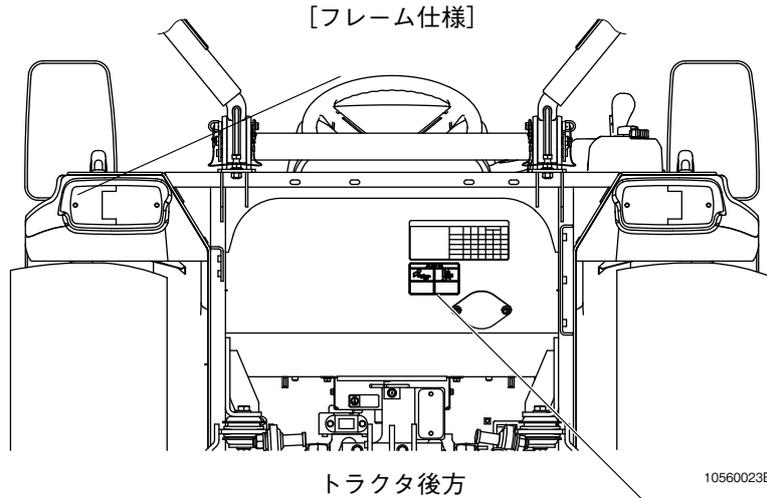
10578754000

㉒から見た図



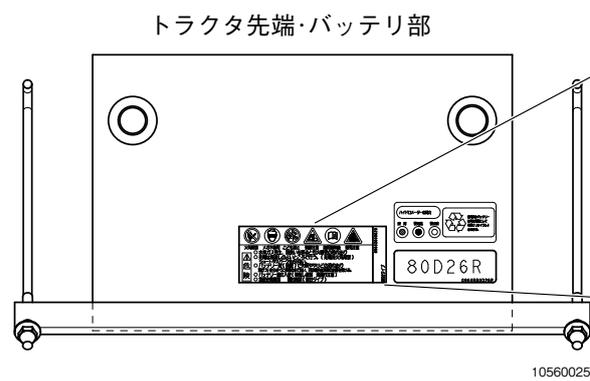
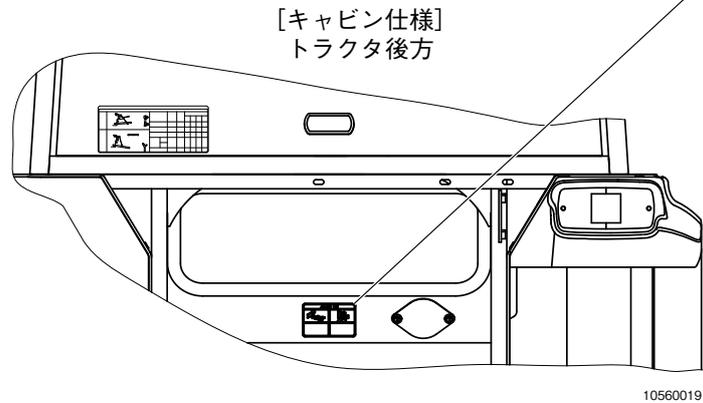
㉒

<p><b>警告</b></p> <p>ケガや死亡事故を起こさないために</p> <p><input type="checkbox"/> エンジンを始動する前に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本機や作業機の周囲から人を遠ざけてください。</li> <li>● すべてのカバーをセットして、安全フレームをおこなってください。</li> <li>● 座席に座り、駐車ブレーキをかけ、シートベルトをしてください。</li> <li>● 変速レバー及びPTOレバーを《N》(中立)にして、クラッチペダルを踏んでください。</li> <li>● 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気をしてください。</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 正しい操作方法で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 運転する時は、本機や作業機に人や物をのせないでください。</li> <li>● エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。</li> <li>● 公道を走行する時は、作業機を装着しないでください。</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 転倒防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ほ場の出入り、アユミの上、道路を走行する時は、左右のブレーキペダルを連結してください。デフロックは使用しないでください。</li> <li>● 発進、旋回、坂道、傾斜地、荒地では低速で運転してください。</li> <li>● 傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。下り坂ではエンジンブレーキを使用し、クラッチ操作や変速操作はしないでください。</li> </ul>	<p><b>警告</b></p> <p>傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 路肩に寄りすぎないでください。軟弱な路肩、草の生い茂っている所は走行しないでください。</li> <li>● あぜを横切るときは、低速であぜに対して直角に走行してください。</li> <li>● 自動車への積込み・積降ろし、高あぜ・溝越えは、アユミを使用し、上がる時は後進、降りる時は前進で、低速で行なってください。クラッチ操作や変速操作はしないでください。</li> <li>● けん引作業はドローバを使用してください。</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 停止する時は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 平坦な場所で、駐車ブレーキをかけ、変速レバー及びPTOレバーを《N》(中立)にし、作業機を降ろした後、エンジンを停止してください。座席を離れる時はキーを抜取ってください。</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 清掃・点検・整備</p> <p>エンジン停止後、各部の動きが止まってから行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 作業機を上げて、清掃・点検・整備をする時は、油圧をロックして、さらに作業機の下に固定足を置いてください。</li> <li>● ラジエータキャップを開けたり、エンジン回りを清掃・点検・整備する時は、エンジンが冷えてから行ってください。</li> <li>● 火災防止のため、エンジン、マフラ、燃料タンク周囲のワラや草等を掃除してください。</li> </ul> <p>09603200032 トラック</p>
---	--



②4

警告	
<p>●エンジンまたは動力シャフトが回転しているときは手・足・衣服等を近づけないでください。</p>	<p>●エンジン回転中は作業機昇降装置及び作業機にはさまれ、ケガをするおそれがあるので近づかないでください。</p>
0960 3200 062	



②5 [28・30・32・36型 2柱フレーム仕様]

<p>火気厳禁 メガネ着用 ことども禁止 硫酸注意 説明書熟読 爆発注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり</li> <li>●充電は風通しのよいところで行う。(充電時火気厳禁) ショートやスパークをさせない。</li> <li>●バッテリー液(硫酸)で失明ややけどの恐れあり</li> <li>●液が当たったらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける。</li> <li>●バッテリー液注入済(横倒し厳禁 液漏れ注意)</li> <li>●急速充電厳禁 ●開封厳禁(密封タイプ)</li> </ul>					
0960000020					

②6 [28・30・32・36型キャビン仕様, 41・46・50型]

<p>火気禁止 メガネ着用 ことども禁止 硫酸注意 説明書熟読 爆発注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり</li> <li>●工具等でショートやスパークさせない ●充電は風通しのよい所で行う</li> <li>●ブースターケーブルの使用は取扱説明書に使う</li> <li>●バッテリー液(硫酸)で失明ややけどの恐れあり</li> <li>●液が当たったらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける</li> <li>●爆発の恐れあり、液面はLOWER以下で使用しない</li> <li>●液漏れの恐れあり、UPPER以上に補水しない</li> </ul>					
A547②					
公称電圧 12V					

# 安全作業のために

23

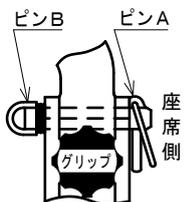
**警告**

■ 運転する時は  
● 安全フレームを  
起こし矢印の位置  
にピンをセットし  
てください。

**注意**

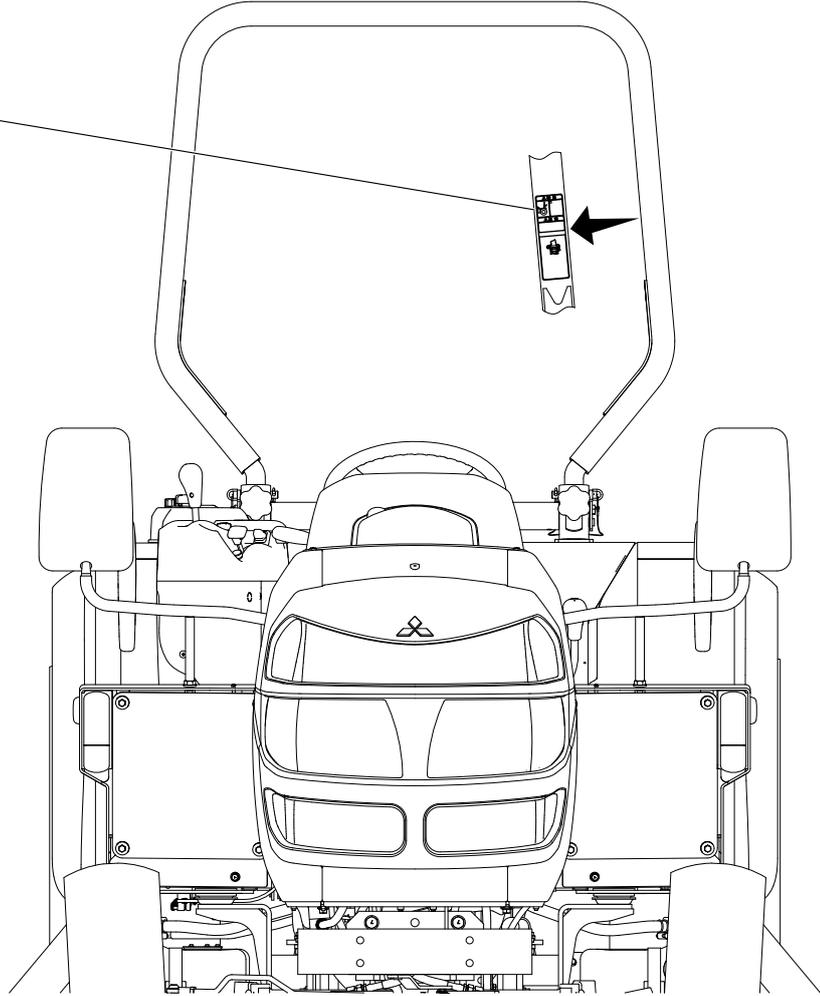
● 安全フレームを『倒す』又は  
『起こす』ときは機械を平坦な場所  
に置いて、駐車ブレーキをかけエン  
ジンを停止してから行ってください。

安全フレームの倒しかた・起こしかた



ピンB    ピンA  
座席側  
グリップ  
固定状態

1. 左右のピンAを引き抜き、  
ピンBの固定を解除します。
2. 左右のピンBを外側に引き抜き  
ます。
3. ロールバーをゆっくりと回動  
して穴位置を合わせてピンB、  
ピンAを差込みます。
4. ピンが確実に固定されているか、  
確認してください。 10588771000



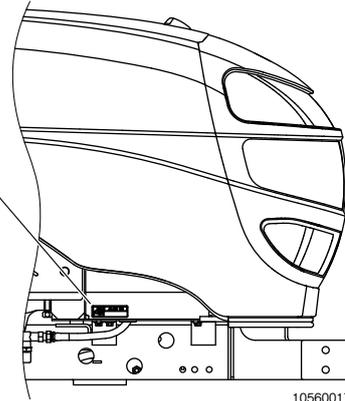
10560011

8

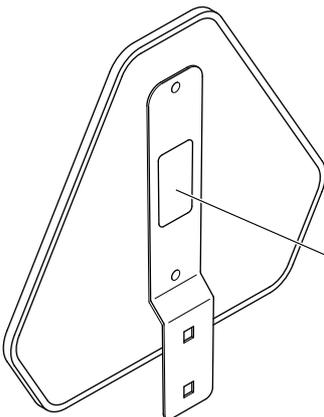
**警告**

● 回転中はファンに手・足及び  
身体を近づけないでください。

09603200041



10560017



10560069

26

**警告**

道路走行時は低速車マーク  
を装着してください。

09603200075

## 警告ラベル一覧表

No	部 品 番 号	品 名
1	0960 3200 029	LABEL WARNING (排気ガス)
2	0960 3100 026	LABEL CAUTION (マフラ)
3	3587 8542 000	LABEL WARNING (火気厳禁)
4	0960 3100 017	LABEL CAUTION (サイドカバー)
5	1056 8761 000	LABEL CAUTION (倍速・オートブレーキ旋回)
6	0960 3200 016	LABEL WARNING (ブレーキ連結)
7	0960 3200 013	LABEL WARNING (ラジエータ)
8	0960 3200 041	LABEL W, FAN (ファン)
9	1968 2747 000	LABEL C.PTO (PTO)
10	1048 8759 001	LABEL CAUTION (コーナーライト・倍速・オートブレーキ旋回)
11	1050 8762 000	LABEL CAUTION (コーナーライト・倍速・オートブレーキ旋回)
12	1056 8753 000	LABEL SPEED (エンジン停止・シートベルト)[28, 30, 32, 36型]
13	1056 8759 000	LABEL SPEED (エンジン停止・シートベルト)[30H, 32H, 36H型]
14	1057 8753 000	LABEL SPEED (エンジン停止・シートベルト)[41, 46, 50型]
15	1048 8772 000	LABEL WARNING (作業機上昇)
16	1956 2726 000	LABEL CAUTION (輪距)[28型]
17	1029 2716 001	LABEL CAUTION (輪距)[30, 30S, 32, 36S型]
18	1040 2781 000	LABEL CAUTION (輪距)[36型]
19	1037 2766 001	LABEL CAUTION (輪距)[41S, 50N型]
20	1041 2745 000	LABEL CAUTION (輪距)[41, 46, 50型]
21	1057 8754 000	LABEL CAUTION (輪距)[41A, 46A, 50A型]
22	0960 3200 032	LABEL WARNING (総合警告)
23	1053 8771 000	LABEL ROPS (安全フレーム)[2柱フレーム仕様]
24	0960 3200 062	LABEL WARNING (巻き込み, 挟み込み)
25	0960 3000 020	LABEL BATTERY (バッテリー)[28・30・32・36型2柱フレーム仕様]
26	0960 3200 075	LABEL WARNING (低速車マーク)
27	1056 8762 000	LABEL C.CAP (ラジエータキャップ)
28	0960 3000 017	LABEL BATTERY (バッテリー)[28・30・32・36型キャビン仕様, 41・46・50型]

# ご使用まえに

## 1. 保証とサービスについて

- ・この機械には保証書が添付されていますので、ご使用まえによくお読みください。
- ・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「お買いあげ先」にご相談ください。その際「型式」・「機械番号（製造番号）」と「エンジン番号」をお知らせください。



### 補修用部品の供給年限について

- ・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
- ・補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

### 機械の使用目的について

- ・機械は、ほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
- ・機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。



**警告**

- ◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
- ◆機械を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか、人身事故の原因になることがあります。

## 2. 仕様（装備）について

主な仕様（装備）は次のようになっています。

仕様（装備）の異なった製品については、異なる点のみ追加説明していますので、お買いあげの製品の仕様（装備）をお確かめのうえ、まちがいのないように活用してください。

品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。

名称	区分	仕 様										タ イ ヤ						
		エンジン		ステアリング				PTO (e-PTO)	変速 (MASC)	走行速度		e-mac	おまかせMASC	2柱フレーム	キャビン	前輪	後輪	仕様
		エンジン型式	出力 kW (PS)	パワーステアリング	チルトハンドル	倍速旋回	オートブレーキ旋回			標準	高速							
GA28	UV	E3CD	21.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7-16	11.2-24	ハイラグ標準
	XUV		(28.8)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7-16	11.2-24
GA30	UV	E3CG	22.7 (30.9)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7-16	12.4-24	〃
	XUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7-16	12.4-24	〃
	HUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7-16	12.4-24	〃
	HXUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7-16	12.4-24	〃
	SUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7-16	11.2-26	ハイラグナロー
	XSUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7-16	11.2-26	〃
GA32	UV	E3CG	24.0 (32.6)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-16	12.4-26	〃	
	XUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-16	12.4-26	〃	
	HUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-16	12.4-26	〃	
	HXUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-16	12.4-26	〃	
GA36	UV	E3CG	26.6 (36.1)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-16	13.6-24	〃	
	XUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-16	13.6-24	〃	
	HUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-16	13.6-24	〃	
	HXUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-16	13.6-24	〃	
	HUKV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-16	12.4-26	ハイラグナロー	
	HXUKV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-16	12.4-26	〃	
	SUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7-16	11.2-26	〃	
	XSUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	7-16	11.2-26	〃	
GA41	UV	E4CG	30.2 (41.1)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-18	13.6-26	ハイラグ標準	
	XUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-18	13.6-26	〃	
	AUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.3-20	13.6-28	畑用タイヤ	
	XAUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.3-20	13.6-28	〃	
	XSV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-18	12.4-28	小径タイヤ	
GA46	UV	E4CG	33.5 (45.6)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.3-20	13.6-28	ハイラグ標準	
	XUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.3-20	13.6-28	〃	
	AUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.3-20	13.6-28	畑用タイヤ	
	XAUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.3-20	13.6-28	〃	
	XSV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-18	12.4-28	小径タイヤ	
GA50	UV	E4DE	36.8 (50.0)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.3-20	13.6-28	ハイラグ標準	
	XUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.3-20	13.6-28	〃	
	AUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.3-20	13.6-28	畑用タイヤ	
	XAUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8.3-20	13.6-28	〃	
	XSV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-18	12.4-28	小径タイヤ	
	NUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-18	12.4-28	畑用タイヤ	
	XNUV			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	8-18	12.4-28	〃	

### 型式記号の説明

X = デラックスキャビン (エアコン付)  
 U = e-PTO  
 V = e-MAC (高機能型MAC) + MASC (ノンクラ車)  
 H = 高速仕様

K = ハイラグナロータイヤ  
 A = 畑用タイヤ  
 GA41S, 46S, 50S = 小径タイヤ  
 GA30S, 36S = 淡路向け

### 3. 用語について

① この取扱説明書に使用している「前後・左右・右回り・左回り」などの用語は図示のように決めています。



この取扱説明書はGA50を基本に説明してあります。GA50と異なる場合は、そのつど [28型] …… [50型] および [2柱フレーム仕様] …… [キャビン仕様] などで記載し、追加説明しています。

区 分	本文表示	区 分	本文表示
GA28	[28型]	GA36Hなど	[高速仕様], [H型]
GA30	[30型]	GA36Kなど	[ナロータイヤ仕様], [K型]
GA32	[32型]	GA50Xなど	[キャビン仕様], [X型]
GA36	[36型]	GA50Xなど以外	[2柱フレーム仕様]
GA41	[41型]	GA50Sなど	[小径タイヤ仕様], [S型]
GA46	[46型]	GA50Aなど	[畑用タイヤ仕様], [A型]
GA50	[50型]	GA30Sなど	[淡路向け]
		GA50Nなど	[沼田向け]

#### ② マークの説明

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

- ・ **⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** ……安全上重要な事項を3段階に分けて説明していますので必ず読んでください。
- ・ **取扱いのポイント** ……機械の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

## 4. 小型特殊自動車について

このトラクタは、道路交通法、道路運送車両法の「小型特殊自動車」に該当します。

### 1. 小型特殊自動車の届出

#### ① 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方または所有者となられた方は、市（町・村）条例により、その取得を市（町・村）役所に届出て、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので、詳しいことは「市（町・村）役所」または「お買いあげ先」にご相談ください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書など（「お買いあげ先」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出て、ナンバープレートの交付を受けてください。

ナンバープレートは、機械の指定された位置に取付けます。

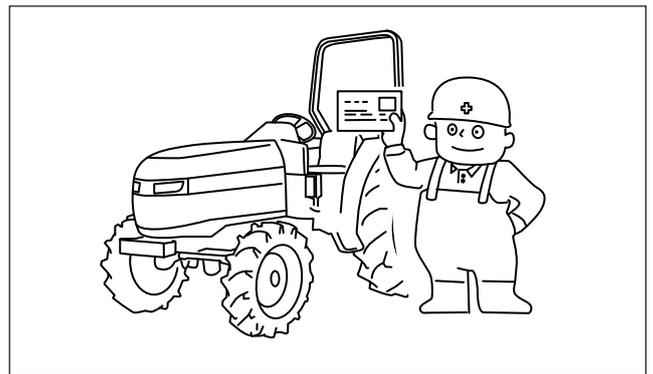


10560002

### 2. 運転免許

① 公道走行するときは、次の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。

区 分	運転免許
30H, 32H, 36H, 41, 46, 50型	大型特殊自動車免許
28, 30, 32, 36型	小型特殊自動車免許



#### ② 「小型特殊自動車」の運転免許で運転できる自動車の基準

車 体 の 大 き さ	全長	4.7m以下
	全幅	1.7m以下
	全高	2.0m以下 (注1)
最 高 速 度	15km/h以下	
原 動 機 の 総 排 気 量	制限なし	

(注1) ただし、安全キャブ、安全フレーム、その他これらに類する装置（キャノピ）を除いた部分の高さが2.0m以下のものは2.8m以下。

③ 上表の基準を越える「小型特殊自動車」は、「大型特殊自動車」の運転免許が必要です。

#### 取扱いのポイント

● 30H, 32H, 36H, 41, 46, 50型は上表の基準を超えますので「大型特殊自動車」の運転免許が必要です。

### 3. 公道を走行するとき

公道を走行するときは、道路交通法など関係法規を守り次の注意事項に従って、「安全速度」で走行してください。

- ① 作業機を取付けた状態では走行しない。
- ② 指定輪距以外での走行はしない。

シート下のカバーに指定輪距表を貼付しています。(54ページ参照)



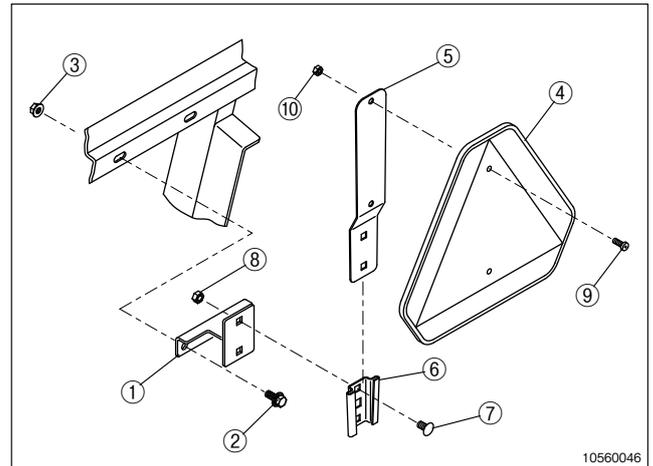
- ③ 道路走行時にコーナーライトや作業灯は使用しない。
- ④ 任意保険のお勧め

万一の交通事故にそなえ、任意保険に加入されるようお勧めします。

#### ④ 低速車マークの装着

公道を走行するときは後部に“低速車マーク”を必ず装着してください。

- ・低速で走っていることを早めに後方に知らせるためのマークです。
- ・ほ場での作業の際に、作業機と近接する場合は取外してください。



- (1) 機体後方のフレームに、ブラケット①をボルト・ナット②③で取付けます。
- (2) プレート①にソケット⑥をボルト・ナット⑦⑧で取付けます。
- (3) ブラケット⑤と低速車マーク④をスクリューとナット⑨⑩で取付け、ソケット⑥に差し込みます。

No.	部品番号	部品名称	個数
①	1041 6805 000	ブラケット	1
②	H154 0108 020	ボルト (M8)	2
③	F301 0108 000	ナット (M8)	2
④	1056 8902 000	低速車マーク	1
⑤	1056 8903 000	ブラケット	1
⑥	1056 8904 000	ソケット	1
⑦	1056 8905 000	ボルト (角根)	2
⑧	1056 8906 000	ナット (M8)	2
⑨	1056 8907 000	スクリュー	2
⑩	1056 8908 000	ナット (M6)	2

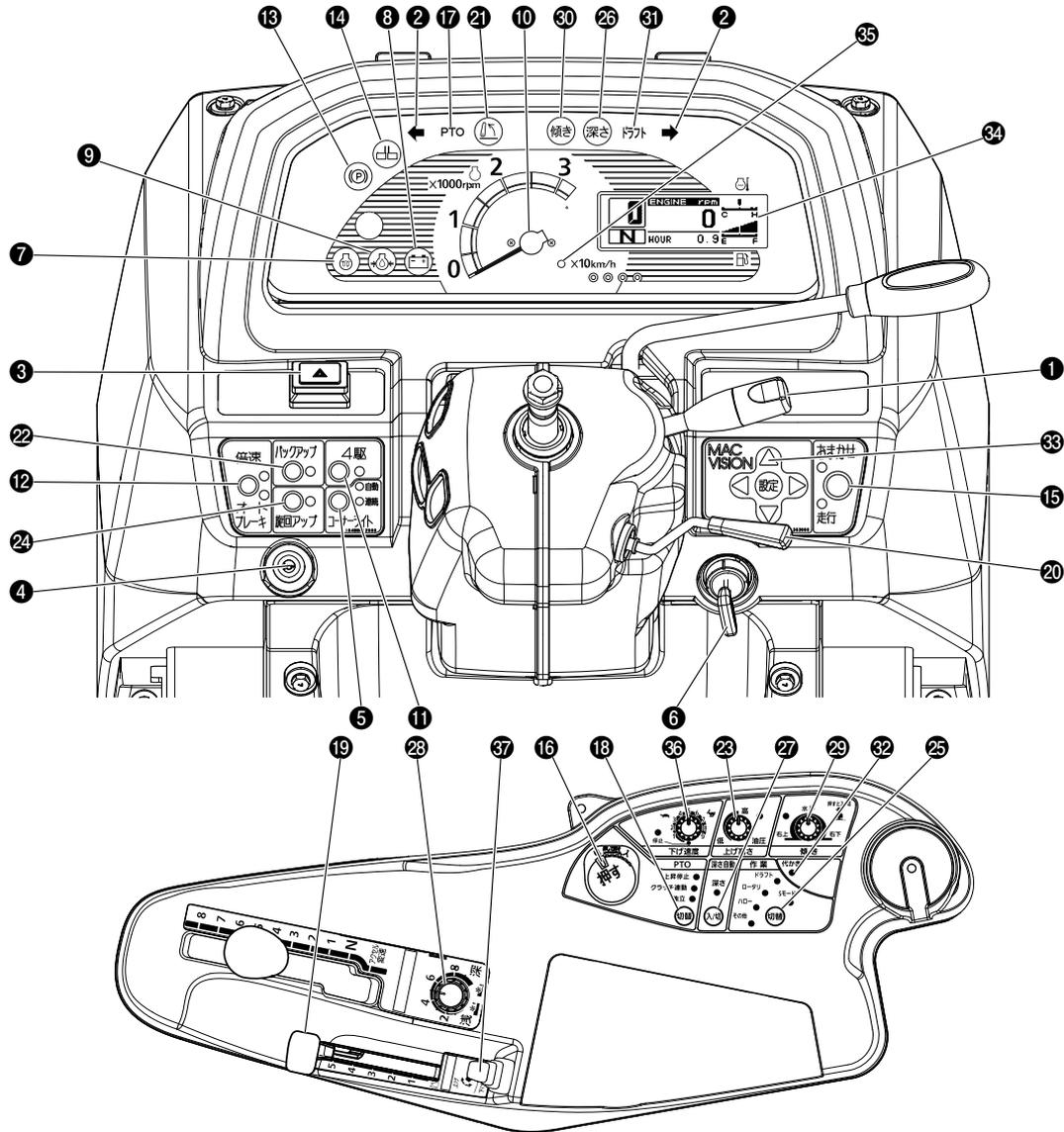
#### 取扱いのポイント

- キャビン車のリヤガラスの開閉時には“低速車マーク”を抜いてください。

# 各部の名称

## 1. 運転装置の名称

### 1. スイッチ, 計器関係

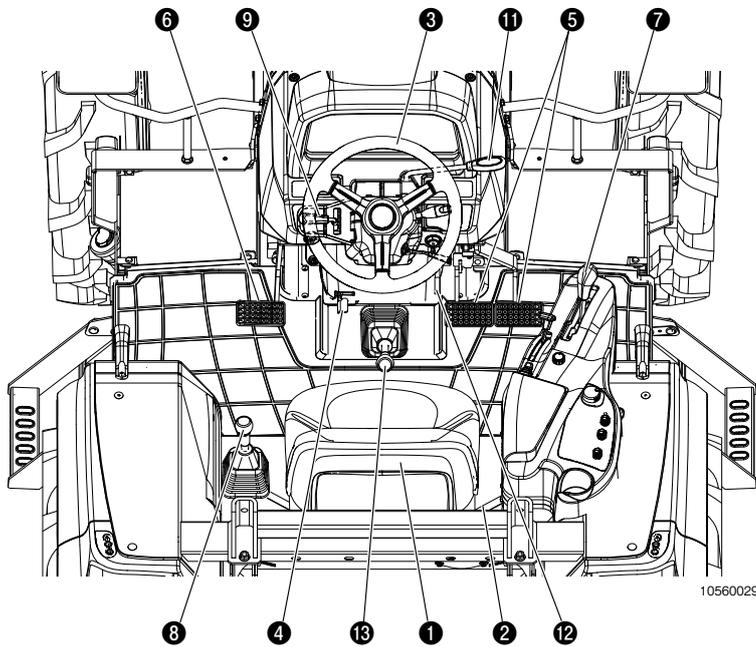


10560021B

10560024B

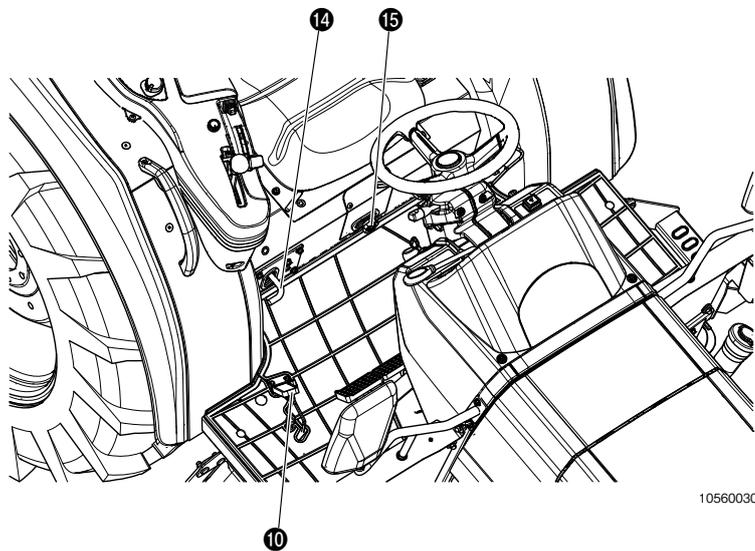
No.	名称	参照ページ	No.	名称	参照ページ	No.	名称	参照ページ
①	コンビネーションスイッチ	12	⑬	駐車ブレーキランプ	14	⑳	深さ自動ランプ	40
②	ウインカーパイロットランプ	12	⑭	ブレーキ連結ランプ	14, 18	㉑	深さ自動スイッチ	40
③	ハザードランプスイッチ [41・46・50型]	12	⑮	おまかせスイッチ	32	㉒	深さ設定ボリューム	41
④	ホーンスイッチ	12	⑯	PTOスイッチ	33	㉓	傾き設定ボリューム (スイッチ付)	44
⑤	コーナーライトスイッチ	13	⑰	PTOランプ	33	⑳	傾き自動ランプ	44
⑥	スタータスイッチ	16	⑱	PTO切替スイッチ	34	㉑	ドラフト自動ランプ (オプション)	47
⑦	グローランプ	16	㉒	ポジションコントロールレバー	34	㉒	代かきランプ	41
⑧	チャージランプ	16	㉓	クイックアップレバー	35	㉓	MACビジョンスイッチ	66~72
⑨	エンジンオイルランプ	16	㉔	リフトアップランプ	35, 36	㉔	MACビジョン	66~72
⑩	タコメータ/スピードメータ	16	㉕	バックアップスイッチ	36	㉕	速度表示灯	16
⑪	4駆切替スイッチ	52	㉖	上げ高さボリューム	37	㉖	下げ速度調節ボリューム	38
⑫	倍速旋回・オートブレーキ旋回切替スイッチ	30, 31	㉗	旋回アップスイッチ	37	㉗	ビットアップスイッチ	36
			㉘	作業切替スイッチ	33			

2. レバー, ペダル, シート関係



No.	名 称	参照ページ
①	シート	9
②	シートベルト	9
③	ハンドル	10
④	チルトペダル	10
⑤	ブレーキペダル	14, 18
⑥	クラッチペダル	19
⑦	主変速レバー	19
⑧	副変速レバー	20
⑨	シャトルレバー	20
⑩	フットアクセルペダル	22
⑪	エンジンコントロールレバー	22
⑫	駐車ブレーキレバー	14
⑬	P T O変速レバー	49
⑭	デフロックペダル	52
⑮	作業機降下速度調節グリップ	53

各部の名称



# 運転のしかた

## 1. 運転まえの点検

**⚠危険** ヤケドや火災防止のために

- ◆点検や整備または給油・給水・注油するときには、トラクタを平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してから行なってください。
- ◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは燃料補給をしないでください。
- ◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
- ◆燃料補給した後は燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

**⚠警告** 傷害事故防止のために

- ◆ラジエータキャップの取外しは、エンジンが冷えてから行なってください。

### 1. 点検項目

- ・点検は「定期点検整備表」(84～85ページ)を参照して作業前に欠かさず行なってください。
- ・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは「お買いあげ先」に相談し点検を受けてください。

点 検 箇 所		処 置
運 転 ま え に	エンジンオイル (エンジンクランクケース)	・レベルゲージの上下線の間にお油量があるか。 ・不足時は油面がレベルゲージの刻み線「上限」になるまで補給する。(88～89ページ参照)
	冷 却 水 (ラジエータ)	・リザーブタンクに適量あるか。(給水レベルの上限と下限の間にあること) ・不足していれば冷却水をリザーブタンクに適量補給する。(92～93ページ参照)
	ラジエータスクリーン ラジエータフィン	・ラジエータスクリーンの目詰まりはないか。 ・ラジエータフィンの目詰まりはないか。 ・スクリーンを抜取り掃除する。 ・圧縮空気です掃除する。(98ページ参照)
	エ ア ク リ ー ナ	・エアクリーナエレメントの汚れ目詰まりはないか。 ・エレメントを取外し掃除する。 (98ページ参照)
	タ イ ヤ	・空気圧は適正か。 ・ボルト、ナットのゆるみはないか。 ・前輪150kPa (1.5kgf/cm <sup>2</sup> ), 後輪100kPa (1.0kgf/cm <sup>2</sup> ) (104ページ参照)
	ホ ー ス	・燃料ホース、油圧ホースの損傷、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料、油もれがないか。 ・もれている場合、ホースの交換をする。 (105ページ参照)
スター タ ス イ ッ チ を ⑥ 入 に し て	燃 料 計	・作業に必要な燃料があるか。 ・ディーゼル軽油を補給する。 (90ページ参照)
	ホ ー ン	・ホーンスイッチを押せば鳴るか。 ・ヒューズ切れ、配線の外れを調べ処置する。(107～108ページ参照)
	方 向 指 示 灯 な だ の 保 安 部 品	・正常に作動するか。 ・球切れ、ヒューズ切れ、配線の外れを調べ、処置する。(107～108, 128ページ参照)
エ ン ジ ン を 始 動 し て	イ ン ジ ケ ー タ ラ ン プ	・グロー、チャージ、エンジンオイルランプは消灯するか。 ・エンジンオイルを補給する・充電する。 ・異常箇所を調べ、処置する。 (16, 88～89, 112ページ参照)
	回 転 計 (タ コ メ ー タ)	・正常に作動するか。 ・異常箇所を調べ、処置する。 (16ページ参照)
	ス テ ア リ ン グ お よ び 各 レ バ ー 類	・ハンドルを回し正常に作動するか。 ・各レバーを操作し正常に作動するか。 ・異常箇所を調べ、処置する。 (9～29, 120ページ参照)
	ブ レ ー キ ペ ダ ル ク ラ ッ チ ペ ダ ル	・低速で走行してペダル操作時に正常に作動するか。 ・異常箇所を調べ、処置する。 (95, 96, 103ページ参照)

## 2. 運転まえの準備

### ① シート

シートの前後位置がシート調節レバーを矢印方向に回すことにより、調節できます。



仕 様	生 地
2柱フレーム仕様	塩ビレザー
28, 30, 32, 36型キャビン仕様	ニット地
41, 46, 50型キャビン仕様	ニット地デラックスサスペンションシート

### ② デラックスサスペンションシート

[41, 46, 50型キャビン仕様]

サスペンション付で生地がニットのシートを採用しています。

- ・シートの前後位置は前後調節レバーを持上げると調節できます。
- ・体重調整ノブでサスペンションのかたさが調整できます。
- ・シート高さ調節ノブでシートの上下調節ができます。
- ・リクライニング調整レバーで背もたれの角度が調整できます。



- ・右サイドパネル部のクッションはアームレストとして使用してください。



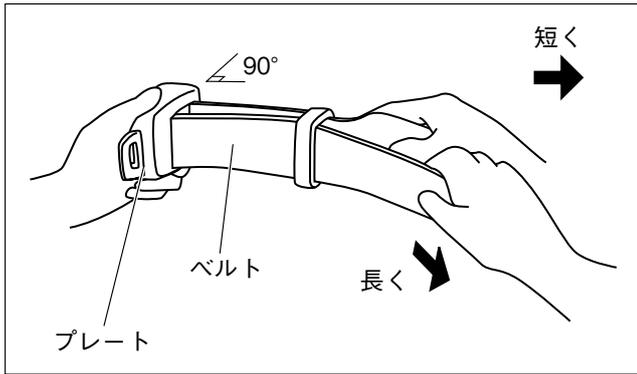
### ③ シートベルト

**警告** 傷害事故防止のために

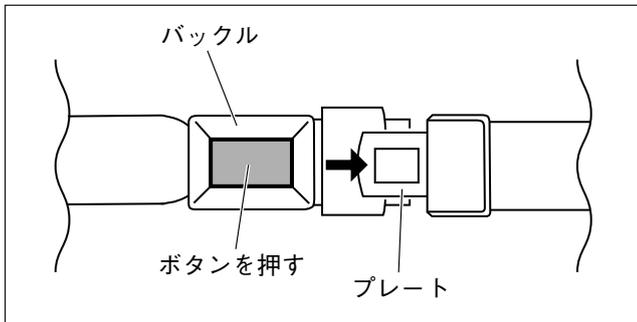
- ◆安全フレームをおこして使用するときは、シートベルトをしてください。
- ◆安全フレームをたおして使用するときは、シートベルトはしないでください。



- (1) シートベルトがねじれないようにして、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまではめ込みます。
- (2) 長さの調整は、ベルトをプレートと直角に行います。ベルトを着けたときに腰部とベルトの間に手のひらが入る程度に長さを調整します。



(3) シートベルトを外すときはバックルのボタン（中央の赤い部分）を押すと外れます。外したベルトはバックルとプレートをはめておきます。



④ ハンドル、チルトペダル

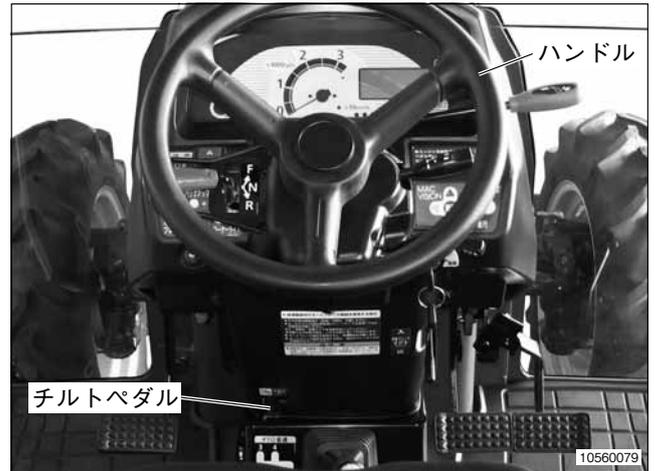
**警告** 傷害事故防止のために

- ◆ハンドルの角度を変えたときは、チルトペダルが上方に上がり、ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
- ◆ハンドルの角度を変える目的以外にチルトペダルを踏まないでください。
- ◆走行中の調整はしないでください。

ハンドルは機械の進行方向（直進、旋回）を操作します。

チルトペダルを踏むと、ハンドルの角度を変えることができます。

チルトペダルが上方に上がらないときは、ハンドルを前後に軽く動かすとチルトペダルが上方に上がります。



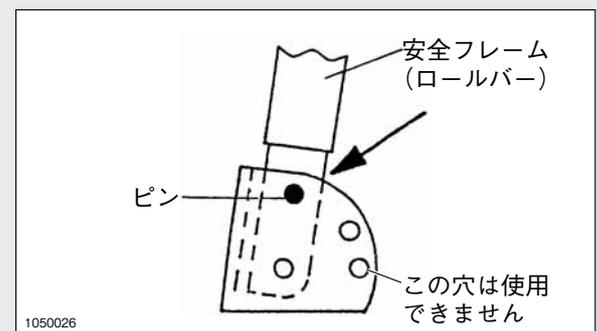
3. 安全フレームの取扱い

安全で快適な農作業をしていただくために、下記のことを守って行います。あわせて「安全作業をするために」の項をよく読み正しい取扱いをします。



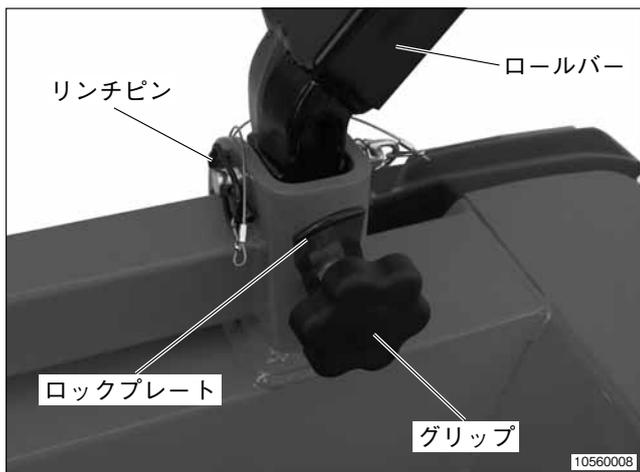
**警告** 傷害事故防止のために

- ◆安全フレームは、トラクタが転倒したときに身を守るものですから、安全フレームを「おこして」矢印の位置にピンをセットして使用してください。



- ◆安全フレームを「おこして」使用する場合はシートベルトをしてください。
- ◆安全フレームを「たおす」または「おこす」ときは機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してから行ってください。
- ◆高さ制限のある屋内、果樹園などでの作業は安全フレームを後方にたおして行うことができますが、この位置では身体を保護することはできませんのでシートベルトはしないでください。
- ◆たおして使用するときは、フレームと作業機のスキマを確保してください。作業機をゆっくり上げて当たらないことを確認してください。
- ◆安全フレームに別部品を溶接したり、穴をあけるなどの改造はしないでください。万一、事故により安全フレームが変形した場合は、新しい部品と交換してください。
- ◆交換部品は、純正部品を使用してください。

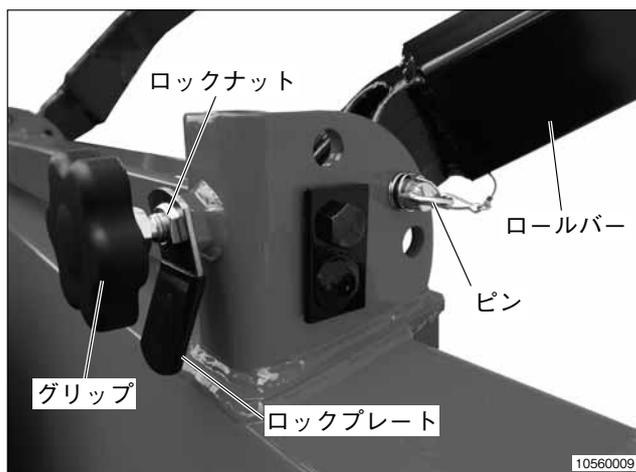
① たおしかた



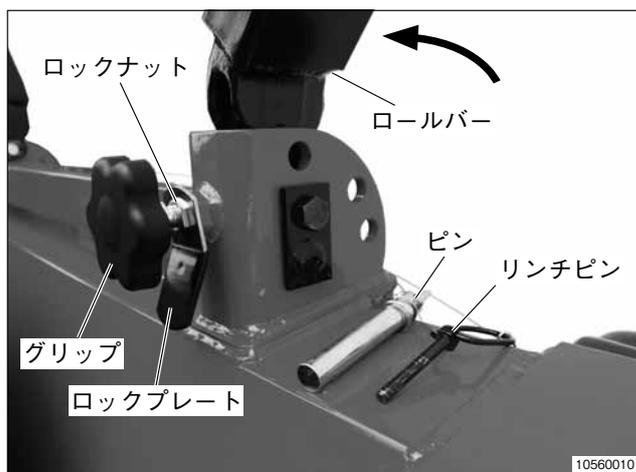
- (1) リンチピンを抜きます。
- (2) ロックプレートでロックナットをゆるめ、ピンが手で抜けるまでグリップをゆるめます。
- (3) 反対側も同様にリンチピンを抜き、ロックナットとグリップをゆるめます。

- (4) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。
- (5) ロールバーを後方にたおした位置で左右のピンを差込みます。
- (6) 左右のリンチピンを差込みます。
- (7) ロックプレートでロックナットを締込んでグリップを固定してください。

② おこしかた



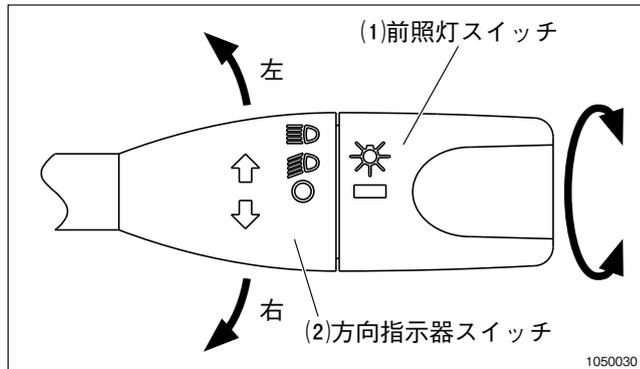
- (1) 左右のリンチピンを抜きます。
- (2) 片方の手でロールバーを支えながら左右のピンを抜きます。
- (3) ロールバーを前方におこして直立にした位置で左右のピンを差込みます。
- (4) 左右のリンチピンを差込みます。



- (5) グリップをいっぱい締めます。
- (6) ロックプレートでロックナットをいっぱい締込んでおきます。
- (7) 反対側も同様にグリップとロックナットをいっぱい締込んでおきます。

## 4. 灯火類の操作

### ① コンビネーションスイッチ



#### (1) 前照灯スイッチ

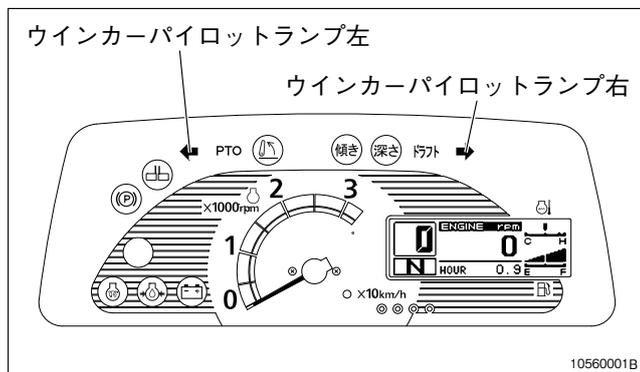
- ……………消灯
- ……メータ類ランプ点灯および前照灯下向点灯
- ……メータ類ランプ点灯および前照灯上向点灯

#### (2) 方向指示器スイッチ

右折, 左折のとき使用します。

- …… (左折)  
ウインカーパイロットランプ左点滅
- …… (右折)  
ウインカーパイロットランプ右点滅

スイッチは, ハンドルを戻すと自動的に中立に戻る機構になっています。



### 取扱いのポイント

- ハンドルを切る角度が小さいとレバーが中立に戻らない場合があります。戻らないときは手で戻してください。

### ② ハザードランプスイッチ [41, 46, 50型]

トラクタが交通の障害物となっていることを表示するため, 左右の方向指示器を同時「点滅」させるスイッチです。

- ・スイッチを押すと点滅し, もう一度押すと点滅が止まります。



### ③ ホーンスイッチ

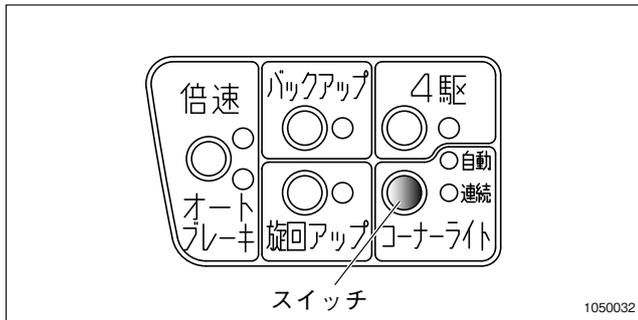
ホーンスイッチを押すと警笛が鳴ります。

### 取扱いのポイント

- ホーンはスタータスイッチ《切》の位置では動作しません。

④ コーナーライトスイッチ

前照灯両側のコーナーライトの点灯、消灯を切替えます。



・コーナーライトはコンビネーションスイッチが《 ≡D 》または《 ≡D 》位置のときにコーナーライトスイッチを操作して点灯させます。

コーナーライトスイッチ	コーナーライト
<p>スイッチ 押す</p>	消灯
<p>スイッチ 押す</p>	《自動》 旋回時にハンドルを切った方向のコーナーライトが点灯します。
<p>スイッチ 押す</p>	《連続》 ハンドルの位置に関係なく両端のコーナーライトが点灯します。

1050035

取扱いのポイント

- 公道走行中は、コーナーライトを《切》(消灯)にしてください。(コーナーライトは作業灯ですので公道では使用できません。)
- おまかせ機能が《走行》のときはコーナーライトは点灯しません。

## 2. 運転操作のしかた

各項目の操作手順に従って行なってください。

### 1. エンジンの始動と停止

**警告** 傷害事故防止のために

- ◆安全フレームをおこしてください。
- ◆ステップの左側から乗降してください。
- ◆トラクタに乗車する前に、トラクタの外周を見て回り、異常がないことを確認してください。
- ◆シャトル、主変速、副変速、PTO変速レバーを「《N》(中立)」にし、駐車ブレーキをかけてから、エンジンを始動してください。
- ◆エンジンの始動、発進するときは、周囲の人に合図をしトラクタや作業機のまわりから子供など人を遠ざけてください。
- ◆エンジンの始動はシートに座って、シートベルトをしめてから行なってください。
- ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
- ◆トラクタや作業機に子供など、人や物を乗せないでください。
- ◆暖機運転はシャトル、主変速、副変速、PTO変速レバーを「《N》(中立)」にし、駐車ブレーキをかけてから行なってください。

**注意**

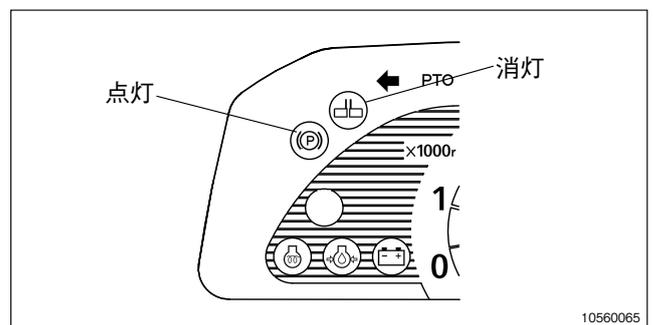
- ◆点検などで取外したカバー類は全て取付けてください。カバーがないと衣服が巻込まれたりしてけがをすることがあります。

#### ① エンジン始動のしかた

(1) 左右のブレーキペダルを連結し、ブレーキペダルを強く踏み込み駐車ブレーキレバーを上方に押し上げてブレーキをかけます。

- ・駐車ブレーキを解除するときは、ブレーキペダルを強く踏込めば外れます。

スタータスイッチが「入」のとき、駐車ブレーキをかけるとメータパネルの(P)ランプが点灯します。

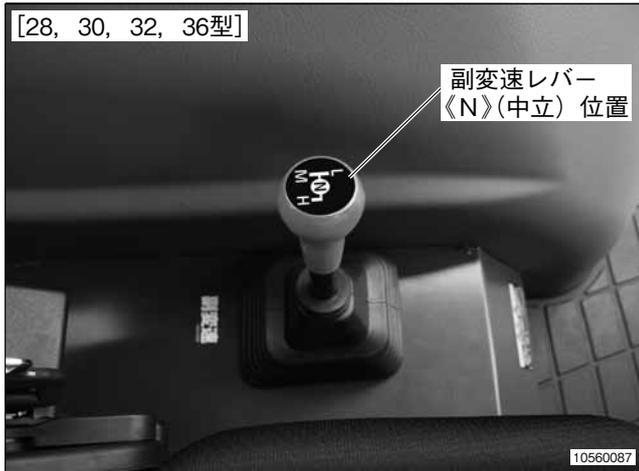


(2) シャトルレバーを《N》(中立)位置にします。



(3) 主変速レバー、副変速レバーを《N》(中立)位置にします。





(4) PTOスイッチを《切》にしてPTO変速レバーを中立状態にします。



(5) エンジンコントロールレバーを前方に押し、《低速》位置にして、クラッチペダルをいっばいに踏み込みます。



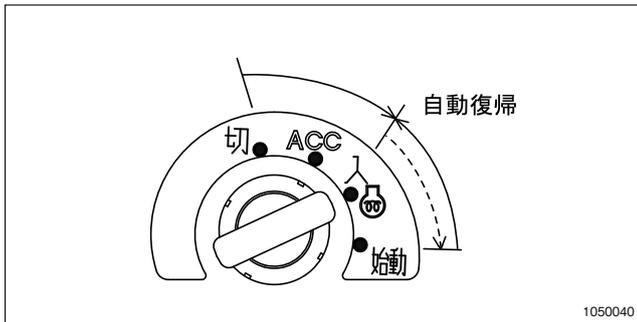
### 取扱いのポイント

- 始動安全装置が装備されており、シャトルレバーを《N》(中立) にしてPTOスイッチを《切》にしないとエンジンが始動できないようになっています。
- 寒冷時にはエンジンコントロールレバーを中間位置程度まで手前に引いてエンジンを始動します。

## 運転のしかた

- (6) スタータスイッチを《入》にすると  ランプ、 ランプ、 ランプが点灯します。

### ● スタータスイッチ



#### ・《切》(停止)

キーをこの位置にすると電源が切れエンジンが停止します。

キーの着脱ができます。

#### ・《ACC》(アクセサリ)

[キャビン仕様] はカーステレオとシガライターが使用できます。

#### ・《入》(予熱)

キーをこの位置にするとメータ内のグローランプが点灯し、エンジンが予熱されます。

予熱が完了するとグローランプが消灯しますので始動操作をします。

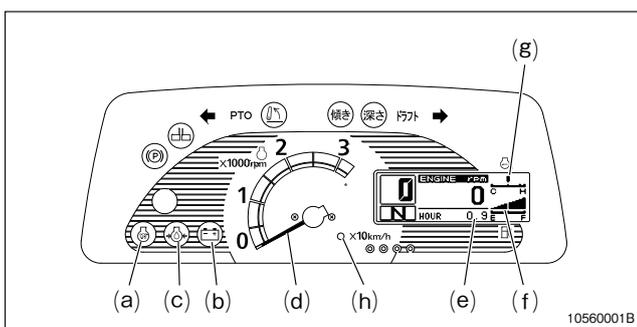
グローランプ点灯時間…5秒

#### ・《始動》

キーをこの位置にするとエンジンが始動します。

エンジン始動後手を放せば自動的に《入》にもどりエンジンが運転状態になります。

### ● 表示器



#### (a) グローランプ ( ランプ)

キーを《入》にすると、点灯してエンジンが予熱状態であることを示します。

#### (b) チャージランプ ( ランプ)

エンジン運転中、充電系統に異常があると点灯して警告します。

エンジンを停止しているとき、キーを《入》にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

#### (c) エンジンオイルランプ ( ランプ)

エンジン運転中、エンジンの潤滑系統に異常があると点灯します。

エンジンが停止しているとき、キーを《入》にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯するのが正常です。

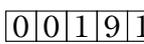
#### (d) タコメータ/スピードメータ

エンジン回転数を示します。

おまかせスイッチが《走行》のときスピードメータとなります。

#### (e) アワメータ

エンジンの稼働時間を表示し、たとえば

 は定格回転で19.1時間 (19時間6分) 使用したことを示します。

液晶画面で表示します。

#### (f) 燃料計

キーを《入》にすると燃料の残量を示します。

液晶表示で確認し補給します。

#### (g) 水温計

キーを《入》にするとエンジン冷却水温度を示します。

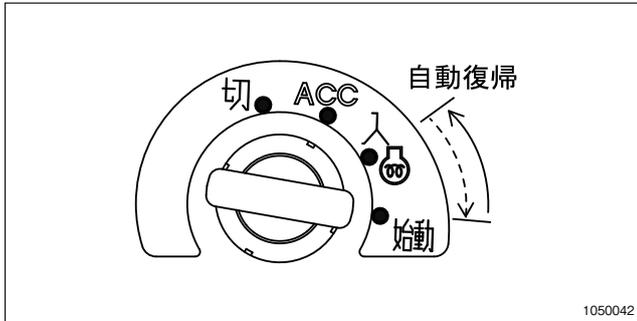
液晶画面で表示します。

#### (h) 速度表示灯

おまかせスイッチが《走行》のとき点灯し、タコメータは走行速度を示します。

(7)  ランプが消灯してから、キーを《始動》にします。

始動したら、ただちにキーより手を離します。キーは自動的に《 入》の位置に戻ります。



(8)  ランプ,  ランプが消えれば正常です。消えないときは、すぐエンジンを停止して点検します。

(9) エンジン回転を約1,500rpmにして暖機運転します。(約5分間)

### 取扱いのポイント

- エンジンの運転中に  ランプが連続点灯するときは、エンジンを停止し、ファンベルトを点検してください。(101ページ参照)  
ファンベルトが正常であれば、ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。
- 運転中に  ランプが点灯したときは、エンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。(88~89ページ参照)  
オイル量が正規であれば、ほかに異常がありません。ただちに点検を受けてください。
- 水温計の針または液晶画面の表示が《H》を示した場合は、オーバーヒート状態です。作業を中断しエンジンを低回転にし冷えてから停止してください。その後冷却水の量, ラジエータの目詰まり, ファンベルトの張りを点検してください。冷却水量, ラジエータの目詰まり, ファンベルトが正常であれば、ほかに異常がありません。ただちに点検を受けてください。
- エンジンが少しでも回転しているときはキーを《始動》にしないでください。  
故障の原因となります。

● 暖機運転は、寒冷時に限らず行なってください。エンジンが暖まらないうちに走行すると、エンジンの寿命を短くします。

### ● 寒冷時の始動

・ 下表を参照し気温にあったエンジンオイル, 燃料を使用してエンジンを始動し易くします。

気温(℃)	-20	-10	0	10	20
エンジンオイル	SAE10W-30				
	SAE5W-30				
燃料(軽油)	JIS特3号	JIS3号	JIS2号		

● 本トラクタの油圧オイルはミッションオイルと兼用しています。寒冷時はオイルの粘度が高くなり、油圧ポンプがオイルを吸い込みにくくなる場合があります。また油圧系より音が発生することがありますので暖機運転は必ず行なってください。

● 上記の現象はオイルの温度上昇と共に解消しますので、異常ではありません。

● 油圧で変速していますので暖機運転を十分行なってください。油温が低い場合は変速の切り換わりに通常より時間がかかるようになりますが異常ではありません。

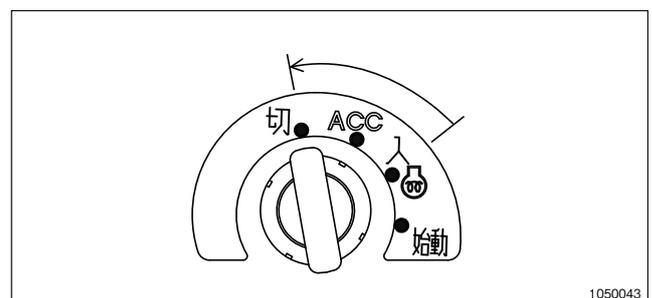
### ② エンジン停止のしかた

 **警告** 傷害事故防止のために

◆ トラクタを使用しないときはキーを抜いておいてください。

(1) エンジンコントロールレバーを前方に押し、エンジンを低速回転にします。

(2) スタータスイッチを《切》にすると、エンジンが停止します。



## 2. 発進・走行のしかた

### ① 発進のしかた

**警告** 傷害事故防止のために

◆道路走行、ほ場への出入り、あぜ越え、アユミ使用、傾斜地作業、フロントローダ装着時などは連結板で左右のブレーキペダルを連結してください。片ブレーキでは横転、衝突、転落などの事故になることがあります。

◆発進するときはクラッチペダルをゆっくり離してください。急に離すと急発進して事故の原因になります。

◆「おまかせスイッチ」を押して[走行モード]にしてください。また、リンクを水平または最上げに作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。

◆倍速旋回スイッチ、オートブレーキ旋回スイッチを《切》にしてください。これらのスイッチが《入》になっていると車体が急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。

・スイッチ横の倍速旋回ランプとオートブレーキ旋回ランプが消灯または点滅していることを確認します。

◆作業機を装着しているときは、周囲を確認し、ゆっくりと旋回してください。

◆高速で急旋回しないでください。エンジン回転を下げて旋回してください。

◆寒冷時、ミッションオイルの温度が上がるまでは、トラクタの発進が遅れることがあります。異常ではありませんので、トラクタから降りないでください。

◆長時間ブレーキだけで停止（オートクラッチ）しないでください。油圧クラッチが作動していますので油温が高くなり作動不良の原因となるおそれがあります。

◆下り坂では《アクセル変速》で走行しないでください。自動的に変速し速度が速くなる場合があります。

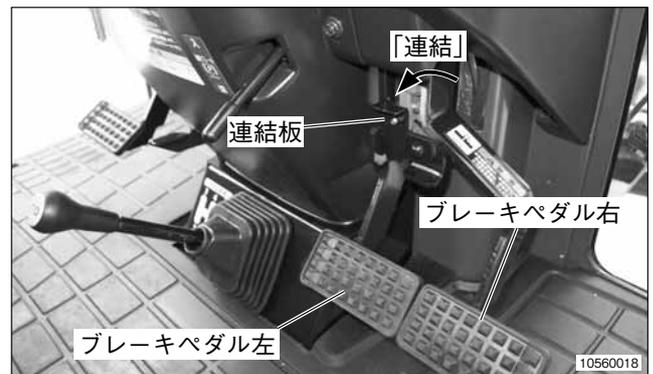
◆オートクラッチを使用した場合の急な上り坂での発進はトラクタの動きに十分注意してください。発進時にトラクタが下がる場合があります。

(1) ほ場作業以外では、左右のブレーキペダルを連結します。

・ブレーキペダルは左右のペダルに分かれており、連結板を解除して左のペダルを踏むと左後輪に、右のペダルを踏むと右後輪にブレーキがかかります。

左右のブレーキペダルを連結してブレーキペダルを踏むと、左右の後輪にブレーキがかかります。

連結状態 (連結金具)	ブレーキ連結ランプ □□	走行状態
連結	消灯	路上走行
解除	点灯	ほ場作業

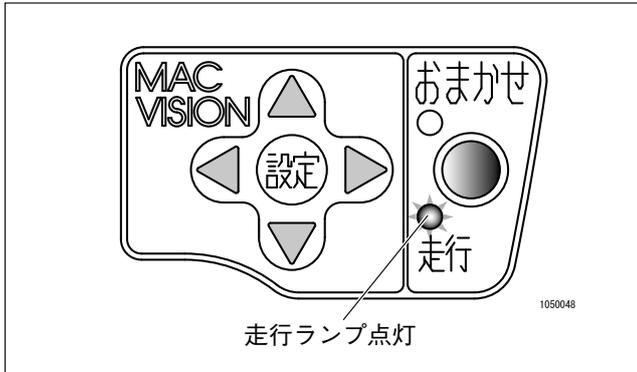


(2) ポジションコントロールレバーを後方にゆっくり引き、作業機を持ち上げます。



(3) 「おまかせ」スイッチを押して走行モードに切替えます。

・「おまかせ」の走行ランプが点灯します。



おまかせ	走行 (走行ランプ点灯)
機能	動作しない
倍速旋回	
オートブレーキ旋回	
旋回アップ機能	
クイックアップ機能	
バックアップ機能	
深さ自動機能	
傾き自動機能	
上昇PTO停止機能	
2駆・4駆切替	走行時2駆, 4駆切替も可能

(4) エンジン回転を約1,500rpmにします。

(5) クラッチペダルをいっぱい踏込みます。



	クラッチペダル操作
主変速レバー	不要
副変速レバー	要
シャトルレバー	不要
PTOスイッチ	不要
PTO変速レバー	要

(6) 副変速レバーを所要変速位置に入れます。

(7) クラッチペダルからゆっくり足を離します。

(a) 主変速レバー



主変速レバーは、ノンクラッチで8段階に変速できます。選択した変速段数はMACビジョン表示で確認できます。

### 取扱いのポイント

- 主変速レバーの変速位置を大きく変えた場合（飛び段変速）は、中間の変速位置へ一度変速してから設定した変速にする場合がありますが、これは異常ではありません。
- ミッションの油温が低いときに、発進および変速の時間が遅れる場合がありますが、これは異常ではありません。油温が上がれば正常に発進することができますので必ず暖機運転をしてください。

### ●アクセル変速



主変速レバーを《アクセル変速》位置に入れるとエンジン回転、車速、アクセル位置を検出して主変速位置を「4」段から「8」段の間で自動変速します。副変速レバーは、どの変速位置でも自動変速機能は働きます。移動走行時に使うと便利な機能です。

## 取扱いのポイント

- シャトルレバーを後進にしたときは、アクセル変速は作動しません。
- アクセル変速を使うときは、エンジンコントロールレバーは《低速》位置にしてください。スムーズな変速ができなくなります。

### (b) 副変速レバー

#### ① [28, 30, 32, 36型]

副変速レバーは3段で《L》(低速)、《M》(中速)、《H》(高速)があり、主変速レバー8段と併せて24段変速となります。



#### ② [30H, 32H, 36H, 41, 46, 50型]

副変速レバーは4段で《SL》(超低速)、《L》(低速)、《M》(中速)、《H》(高速)があり、主変速レバー8段と併せて32段となります。

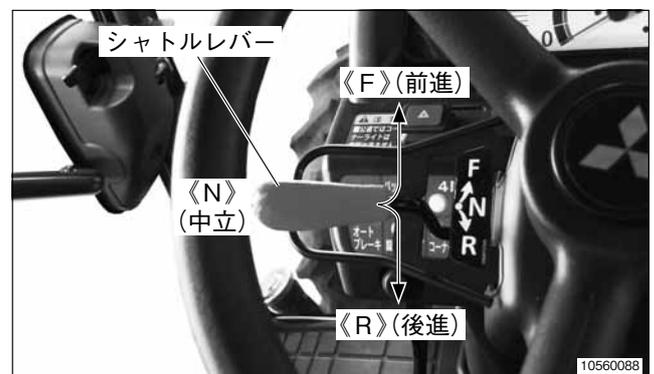


### (c) シャトルレバー

**警告** 傷害事故防止のために

- ◆後進は、エンジンの回転を下げて、後方を確認してから行なってください。
- ◆路上走行中の前進、後進の切替は、エンジン回転を下げ、走行が停止してから行なってください。
- ◆シャトルレバーの操作は、必ずトラクタの運転席に座って行なってください。
- ◆停車時にはシャトルレバーを中立位置にし、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- ◆けん引作業や坂道での発進時はシャトルレバーによる発進を避け、必ずクラッチペダルまたはオートクラッチを使用してください。

前進、後進の切換えができます。レバー位置は前側が《前進》、後側が《後進》となっています。



## 取扱いのポイント

- シャトルレバーはノークラッチ操作で変速することができますが、レバー操作は、いったん《中立》位置にして走行が停止してから操作してください。

### (d) オートクラッチ

**警告** 傷害事故防止のために

- ◆ブレーキペダルの連結を解除するとオートクラッチは作動しませんので、使用する際はブレーキペダルを連結してください。

オートクラッチはブレーキを踏むだけでトラクタの減速、停止ができ、また停止後ブレーキペダルから足を離すだけで発進することができます。

### 取扱いのポイント

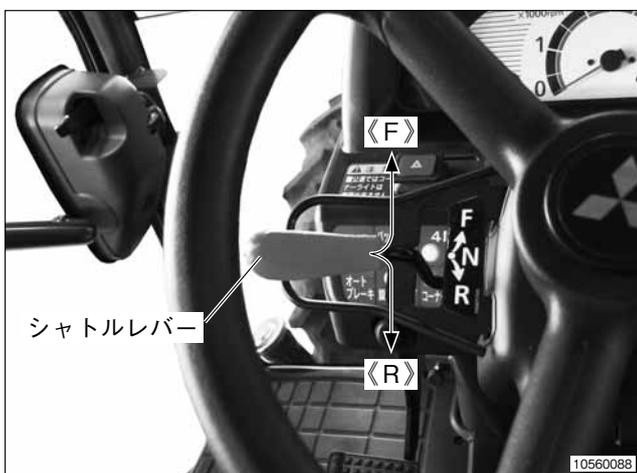
- 長時間停止する場合にはオートクラッチは使用せず、シャトルレバーおよび副変速を中立にしてください。
- 長時間ブレーキだけで停止していると、油温が高くなる要因となりますので数分間以上停止する場合にはクラッチを踏んでください。

(8) ブレーキペダルを強く踏込み、駐車ブレーキを外します。

(9) 主変速レバーを「1速」の位置にします。



(10) シャトルレバーを《F》(前進)または《R》(後進)位置にするとトラクタが動き始めます。

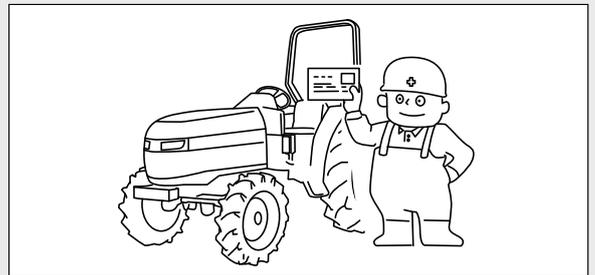


(11) 主変速レバーを1段ずつ変速して、希望する位置まで変速します。

## ② 走行のしかた

**警告** 傷害事故防止のために

- ◆公道を走行するときは、運転免許証を携帯し、交通法規を守り、安全のため安全フレームを起こし、シートベルトをして、ヘルメットを着用してください。
- 作業機を装着しない
- 補助車輪はつけない。
- 公道では低速車線を走行する。



- ◆運転者の他に子供など、人や物をのせないでください。
- ◆道路を走行するときは、左右のブレーキペダルを連結してください。左右のブレーキペダルを連結しておかないとブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起すことがあります。
- ◆移動走行時には「おまかせスイッチ」を押して[走行モード]にしてください。また、3点リンクを水平にし、作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。
- ◆倍速旋回スイッチ、オートブレーキ旋回スイッチを《切》にしてください。これらのスイッチが《入》になっていると車体が急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起すことがあります。
- ◆発進・旋回、傾斜地、荒地では低速にし、急傾斜地や急な坂道では旋回しないでください。
- ◆走行中は、クラッチペダルに足を置いたり各変速レバーに手を置いたままにしないでください。

- ◆重い作業機を装着すると、ハンドル操作をしても思うように旋回できないことがあります。バランスウエイトを付けてバランスを保ってください。
- ◆軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
- ◆狭い農道や傾斜地では路肩に寄りすぎないで低速で走行してください。
- ◆進路変更するときは、方向指示器スイッチによって進行方向を他の車に知らせてください。
- ◆バックミラーで後続車を確認し、追越しの妨害にならないようにしてください。
- ◆夜間走行時、対向車とすれ違うときは、前照灯を下向きにし、対向車の妨害にならないようにしてください。
- ◆道路走行時にコーナライトや作業灯を使用しないでください。
- ◆自動車への積み込み・積降ろしおよび道路走行するときは、デフロックを使用しないでください。

- (1) デフロックが解除されていることを確認します。
- (2) 作業機降下速度調節グリップを《固定》にして作業機の落下を防止します。



- (3) 走行スピードはフットアクセルペダルで調整します。

### (a) フットアクセルペダル

ペダルを踏込むと高速となり、離すと低速になります。このとき、エンジンコントロールレバーは低速にしておきます。主に移動走行時に使用します。

### (b) エンジンコントロールレバー

レバーを手前に引けば《>>>》(高速)となり、前方へ押せば《<<<》(低速)となります。

主にほ場作業時に使用します。



### ③ パワーステアリングの取扱い

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆坂道、傾斜地ではエンジンを停止しないでください。作業中、走行中にエンジンが停止したときは、すみやかにエンジンを再スタートします。エンジンが停止するとパワーステアリング装置が働かなくなり、ハンドルが重くなり、衝突・転落などの事故になることがあります。エンジン低回転時もハンドルが多少重くなります。

◆高速走行時は、ハンドルが軽く感じますので、急にハンドルを切らないようにします。

◆エンジンをかけないで他車にけん引してもらう場合はまえもって手動操舵ができることを確認してからけん引してもらってください。他車にけん引してもらう場合は速度を5km/h以下としてください。

◆油圧シリンダ部のホースは「2年ごと」に交換してください。

このトラクタは、全油圧式パワーステアリングが装備されています。以下の内容を理解してから運転します。

- (1) ハンドルから前車軸までの間にリンク機構がありませんので、いっばいに切った後でも、力を加えることにより更にハンドルは回ります。ハンドルは軽い力でも切れるため、必要以上に力を加えてハンドルを切らないようにします。(リリーフ圧力以上の過大出力でパワーステアリング装置の寿命を縮める原因となります。)
- (2) ハンドルを切ったときのみ車輪が切れますので、旋回から直進に移るときも、ハンドルを回して直進に戻します。
- (3) エンジンが停止するとハンドルが非常に重くなります。

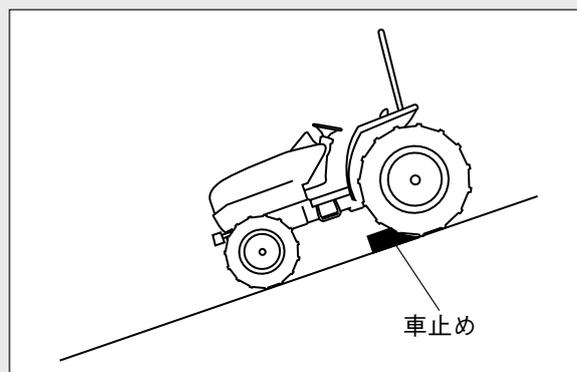
#### 取扱いのポイント

- フロントローダ作業ですえ切り（走行しないでハンドルを切る）ができないときには荷を軽くするか、前後に動くと操舵できます。
- 寒冷地などで始動時異音が発生し、使用しているうちに止まるのは油がかたいためです。暖機運転をしてから走行してください。
- 操舵時、油圧系から異音がする場合は、油圧回路に空気が入っていることがあります。5秒程度左右一杯にハンドルを切ったままにすると空気が抜けますので、異音はしなくなります。それでも音が止まらないときは「お買いあげ先」にご相談ください。

### 3. 停車・駐車のしかた

**警告** 傷害事故防止のために

- ◆ 駐車する場合は平坦な場所を選んでください。
- ◆ 駐車・停車時には駐車ブレーキをかけてください。
- ◆ 傾斜地では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し変速レバーを低速位置に入ると共に後輪に車止めをしてください。



- ◆ このトラクタは変速を入れていてもエンジンを停止するとエンジンブレーキはききませんので駐車・停車時は駐車ブレーキをかけてください。
- ◆ 作業機をおろすときはトラクタ、作業機の周囲に子供など、人を近づけないでください。
- ◆ トラクタを離れる場合は、キーを抜取ってください。

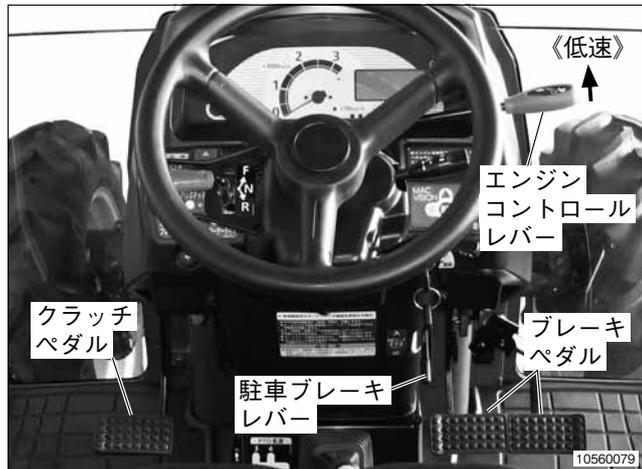
**警告** 火災防止のために

- ◆ トラクタを停止するときは、乾いた草やワラの近くに止めないでください。マフラ排気口に草やワラが触れると、火災のおそれがあります。
- ◆ 停車時、エンジンを空吹かししたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火することがあります。

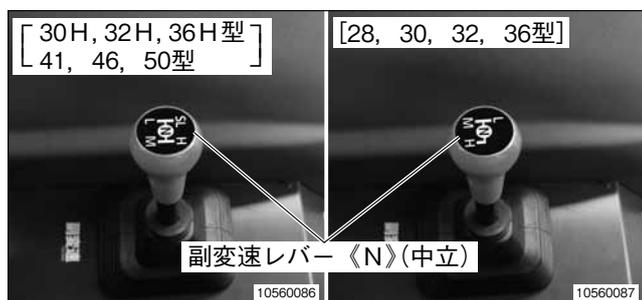
# 運転のしかた

## ① 停車のしかた

(1) エンジンコントロールレバーを前方に押し、エンジン回転を《低速》にして、ブレーキペダルとクラッチペダルを踏込み、駐車ブレーキをかけます。



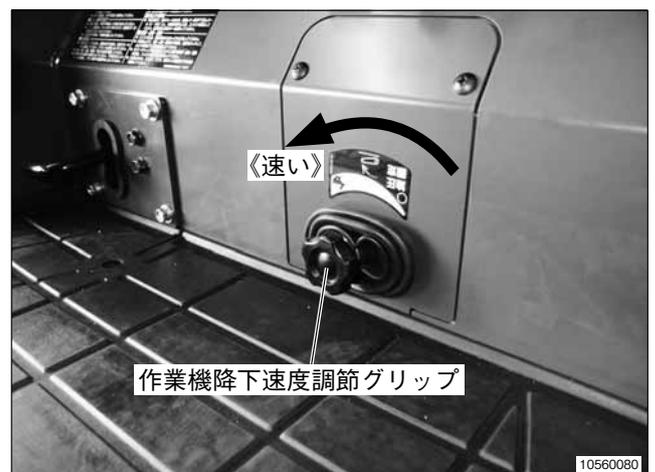
(2) シャトルレバー，主変速レバー，副変速レバーを《N》(中立)位置にします。



(3) PTOスイッチを《切》にしてPTO変速レバーを中立状態にします。

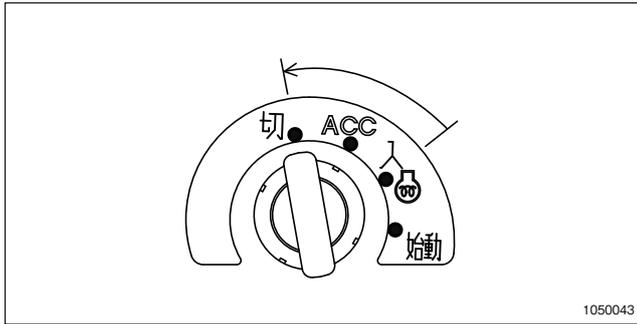


(4) 作業機降下速度調節グリップを《速い》方向に回します。



(5) ポジションコントロールレバーをゆっくり《下げ》にして作業機をおろします。

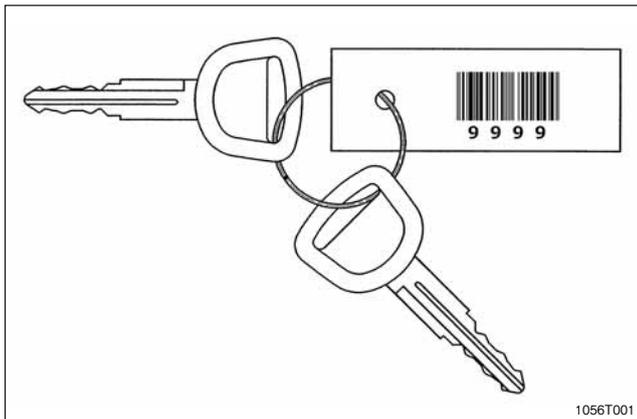
(6) キーを《切》にします。



1050043

### 取扱いのポイント

- 作業が終わってもエンジンをすぐ停止させず、アイドリング回転で5分間ほど回転させてください。  
すぐ停止させますと、エンジンの冷却が悪くなり、寿命を縮めます。
- キースイッチの切り忘れによるバッテリーあがり防止のため、必ずキーを抜いてください。
- キーリングに付属しているキーナンバー票は、キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙の記入欄に控えておくか、キーナンバー票を大切に保管してください。



1056T001

## 4. 自動車への積込み・積降ろし

**警告** 傷害事故防止のために

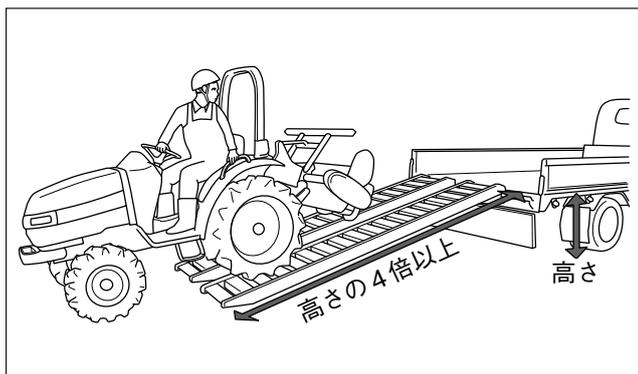
- ◆補助者の立会い、誘導のもとに行います。
- ◆トラクタの周囲に子供など、人を近づけないでください。
- ◆アユミは、十分な強度、幅（前後輪が外れない幅）、長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め、フック付きのものを使用してください。
- ◆トラクタの重量で、アユミが傾いたりしない平坦な場所を選んで行なってください。
- ◆アユミのフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように荷台に対して真っ直ぐに掛けてください。
- ◆アユミの上でのクラッチ操作、変速操作をしなくてもいいように、前後輪のタイヤをアユミに、真っ直ぐにのせてください。
- ◆「おまかせスイッチ」を押して[走行モード]にしてください。また、リンクを水平または最上げに作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。
- ◆倍速旋回スイッチ、オートブレーキ旋回スイッチを《切》にしてください。これらのスイッチが《入》になっていると車体が急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を引起こすことがあります。
- ◆自動車への積込み、積降ろし中は、変速レバー、クラッチペダル、デフロック、片ブレーキは使用しないでください。急に方向転換したり転落するおそれがあります。
- ◆積込みは後進、積降ろしは前進で低速で行い、必要以上のハンドル操作はしないでください。
- ◆ロータリの爪がアユミに引っかからないようにしてください。
- ◆トラックで輸送するときは駐車ブレーキをかけロープで固定してください。

## 運転のしかた

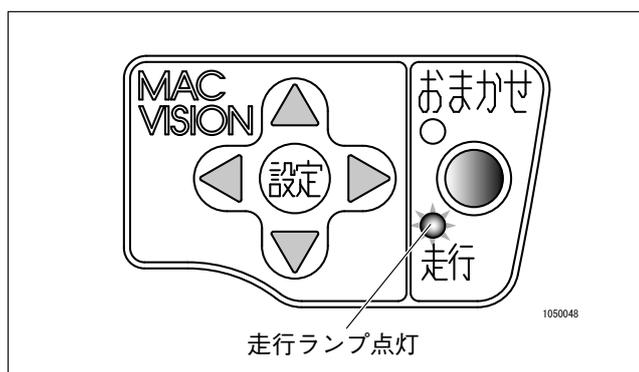
- (1) 積載重量を超えない自動車で荷台から作業機がはみ出さない車を使用します。自動車はエンジンを停止し変速を「1速」か「バック」に入れて駐車ブレーキをかけ、歯止めをします。
- (2) アユミは、十分な強度、幅（前後輪のタイヤが外れない幅）、長さ（荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め、フック付きのものを使用し、トラクタのタイヤの間隔に合わせ荷台に対し真っ直ぐにかけます。

### アユミの基準

長さ	自動車の荷台高さの4倍以上
幅	60cm以上
数量	2枚
強度	1枚が1,500kg以上の重量にたえるもの

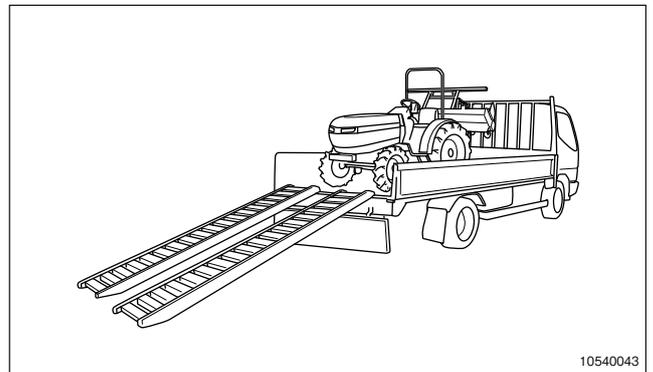


- (3) 左右のブレーキペダルを連結します。
- (4) デフロックが解除されていることを確認します。
- (5) PTO変速レバーを《中立》にします。
- (6) 「おまかせ」スイッチを押して走行モードに切替えます。  
・「おまかせ」の走行ランプが点灯します。

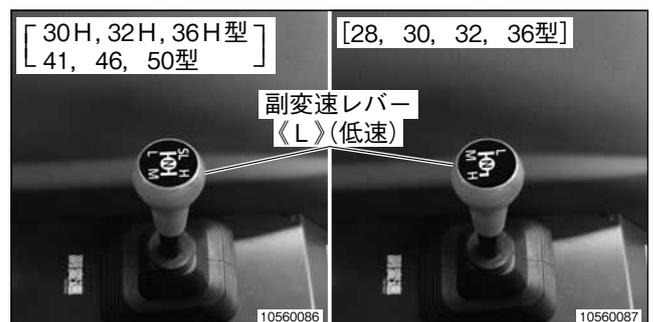


機能	おまかせ	走行 (走行ランプ点灯)
倍速旋回		動作しない
オートブレーキ旋回		
旋回アップ機能		
クイックアップ機能		
バックアップ機能		
深さ自動機能		
傾き自動機能		
上昇PTO停止機能		
2駆・4駆切替		走行時2駆, 4駆切替も可能

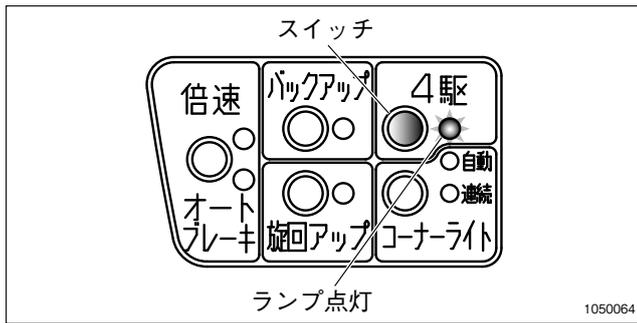
- (7) トラクタのタイヤとアユミを一直線上に合わせ、作業機をいっぱい上げます。



- (8) 変速は低速位置（下図に示す以下の速度）にします。



- (9) 4 駆切替スイッチを押して4 駆にします。

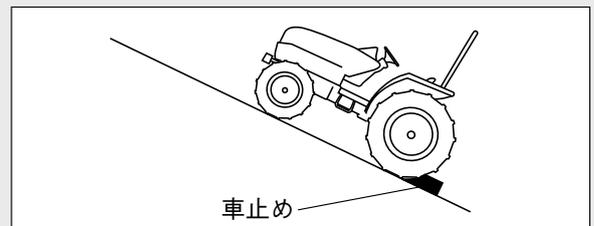


- (10) シャトルレバーを《後進》(積込み時) または《前進》(積降ろし時) の位置にします。
- (11) 途中でエンジンが停止した場合は、すぐブレーキペダルを踏込み、徐々にブレーキをゆるめ、いったん下まで降りてエンジンを再び始動します。
- (12) ハンドル操作は脱輪しないように慎重に行います。
- (13) 積込み後は、駐車ブレーキをかけて作業機を降ろし、エンジンを停止し、変速を低速位置に入れロープでトラクタを固定します。

## 5. 坂道での運転のしかた

**警告** 傷害事故防止のために

- ◆坂道を走行するとき、左右のブレーキペダルの連結およびデフロックの解除を確認してください。
- ◆下り坂では、エンジンブレーキを使用し、クラッチペダルは踏込まないでください。
- ◆下り坂では主変速、副変速、シャトルレバーを「《N》(中立)」にしたり、クラッチを切ったままで走行しないでください。
- ◆坂道では変速をしないでください。あらかじめ変速を低速位置にしてから走行してください。高速位置で急発進すると前輪がはね上がったり、トラクタがすべりおちたりして傷害事故を引起こすことがあります。
- ◆坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、変速を登りでは前進側に、下りでは後進側に入れさらに後輪に車止めをしてください。



- ◆エンジンを停止するとエンジンブレーキがききませんので、トラクタを離れるときは、駐車ブレーキをかけてください。

- ① 坂道では、速度を落として走行します。
- ② 坂の途中ではクラッチペダルを踏まないようにします。
- ③ 変速は坂を登りきってから、適切な変速位置に入れます。
- ④ 上り坂で発進する場合は、変速を低速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくりと発進します。
- ⑤ 急な下り坂ではエンジンブレーキを使用します。変速を低速位置にするとエンジンブレーキがよくききます。

## 6. ほ場への出入りのしかた

**⚠警告** 傷害事故防止のために

- ◆ほ場への出入りや、あぜ越えは左右のブレーキペダルの連結、デフロックの解除を確認してください。
- ◆ほ場への出入りや、あぜ越えはPTO変速レバーを中立にしてください。
- ◆ほ場への出入りや、あぜ越えは低速で、あぜに直角に行なってください。
- ◆ほ場への出入りは、途中で変速しないでください。
- ◆高あぜ、急傾斜、溝越えは、アユミを使用してください。
- ◆アユミの上では必要以上のハンドル操作や変速はしないでください。
- ◆あぜがくずれないようにゆっくり行ってください。

(1) 左右のブレーキペダルを連結します。



(2) デフロックが解除されていることを確認します。



(3) PTO変速レバーを中立位置にします。

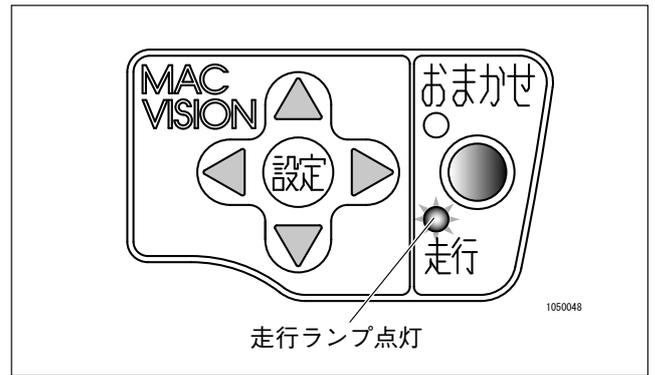


・PTOスイッチを《切》にします。

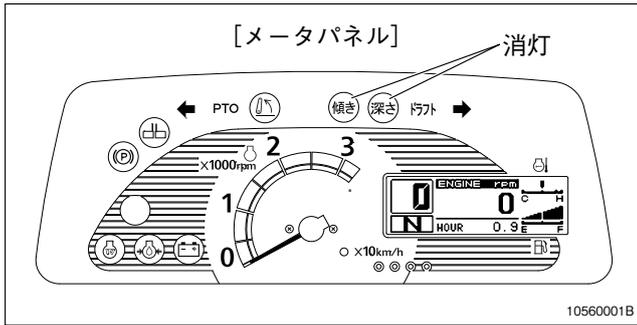


(4) 「おまかせ」スイッチを押して走行モードに切替えます。

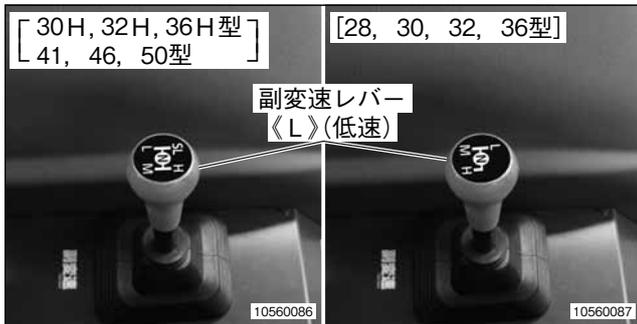
・「おまかせ」の走行ランプが点灯します。



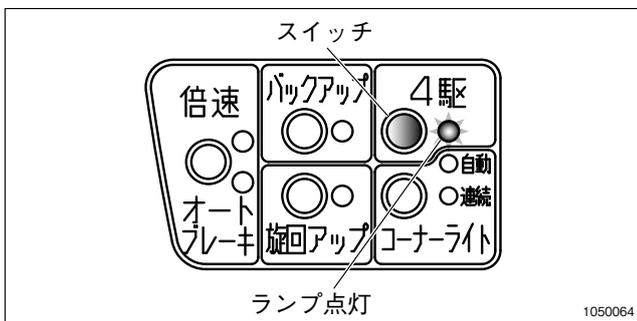
機能	おまかせ	走行 (走行ランプ点灯)	
倍速旋回		動作しない	
オートブレーキ旋回			
旋回アップ機能			
クイックアップ機能			
バックアップ機能			
深さ自動機能			
傾き自動機能			
上昇PTO停止機能			
2駆・4駆切替			走行時2駆、4駆切替も可能



(5) 変速は低速位置（下図に示す変速位置以下）にします。



(6) 4 駆切替スイッチを押して4 駆にします。



(7) ゆるい傾斜を前進で登るときは、登り始めは、作業機を下げて行くと前輪が浮き上がりません。トラクタの後輪があぜに上がると同時に作業機を上げます。

常に前・後輪のバランスを考えながら、操作します。

(8) 4 輪駆動の特色を生かして、後進で上がると上がる能力が増します。そのときは、作業機をいっぱい上げて行います。

# 作業のしかた

## 1. ほ場作業のしかた

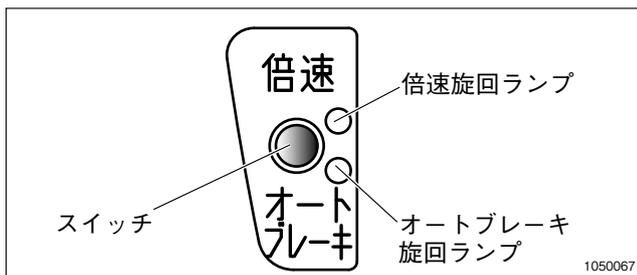
### 1. ほ場での旋回のしかた

**警告** 傷害事故防止のために

◆急傾斜地では作業をしないでください。  
急傾斜地で旋回すると、転倒による傷害事故を起こすことがあります。

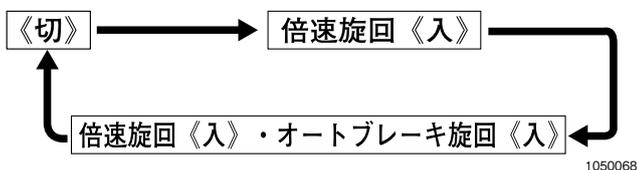
① ほ場では、ブレーキペダルの連結板を外し、左右独立して使用すれば小さく旋回できます。そのときは旋回する側のブレーキを踏込みます。

② 倍速旋回・オートブレーキ旋回  
倍速旋回/オートブレーキ旋回スイッチ (ランプ)



・1つのスイッチで倍速旋回とオートブレーキ旋回の切替えができます。

・スイッチを押すと、次の順で切替えができ、それぞれ《入》のとき、ランプが点灯して作動します。



### (1) 倍速旋回

**警告** 傷害事故防止のために

◆倍速旋回は、小さく旋回でき、旋回速度も速くなり、作業能率が上がりますが、ほ場作業以外では使用しないでください。使い方を誤ると横転することがあります。

◆道路走行、ほ場への出入り、あぜ越え、アユミ使用、傾斜地作業のときは倍速旋回を《切》にしてください。《入》になっているとトラクタが急旋回して転倒・転落・衝突などの傷害事故を起こすことがあります。

◆倍速旋回は、フロントローダ作業など、前輪に重荷重のかかる作業に使用しないでください。

バランスがくずれ横転や傷害事故のおそれがあります。

① 4駆切替スイッチを《入》にして変速位置を下表の位置以下にします。

	主変速レバー	副変速レバー
[28・30・32・36型]	[2]	[H]
[30H・32H・36H ・41・46・50型]	[4]	[M]

② 倍速旋回スイッチを押すと倍速旋回ランプが点灯し、倍速旋回ができる状態になります。

③ 旋回時に、前輪が高速で回転し、通常の旋回より小回りします。

### 取扱いのポイント

- 倍速旋回スイッチを《入》、《切》するときには、前輪タイヤを直進状態にしてください。
- 4駆切替スイッチが《切》または変速レバーが上記以上のときは、倍速旋回は作動しません。

(2) オートブレーキ旋回

**警告** 傷害事故防止のために

◆オートブレーキ旋回は旋回時にハンドルを回すとブレーキが自動的に働き旋回が楽に行えますが、ほ場作業以外では使用しないでください。使い方を誤ると横転することがあります。

◆オートブレーキ旋回は、道路走行、ほ場への出入り・自動車への積降ろし・傾斜地作業・フロントローダ作業では使用しないでください。横転や傷害事故の原因になることがあります。ほ場から出るときはオートブレーキ旋回を《切》にして左右のブレーキペダルを連結してください。オートブレーキ旋回ランプが消灯していることを確認してください。

- ① 4駆切替スイッチを《入》にして変速位置を下表の位置以下にします。

	主変速レバー	副変速レバー
[28・30・32・36型]	2	H
[30H・32H・36H・41・46・50型]	4	M

- ② スイッチを倍速旋回《入》位置から更に押し、オートブレーキ旋回ランプが点灯し、オートブレーキ旋回ができる状態になります。
- ③ 倍速旋回作動状態でさらに後輪の内側に自動的にブレーキをかけ、さらなる小回りを可能にします。

**取扱いのポイント**

- オートブレーキ旋回スイッチを《入》、《切》するとき、前輪タイヤを直進状態にしてください。
- 4駆切替スイッチが《切》または変速レバーが上記以上のときは、オートブレーキ旋回は作動しません。

(3) 副変速・4輪駆動と倍速旋回／オートブレーキ旋回の動作関係

レバー、スイッチ操作	レバー、スイッチ操作		倍速／オートブレーキスイッチ	倍速旋回動作	オートブレーキ旋回動作		
	副変速	主変速					
28・30・32・36型	L	1	倍速 オート ブレーキ スイッチ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	×	×	
		2					
		3					
		4					
		5					
		6					
		7					
		8					
	M	1	《入》の場合のみ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	○ (ランプ点灯)	×
		2					
		3					
		4					
		5					
		6					
		7					
		8					
	H	1	《切》の場合	倍速 オート ブレーキ スイッチ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	○ (ランプ点灯)	○ (ランプ点灯)
		2					
	H	3	《入》 《切》 両方とも	倍速 オート ブレーキ スイッチ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	×	×
		4					
		5					
		6					
		7					
		8					
8							
8							
SL	1	《入》の場合のみ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	×	×	
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
L	1	《入》の場合のみ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	○ (ランプ点灯)	×	
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
M	1	《切》の場合	倍速 オート ブレーキ スイッチ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	○ (ランプ点灯)	○ (ランプ点灯)	
	2						
	3						
M	4	《入》 《切》 両方とも	倍速 オート ブレーキ スイッチ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	×	×	
	5						
	6						
	7						
	8						
	8						
	8						
	8						
H	1	《入》 《切》 両方とも	倍速 オート ブレーキ スイッチ	倍速 オート ブレーキ スイッチ	× (ランプ点減)	×	
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						

作業のしかた

※おまかせスイッチが《走行》の場合、使用できません。(32ページ参照)

## 2. おまかせmacの取扱い

**警告** 傷害事故防止のために

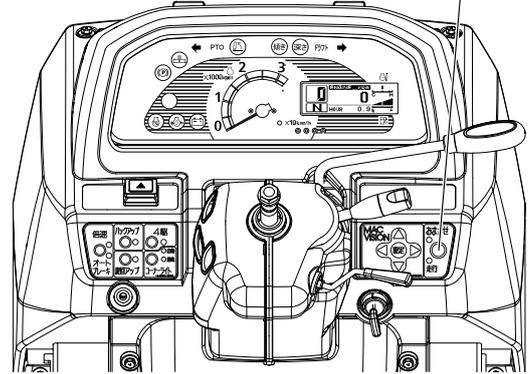
◆ほ場以外では、おまかせ機能を《走行》にしてください。守らないと作業機が自動的に作動し傷害事故になることがあります。

### ① おまかせスイッチ

- (1) おまかせスイッチで作業時と走行時をワンタッチで切替えることができます。
- (2) 作業終了時、走行するときは、おまかせスイッチで《走行》に切替えます。(走行ランプ点灯)
- (3) 再び作業で《おまかせ》に切替えると、マイコンが記憶している機能で作業が行えます。
- (4) スタータスイッチを切って、再始動してもマイコンが記憶している機能で作業が行えます。
- (5) 各機能は作業切替ごとに設定が可能です。

[メータパネル]

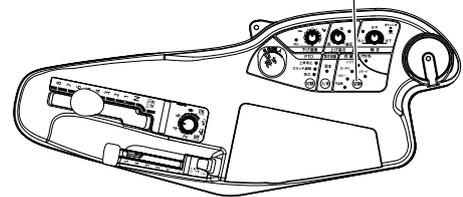
①おまかせスイッチ



10560021B

[サイドパネル]

②作業切替スイッチ



10560024B

- ・各機能の工場出荷時の設定は下記になります。
- ・各設定を変えたい場合は **MACビジョンの取扱い** を参照に行います。

[○：動作する，×：動作しない，△：切替可能（スタート時は×）]

機能	《おまかせ》								《走行》
	[オプション]				[オプション]				
おまかせ 作業切替 スイッチ	ドラフト ロータリ ハロー その他	おまかせ 走行							
深さ自動		○					○		
傾き自動		△					△		
旋回アップ								○	
クイックアップ	○		○	○			○		×
バックアップ		○					○		
倍速旋回							○		
オートブレーキ旋回		△					△		
Sモード	×	×	×	×			○		
4駆	○	○	○	○					△
上昇PTO停止	△	△		△	△	△		△	×

1050072

### 取扱いのポイント

- 走行モード時の2駆↔4駆の切替えは前の状態を記憶せず、必ず2駆となります。都度4駆に切替えてください。
- MACビジョンによる設定（66～72ページ参照）は作業切替スイッチの作業内容ごとにできます。ただし上げ高さボリュームは都度調整が必要です。

## ② 作業切替スイッチ

このスイッチを作業機にあわせて切替えると最適な作業を行うことができます。作業切替スイッチの操作により6種類（ドラフトがある場合は8種類）のモードが選べます。

作業切替	ランプ点灯状態	作業条件
その他		その他の作業機装着時
ハロー		駆動型ハローでの作業
ロータリ		ロータリ（作業機メーカーロータリ含む）での一般作業時
オプション ドラフト		プラウなどの重負荷作業時
その他 + Sモード		その他の作業機装着時にSモードが必要なとき
ハロー + Sモード		駆動型ハローでの一般作業時Sモードが必要なとき
ロータリ + Sモード		ロータリ（作業機メーカーロータリ含む）での一般作業時にSモードが必要なとき
オプション ドラフト + Sモード		プラウなどの重負荷作業時でSモードが必要なとき

1050073

### 取扱いのポイント

- ドラフトキットを装着していないとドラフトモードには切り替わりません。
- 作業切替スイッチを長押しするとSモードの入切が切り替わります。

## 3. PTOの取扱い

**警告** 傷害事故防止のために

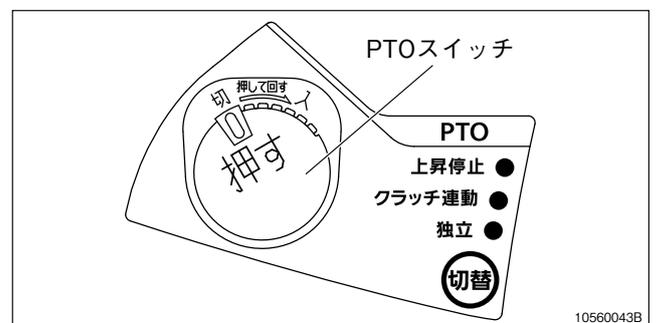
◆PTO切替スイッチの切替えは、PTOスイッチを「切」にしてから行ってください。PTOスイッチが「入」の状態では、クラッチペダルを踏み込み、PTO切替スイッチを「クラッチ連動」から「独立」に切替えると、同時にPTOシャフトが回転して巻込事故の原因になります。

### ① PTOスイッチ

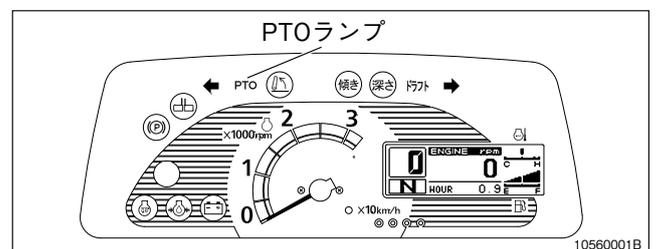
- PTO回転の《入》《切》ができます。
- PTO回転を《入》の状態にするときはPTOスイッチを押して矢印方向に回してください。このときPTOランプが点灯します。
- PTO回転を《切》の状態にするときはPTOスイッチを押してください。



10560025



10560043B



10560001B

**取扱いのポイント**

- エンジン始動時はPTOスイッチを《切》にしてください。
- PTOスイッチを《入》《切》にするときはエンジン回転を低回転（1200rpm以下）にしてください。

**② PTO切替スイッチ**

PTOの駆動方式を切替えるスイッチです。

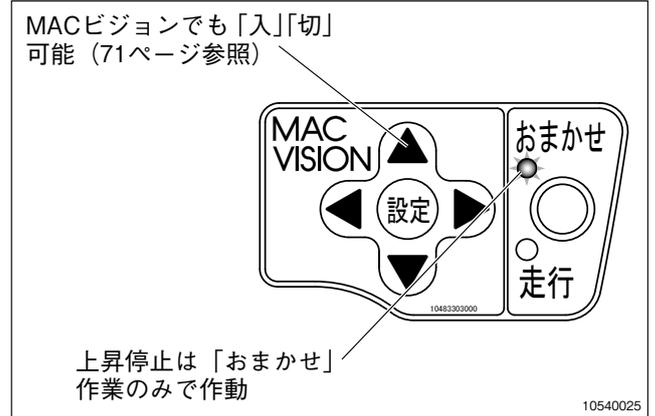
- クラッチ連動：クラッチペダルの操作で走行の動力と同時にPTOも入切する。
- 独立：クラッチペダルの操作とPTOの動力とは関係ない。
- 上昇停止：作業機上昇と同時にPTOを自動停止し、作業機下降と同時にPTOが回転する。

独立	上昇停止 ○ クラッチ連動 ○ 独立 ● 切替 ●	↑
クラッチ連動	上昇停止 ○ クラッチ連動 ● 独立 ○ 切替 ●	↓
独立 + 上昇停止	上昇停止 ● クラッチ連動 ○ 独立 ● 切替 ●	↓
クラッチ連動 + 上昇停止	上昇停止 ● クラッチ連動 ● 独立 ○ 切替 ●	↓

注：↑はスイッチを押す（切り替える）方向、↓はスイッチを押す（切り替える）方向を示す。

**取扱いのポイント**

- PTO切替スイッチを長押しすると、上昇停止機能の入・切が切り替わります。



- ・ポジションコントロールレバーの操作時のみ、PTO停止・回転の高さ設定が可能です。
- ・PTO停止高さの設定は「**MACビジョンの取扱い**」, 「**各種設定のしかた**」(69ページ参照)により行ないます。

**取扱いのポイント**

- エンジン始動時にはPTOスイッチを《切》にしてください。
- 緊急時にPTO回転を停止するには、PTOスイッチを押せば停止します。
- おまかせスイッチが《走行》の場合、上昇停止機能は働きませんので、“独立”と“クラッチ連動”のみの切り替わりとなります。

## 4. ポジションコントロールレバーの取扱い

### ① ポジションコントロールレバー

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆ポジションコントロールレバーを操作するときは、上げ高さボリュームで作業機の上げ高さを規制してください。  
規制しないと作業機の種類によって上げたときにトラクタを破損し、傷害事故になることがあります。

ポジションコントロールレバーの操作によって作業機の位置が自由に決められます。



### ② 下げ位置規制

ポジションコントロールレバーで作業機の下げ位置を一定に規制することができます。

・作業機の下げ位置をポジションコントロールレバーで決め、下げ位置規制ノブをゆるめてポジションコントロールレバーの位置までずらして締めます。



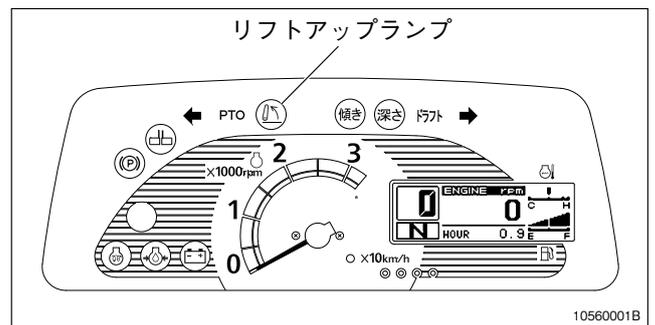
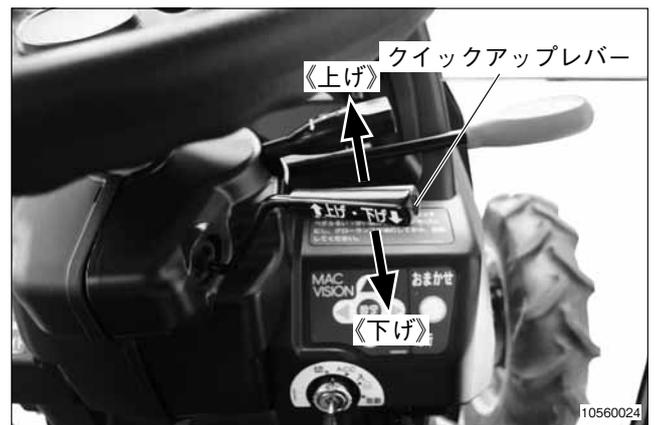
### ③ クイックアップレバー

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆ほ場以外や果樹園、ハウス内などでクイックアップレバーを使用しないでください。またバックアップスイッチは《切》にしてください。(バックアップランプが消灯します。) 作業機が支柱や樹木に接触して思わぬ事故の原因になったり、作業機に人をひっかけて傷害事故を引起こす恐れがあります。  
◆上げ高さボリュームで作業機の上げ高さを規制してください。  
規制しないと作業機の種類によって上げたときにトラクタを破損し、傷害事故になることがあります。

クイックアップレバーを「上げ方向」に操作すると作業機が上昇し、「下げ方向」に操作すると作業機が下降します。尚操作時には“ピッ”とブザー音がします。

クイックアップレバーを「上げ方向」に操作するとメータパネルのリフトアップランプ  が点灯します。

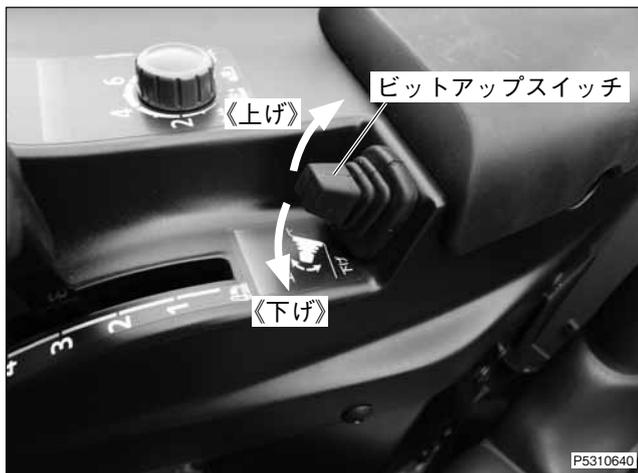


取扱いのポイント

- クイックアップレバーでの作業機昇降ができないときは、一度、ポジションコントロールレバー操作で作業機をいっぱい《上げ》、《下げ》してからクイックアップレバーを操作してください。
- クイックアップレバーの操作は上げ、下げ方向に軽く行なってください。
- クイックアップレバーで作業機を下げる場合、ポジションコントロールレバーの位置で下げ位置を規制することができます。

4 ビットアップスイッチ

ビットアップスイッチを《上げ》方向、または《下げ》方向に微操作（1秒以内）すると作業機が操作時間だけ上昇または、下降し位置の微調整が行えます。《上げ》方向の操作を1秒以上続けると作業機が上昇（上げ高さボリュームで規制している位置）をします。上昇位置のときは《下げ》の微操作で作業機はポジションコントロールレバー位置まで下降します。



5 バックアップスイッチ

**警告** 傷害事故防止のために

◆以下の作業時はバックアップスイッチを《切》にしてください。（バックアップランプが消灯します。）

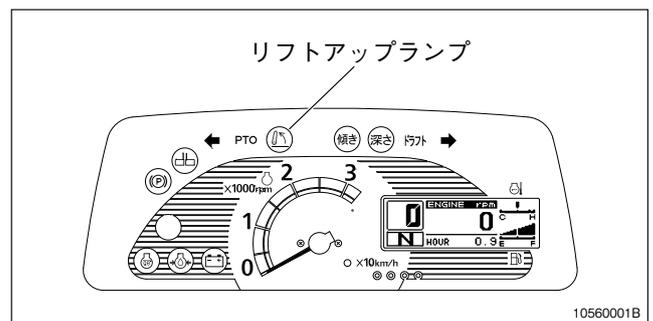
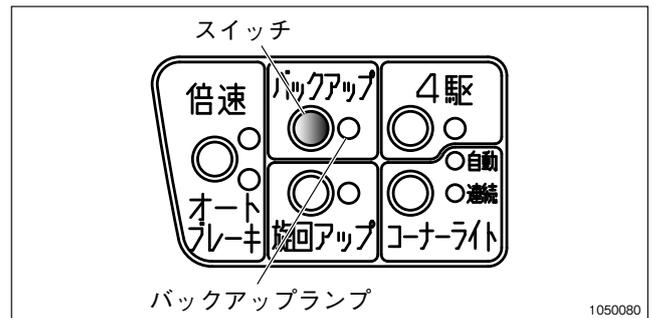
- ・作業機の着脱時
- ・ほ場以外や果樹園での作業

機械を《後進》に入れたとき、作業機が上昇し、作業機の種類によってはトラクタを破損したり、また周囲の支柱や樹木に接触して思わぬ事故や、作業機に人をひっかけて傷害事故を引起す恐れがあります。

◆上げ高さボリュームで作業機の上げ高さを規制してください。

規制しないと作業機の種類によっては上げたときにトラクタを破損し、傷害事故になることがあります。

バックアップ機能はスイッチを押すたびに《入》 ↔ 《切》を繰り返します。バックアップ機能が《入》のときはバックアップランプが点灯し、《切》のときは消灯します。



(1) バックアップ機能が《入》のとき（バックアップランプ点灯）シャトルレバーを《後進》に入るとリフトアップランプ (L) が「点灯」し作業機が自動的に上昇します。

(2) 作業機を下げるときは、クイックアップレバーを軽く下げ方向に操作します。リフトアップランプ (L) が「消灯」となり作業機が下がります。

ポジションコントロールレバーで下げる場合は、レバーを一度最上げにし、その後レバーを下げるにより、作業機が下がります。

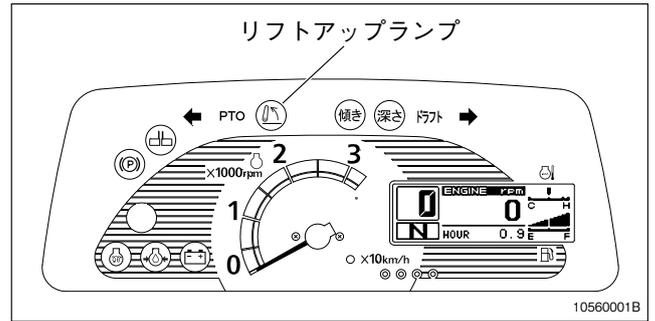
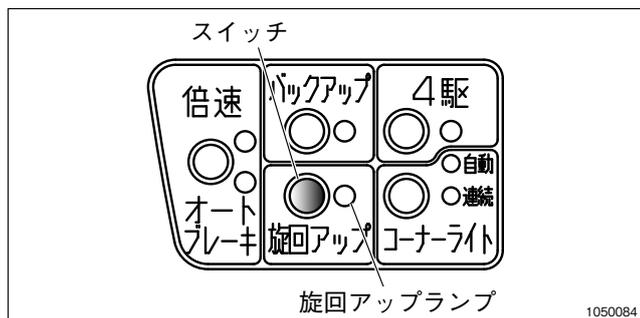
6 旋回アップスイッチ

**警告** 傷害事故防止のために

◆ほ場以外や果樹園、ハウス内などで旋回アップ機能を使用しないでください。また旋回アップスイッチは《切》にしてください。（旋回アップランプが消灯します。）作業機が支柱や樹木に接触して思わぬ事故の原因になったり、作業機に人をひっかけて傷害事故を引起す恐れがあります。

◆上げ高さボリュームで作業機の上げ高さを規制してください。規制しないと作業機の種類によっては上げたときにトラクタを破損し、傷害事故になることがあります。

旋回アップ機能はスイッチを押すたびに《入》↔《切》を繰り返します。旋回アップ機能が《入》のときは旋回アップランプが点灯します。《切》のときは消灯します。



・旋回アップ機能

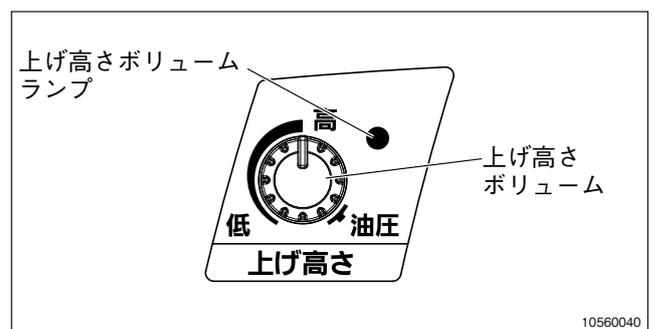
(1) 旋回アップ機能が《入》のとき（旋回アップランプ点灯）ハンドルを一定以上回すとリフトアップランプ (L) が「点灯」し作業機が自動的に上昇します。

(2) 作業機を下げるときは、クイックアップレバーを軽く下げ方向に操作します。

ポジションコントロールレバーで下げる場合は、レバーを一度最上げにし、その後レバーを下げるにより、作業機が下がります。

7 上げ高さボリューム

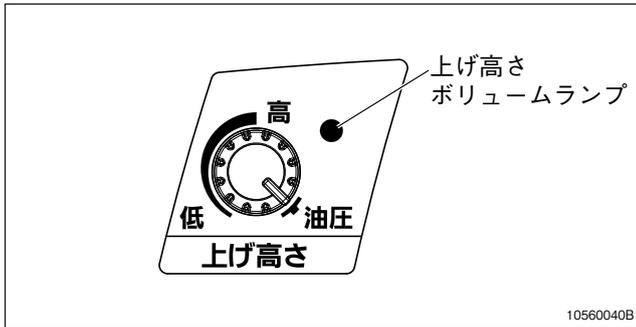
上げ高さボリュームで作業機の上げ位置を規制することができます。



作業のしかた

**取扱いのポイント**

- 上げ高さボリュームを《油圧》位置に回すと、油圧取出し部からフロントローダなどの油圧で作動する作業機に送油することができます。このとき、上げ高さボリュームランプは緑色から青色点灯となります。

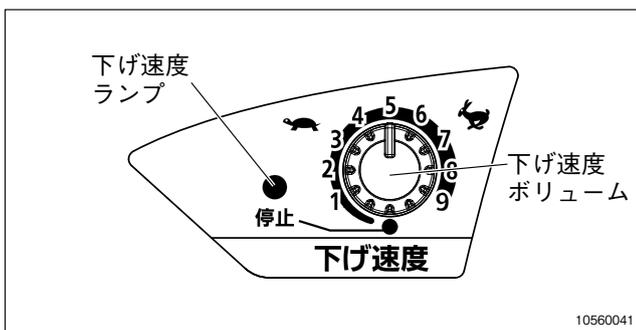


**⑧ 下げ速度ボリューム**

**警告** 傷害事故防止のために

◆下げ速度ボリュームは作業中の作業機降下速度を調節するためのものです。作業機を完全に固定することはできませんので、整備・点検・掃除を行うときは、エンジンを停止し作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。さらに作業機の下に「固定脚」を入れてください。(53ページ参照)

下げ速度ボリュームは右サイドパネルにあります。ボリュームを回すことで作業機の降下速度が調節できます。



リフトアーム下げ速度ボリューム	降下速度	下げ速度ランプ
《》側に回す	遅くなる	消 灯
《》側に回す	速くなる	
《●停止》位置	停止する	赤点灯

- ・作業機の種類、作業状況によって降下速度を調節してください。

**取扱いのポイント**

- 下げ速度ボリュームが《●停止》位置にセットしてあるときにポジションコントロールレバーを操作した場合、リフトアームは「上げ」側の操作にのみ作動します。安全装置が作動しているためですのでMACビジョンの指示に従い解除してください。

**⑨ 3点リンクリモコンスイッチ**

**警告** 傷害事故防止のために

- ◆作業機着脱時に3点リンクリモコンスイッチを操作する場合はトラクタと作業機の間、またはトラクタ後方で行わないでください。守らないと、作業機と接触して、傷害事故を起こすことがあります。
- ◆作業機装着時に3点リンクリモコンスイッチで作業機を上昇させる場合、作業機の種類によりリヤウインドウを破損し傷害事故になる恐れがありますので、作業機の位置を確認しながら操作してください。

リフトアームスイッチ・リフトロッドスイッチは、作業機装着時に使用してください。

- (1) リフトアームスイッチ (フェンダー左側)  
作動させるとリフトアップランプがゆっくり点滅します。

《上》……作業機が上がります。

《下》……作業機が下がります。

・解除方法

リフトアームの位置とポジションコントロールレバーの位置を一致させると解除されます。



(2) リフトロッドスイッチ（フェンダー右側）

作動させると傾きランプが点滅します。

《縮》……リフトロッドシリンダが縮みます。

《伸》……リフトロッドシリンダが伸びます。

・解除方法

作業機を最上げにすると解除します。

**取扱いのポイント**

- スイッチ操作時は通常のマイコン制御時よりゆっくり動作します。
- リフトアームが最上げになっているとリフトロッドスイッチは作動しません。



**5. 安全装置の取扱い**

① エンジン始動時の安全機能

エンジン始動時、作業機が急に上下しない為の機能です。エンジン始動後、ポジションコントロールレバーの設定値と作業機の位置が一致するまでブザーが“ピッ、ピッ、ピッ”と鳴り一致点に近づくにしたがって、ブザーの断続音が早くなります。ブザーが鳴らなくなったところが一致点です。その後ポジションコントロールレバーで作業機を上げ下げできます。

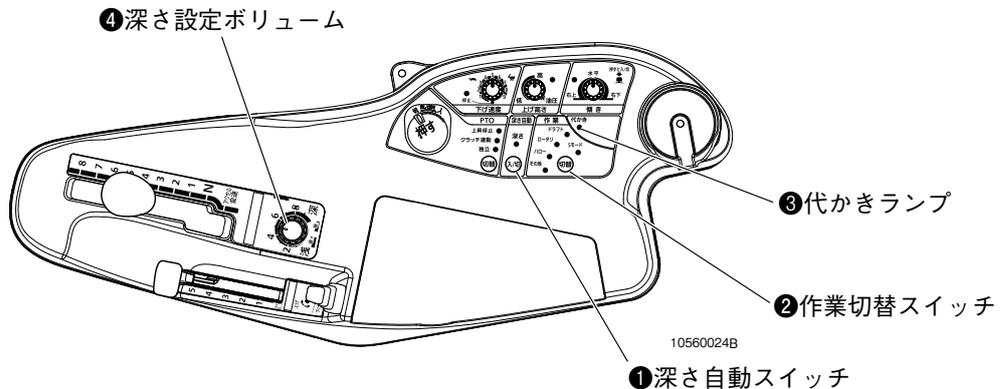
**取扱いのポイント**

- ポジションコントロールレバーはゆっくりと操作してください。



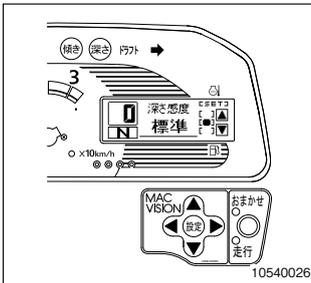
## 6. 深さ自動の取扱い

[サイドパネル]

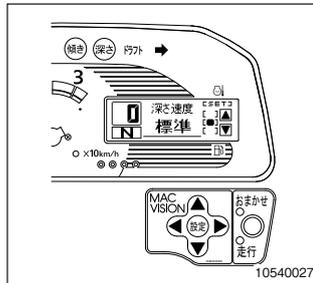


[MACビジョン]

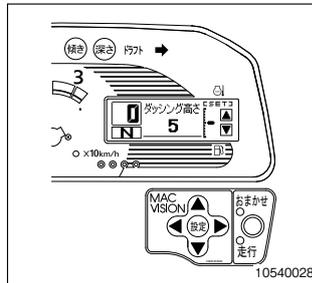
⑤ 深さ感度調整機能



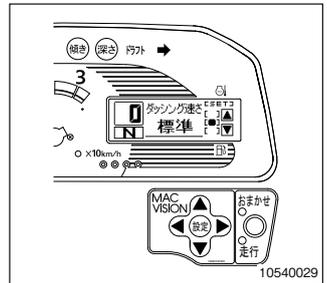
⑥ 深さ速度調整機能



⑦ ダッシング高さ調整機能



⑧ ダッシング速さ調整機能



**警告** 傷害事故防止のために

◆ほ場以外では、おまかせ機能を《走行》にしてください。守らないと作業機が自動的に作動し傷害事故になることがあります。

### ① 深さ自動スイッチ

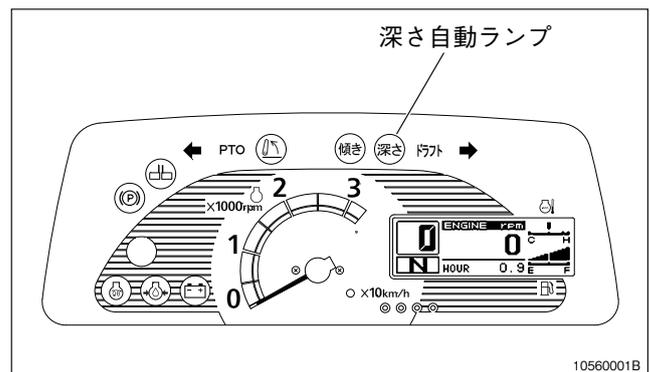
深さ自動を「入」・「切」するスイッチです。  
うね立て作業など、深さ自動を使用しないときはこのスイッチを押して《切》ります。  
スイッチ横とパネルの ランプが消灯します。

### ② 作業切替スイッチ

このスイッチを作業機にあわせて切替えると最適な作業を行うことができます。（「深さ自動」作動中は、深さ自動ランプが点灯します。）

・作業切替スイッチの操作により6種類（ドラフトがある場合は8種類）のモードが選べます。

No.	作業切替	作業（制御）内容
(1)	その他	その他の作業機装着時
(2)	ハロー	駆動型ハローでの作業
(3)	ロータリ	ロータリでの一般作業
(4)	ドラフト	プラウ作業など（オプション）
(5)	その他+Sモード	その他の作業機装着時にSモードが必要なとき
(6)	ハロー+Sモード	駆動型ハローでの作業時にSモードが必要なとき
(7)	ロータリ+Sモード	ロータリでの一般作業時にSモードが必要なとき
(8)	ドラフト+Sモード	プラウなどの作業のときSモードが必要なとき



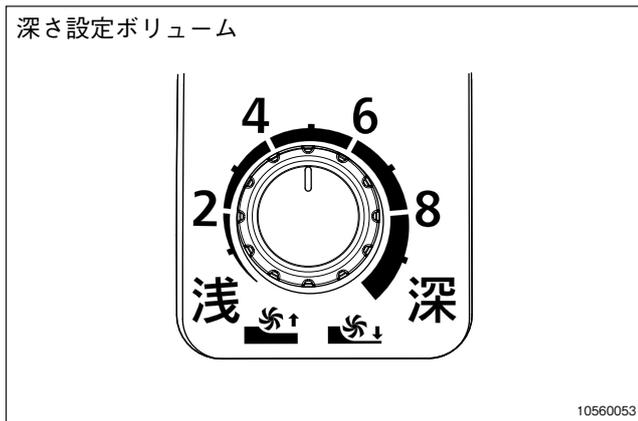
### ③ 代かきランプ

三菱純正ロータリ（RBシリーズ）使用時にロータリのフラップレバーを代かきの位置にすると代かきランプが自動的に点灯し、代かきモードになります。

### ④ 深さ設定ボリューム

ロータリの耕深量調整は深さ設定ボリュームによって行います。

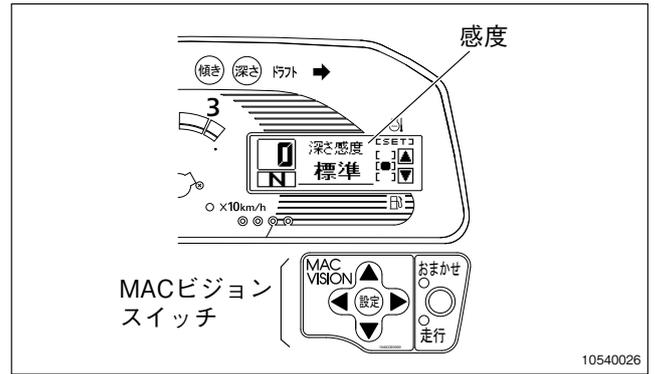
- ・《4》～《6》位置……110mm～130mmの耕深を維持します。  
(純正ロータリのシャトルフラップレバー《耕うん》位置での一般的なほ場)
- ・《浅》へ回す……耕深が浅くなります。
- ・《深》へ回す……耕深が深くなります。



### ⑤ 深さ感度調整機能

MACビジョンスイッチで深さ自動（リフトアームの動作）の感度を作業に応じて調整することができます。

- ・《鈍い》……浅耕，除草などの作業に適しています。
  - ・《標準》……通常の作業に適しています。
  - ・《鋭い》……代かき作業などに適しています。
- 仕上がりを確認しながら，ほ場条件によって切替えます。



### 取扱いのポイント

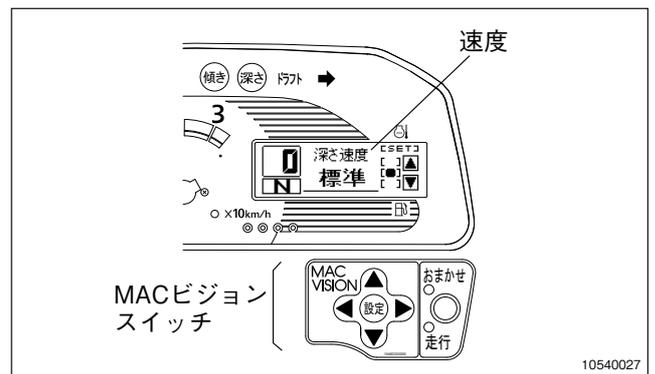
- 深さ感度の調整は **MACビジョンの取扱い** を参照します。
- 深さ自動を《切》にしているときは深さ感度は表示されません。

### ⑥ 深さ速度調整機能

MACビジョンスイッチで深さ自動（リフトアーム動作）の速度を作業に応じて調整することができます。

- ・《遅い》……ゆっくり動作します。
- ・《標準》……標準的な速度で動作します。
- ・《速い》……速く動作します。

仕上がりを確認しながら，ほ場条件によって切替えます。



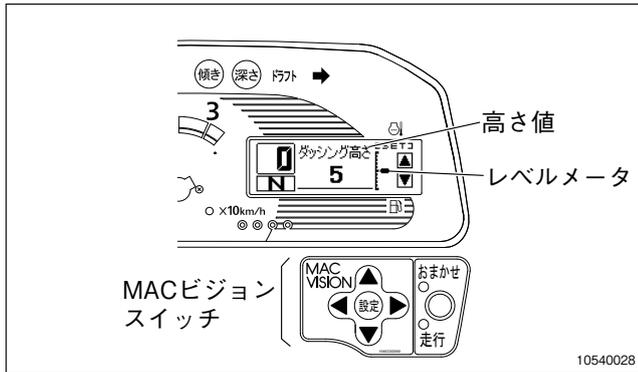
### 取扱いのポイント

- 深さ感度の調整は **MACビジョンの取扱い** を参照します。
- 深さ自動を《切》にしているときは深さ速度は表示されません。

## ⑦ ダッシング高さ調整機能

MACビジョンスイッチでは場条件、作業条件によってダッシング高さが調整できます。(ダッシング高さ値0～10：11段階)

高さ値が高くなるのに従い、ダッシング防止効き始め位置が高くなります。



### 取扱いのポイント

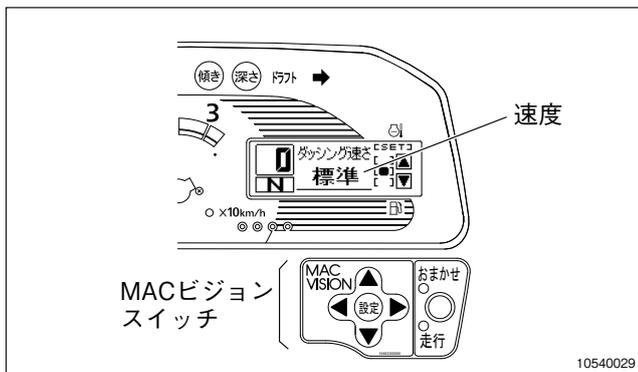
- ダッシング高さの調整は **MACビジョンの取扱い** を参照します。
- 深さ自動を《切》にしているときはダッシング高さは表示されません。

## ⑧ ダッシング速さ調整機能

MACビジョンスイッチでは場条件、作業条件によってダッシング速さが調整できます。

(ダッシング速さ値 遅い・標準・速い：3段階)

速さ値を《速い》にすると、ダッシング防止機能が効き始めてから設定深さに到達するまでの時間が短くなります。



### 取扱いのポイント

- ダッシング速さの調整は **MACビジョンの取扱い** を参照します。
- 深さ自動を《切》にしているときは、ダッシング速さは表示されません。

## ⑨ 耕深カプラ

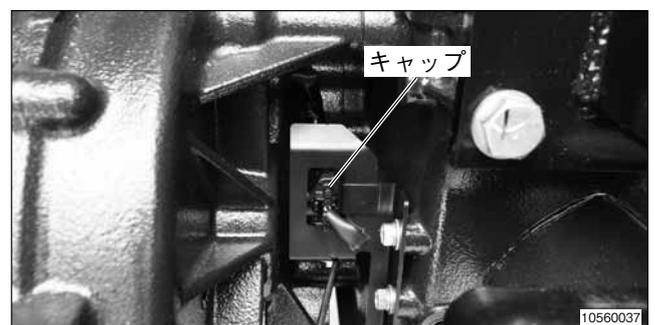
耕深カプラの接続状態によりつぎのようになります。(作業切替スイッチ《その他》、《ロータリ》、《ハロー》のとき)

- ・キー《入》時に接続してある  
……深さ自動が作動します。
- ・キー《入》時に接続してない  
……深さ自動《切》になります。
- ・エンジン始動後に耕深カプラが外れた場合  
……深さランプが点滅します。
- ・エンジン始動後に耕深カプラを接続した場合  
……深さスイッチを押して《入》にすると深さ自動が作動します。  
……深さ自動ランプが点灯します。



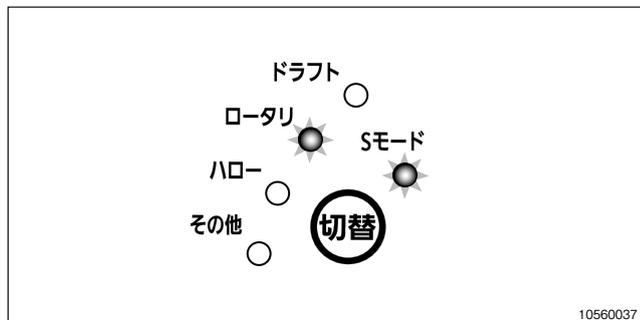
### 取扱いのポイント

- 耕深カプラを外したときはキャップを被せてください。



## ⑩ Sモード機能

作業切替スイッチを《Sモード》で使用すると、エンジン負荷に対応した車速の自動変速を行います。



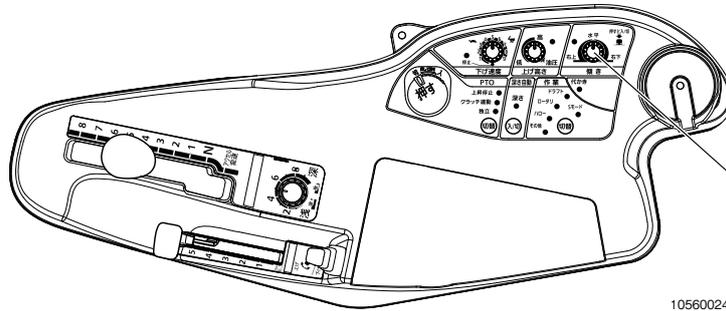
作業の負荷によりエンジン回転が下がると、最大で2速（主変速位置）シフトダウンしてエンジン回転を維持します。負荷が軽くなると主変速レバー位置の変速段に自動で戻ります。

### 取扱いのポイント

- 作業切替スイッチを長押しすると、《Sモード》機能の入・切が切り替わります。

## 7. 傾き自動の取扱い

[サイドパネル]

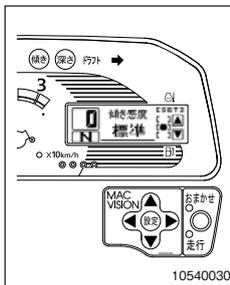


① 傾き設定ボリューム (スイッチ付)

10560024B

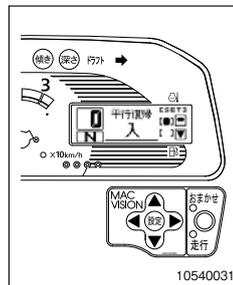
[MACビジョン]

② 傾き感度調整機能



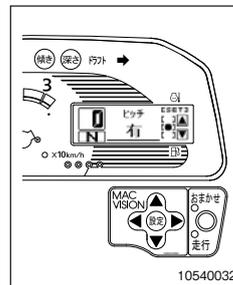
10540030

③ 平行復帰機能



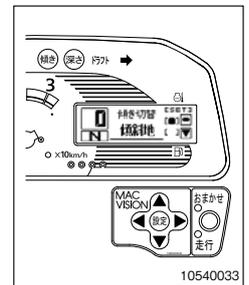
10540031

④ スーパーヒッチ切替機能



10540032

⑤ 傾き切替機能



10540033

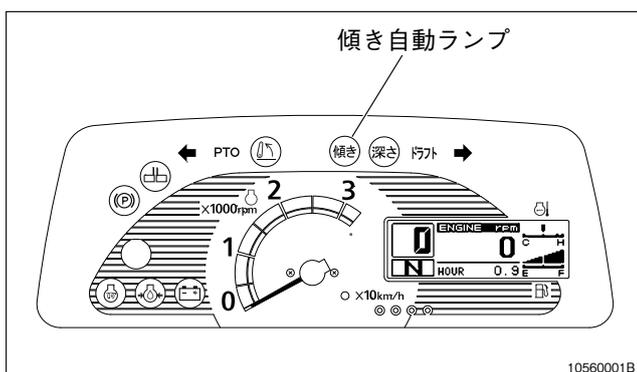
### ⚠ 警告 傷害事故防止のために

◆ほ場以外では、おまかせ機能を《走行》にしてください。守らないと作業機が自動的に作動し傷害事故になることがあります。

### ① 傾き設定ボリューム (スイッチ付)

このボリュームはスイッチの機能もあり、(1)自動切替機能、(2)傾き設定機能があります。

(1) 自動切替機能：ボリュームの中央を押すたびに《入》↔《切》を繰り返します。自動《入》のときはスイッチ横の傾きランプとパネルの傾き自動ランプが点灯します。



10560001B

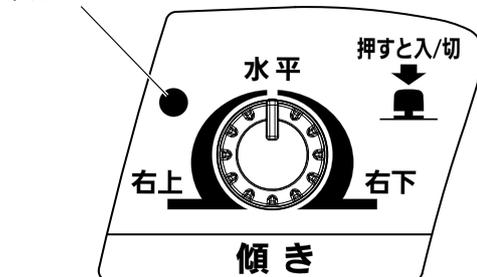
### (2) 傾き設定機能

#### ・傾き自動《入》の場合

傾き設定ボリュームによって作業機の傾きを調整します。

- ・《水平》……作業機は常に水平となるよう自動的にコントロールされます
- ・《右上》……常に右上がりです保たれます。
- ・《右下》……常に右下がりです保たれます。

傾きランプ



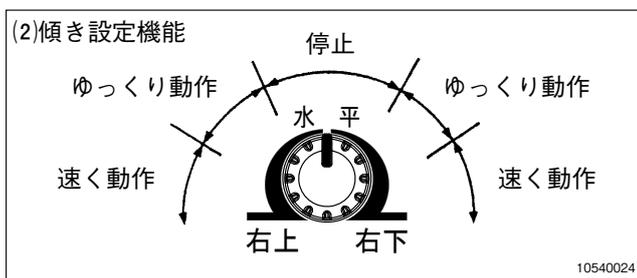
10560031B

・傾き自動《切》の場合

リフトロッドシリンダの長さを変えたいときは、傾き設定ボリュームの操作でシリンダを動作させてください。

- ・《水平》……リフトロッドシリンダは停止します。
- ・《右上》……リフトロッドシリンダは縮みます。
- ・《右下》……リフトロッドシリンダは伸びます。

動作させたい位置までシリンダが動いたら傾き設定ボリュームを《水平》にして停止させます。

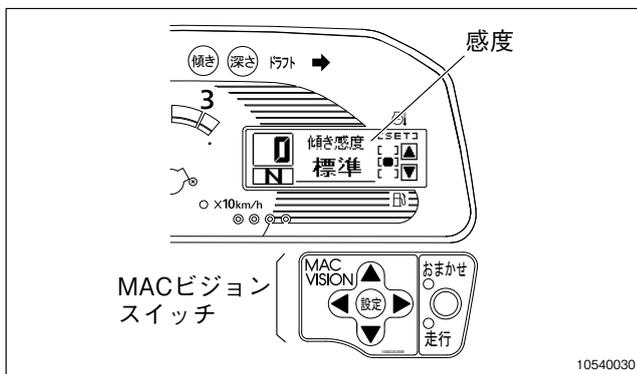


② 傾き感度調整機能

MACビジョンスイッチで傾き自動（リフトロッドの動作）の感度を作業に応じて調整することができます。

- ・《鈍い》…低速での作業に適しています。
- ・《標準》…通常の作業に適しています。
- ・《鋭い》…代かき作業などに適しています。

仕上がりを確認しながら、ほ場条件によりそのつど切替えます。



取扱いのポイント

- 傾き感度調整機能は **MACビジョンの取扱い** を参照します。
- 傾き自動を《切》にしているときは、傾き感度は表示されません。

③ 平行復帰機能

作業機を「最上げ」にすると自動的に本機と平行になる機能があります。（平行復帰機能）

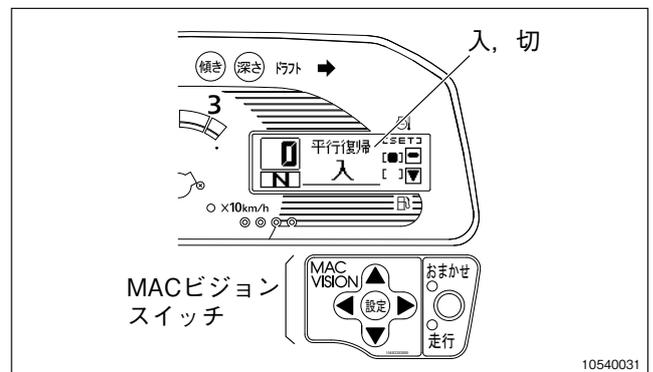
(1) 傾き自動が《入》(傾き自動ランプ点灯) のときは、作業機を「最上げ」にすると、自動的に本機と平行になります。

(2) 傾き自動が《切》(傾き自動ランプ消灯) のときは、平行復帰機能の《入》, 《切》操作により平行復帰機能を切替えることができます。

・平行復帰機能が《入》のときは、作業機を「最上げ」にすると、自動的に本機と平行になります。そして作業機を下げるともとの傾いた状態にもどります。

・平行復帰機能が《切》のときは、作業機を「最上げ」にしても、平行復帰せずにそのまま上昇します。

※平行復帰機能の《入》, 《切》はMACビジョンスイッチで行います。



取扱いのポイント

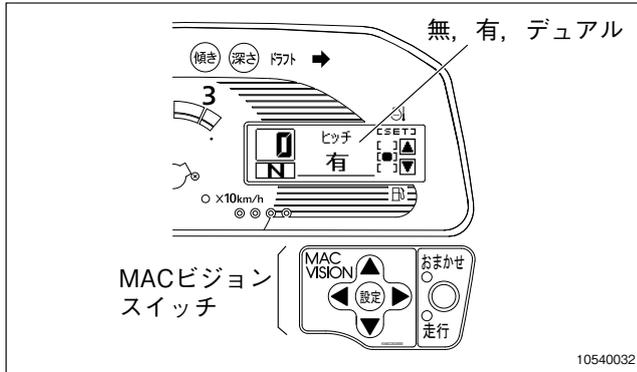
- 平行復帰機能の《入》, 《切》は、**MACビジョンの取扱い** を参照します。
- 上げ高さボリュームが低い位置に設定させると作業機を上げたときに平行復帰機能が働きません。
- 傾き自動を《入》にしているときは、平行復帰は表示されません。

作業のしかた

## 作業のしかた

### ④ スーパーヒッチ切替機能

MACビジョンスイッチでスーパーヒッチの装着《無》, 《有》, 《デュアル》に応じて切替えます。

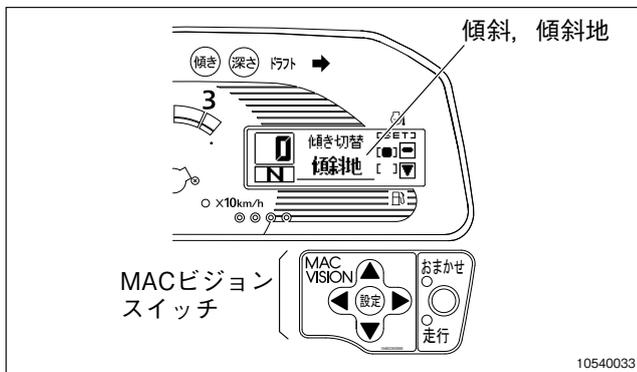


#### 取扱いのポイント

● スーパーヒッチ切替機能は **MACビジョンの取扱い** を参照します。

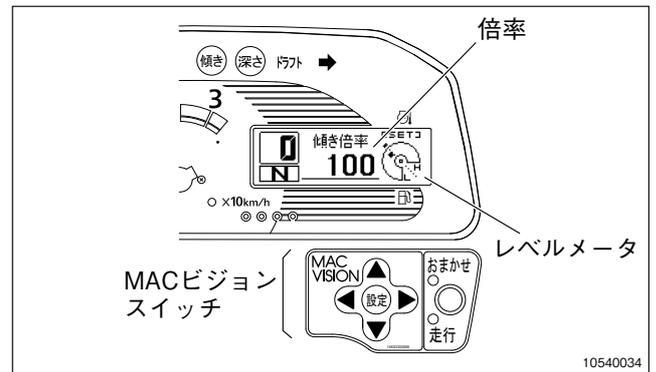
### ⑤ 傾き切替（傾斜地モード）機能

MACビジョンスイッチで平地での「傾き自動」作業《傾斜》, 傾斜地での「傾き自動」作業《傾斜地》を切替えます。



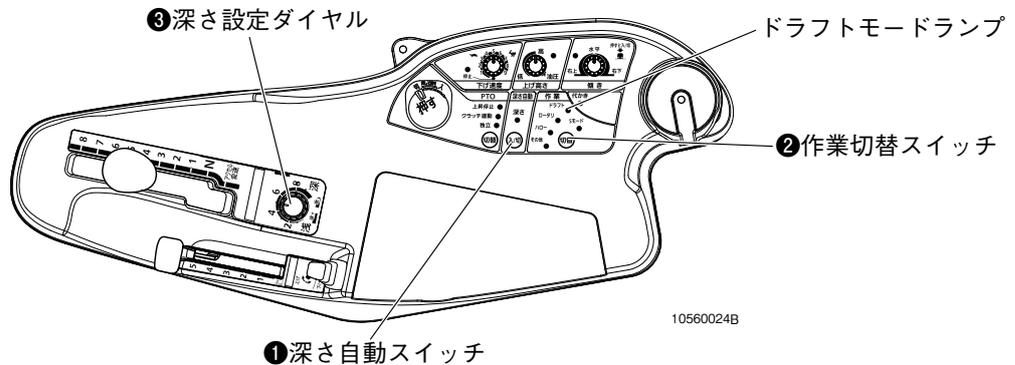
#### 取扱いのポイント

- 傾き切替機能は **MACビジョンの取扱い** を参照します。
- 傾き自動を《切》にしているときは、傾き切替は表示されません。
- 傾き自動《傾斜地》のとき、(▶) スイッチを押すと、《傾き倍率》調整モードになります。傾斜地作業のとき、傾き制御の度合いを調整できます。  
(度合い10%~200%)
  - ・《10%》 数値が少ない程、傾き制御の度合いが少なくなります。
  - ・《100%》 通常の傾き制御を行います。
  - ・《200%》 数値が大きい程、傾き制御の度合いが大きくなります。



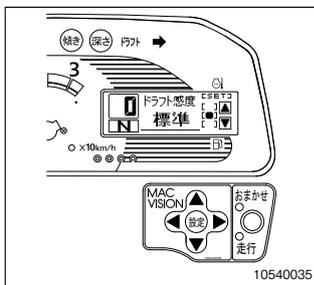
## 8. ドラフト自動の取扱い [ドラフトキット (オプション) 装着時の機能]

[サイドパネル]

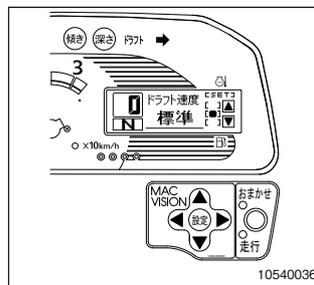


[MACビジョン]

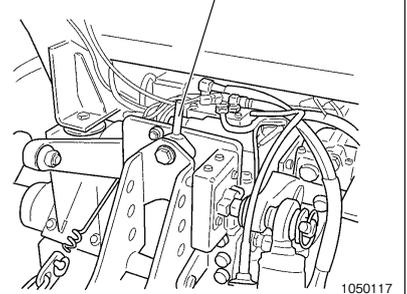
④ ドラフト感度調整機能



⑤ ドラフト速度調整機能



⑥ センサロックレバー



作業のしかた

**警告** 傷害事故防止のために

◆ほ場以外では、おまかせ機能を《走行》にしてください。守らないと作業機が自動的に作動し傷害事故になることがあります。

### ① 深さ自動スイッチ (入切)

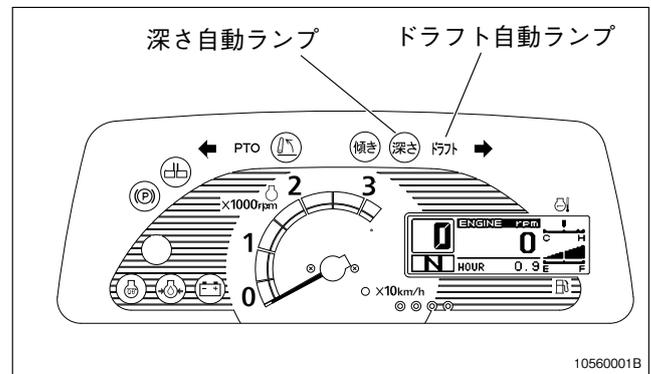
深さ自動を「入」・「切」するスイッチです。

深さ自動を使用しないときはこのスイッチを押して《切》ります。

スイッチ横とパネルの (深さ) ランプが消灯します。

### ② 作業切替スイッチ (切替)

このスイッチを「ドラフト」に切替えるとドラフト自動が作動し、ドラフト自動ランプが点灯します。(このとき、深さ自動スイッチ横のランプが青色点灯となります。)



### ③ 深さ設定ダイヤル

プラウ作業などの耕深調整は深さ設定ダイヤルを押し、MACビジョンに表示されたことを確認してから、深さを設定します。

- ・《浅》へ回す……小さいけん引力で作動し耕深は浅くなります。
- ・《深》へ回す……大きいけん引力で作動し耕深は深くなります。

## ④ ドラフト感度調整機能

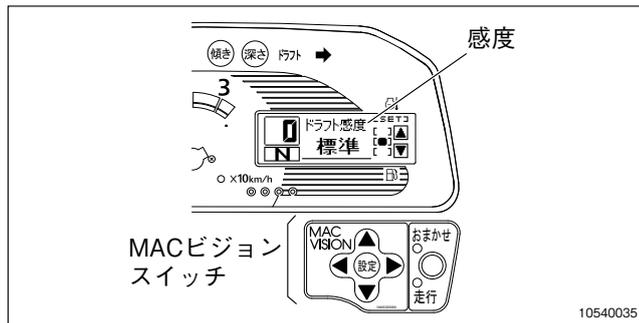
MACビジョンスイッチで深さ自動（リフトアームの動作）の感度を作業に応じて調整することができます。

《鈍い》……かたい土に適します。

《標準》……通常の土に適します。

《鋭い》……やわらかい土に適します。

仕上がりを確認しながら、ほ場条件によって切替えます。



### 取扱いのポイント

- ドラフト感度の調整は **MACビジョンの取扱い** を参照します。
- 深さ自動を《切》にしているときはドラフト感度は表示されません。

## ⑤ ドラフト速度調整機能

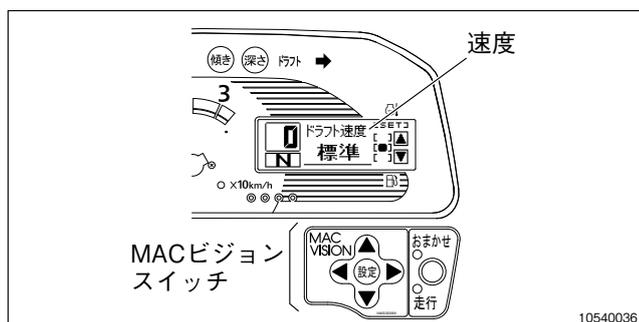
MACビジョンスイッチでドラフト自動（リフトアーム動作）の速度を作業に応じて調整することができます。

《遅い》……ゆっくり動作します。

《標準》……標準的な速度で動作します。

《速い》……速く動作します。

仕上がりを確認しながら、ほ場条件によって切替えます。

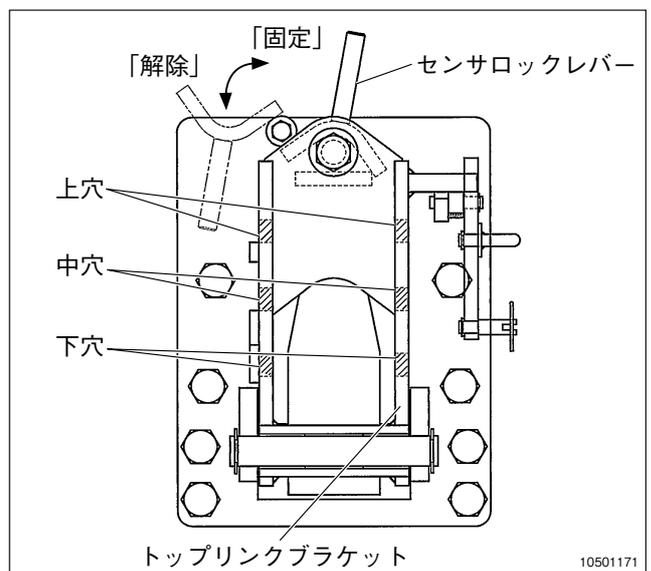


### 取扱いのポイント

- ドラフト感度の調整は **MACビジョンの取扱い** を参照します。
- 深さ自動を《切》にしているときはドラフト速度は表示されません。

## ⑥ センサロックレバー

トップリンクブラケットのセンサロックレバーを「解除」します。



### 取扱いのポイント

- トップリンクのトップリンクブラケットへの取り付けは「中穴」へ取り付けます。但しプラウの種類・ほ場条件などによってドラフト設定ボリュームで目標の深さに調節できないときは「下穴」に取り付けます。

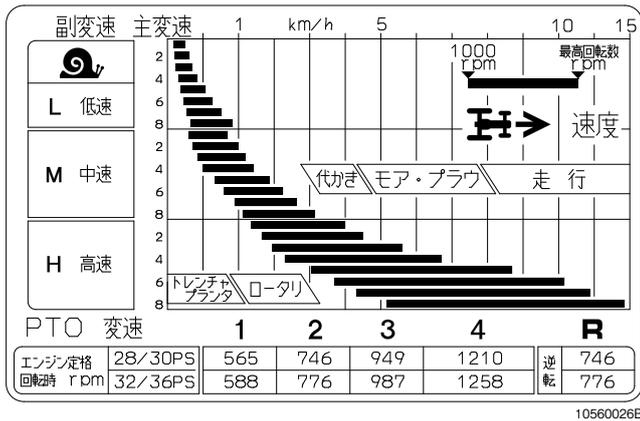
## 9. 作業に適した速度の選びかた

トラクタの走行速度およびPTO回転速度は作業内容、ほ場の条件によって異なります。

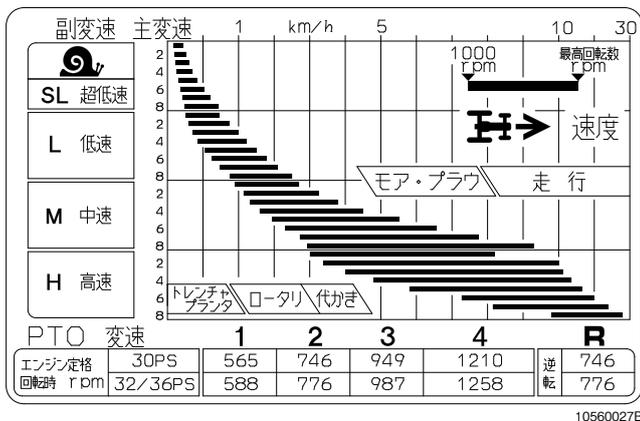
安全で最適な速度で運転します。

### ① 作業速度とPTO変速の選択

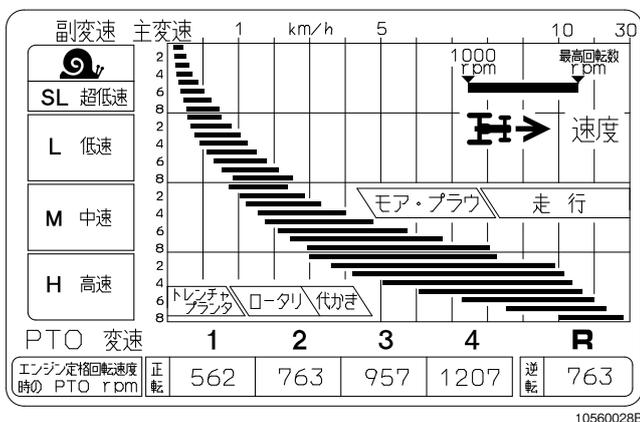
[28・30・32・36型]



[30H・32H・36H型]



[41・46・50型]



### ② PTO変速レバー

PTO軸の回転速度を正転4段、逆転1段に変速できます。



### 取扱いのポイント

- PTO変速レバー、の操作は作業機（ロータリなど）を上げた後、PTOスイッチを《切》にして、PTO回転が停止してから行ってください。
- 逆転は純正ロータリで使用できます。ロータリの取扱説明書をお読みください。使用できる作業は、土寄せ作業、草やワラの巻き付きをゆるめるときのみにしてください。
- 逆転でロータリを使用するときは、車速はできるだけゆっくりとし、エンジン回転を低くしてお使いください。
- 一般作業機のPTO回転速度は、作業機の取扱説明書に従ってください。





## 10. 4輪駆動とデフロックの使いかた

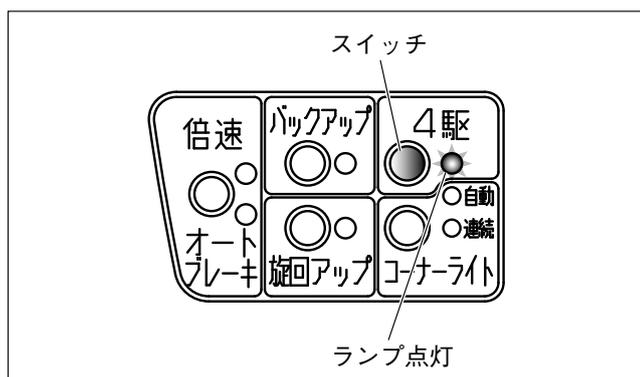
### ① 4輪駆動

4輪駆動にすると、次のような場合に威力を発揮します。

- ・ 傾斜地、湿田、トレーラ、フロントローダ、プラウ作業時でけん引力を必要とする場合。
- ・ 砂地で作業をする場合。
- ・ 固いほ場で、ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。
- ・ 固いほ場への出入りやあぜ越えおよび自動車への積降ろしを行う場合。

#### (1) 4駆切替スイッチ

4輪切替スイッチを押すと前輪駆動が入ります。



#### 取扱いのポイント

- トラクタ単体で、平坦な道路走行時は、タイヤ摩耗防止のため、4駆切替スイッチを《切》の位置にしてご使用ください。
- 4駆切替スイッチを操作するときは前輪タイヤを直進状態にしてください。

### ② デフロック

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆自動車への積込み・積降ろしおよび道路走行するときは、デフロックを使用しないでください。またデフロックが解除されていることを確認してください。デフロックを使用すると、ハンドルを切っても直進しかできなくなり思うように旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとすると、思わぬ事故になることがあります。

片側の車輪がスリップし前後進しない場合はデフロックペダルを踏込みます。デフロックペダルを踏込むと、差動装置がロックされ、左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。

次のような場合に効果が得られます。

- ・ 軟らかいほ場
- ・ プラウ作業



ペダルから足を離すとデフロックが自動的に解除されます。

湿田地やぬかるみからの脱出など、片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用すると効果があります。

上手に使用すると効果がありますが、使い方を誤ると事故や故障の原因となります。

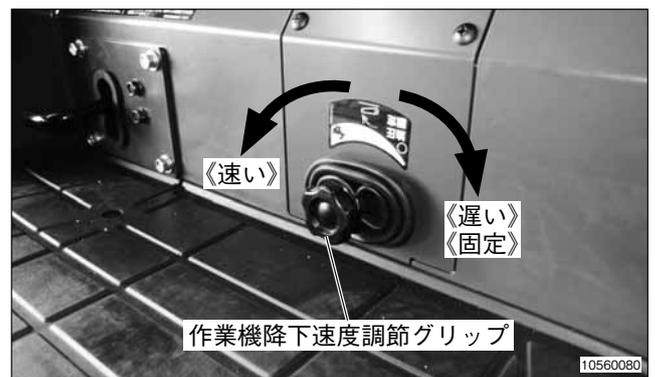
**取扱いのポイント**

- デフロックを《入》にするときは、エンジン回転を下げてから行なってください。
- 両輪の回転差が大きい場合は、一度クラッチペダルを踏込んでから行なってください。
- 解除しにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを左右交互に軽く踏込んでください。
- 超低速でのデフロックは使用しないでください。

**11. 作業機降下速度の調節**

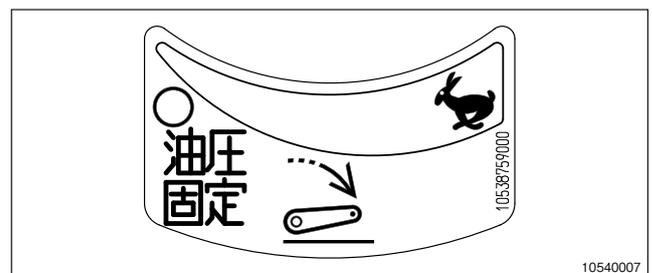
**警告** 傷害事故防止のために

- ◆作業機を上げて、整備・点検・掃除を行うときは、エンジンを停止し作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。ポジションコントロールレバーを《下げ》の方向にゆっくり動かして、作業機が落下しないか確認してください。さらに作業機の下に「固定脚」を入れてください。
- ◆移動時は作業機を上げて作業機降下速度調節グリップを《固定》にしてください。



・作業機降下速度調節グリップを回すことにより作業機の降下速度を調節できます。

降下速度調節グリップ	降下速度
右に回す《遅い》	遅くなる
左に回す《速い》	速くなる
右に軽く締込む《固定》	固定される



通常の作業機降下速度の調節はサイドパネルの下げ速度ボリューム（38ページ参照）で行ないますので、作業機降下速度調節グリップは左にいっぱい回しておきます。

## 2. 作業に必要な装置の使いかた

### 1. トレッドの調節のしかた

**⚠警告** 傷害事故防止のために

- ◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は、  
輪距を広くして使用してください。  
怠ると転倒による傷害事故を起こすことが  
あります。
- ◆公道は指定輪距（シート下のカバーに道  
路走行上の注意として指定輪距を貼付して  
います）で走行してください。

[28型]

#### ⚠注意

本車両は、後輪距を下表の通り調整（調整要領は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1050
----------	----	------

[30・30S・32・36K・36S型]

#### ⚠注意

本車両は、後輪距を下表の通り調整（調整要領は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1095
----------	----	------

[36型]

#### ⚠注意

本車両は、後輪距を下表の通り調整（調整要領は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1110
----------	----	------

[41S・50N型]

#### ⚠注意

本車両は、後輪距を下表の通り調整（調整要領は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1150
----------	----	------

10372766001

[41・46・50型]

#### ⚠注意

本車両は、後輪距を下表の通り調整（調整要領は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	後輪	1220
----------	----	------

10412745000

[41A・46A・50A型]

#### ⚠注意

本車両は、輪距を下表の通り調整（調整要領は、取扱説明書参照）した時以外は、道路運送車両の保安基準に適合しませんので道路走行はできません。

輪距 mm	前輪	1210
	後輪	1220

10578754000



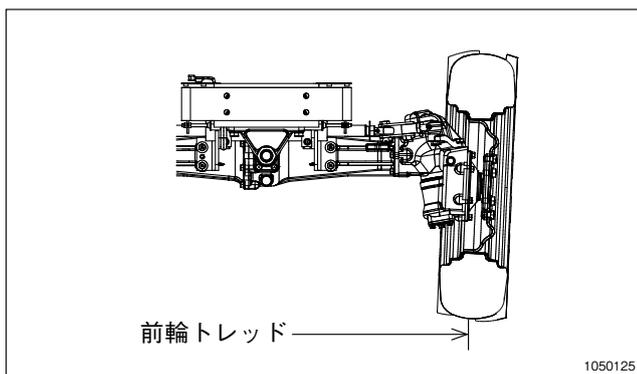
10560015

後輪トレッドは左右タイヤの入替え, またはリムとディスクの組替えにより行います。ただし, 前輪のトレッド調節はできません。公道を走行するときは, 指定輪距 (※印) にします。

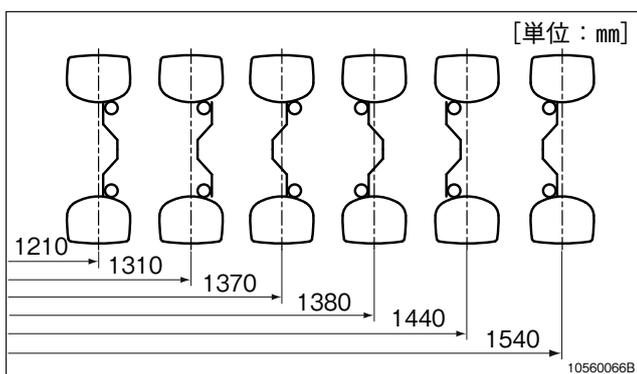
区 分	タイヤサイズ		駆動方式	調節段数		前輪トレッド(mm)		後輪トレッド(mm)		備 考
	前輪	後輪		前輪	後輪	※最小 (指定輪距)	最大	※最小 (指定輪距)	最大	
28型	7-16	11.2-24	4 駆	1	2	1,070	-	1,050	1,130	
30型・30H型	7-16	12.4-24	4 駆	1	4	1,115	-	1,095	1,395	
32型・32H型	8-16	12.4-26	4 駆	1	5	1,115	-	1,095	1,395	
36型・36H型	8-16	13.6-24	4 駆	1	5	1,115	-	1,110	1,410	
36K型	8-16	12.4-26	4 駆	1	5	1,115	-	1,095	1,395	
30S型・36S型	7-16	11.2-26	4 駆	1	4	1,115	-	1,095	1,385	
41型	8-18	13.6-26	4 駆	1	4	1,220	-	1,220	1,510	
41A型	8.3-20	13.6-28	4 駆	6	4	1,210	1,540	1,220	1,510	並ラグ
41S型	8-18	12.4-28	4 駆	1	5	1,220	-	1,150	1,500	
46型	8.3-20	13.6-28	4 駆	1	4	1,220	-	1,220	1,510	
46A型	8.3-20	13.6-28	4 駆	6	4	1,210	1,540	1,220	1,510	並ラグ
46S型	8-18	12.4-28	4 駆	1	4	1,220	-	1,220	1,510	
50型	8.3-20	13.6-28	4 駆	1	5	1,250	-	1,220	1,510	
50A型	8.3-20	13.6-28	4 駆	6	5	1,210	1,540	1,220	1,510	並ラグ
50S型	8-18	12.4-28	4 駆	1	5	1,250	-	1,220	1,510	
50N型	8-18	12.4-28	4 駆	1	6	1,150	-	1,150	1,510	並ラグ

作業のしかた

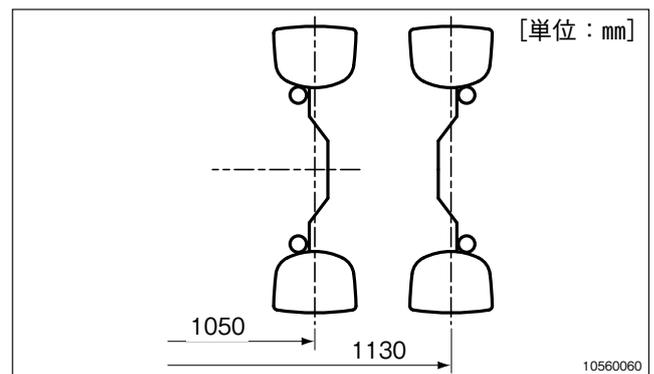
・前輪 [28・30・30H・30S・32・32H・36・36H・36K・36S・41・41A・41S・46・46S・50・50S・50N型]



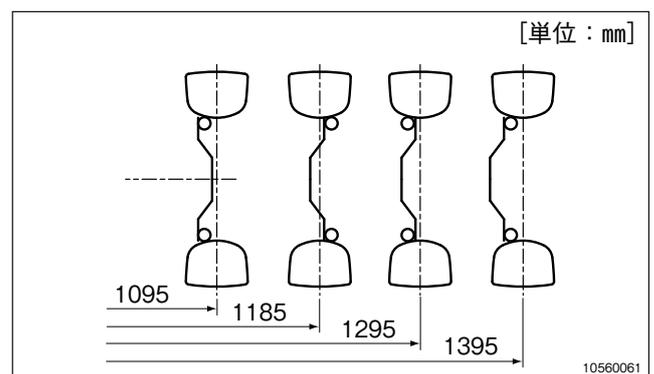
・前輪 [41A・46A・50A型]



・後輪 [28型]

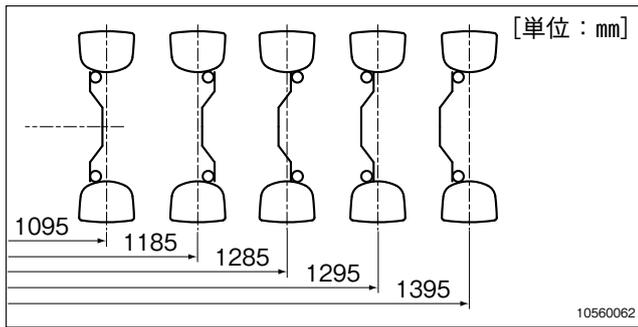


・後輪 [30・30H型]

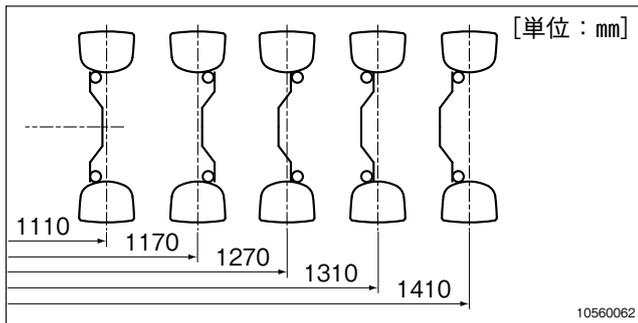


# 作業のしかた

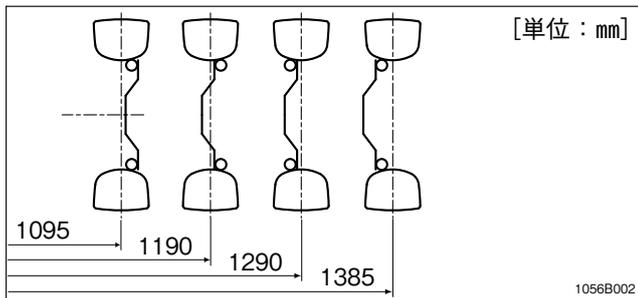
## ・後輪 [32・32H・36K型]



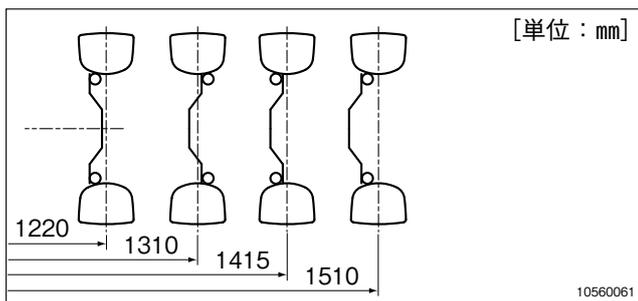
## ・後輪 [36・36H型]



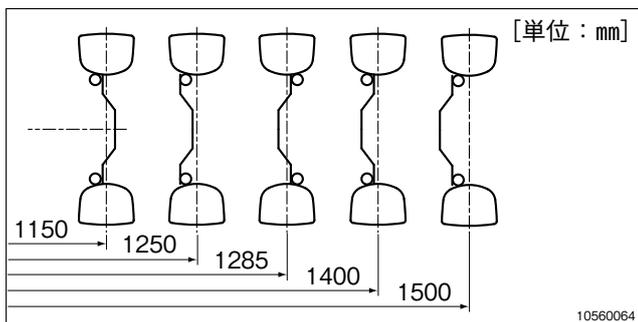
## ・後輪 [30S・36S型]



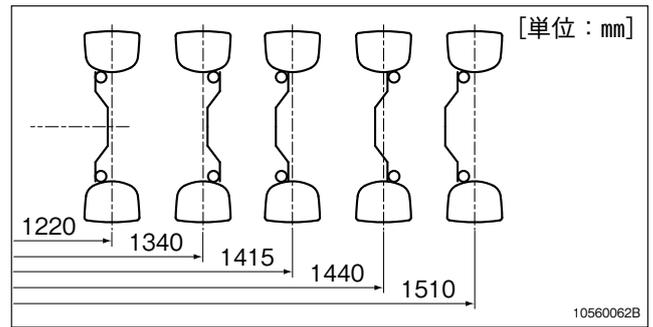
## ・後輪 [41・41A・46・46A・46S型]



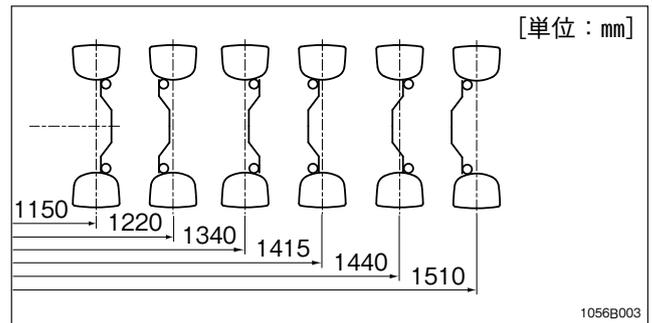
## ・後輪 [41S型]



## ・後輪 [50・50S・50A型]



## ・後輪 [50N型]



## ● タイヤホイール締付トルク

[ボルト]

前 輪……220～250 N・m (22～25kgf・m)

後 輪……220～250 N・m (22～25kgf・m)

[ナット]

後 輪……152～172 N・m (15.5～17.5kgf・m)

## ● リムとディスクの締付トルク

前後輪……196～215 N・m (20～22kgf・m)

## 取扱いのポイント

- トレッド調節するときはタイヤラグの方向を間違えぬようにしてください。

(後方より見て「ハ」の字になるように)



- トレッド調節後は適正な工具を使用して確実にボルト・ナットを締付けてください。

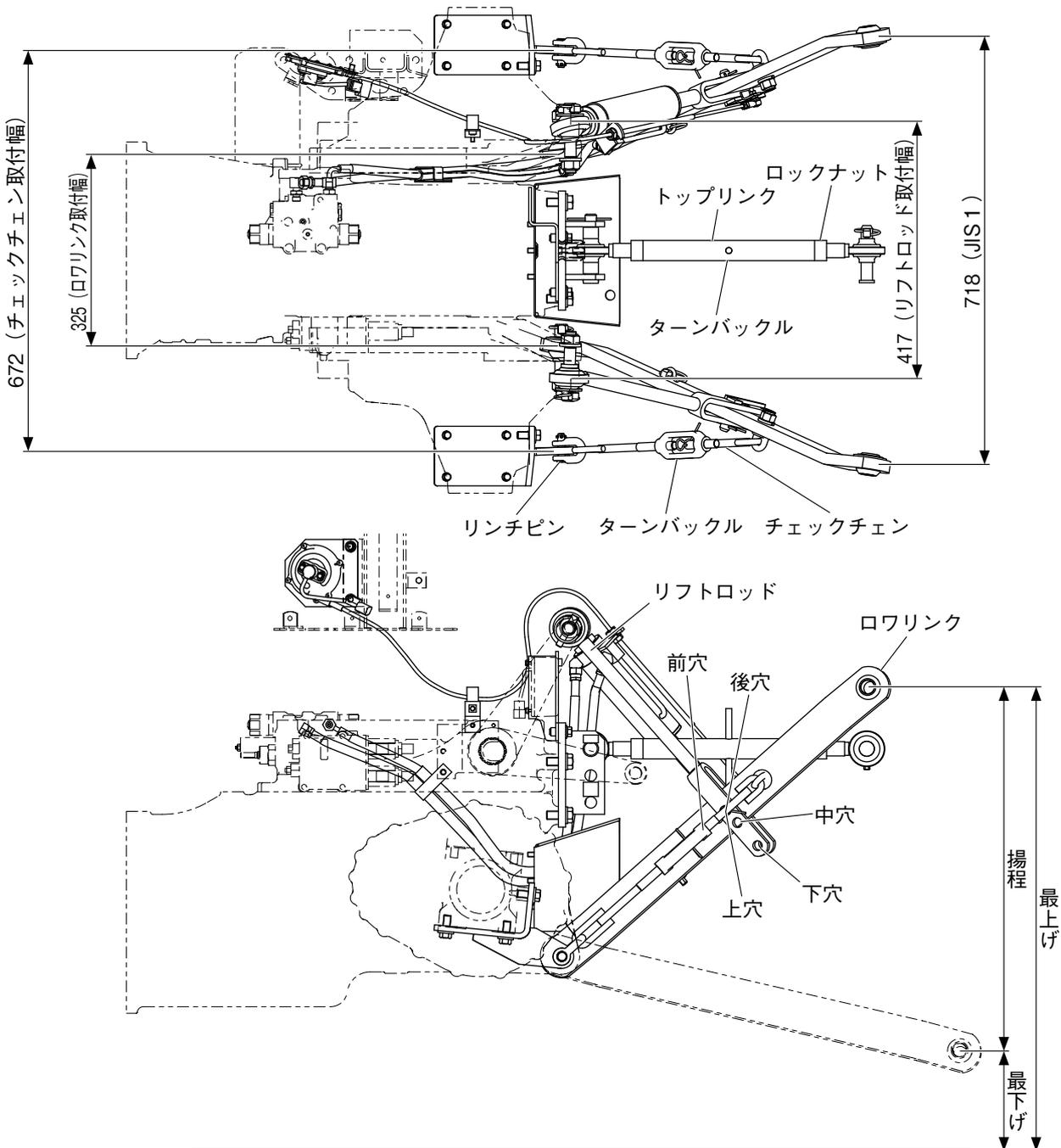
## 2. 3点リンクの取付け寸法の設定のしかた

3点リンクに作業機を取付けるときは作業機に応じて最も適した位置に取付けます。作業機ごとに寸法を指定しておりますので「作業機の取扱説明書」を参照してください。

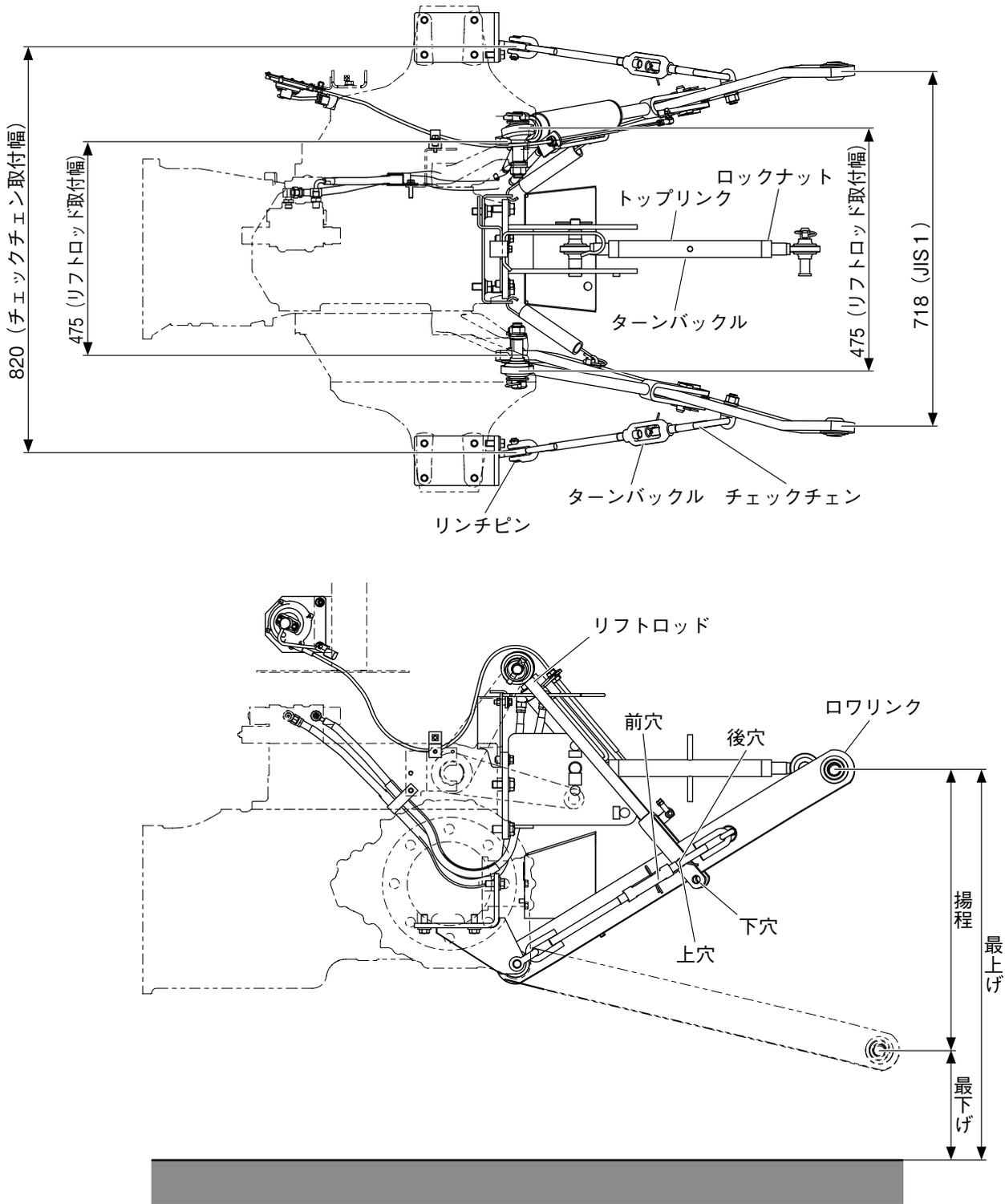
① リフトロッド、トップリンクの長さの調整範囲は次の通りです。

- ・リフトロッド右（標準機）およびトップリンクの調整は、リンチピンを外し、ターンバックルを回して調整します。調整後リンチピンを取付けます。

[28・30・32・36型]



[41・46・50型]



10560032

② ロワリンク後方目玉の地上高 □内は純正ロータリ装着時

(単位mm)

		機種	GA28		GA30		GA32/36		GA41		GA46/50	
		ロワリンク	前穴	後穴	前穴	後穴	前穴	後穴	前穴	後穴	前穴	後穴
リフト ロッド	上穴	最上げ	908	904	882	880	914	912	822	使用不可	846	使用不可
		最下げ	349	435	316	402	348	434	227			
		揚程	559	469	566	478	566	478	595			
	中穴	最上げ	862	865	836	840	867	872				
		最下げ	274	367	241	334	273	367				
		揚程	588	498	595	506	594	505				
	下穴	最上げ	769	785	741	759	773	790	743	768	767	792
		最下げ	131	236	99	204	131	236	103	205	127	229
		揚程	638	549	642	555	642	554	640	563	640	563

③ 3点リンクの取付け

3点リンクの取付けは作業機によって異なりますので、下表および作業機の取扱説明書により取付けを行なってください。

[28・30・32・36型]

ロータリ・駆動型ハロー取付要領		●ロータリを取付ける時は3点リンクを下表に合わせてください					
	装着方式	三菱スーパーヒッチ	三菱特3P	オートヒッチ			
				松山ヒッチ	小橋ヒッチ	ササキヒッチ	
	リフトロッド取付穴	上	上	中	下	中	下
	ロアリンク取付穴	A	A	B	B	B	A
	トップリンク取付穴	-	-	F	E	E	F
	トップリンクブラケット穴	-	-	F	E	E	F
	トップリンク長さ(N)mm	259	271	650	670	670	670
	オートヒッチ取付穴	-	-	K	K	K	K

10568758001

[41・46・50型]

ロータリ・駆動型ハロー取付要領		●ロータリを取付ける時は3点リンクを下表に合わせてください			
	装着方式 (オートヒッチ)	三菱スーパーヒッチ	松山ヒッチ	小橋ヒッチ	ササキヒッチ
	リフトロッド取付穴	上	上	上	上
	ロアリンク取付穴	B	B	B	B
	トップリンクブラケット穴	F	F	E	E
	トップリンク長さ(N)mm	535	550	650	640
	オートヒッチ取付穴	K	K	K	K

10578758001

④ チェックチェン

作業機の横振れをターンバックルで次のように調整します。

- プラウ、ハロー、サブソイラなどの作業機は、作業機取付部が左右に5～6cm動く程度に調整します。調整後、作業機が横振れしてタイヤに当たらないことを確認します。
- ロータリ、モアなどの作業機は、作業機取付部が1cm程度左右に振れる程度に調整します。

取扱いのポイント

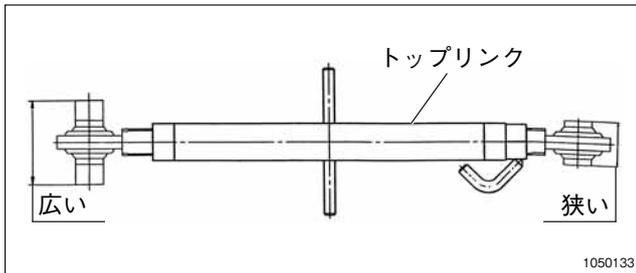
- 作業機の横振れはポジションコントロールレバーで作業機を上げたときと下げたときに異なる場合がありますので作業機を上げ下げして振れを確認し、振れの最小値を上記調整寸法に合わせてください。

作業のしかた

## 作業のしかた

### ⑤ トップリンクの着脱

- (1) トップリンクブラケットにトップリンクの取付部が広い方を取付けます。



- (2) 作業機を取付けないとき

[28・30・32・36型]

- ・トップリンクを外します。また、ロワリンクは振れ止めのためひもなどで連結します。

[41・46・50型]

- ・トップリンクハンガにトップリンクをはめ込み固定します。ロワリンクには振れ止めスプリングが装備されています。



### ⑥ ドローバ [オプション]

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆けん引作業をするときは、純正ドローバを使用し、ドローバ以外で引っ張らないでください。トップリンクブラケットなど車軸より高い位置でけん引すると転倒することがあります。

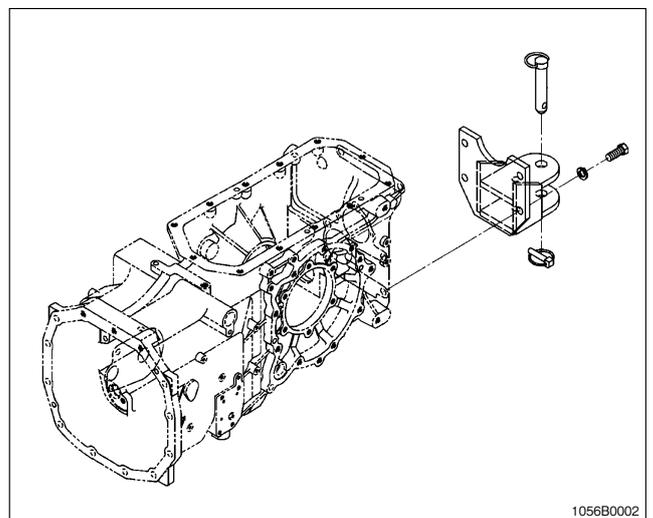
◆ドローバは、横方向へは引かないようにしてください。横方向では、ドローバが外れたり、フレームが曲がるおそれがあります。

◆最大積載総質量がトラクタの1.5倍を越えるトレーラは、けん引しないでください。ブレーキが効きにくくなり事故の原因となります。

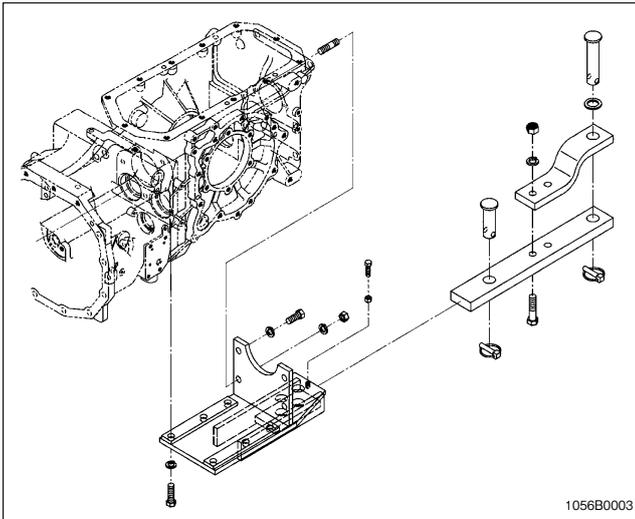
◆けん引作業・傾斜地での作業などの場合は輪距を広くして使用してください。(55ページ参照)

- ・けん引はこのトラクタに合った作業機を使用します。不明な点がありましたらお買いあげ先に相談し、無理なけん引は避けてください。
- ・けん引作業をする場合は、ドローバを使用します。他の所を使用してけん引すると転倒することがあります。

[28・30・32・36型]



[41・46・50型]



**取扱いのポイント**

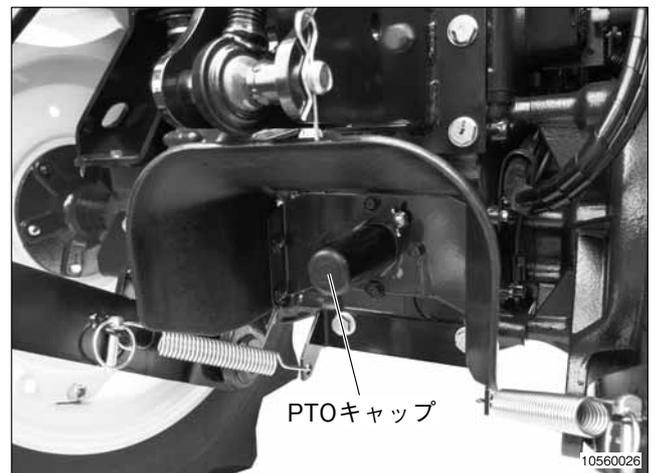
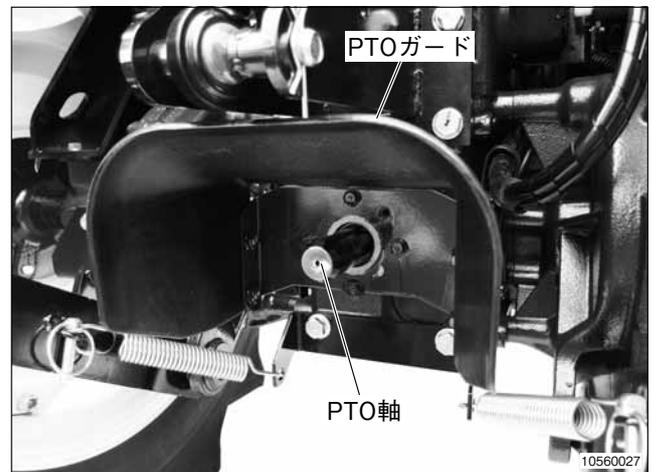
- ロータリなどでジョイントを装着の際はドロワーを外してください。

**7 PTOキャップ**

**⚠警告** 傷害事故防止のために

- ◆PTO軸を使用しないときは、PTOキャップを取付けてください。PTOキャップを取付けずに作業をすると巻きまれによる傷害事故を引起すおそれがあります。
- ◆PTOガードを取外さないでください。

PTOを使わないときは、PTO軸にグリスを塗布し、PTOキャップを取付けておきます。



**8 ロータリの取付け**

ロータリの取付けは「ロータリ取扱説明書」をよく読んでから行います。その他の作業機についても、作業機の取扱説明書をよく読んでから行います。

## 3. 作業機の取扱い

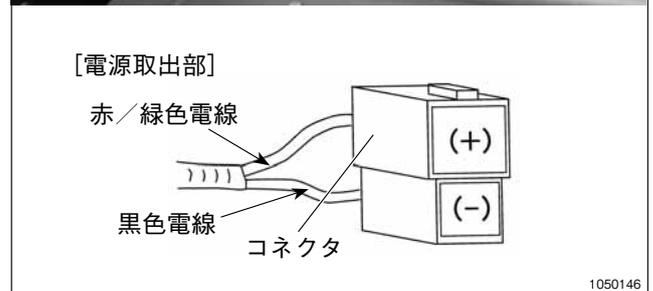
下記の事項を守って作業機の取扱いを行います。

### ⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆作業機の着脱は、平坦な場所で、作業機の取扱説明書に従って行なってください。
- ◆作業機を着脱調整するときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO変速レバーを「《N》(中立)」にして行なってください。
- ◆トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に入らないようにしてください。
- ◆重い作業機を連結または装着した場合は、トラクタにバランスウエイトを付けて、バランスを保ってください。
- ◆低速回転用作業機を高速回転で使用しないでください。作業機指定のPTO回転速度を守ってください。
- ◆けん引作業、傾斜地での作業などの場合は、輪距を広くして使用してください。
- ◆作業機を装着すると、長さが長くなりますので、旋回時は周囲を確認して行なってください。
- ◆公道を走行するときは、作業機を取外し別の自動車で運搬してください。
- ◆作業機を装着して走行すると道路運送車両法の違反になります。
- ◆最大積載総質量がトラクタの1.5倍を越えるトレーラは、けん引しないでください。ブレーキが効きにくくなり、事故の原因となります。
- ◆けん引作業では《アクセル変速》を使用せず、主変速レバーで変速操作してください。

## 4. 作業機用電源の取扱い

- ・燃料ポンプ、作業灯キット、ローダなど作業機の電源として使用します。
- ・電源取出部は運転席右側後方にあります。



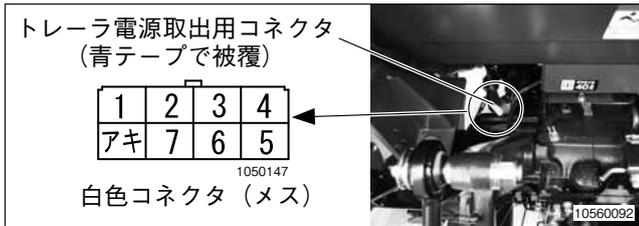
### 取扱いのポイント

- この電源はDC12V、15A（最大）です。それ以上の負荷電流で使用するとヒューズが切れます。
- コネクタの(+)、(-)に針金などを差込まないでください。ショート（短絡）の原因になります。

## 5. トレーラ用電源の取扱い (キャビン仕様)

トレーラの灯火器電源として使用します。

- ・電源取出用コネクタはトラクタ後部の後退灯の奥にあり、配線コードに青テープで被覆してあります。



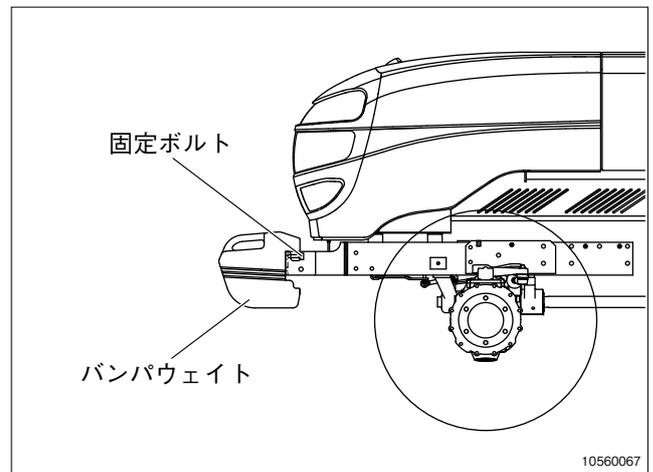
端子番号	接続回路	配線色
1	アース	黒
2	駐車灯	紫・赤
3	方向指示灯 (左)	緑・黒
4	ブレーキ灯	黄・紫
5	方向指示灯 (右)	緑・白
6	尾灯	紫・赤
7	バック灯	若葉・黒

## 6. バンパウェイト (オプション)

**警告** 傷害事故防止のために

- ◆重い作業機を連結または装着した場合は、トラクタのバンパにバンパウェイトを付けて、バランスを保ってください。

- ・バンパウェイトは純正品を使用してください。
- ・バンパウェイトを取付けるときは固定ボルトで固定してください。



作業のしかた

(参考)

[28・30・32・36型]

メーカー名	作業機名	型式	バンパウェイト
松山	ブロードキャスター	MP330E-B	30kg×3ヶ
〃	〃	MP330E-4S	30kg×3ヶ
〃	ライムソー	FT1807E-B	30kg×3ヶ
〃	〃	FT1807E-4S	30kg×2ヶ
〃	畦塗機	DZR302W-B	30kg×1ヶ
〃	〃	DZR302W-4S	30kg×5ヶ
〃	ロータリ	SX1810-4S	30kg×1ヶ
〃	ウイングハロー	WRS2810-B	不要
小橋	畦塗機	RKL752H-MU	30kg×2ヶ
〃	〃	RKL752HT-4S	30kg×1ヶ
〃	ロータリ	KJL180T-4S	30kg×1ヶ
〃	ライナーハロー	PLR261MUD	不要
〃	サイバーハロー	TX352E-MUB	不要
〃	フレールモア	FM157T-4S	不要
スター	ライムソーワ	MLS2283B	30kg×3ヶ
〃	〃	MLS2283-4S	30kg×3ヶ
〃	ブロードキャスタ	MBC300SMB	不要
〃	〃	MBC300SM-4S	30kg×1ヶ
〃	ドリームハロー	NR2820-4S	不要
ササキ	ブロードキャスター	CM300-MB	30kg×2ヶ
〃	〃	CM300-4S	30kg×3ヶ
〃	畦塗機	KV230DX-MB	30kg×3ヶ
〃	〃	KV230DX-4S	30kg×5ヶ
〃	マックスハロー	MAX327-MB	不要
〃	〃	MAX327-4S	30kg×1ヶ

(参考)

[41・46・50型]

メーカー名	作業機名	型式	パンパウエイト
松山	ブロードキャスター	MP220E-4S	不要
〃	〃	MP330E-4S	不要
〃	ライムソー	FT2407E-4S	30kg×1ヶ
〃	畦塗機	LZR352NJ-4S	30kg×2ヶ
〃	ウイングハロー	WRS3810N-4S	30kg×1ヶ
小橋	畦塗機	XR851T-4S	30kg×1ヶ
〃	サイバーハロー	TX352T-4S	不要

## 7. フロントローダの取扱い

### ① フロントローダ

**警告** 傷害事故防止のために

◆フロントローダ使用の場合は、倍速旋回およびオートブレーキ旋回は使用しないでください。バランスが崩れ横転や傷害事故のおそれがあります。

フロントローダの取付けは「フロントローダ組付要領書」をよく読んでから行ってください。

### 取扱いのポイント

- フロントローダを装着するときは購入先にご相談ください。当社の規格外のフロントローダは使用しないでください。
- フロントローダ以外の作業機で作業機側でコントロールバルブを準備している場合はトラクタの油圧取出口を利用してください。油圧取出しを取扱うときは作業機の取扱説明書に従って行います。ただし、フロントローダとの共着はできません。
- フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を250kPa (2.5kgf/cm<sup>2</sup>) にしてください。

### ② 重量バランスの取りかた

**警告** 傷害事故防止のために

◆フロントローダ作業をするときは、後方に他の作業機を装着するなどして、バランスを保ってください。



作業機はいっぱい上げて作業機降下速度調節グリップを《固定》にして作業機が下がらないようにします。



## 8. サバルブの取扱い（オプション）

[オプションのサブバルブを装着する場合]

- ・作業機用キットのサブバルブ（1連用，2連用）を準備しています。
- ・サブバルブを装着するときは購入先にご相談ください。
- ・フロントローダと共着する場合は装着・取扱いについて購入先にご相談ください。

### 取扱いのポイント

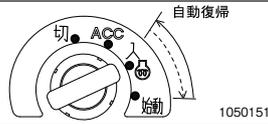
- 油圧取出しを取扱うときはサブバルブの取扱説明書に従って行います。
- プラグを外したとき，油が洩れますので，下に油受けを置いてください。



## 2. MACビジョン表示

### ① エンジン始動時の表示

エンジン始動後に  
液晶画面が自動的に  
切替わります。



1050151



1053P001

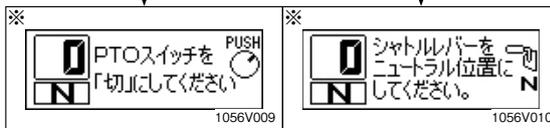
機種表示



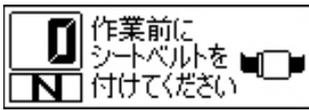
1056V001



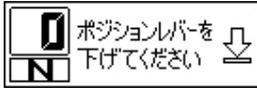
1053P003



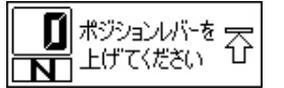
※この画面表示が出た場合エンジン始動はできません。画面指示に従い操作してキーをいったん《切》にし再度始動操作してください。



1053P004



1053P005

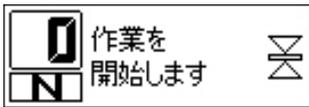


1053P006

ポジションコント  
ロールレバーを操  
作します。



10560019B

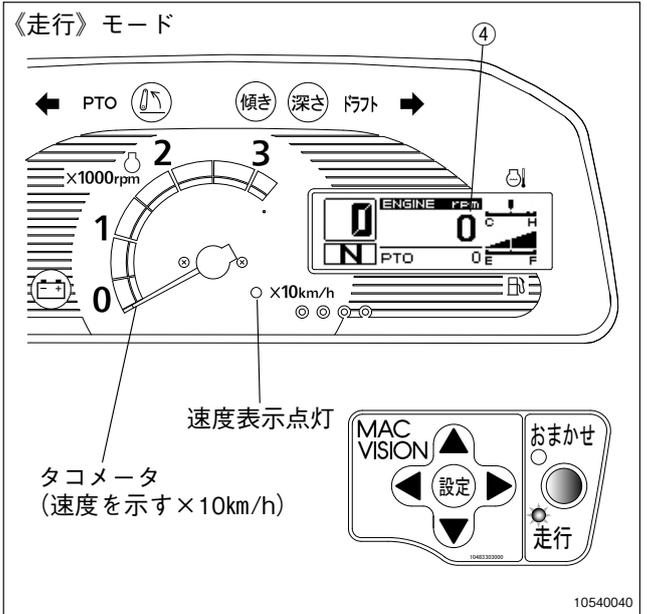
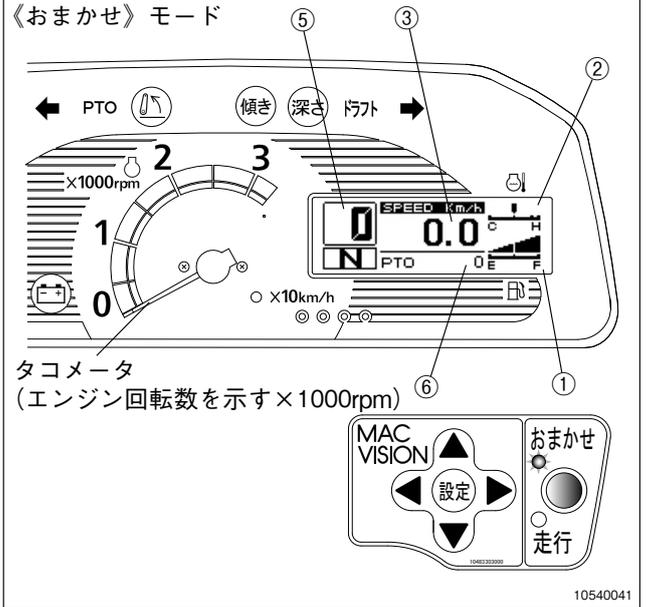


1053P007



1053P008

### ② 運転時の表示



#### ① 燃料計

キーを《入》にすると燃料の残量を示します。

黒いレベルメータが短くなり《E》近くになったら早めに補給してください。

#### ② 水温計

キーを《入》にすると《》の表示でエンジン冷却水温度を示します。

のM  
取A  
扱C  
扱ビ  
扱ジ  
扱ョ  
扱ン

## 取扱いのポイント

●水温計の《■》の表示が《H》を示した場合は、オーバーヒート状態です。作業を中断しエンジンを低回転にし冷えてから停止してください。その後冷却水の量、ラジエータの目詰まり、ファンベルトの張りを点検してください。冷却水量、ラジエータの目詰まり、ファンベルトが正常であれば、ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。

### ③ 速度表示（《おまかせ》）

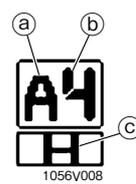
《おまかせ》作業のとき、作業速度を表示します。エンジン回転数はタコメータの針で示します。

### ④ エンジン回転数（《走行》）

おまかせスイッチが《走行》のとき、エンジン回転数を表示します。走行速度は速度表示灯が点灯し、タコメータの針で示します。

### ⑤ 変速段数

変速段数を表示します。



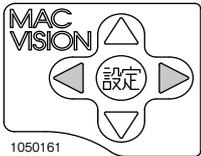
- ①：アクセル変速機能を使用しているときは「A」、Sモード機能を使用しているときは「S」を表示
- ②：主変速段数を表示
- ③：副変速レバー位置を表示

### ⑥ 切替画面

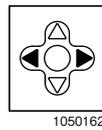
切替スイッチ操作により下記の内容が表示されます。（詳細は③項を参照。）

## ③ 運転時の表示切替

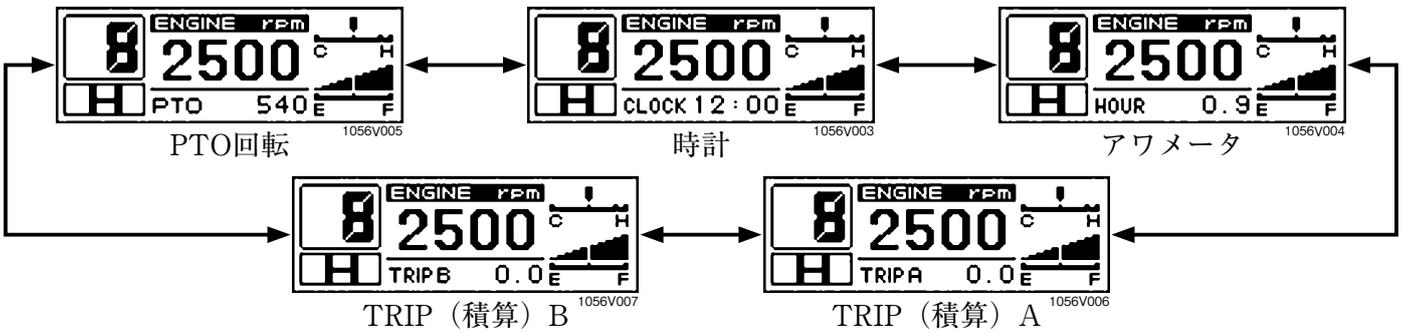
MACビジョン操作部の左右切替スイッチを押すとMACビジョン下部の表示が替わります。



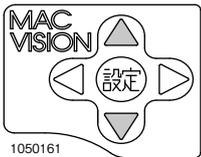
・項目移動は左右スイッチ



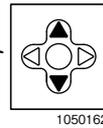
で行います。



MACビジョン操作部の上下切替スイッチのどちらかを押すとMACビジョン中央の表示が替わり、機体の傾き、作業機高さ、ロータリリヤカバーの状態が表示されます。

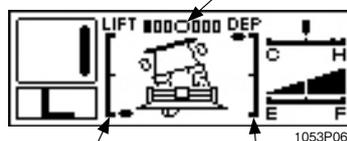


・画面を戻すときは上下切替スイッチ



のどちらかを再度押すと戻ります。

機体の傾き状態

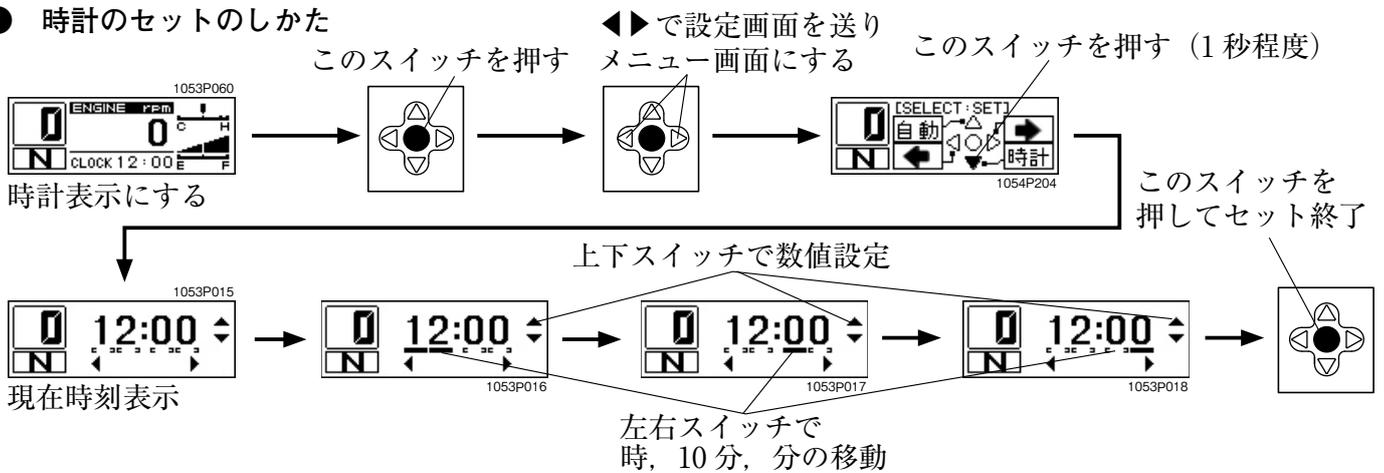


リフトアーム高さ  
（作業機高さ）

リヤカバーの状態

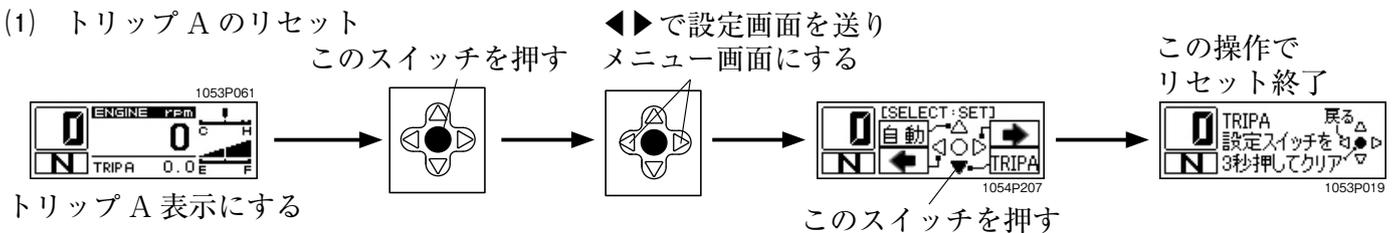
### 3. 各種設定のしかた

#### ① 時計のセットのしかた

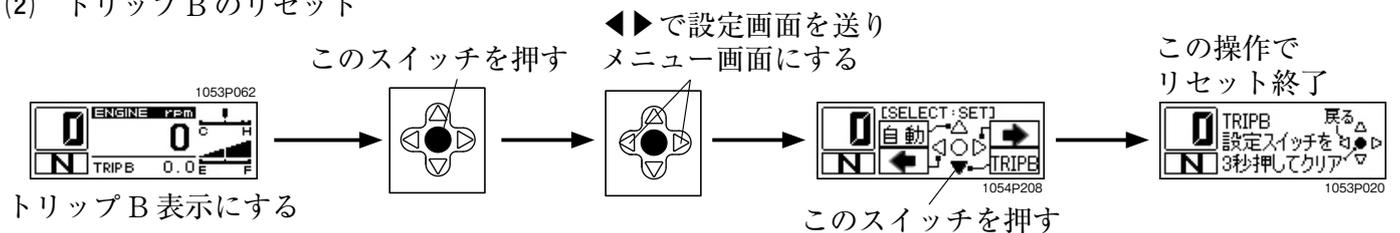


#### ② トリップ (積算) のリセットのしかた

##### (1) トリップ A のリセット



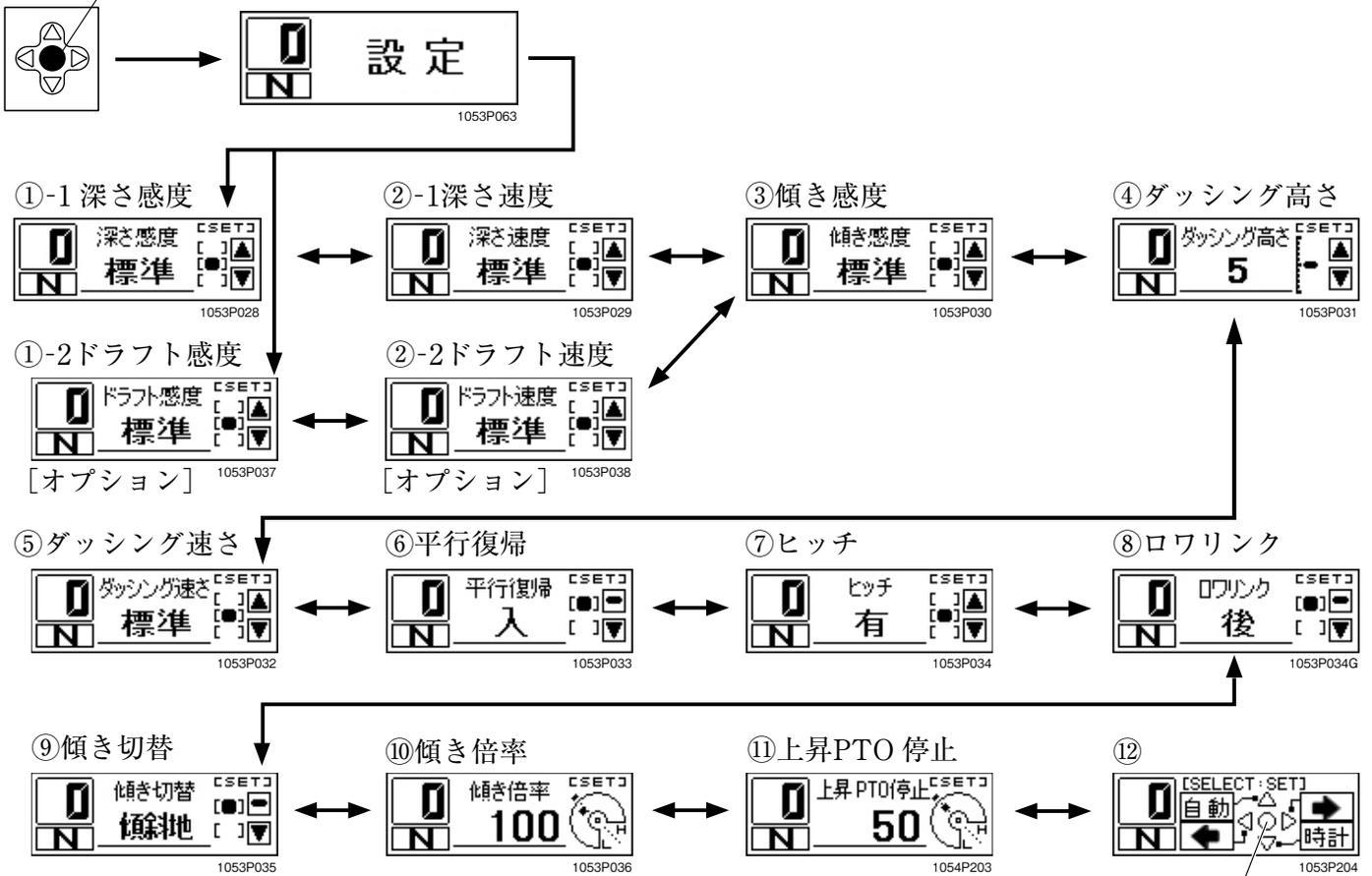
##### (2) トリップ B のリセット



# MACビジョンの取扱い

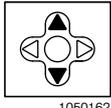
## ③ 感度、ダッシングなどの設定のしかた

このスイッチを押す



このスイッチを押すと最初の画面に戻ります

・項目移動は左右スイッチ  で行います。

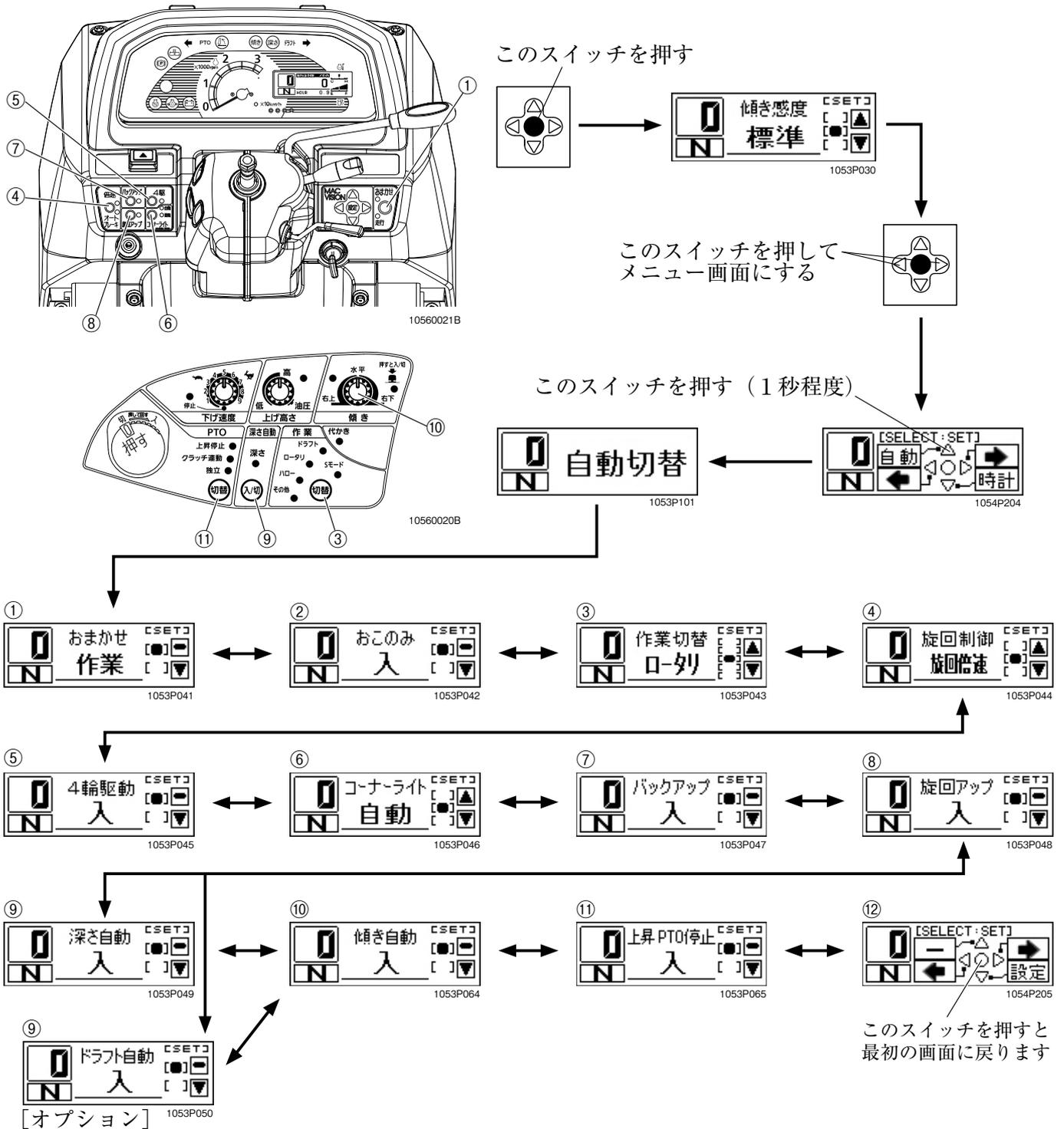
No.	項目	設定	出荷時の設定	スイッチの操作
①-1	深さ感度	鈍い・標準・鋭い	標準	各項目の画面のとき上下スイッチで設定します。  1050162
②-1	深さ速度	遅い・標準・速い	標準	
①-2	ドラフト感度[オプション]	鈍い・標準・鋭い	標準	
②-2	ドラフト速度[オプション]	遅い・標準・速い	標準	
③	傾き感度	鈍い・標準・鋭い	標準	
④	ダッシング高さ	10 (高い)~0 (低い)	5	
⑤	ダッシング速さ	遅い・標準・速い	標準	
⑥	平行復帰	入・切	入	
⑦	ヒッチ	無・有・デュアル	無	
⑧	ロワリンク	前・後	後	
⑨	傾き切替	傾斜・傾斜地	傾斜	
⑩	傾き倍率	200~10	100	
⑪	上昇PTO停止	100~0	100	

### 取扱いのポイント

- 各設定は作業切替別（その他，ハロー，ロータリ，ドラフト（オプション）のそれぞれSモードの有無，計8作業）に各々できます。

④ 自動機能の切替設定のしかた

おまかせの機能設定をMACビジョンで切替できます。



・項目移動は左右スイッチ  で行います。

・各項目の画面のとき上下スイッチ  で設定します。

のM  
取A  
扱C  
扱ビ  
扱ジ  
扱ョ  
扱ン

4. MACビジョンの注意報知機能

 **警告** 傷害事故防止のために

◆MACビジョンが注意を表示した場合は、注意に対する確認を行ってください。

注意表示は、通常のMACビジョン表示を中断して表示されます。MACビジョン表示に復帰するには、注意の原因を取り除くか、MACビジョン動作関係部を操作します。

注意報知内容は下記の14項目です。

	表示内容	条件・内訳	ブザー音	処置 参照ページ
メンテナンス	 エンジンオイル量を点検してください 1053P051	50時間毎に5秒間表示し、その後2回目のキーON時まで表示します。	有	88~89
	 エンジンオイルを交換してください 1053P052	100時間毎（初回点検時は50時間）に5秒間表示し、その後2回目のキーON時まで表示します。	有	88~89
操作指示	 パキングブレーキを解除してください 1053P058	駐車ブレーキをかけたままでシャトルレバーを前進または後進操作したときに表示します。	有	14
	 副変速レバーがニュートラルです 1056V011	駐車ブレーキを解除し、シャトルレバーを前進または後進操作したとき、副変速レバーがN（中立）の場合に表示します。	無	20
	 主変速レバーがニュートラルです 1056V014	駐車ブレーキを解除し、シャトルレバーを前進または後進操作したとき、主変速レバーがN（中立）の場合に表示します。	無	19
	 シャトルレバーをNにした後再操作してください 1056V016	エンジン始動直後（マイコンユニット起動前）にシャトルレバーが前進、もしくは後進位置にあるときに表示します。	有	20
	 ライトは早めに点灯してください 1056V015	夕暮れ時など辺りが薄暗くなると表示します。	無	12, 76
	 下げ速度ボリュームが停止設定です。解除してください。 1056V012	下げ速度ボリュームが《停止》位置のときにポジションコントロールレバーを操作すると表示します。	有	38
	 ポジションレバーを上げて下降停止を解除してください 1056V013			
警告	 転倒に注意してください 1053P057	機体傾斜角が16度以上になると表示します。	無	30, 54
	 バッテリーを点検してください 1053P053	バッテリー電圧低下時に表示します。	有	109~114
	 ブレーキペダルを連結してください 1053P054	変速が高速レンジのとき、ペダル連結金具が連結されていないと表示します。	無	18
	 オーバーヒートに注意してください 1053P055	水温が110℃になると表示します。	有	17
	 燃料を給油してください 1053P056	燃料残量が少なくなり、MACビジョン表示目盛が1になったとき表示します。	有	90
	 燃料満タンです 1056V009	燃料給油時に満タン付近になると表示します。	有	90

# キャビン装備機の取扱い

## 1. 各部の取扱い

### 1. ドア・リヤウインドウの開閉のしかた

#### ① ドア

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆半ドアの状態では運転すると、急にドアが開いて事故になることがあります。走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

#### (1) ドアの施錠・解錠

ドアキーを差込み、反時計回りに回すと施錠・時計回りに回すと解錠となります。

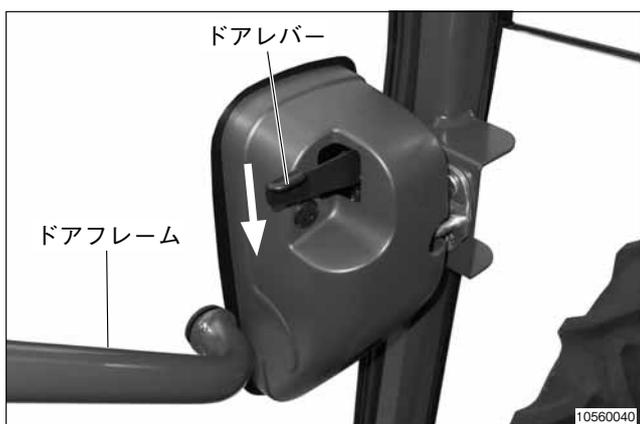
#### (2) 車外からの開けかた

押ボタンを押しながらドアハンドルを引くと、ドアが開きます。



#### (3) 車内からの開けかた

ドアレバーを押すと、ドアが開きます。また、閉じるときはドアフレームを引きます。

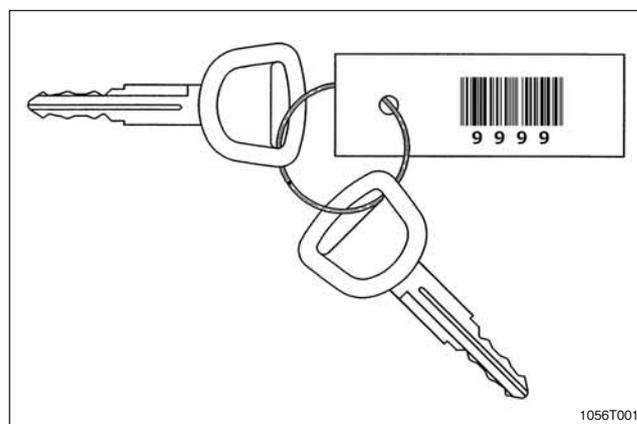


### 取扱いのポイント

- 水田車輪を装着した状態でドアを開けると、ドアと水田車輪が当たることがありますので、下記方法でドアの開き量を小さくしてください。
  - (1) ドア側のガスダンパーを外します。
  - (2) ①部にガスダンパー先端を移動して固定します。締付トルク24.5～29.4N・m {2.5～3.0kgf・m}



- 水田車輪の型式によってはドアの開き量を小さくしても干渉することがあります。
- 水田車輪の装着後、ドアを開け、スキマがあることを確認して使用してください。
- キーリングに付属しているキーナンバー票は、キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙の記入欄に控えておくか、キーナンバー票を大切に保管してください。



のキャビン  
取扱い  
装備機

## キャビン装備機の実取扱い

### ② リヤウインドウ、サイドウインドウ

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆上げ高さボリュームで作業機の上げ高さを規制してください。

規制しないと作業機の種類によって上げたときにトラクタやリヤウインドウを破損し、傷害事故になることがあります。（「ポジションコントロールレバーの実取扱い」参照）

◆サイドウインドウを開くときは周囲の安全を確認してください。

◆急に開くと傷害事故になることがあります。

◆リヤウインドウを開くときは周囲の安全を確認してください。急に開くと傷害事故になることがあります。

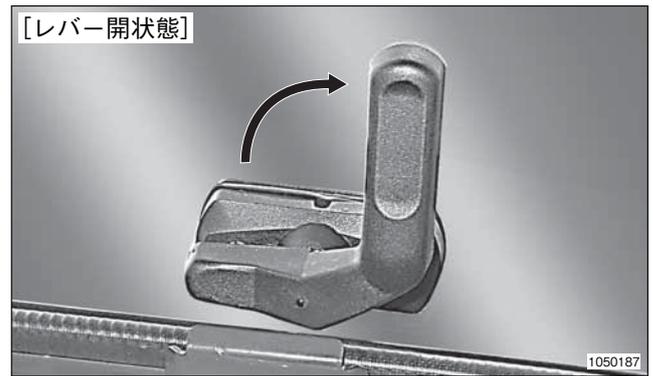
◆リヤウインドウ後方で作業機を着脱・調整する場合は、リヤウインドウの開閉に注意してください。（開放時頭などを打つおそれがあります。）



リヤウインドウは跳ね上げ式です。

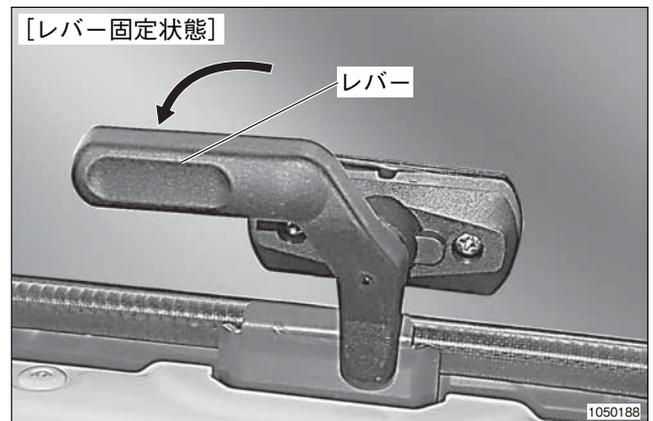
#### (1) 開けかた

- ・レバーを時計回りに回します。
- ・レバーを外側に押出して、リヤウインドウを開けます。



#### (2) 閉じかた

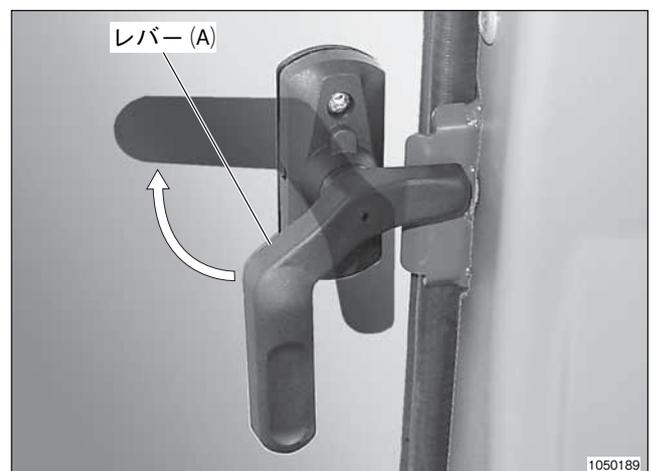
- ・レバーを手前に引き、リヤウインドウを閉じます。
- ・レバーを手前に引きながら左に回し、確実に固定します。



#### ・サイドウインドウ

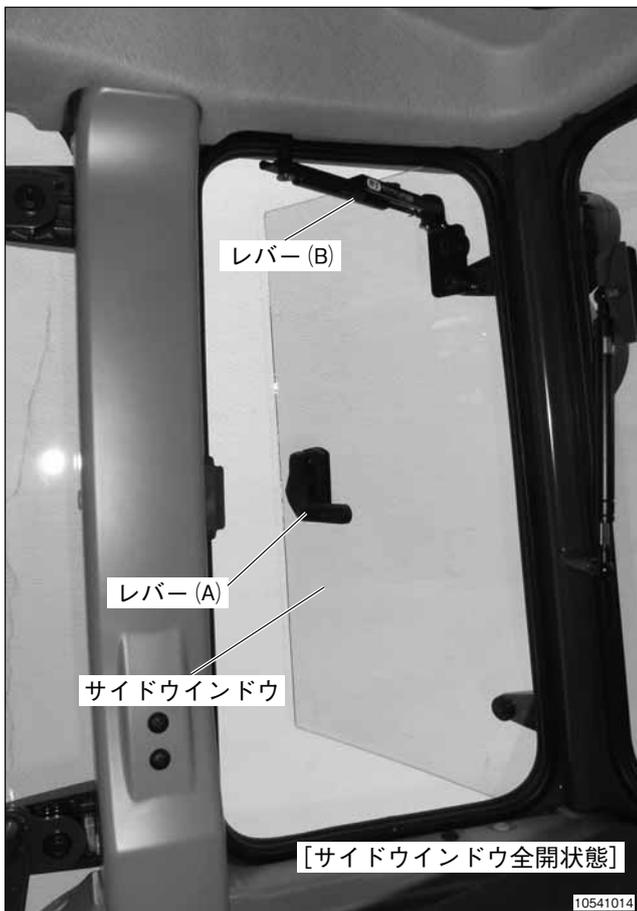
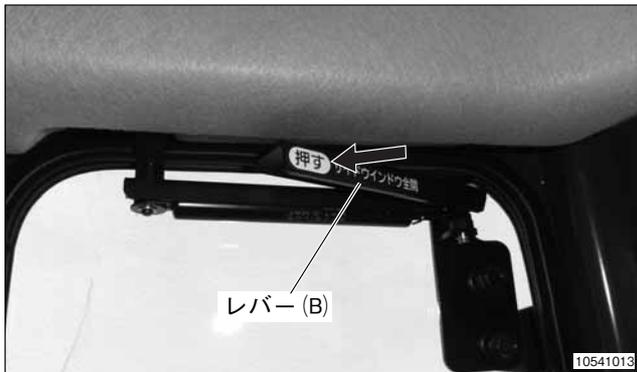
#### (1) 開けかた

- ・レバー(A)を時計回りに回します。
- ・レバー(A)を外側に押出して、サイドウインドウを半開きにします。



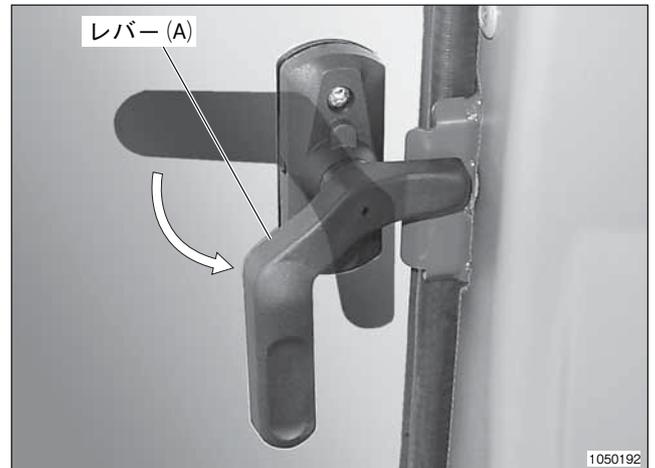
## (2) 全開のしかた

- ・半開状態から、レバー(B)を矢印方向に押します。
- ・サイドウインドウは全開となります。



## (3) 閉めかた

- ・レバー(A)を持って、手前に引きます。
- ・サイドウインドウが閉じたらレバー(A)を反時計回りに回して確実にロックします。



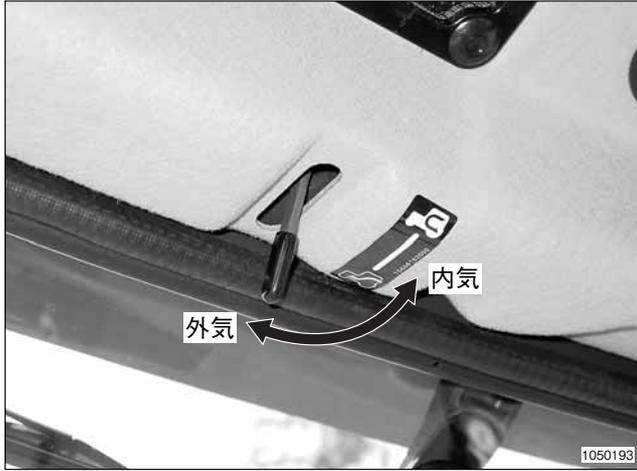
### 取扱いのポイント

- 作業機によっては、リヤウインドウが開けられないことがありますので、事前に確認して行なってください。
- トラクタ後方での作業機の脱着、調整などの作業をするときは、リヤウインドウを閉めるか、開放位置を確認して行なってください。
- 狭い場所でサイドウインドウを開、閉するときは充分確認して行なってください。
- リヤウインドウ、サイドウインドウを開放したままでの道路走行は行わないでください。振動でガラスが破損することがあります。リヤウインドウ、サイドウインドウを閉じ、レバーを確実に固定してください。
- 寒冷時にドアおよびリヤウインドウ、サイドウインドウが凍結している場合は、無理に開けるとゴムがはがれたり、損傷することがあります。ぬるま湯で解凍してから開けるようにしてください。
- ドアにぶらさがったり、作動範囲以上無理に押し開かないでください。

のキャビン  
取扱い  
装備機

## ③ 内気・外気切替レバー

ファンを回したときに室内の空気を循環させるか、外気を導入するかを選択します。



内気循環位置……早く冷暖房を効かせたいときや強く効かせたい場合に使用します。

外気導入位置……ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。

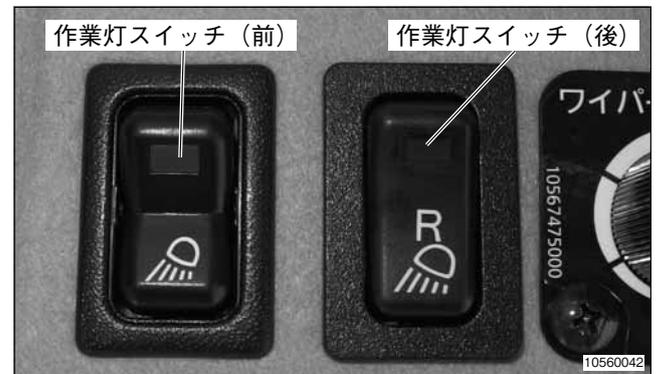
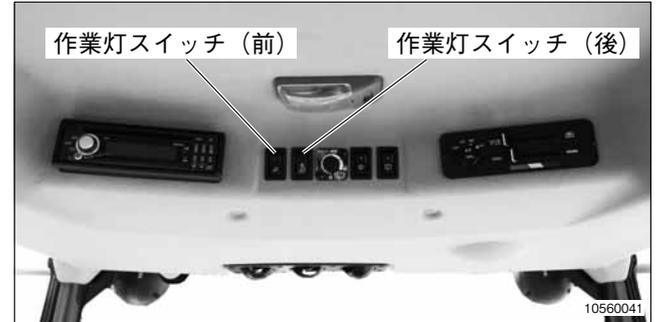
### 取扱いのポイント

- 内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。
- ほこりが多発する作業では、外気導入で使ってください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し、安全キャブ室内にほこりが入りにくくなります。

## 2. スイッチの手扱い

### 1. 灯火スイッチの手扱い

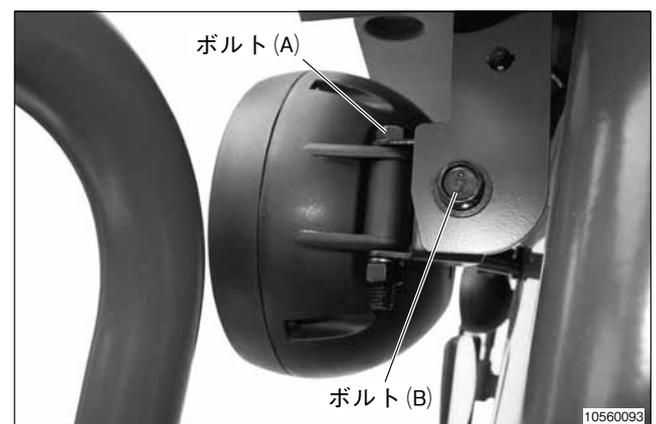
#### ① 作業灯スイッチ (前) (後)



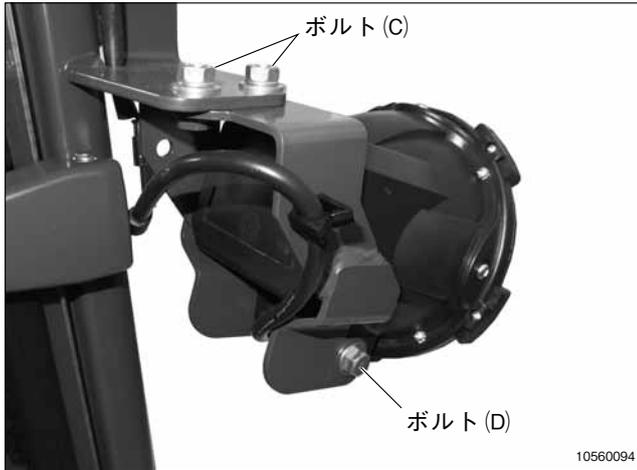
キー《入》にし、作業灯スイッチの上側を押すと、作業灯とスイッチ内のランプが点灯します。下側を押すと消灯します。

### 取扱いのポイント

- 作業灯を使用するときは、バッテリーがあがらないようにエンジンを始動してから使ってください。
- 道路走行時は、作業灯を消してください。
- 前側作業灯は、ボルト(A)で左右方向・ボルト(B)で上下方向を調整できます。



- 後側作業灯は、ボルト(C)で左右方向・ボルト(D)で上下方向を調整できます。



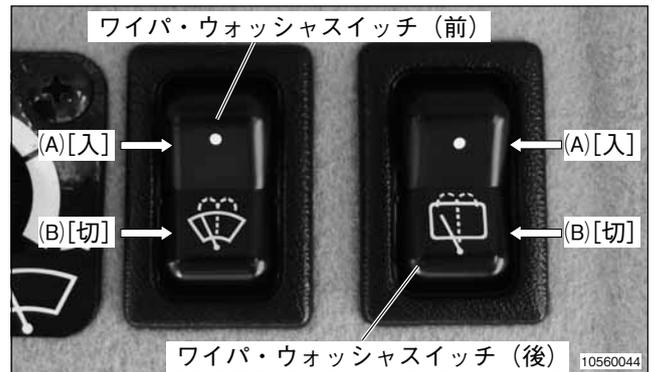
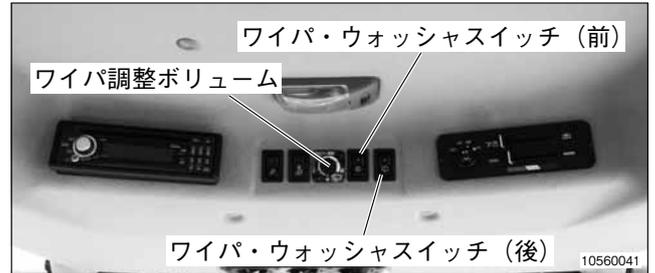
② ルームランプ (スイッチ)

- キャビン室内の照明に使用します。
- 《ON》 ……ランプが点灯します。
- 《DOOR》 ……左右どちらかのドアを開くと点灯し閉めると消灯します。
- 《OFF》 ……ランプが消灯します。



2. 各種スイッチの取扱い

① ワイパ・ウォッシュスイッチ (前)(後)



(1) ワイパの操作

スイッチ(A)側を押すとワイパが作動し、スイッチ(B)側を押すとワイパが停止します。

(2) ウォッシュの操作

- ・ワイパ作動中……スイッチ(A)側をさらに押すと、押している間、ウォッシュ液が噴射します。
- ・ワイパ停止中……スイッチ(B)側を押すと、押している間、ウォッシュ液が噴射します。

② ワイパ調整ボリューム

フロントワイパーの間欠速度を調整するボリュームです。

- 《短》 ……間欠時間が短くなります。
- 《長》 ……間欠時間が長くなります。



のキャビン装備機

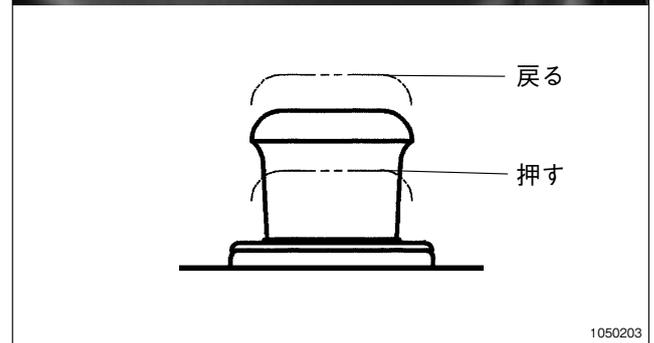
### 取扱いのポイント

- キーが《切》のときは、作動しません。  
キーを《入》またはエンジンを始動してから操作してください。
- ガラスがほこりや泥で汚れたままでワイパを使用しますとガラスに傷が付くことがあります。  
洗車または、ウォッシャ液を噴射してから使用してください。
- 寒冷時にワイパブレードが凍結してガラスに張りついたままでワイパを使用すると、ワイパが作動できない為、内蔵のサーキットブレーカが作動します。作動した場合、ワイパブレードの凍結を融解させ、しばらく時間が経過してから使用してください。使用する前にワイパブレードの状態を点検してください。
- ワイパ使用中、積雪などによりワイパブレードが途中で止まったときは、ワイパスイッチを「切」にしても電気が流れておりキーを《切》にしないとヒューズが切れることがあります。トラクタを安全な場所に停止してキーを《切》にして、ワイパブレードが作動できるように積雪などを取除いてください。
- ウォッシャ液を連続で60秒以上噴射したり、ウォッシャ液が出ないときに20秒以上使用すると、ワイパモータが焼付くことがあります。
- 寒冷時にウォッシャを使用するときは、ガラスに噴射したウォッシャ液が凍って視界を妨げることがありますので、先にウインドウガラスをヒーターにより暖めてから使用してください。
- ウォッシャ液は、市販のウォッシャ液を使用してください。寒冷時に清水のみで使用すると凍結し、ウォッシャタンク、ホースなどを破損することがあります。

### ③ シガレットライター

シガレットライターはメータパネル前方にあります。

エンジン始動状態でノブを押込むと下側金属部が熱くなり、ノブが元の位置に戻ります。その後、引抜いて使用します。

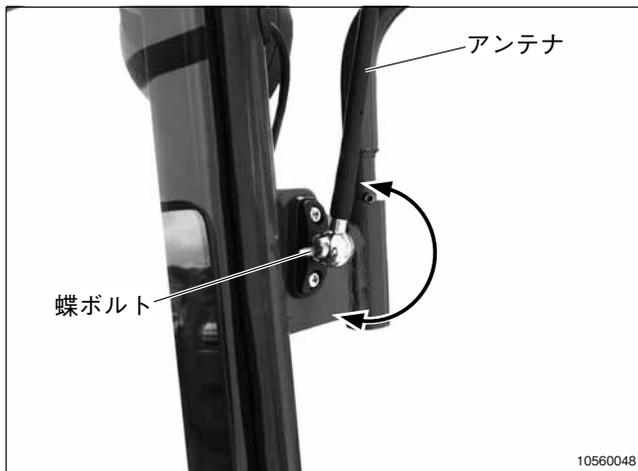


④ カーステレオ

別添のカーステレオ用の取扱説明書を参照してください。

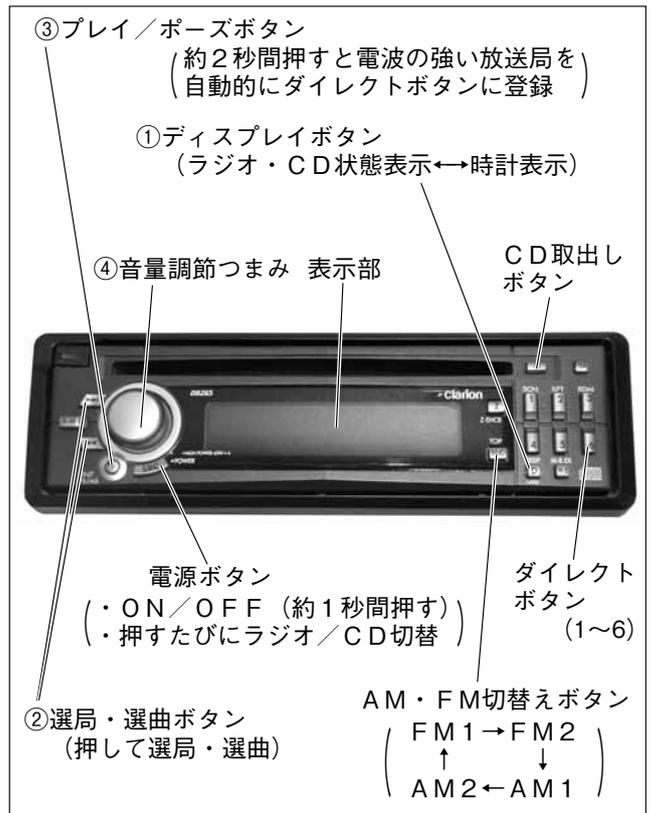
(1) アンテナ

- ・蝶ボルトをゆるめるとアンテナが収納できます。
- ラジオを聞く場合は上におこしてください。



(2) 時刻合わせ

1. スタータスイッチを《ACC》または《入》にする。
  2. ①ボタンを約1秒間押す（「SCRN SVR」の表示になる）
  3. ②ボタンを押して表示部が「CLOCK 〈E〉」になるようにする。
  4. ③ボタンを押すと設定モードになる。（設定直前の時刻を表示）
  5. ②ボタンを押して「時」または「分」を選ぶ。（点滅部が調整できる場所）
  6. ④つまみで時刻（数字）を合わせる。
  7. ③ボタンを押して設定完了。
  8. ①ボタンを押して（設定）時刻表示。
- ※バッテリーを外すと時刻もリセットされます。



のキャ  
取  
ビ  
ン  
装  
備  
機

### 3. 運転装置の実扱い

運転各種スイッチ、計器、レバー、ペダルなどの配置、操作方法は、標準機と同様です。

**各部の実扱い**の項を参照して行います。

#### 1. バックミラー

バックミラーは、運転席に座って見やすい位置に調節します。

狭い所へトラクタを格納する場合には、バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。



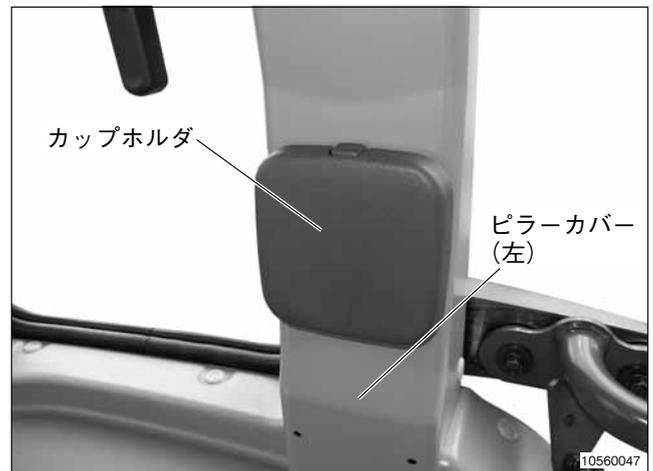
#### 実扱いのポイント

- バックミラーは通常作業時の位置でキャビンより側方へ張り出していますので、狭い場所でのすれ違いや、本機格納時接触しないよう注意してください。
- 道路走行時は、バックミラーを倒したままで運転しないでください。
- フロントローダー装着車は必ずバックミラーを「運転状態」にしてください。  
「収納状態」にすると、フロントローダアームと干渉し、破損する恐れがあります。
- 「運転状態」から更に後方へバックミラーを回動しないでください。アンテナに当たり破損する恐れがあります。

### 4. 室内装備の実扱い

#### 1. カップホルダ

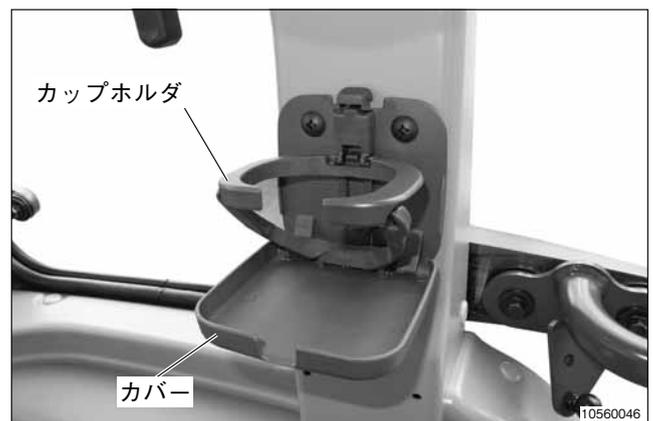
飲料などのカップをホルダに入れて、固定することができます。



カップホルダは収納式で、ボタンを押すとオープンします。



カップホルダを収納するときは、カバーを「収納状態」位置まで押し上げます。

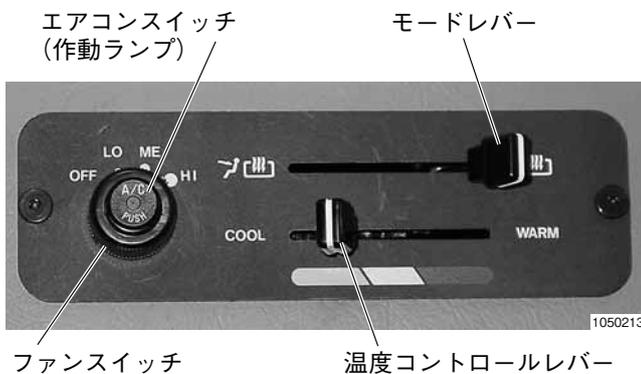


## 2. エアコン

### ⚠ 警告 ヤケド防止のために

- ◆ウォータホースおよびヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。
- ◆異常を認めたととき、修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

### ① 操作部



#### (1) エアコンスイッチ



このスイッチを押してエアコンを「入」・「切」します。エアコン作動時は、中央のランプが点灯します。

#### (2) モードレバー



この位置のときフロントベンチレータ・サイドベンチレータ全ての吹出口より風が吹きだします。



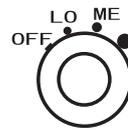
この位置のときフロントベンチレータの吹出口より風が吹きだします。

#### (3) 温度コントロールレバー

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風、左に寄せると冷風が出ます。

#### (4) ファンスイッチ

風量を調節します。



- 《OFF》: ファンが作動しません
- 《LO》: 微風
- 《ME》: 中間風
- 《HI》: 強風

### ② 暖房

- (1) モードレバーを または にします。
- (2) 内気・外気切換えレバーを外気導入にします。早く室温を上げたいときは内気循環にします。
- (3) ファンスイッチ (LO・ME・HI) と温度コントロールレバーを調整し、快適な温度にします。

### ③ 冷房・除湿暖房

- (1) モードレバーを にします。
- (2) 内気・外気切換えレバーを外気導入にします。
- (3) エアコンスイッチを押し [入] にします。
- (4) ファンスイッチ (LO・ME・HI) を作動させます。
- (5) 温度コントロールレバーを COOL または中間位置に調整し、快適な温度にします。

### ④ 頭寒足熱

冷房・除湿暖房の運転状態で、温度コントロールレバーを中間位置で使用すると、顔が涼しく足元が暖かい (頭寒足熱) 快適な状態が得られます。

### ⑤ デフロスタ

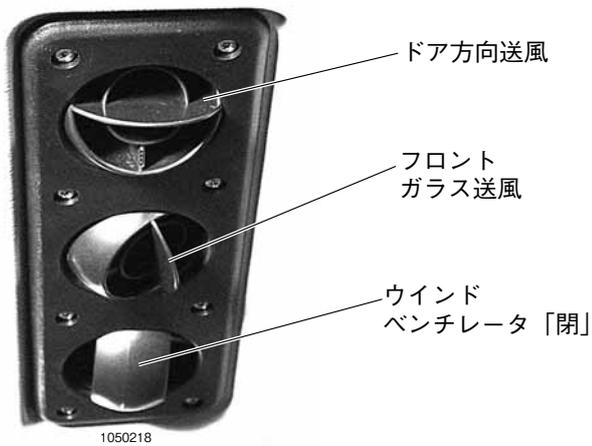
フロントガラスの曇りおよび凍結解除するときは、

- (1) フロント吹出口を開き、フロントガラスの方向に向けます。
- (2) モードレバーを にします。
- (3) 内外気切換えレバーを外気導入にします。
- (4) ファンスイッチを HI、温度コントロールレバーを WARM (右側) にします。

### 取扱いのポイント

- 冬期は外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。  
また、有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
- 冬期において不凍液を使用しない場合は、運転終了時トラクタ本体から冷却水を排水してください。  
(冷却水の排水のしかたは、トラクタ本機の取扱説明書を参照してください。)
- ウォーターホースは2シーズンごとに交換を受けてください。
- 日常点検  
次のような異常を認めたときは速やかに修理を受けてください。  
(ヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。)
- \*ウォーターホースの傷付き、ひびわれ、ふくらみ。
- \*ウォーターホースジョイント部の水漏れ。
- \*ウォーターホースの保護チューブおよび緑ゴムの外れ、破損。
- \*本体取付けボルトの緩み、ブラケットの破損。
- ウォーターホースおよびヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。
- 冷房し始めたとき、一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。
- エンジン冷却水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。
- 長時間作業されるとき、またはタバコを吸われているときは、時々、室内の換気をしてください。
- ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので、やわらかい布で水気をふき取ってください。
- 夏期ヒータを使用しないときは、熱気で室内温度が上昇しないように、温度コントロールレバーをCOOL(左端)に寄せてください。
- エアコンは、温度を下げるばかりでなく、湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度(外気温度との差5~6℃)に調節してください。また、冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。
- エアコンスイッチ、ファンスイッチは、「切」の位置にしてから格納します。
- エアコンは、シーズンオフでも1ヶ月に1回、10~15分間運転してください。  
エンジンは低回転にした状態で温度コントロールレバーは「冷」の位置、ファンスイッチは「弱」の位置で、エアコンスイッチを「入」にします。  
運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ、エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

⑥ フロントベンチレータ

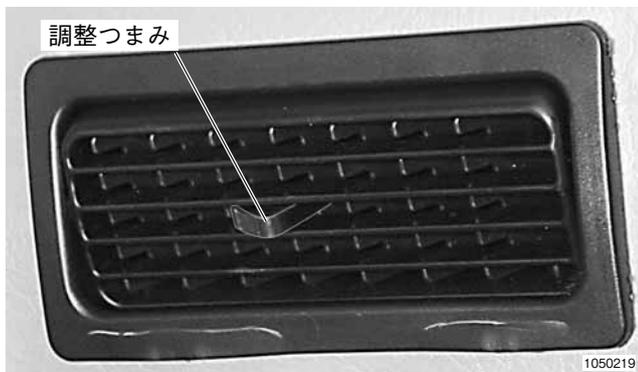


(1) 風の方向は、吹出し口により自由に調整できます。

デフロスタ（フロントガラスのくもり止め）として使用する場合、吹出し口をフロントガラスの方向に向けてください。

(2) サイドベンチレータからの風量を増したいときは、**【閉】** にしてください。

⑦ サイドベンチレータ



(1) 調整つまみで任意の方向に向けてください。

# 手入れのしかた

・工場から出荷のときは正しく調整されていますが、使用による摩耗や伸びが生じますので点検・再調整を行い、損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

**警告** ヤケド、火災、傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整・整備するときは、トラクタを平坦な広い場所に置き、駐車ブレーキをかけ、作業機を降ろし、エンジンを止め各部の動きが止まってから行なってください。

◆エンジンまわりの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。

◆作業機を上げて、掃除・点検・調整・整備するときは、作業機降下速度調節グリップを《固定》にし、作業機が降りないことを確認し、作業機の下に固定脚を置いてください。

◆定期点検整備表に記載されていない部所の点検・整備は「お買いあげ先」に相談してください。

**注意**

◆取外したカバーは、全て取付けてからエンジンを始動してください。

## 1. 定期点検整備表

・正常な機能を発揮し、いつも安全な状態であるように「定期点検整備表」を参考に点検・整備をします。

・「定期点検整備表」は一般的な目安です。異常を生じたときはその都度、調整をします。

・表示記号の説明 ○……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。

◎……指定時間ごとに点検し、調整・補給・掃除などの処置をします。

●……指定時間ごとに交換します。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔					参照ページ
			運転前	50時間	100時間	200時間	300時間	
エンジン関係	燃料タンク	点検・補給・タンクの掃除	○				◎	90
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換		◎		●		90
	燃料ホースの劣化と漏れ	点検・交換（2年ごとに交換）	○			●		105
	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	● (初回のみ)	●			88~89
	エンジンオイルフィルタ	交換		● (初回のみ)		●		89
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・掃除・交換	○					92~93
	ラジエータスクリーン	点検・掃除		◎				98
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換（1年ごとに交換）		◎				98
電装関係	ファンベルト	点検・調整・交換		◎				101
	バッテリー液	点検・補給	○					109~114
	電気配線（配線、接続部のゆるみ、損傷）	点検・修正	○					106
	計器類	点検	○					-

- ……トラクタを使用する前に始業点検を行い調整・補給・掃除などの処置をします。
- ◎……指定時間ごとに点検し、調整・補給・掃除などの処置をします。
- ……指定時間ごとに交換します。

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備間隔					参照ページ
			運転前	50時間	100時間	200時間	300時間 (600時間)	
本機関係	油圧オイルフィルタ	交換			● (初回のみ)	●		94
	ミッションオイル	点検・補給・交換		◎	● (初回のみ)	●		93
	フロントアクスルオイル	点検・補給・交換		◎			● (600時間)	95
	タイロッド (左・右), ロッドエンド	点検・補給		◎				96
	ブレーキリンク	点検・補給		◎				96
	クラッチペダル	点検・調整	○					—
	ブレーキペダル	点検・調整	○					103
	各レバー類の作動	点検	○					9~29
	ボルト, ナットのゆるみ	点検	○					—
	タイヤ空気圧	点検	○					104
	トーイン	点検・調整				◎		102
	パワステシリンダ油圧ホース (2年ごとに交換)	点検・交換						105
	ハンドル	点検	○					104
	クラッチ室の水抜き	点検			○			95
キヤビン	コンプレッサベルト	点検・交換			◎			115
	内気フィルタ	点検・掃除			◎			100
	外気フィルタ	点検・掃除			◎			100
	ウォータホース	点検・交換						105
	エアコン配管・ホース	点検						105
	コンデンサフィン	点検・掃除						99
	コンデンサスクリーン	点検・掃除						99
	ウォッシュ液	点検・補充						97
	冷媒量	点検・補充						115
ドアヒンジ, サイドウインドウヒンジ, リヤウインドウヒンジ		点検・注油						97

手入れのしかた

**取扱いのポイント**

- 機械または、部品などを廃棄するときは「お買いあげ先」にご相談ください。
- 使用済み廃棄物の処理について
 

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

  - (1)機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
  - (2)地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
  - (3)廃油、燃料、冷却水 (不凍液)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、「お買いあげ先」、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

## 2. 給油・給脂・給水のしかた

・工場から出荷のときは、各給油・給脂・給水箇所ともオイル・グリス・冷却水は入っていますが、使用する前に点検します。

### 取扱いのポイント

●各給油箇所には、指定オイルを規定量給油してください。

### 1. 給油・給脂・給水表

種別	No.	箇所	種類	分類		容量 (L)			交換時期	参照ページ
				APIサービス分類	SAE粘度番号	28・30 32・36 型	41・46 型	50 型		
全	①	エンジン クランクケース	エンジンオイル	CH-4 CF級	10W-30	5.4	7.9	9.0	作業前点検・100時間ごと交換 (初回点検時50時間で交換)	88~89
	②	燃料タンク	軽油	-	-	38	55		作業前点検 (必要量補給)	90
	③	ラジエータ	冷却水	-	-	7.0	7.6		作業前点検 (必要量補給) [2柱フレーム仕様]	92~93
↑			-	-	8.2	8.6		作業前点検 (必要量補給) [キャビン仕様]	92~93	
型	④	トランス ミッションケース	低粘度オイルL1339	GL-4	75W- 80W	38	40		初回100時間、後は200時間ごと 交換	93
	⑤	フロント アクスルケース	ギヤオイル	GL-4	80W	7.5	8.5		600時間ごと交換	94
式	⑥	ブレーキリンク (左・右)	グリス	-	-	適量			作業前点検・50時間ごと給脂	96
	⑦	ロッドエンド …4箇所	〃	-	-	〃			〃	96
	⑧	フロントアクスルケース センター支点(2箇所)	グリス	-	-	〃			〃	95
キャビン 装備機	⑨	各ヒンジ部	ギヤオイル	-	-	〃			必要に応じて点検	96
	⑩	ウォッシュヤタンク	ウォッシュ液 (市販品)	-	-	2.0			作業前点検 (必要量補給)	97

●エンジンオイル……CH-4/CF・10W-30

エンジンオイルは、工場出荷時CH-4が入っています。

●燃料……ディーゼル軽油 JIS2号 (-10℃まで)

JIS3号 (-15℃まで)

JIS特3号 (-15℃以下)

●ギヤオイル……低粘度オイル L1339 (SAE・75W-80W)

※使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。

### 取扱いのポイント

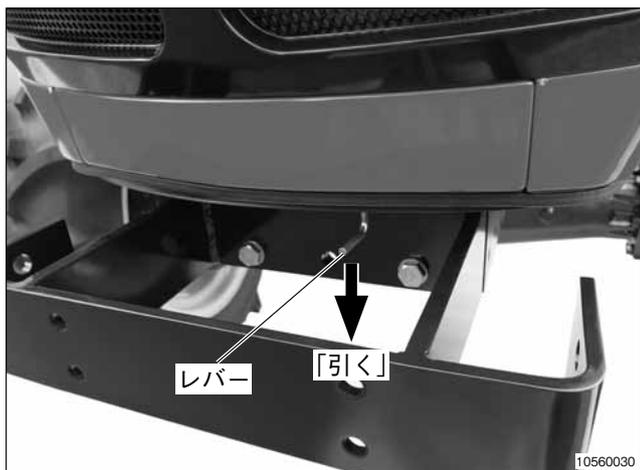
●トランスミッションオイルは、工場出荷時、低粘度オイルL1339が入っています。

## 2. ボンネットの開閉とカバー類の取り外しかた

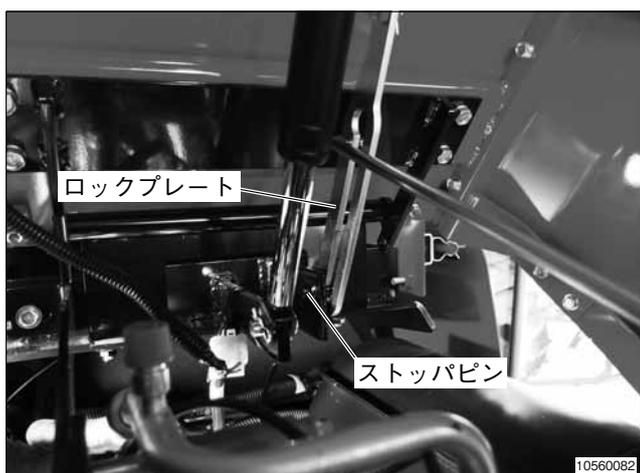
### ① ボンネット

#### (1) ボンネットの開けかた

- ・レバーを下に引いて、ボンネットのロック（固定）を外します。



- ・ボンネットを持ち上げるとロックプレートの切欠きがストッパピンに入り、ボンネットは固定されます。



#### (2) ボンネットの閉めかた

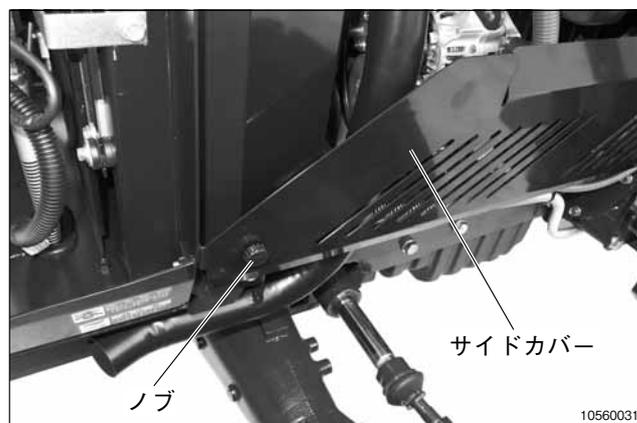
ボンネットを片手で少し持ち上げ、ロック解除レバーを押し、ロックが外れたらボンネットをゆっくりと降ろします。

ボンネットを降ろしたら、ボンネットを軽く押さえて固定します。

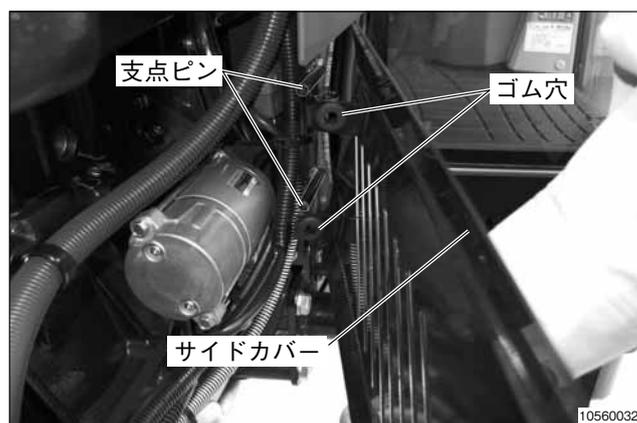


### ② サイドカバー（左・右）の脱着

#### (1) サイドカバー下部のノブをゆるめ、ノブを取り外します。



#### (2) サイドカバー後方のゴム穴から支点ピンを外します。



- ・サイドカバーの取付けは逆の手順で行います。

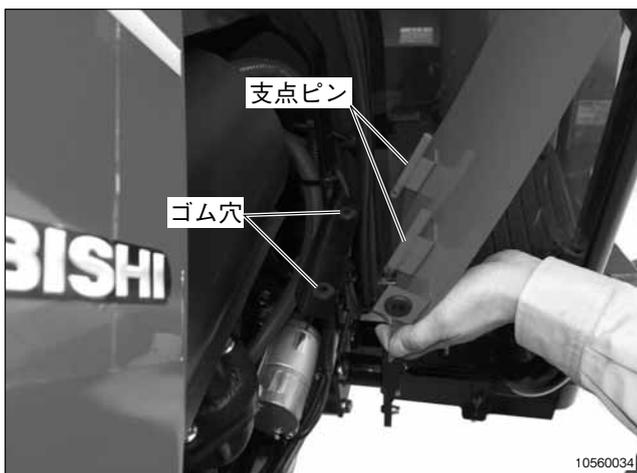
## 手入れのしかた

### ③ カバー（左・右）の脱着 [41・46・50型]

- (1) ボンネットを開けカバー上部を引いてフックから外します。



- (2) カバー下方の支点ピンをゴム穴から外します。



・カバーの取付は逆の手順で行います。

## 3. エンジンオイルの点検と交換

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆エンジンオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

### 取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジン始動前に調べてください。
- エンジンオイルは推奨オイルをご使用ください。
- オイルの粘度は、外気温によって下表のように使い分けてください。

気温(℃)	-20	-10	0	10	20	30
エンジン オイル	SAE10W-30					
	SAE5W-30					

#### ① エンジンオイルの点検

レベルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差込んでから拔出し、オイルレベルゲージの刻み線「上限」と「下限」の間（規定量）にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりオイルレベルゲージの刻み線「上限」まで入れます。さらに、油もれのないことも調べます。

#### ② エンジンオイルの交換

- (1) オイルレベルゲージとエンジンオイルパンの排油栓（2箇所）を外し、オイルを抜きます。
- (2) 排油栓を締め新しいエンジンオイルを、オイルレベルゲージの刻み線「上限」まで給油します。

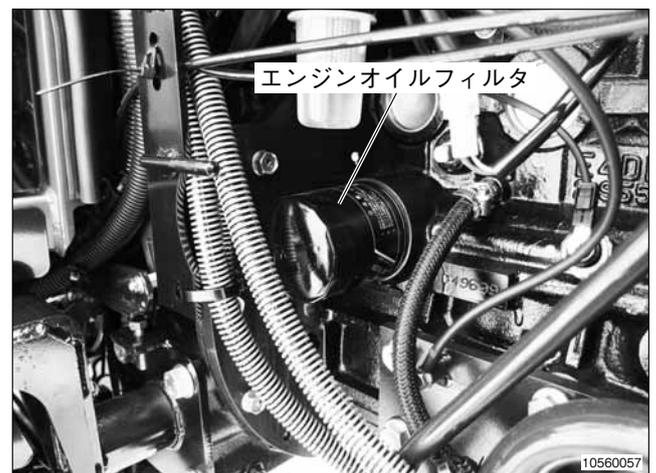
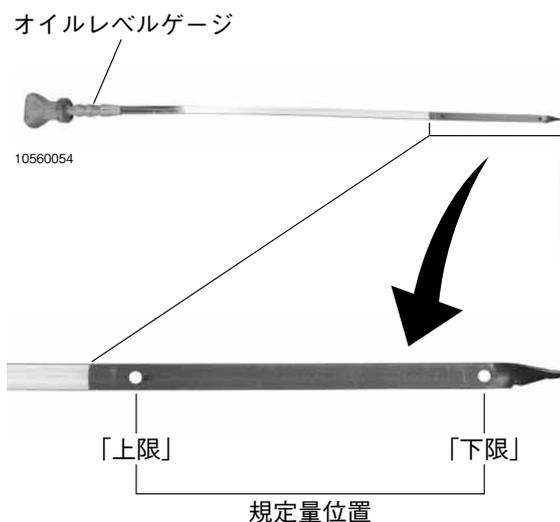
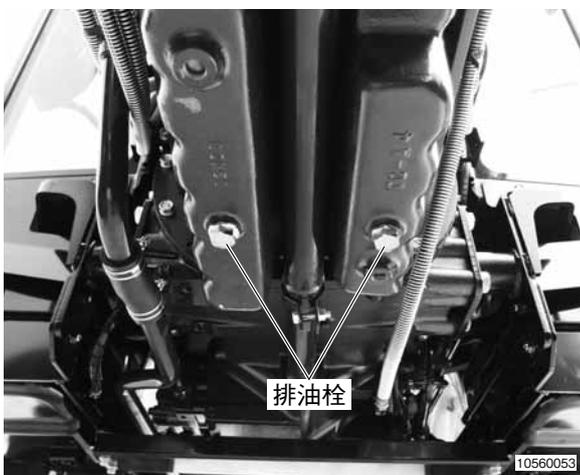
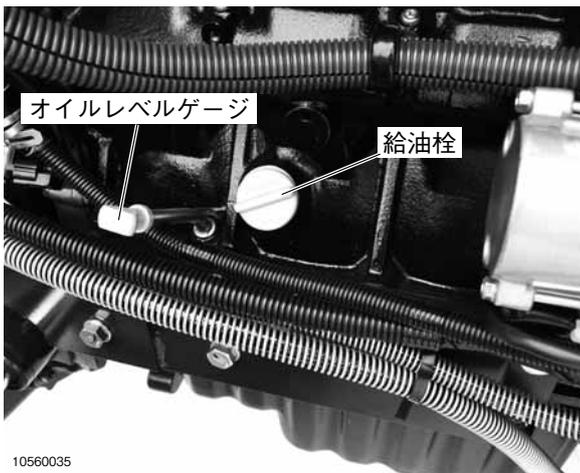
#### 4. エンジンオイルフィルタの交換

エンジンオイルフィルタは「カートリッジタイプ」ですので、「お買いあげ先」で交換します。

- ・第1回目……………50時間運転後に交換
- ・第2回目より…200時間運転ごとに交換

① エンジンオイルフィルタ（カートリッジタイプ）は手でゆるまない場合は専用工具（市販品）を使用して、外します。

② エンジンオイルフィルタを交換したときは、オイルフィルタの容量分オイルが多く入るのでオイルレベルゲージでオイル量を確認し、不足のときはオイルレベルゲージの刻み線「上限」まで補給します。



#### 取扱いのポイント

- エンジンオイルフィルタを取付けるときは、パッキン面にオイルを塗り、エンジンオイルフィルタを手で締め、パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。

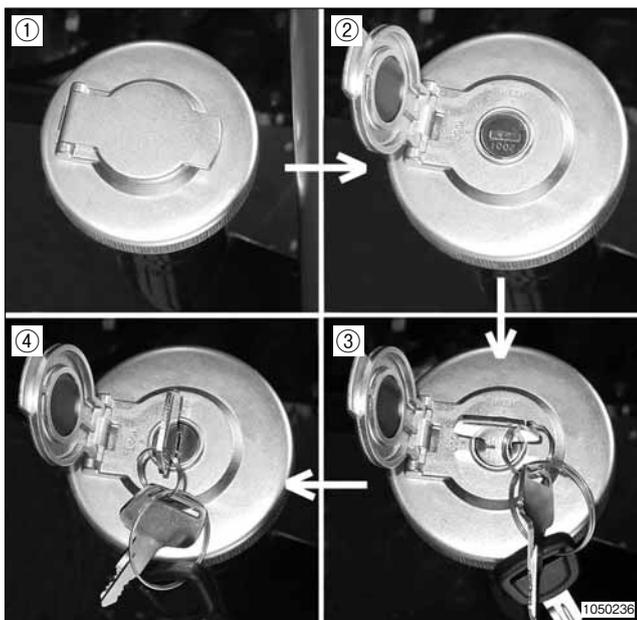
## 5. 燃料の補給

### ⚠️ 危険 火災防止のために

- ◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因となります。
- ◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
- ◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料もれがないか点検をし、もれている場合は交換してください。

### ① 燃料カバー開閉のしかた

- (1) キャップのキー蓋を起し、専用キーをキー溝に入れ、右に回すと解錠され、施錠は左に回します。



- (2) タンクのキャップをねじって外し、「こし網」とおして燃料（ディーゼル軽油JIS 2号または3号・特3号軽油）を補給します。



### 取扱いのポイント

- 軽油は、気温に合わせて、JIS 2号、3号、特3号軽油を使用してください。

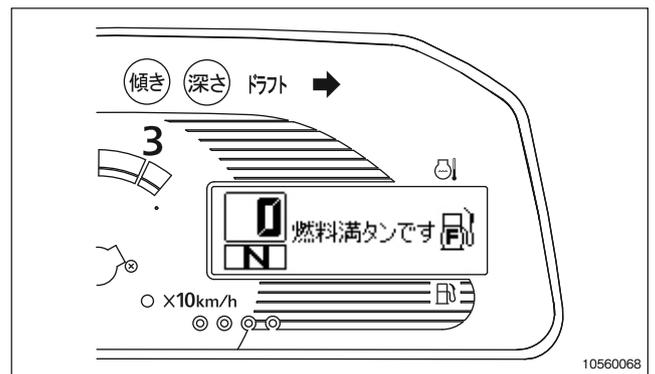
−10℃まではJIS 2号

−15℃まではJIS 3号

−15℃以下はJIS特3号

### ② 燃料満タンブザー

- ・燃料給油を始める前にスタートスイッチ（始動キー）を《入》にしておくと満タン付近でブザーが鳴り知らせしてくれる機能です。
- ・満タン付近になるとピッピッピーというブザー音が繰り返し鳴り、MACビジョンに“燃料満タンです”が表示されます。



### 取扱いのポイント

- スタートスイッチ（始動キー）は《入》位置で、エンジンは始動させないでください。エンジン始動状態では燃料満タンブザー機能は働きません。
- スタートスイッチ（始動キー）を《入》位置にして約5分給油しないと、キーの切り忘れと判断してブザーが鳴り出します。いったん《切》にしてやり直してください。

## 6. 燃料フィルタの交換と掃除

### ① 交換

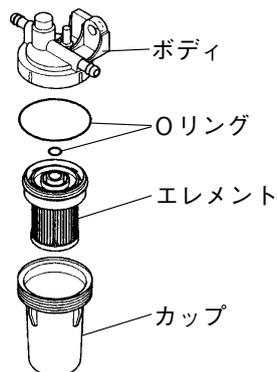
50時間ごとに掃除し、200時間ごとにエレメントを交換します。(127ページ参照)

### ② 掃除

- (1) カップを取外し、きれいな軽油で洗浄します。
- (2) エレメントを取外し、きれいな軽油で洗浄または交換します。
- (3) Oリングに注意しながらエレメントとカップを取付け、締付けます。
- (4) **7. エア抜き要領** に従ってエア抜きをします。



燃料フィルタ分解図



147A

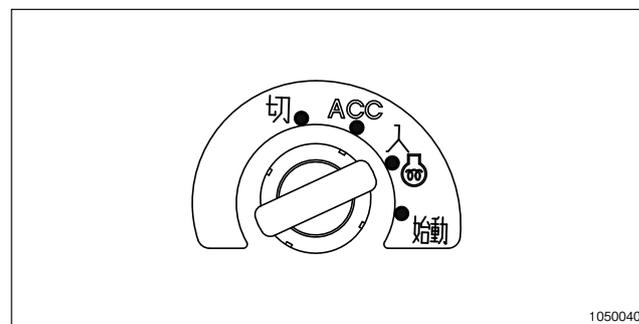
### 取扱いのポイント

- カップを外すとき、ディーゼル軽油が少量こぼれる場合がありますので、燃料フィルタの下にトレーなどの油受けを置いてから行ってください。また、こぼれたオイルはきれいにふき取ってください。

## 7. エア抜き要領

燃料ライン内の空気は、抜いてください。

- ① 次のような場合、燃料ライン内に空気が混入します。
  - (1) 燃料切れで、エンジンが停止した場合
  - (2) 燃料フィルタの交換や、フィルタカップを掃除した場合
  - (3) 噴射ポンプと燃料タンク間の接続部分を、ゆるめたり、外した場合
  - (4) 長期間トラクタをご使用にならなかった場合
- ② エア抜きは、エンジンを停止させた上で、次の要領で行います。
  - (1) 燃料が空のときは5 L以上補給します。
  - (2) スタータスイッチを《入》にして、燃料ポンプを作動させます。約10秒間このままの状態にします。(エンジンは始動しません。)
  - (3) 予熱をしてからスタータスイッチを《始動》にしてエンジンを始動させます。



- (4) 始動しないときは、(2)~(3)項を繰り返します。

### 取扱いのポイント

- トラクタの燃料切れが発生した際、燃料タンクに燃料を入れ、エア抜きをせずにエンジン始動をすると、少量の空気混入ならエンジンを始動することができます。しかし、燃料ライン内の空気混入はエンジンに負荷をかけた際、馬力が低下したり、エンジンが停止しますのでエア抜きを行なってください。
- 長時間スタータスイッチを《始動》位置にするとバッテリー上がりの原因になります。

## 8. 冷却水の保守管理

**⚠警告** ヤケド防止のために

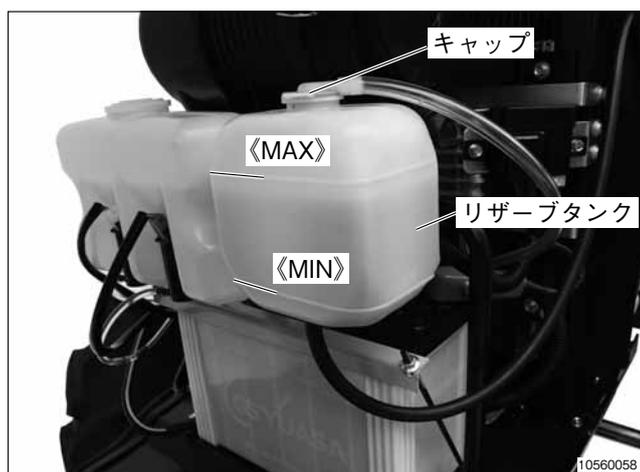
◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。エンジンが冷えてからゆっくり開けてください。

◆キャビン装備機は冷却水の交換時期・濃度管理を確実にこなしてください。キャビン装備機はヒーターが室内にあり、管理が不十分な場合ヒーターコアチューブが腐食し室内に熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。

ラジエータの冷却水の取扱いを誤ると、エンジンの寿命に大きな影響を与えます。

### ① 冷却水の点検

- (1) ラジエータにはリザーブタンクが付いていてラジエータ内の冷却水を適量にする構造になっています。運転前に点検を行い冷却水が不足しているときは補給します。
- (2) ボンネットを開いてリザーブタンク内の冷却水が《MAX》(上限)、《MIN》(下限)の間にあることを確認します。
- (3) 冷却水が不足しているときはリザーブタンクに補給します。



### ② 冷却水の交換

- (1) ボンネットを開きラジエータキャップを外します。



- (2) エンジン冷却水コックをゆるめ、冷却水を排水します。

リザーブタンクの排水はリザーブタンクを外して行います。



- (3) 冷却水コックを閉じてから水道水を入れ、エンジンを始動し、ハイアイドルで約15分間運転し、排水します。

排水した水が濁っているときは透明になるまで水洗いをくり返します。

- ・キャビン仕様は温度コントロールレバーを《WARM》の位置にして行います。
  - ・市販のラジエータ洗浄剤を使用すれば効果的に洗浄できます。
- (4) 排水が終わったら冷却水コックを閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を入れたのちラジエータキャップを閉めます。
  - (5) リザーブタンクに冷却水を入れます。

- ・キャビン仕様はヒータに冷却水が循環するため、冷却水が約1L多く必要となります。冷却水を交換した場合は、リザーブタンクの注入口まで一杯にし、温度コントロールレバーを《WARM》の位置にして、しばらくエンジンを回し、冷却水を暖めてから、エンジンを止めてください。冷却水が冷えると、リザーブタンクの冷却水が吸い込まれ、リザーブタンクの水量が減ります。
- ・エンジン、ラジエータ内部の腐食を防ぐため、冷却水は防錆剤、潤滑剤の入った不凍液「ロングライフクーラント」を使用します。

### ③ 不凍液の注入要領

- (1) 工場出荷のときは不凍液「ロングライフクーラント」が注入され「外気温度-25℃」まで効力がありますが、納入後1年以上経過すると効力が低下しますので、冷却水を抜き「不凍液濃度基準」を参考に入替えます。

#### 不凍液濃度基準表

外気温度	℃	-5	-10	-15	-20	-25	-30
不凍液濃度	%	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50

- (2) 別容器（ポリバケツ）に不凍液を必要量（不凍液濃度基準表参照）入れます。
- (3) 清水を加えよく攪拌した後にラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

#### 取扱いのポイント

- 冷却水には清水を使用してください。泥水や塩水を使用しないでください。
- 冬季には冷却水が凍結し、エンジンやラジエータを破損することがあります。不凍液「ロングライフクーラント」を混合してご使用ください。
- ラジエータ洗浄剤を使用する際には洗浄剤の取扱説明書を熟読のうえ使用してください。
- 2年使用ごとに、冷却水の交換と、ラジエータ内部の洗浄を行ないます。

## 9. ミッションオイルの点検と交換

**警告** 傷害事故防止のために

◆ミッションオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

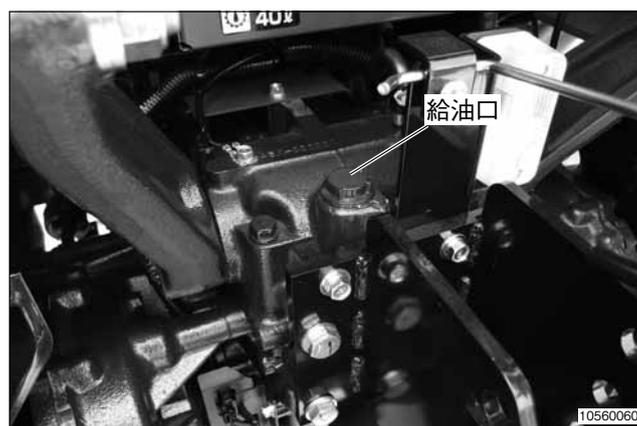


### ① 点検

- ・左リヤアクスル後部に油面確認窓があります。ミッションオイルの油面がこの窓から確認できれば適量です。
- ・エンジンを始動しているときは、オイルレベルが低下します。検油する場合はエンジンを停止して、5分以上たってから行います。
- ・エンジン始動前にオイルレベルを確認します。

### ② 補給

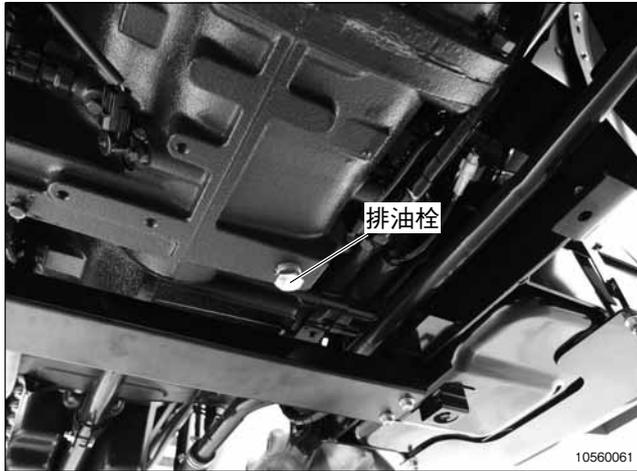
- ・不足している場合は油面確認窓でミッションオイルの油面が確認できるまで給油口より補給します。



## 手入れのしかた

### ③ オイルの交換

- (1) ミッションハウジング中央下部とリヤアクスル下部（左右）の排油栓（3箇所）を外しオイルを抜きます。



- (2) 排油栓のネジ部にシールテープを巻き締め付けます。
- (3) 新しいギヤオイルを油面確認窓で確認できる位置まで給油します。

#### 取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジン始動前に調べてください。
- トランスミッションオイルは、低粘度オイル L 1339 (SAE・75W-80W) をお使いください。

## 10. 油圧オイルフィルタの交換

油圧オイルフィルタは「カートリッジタイプ」ですので、「お買いあげ先」で交換します。

- ・初回……100時間運転後に交換。
- ・第2回目より……200時間運転ごとに交換。

- ① フェンダ左内側の油圧オイルフィルタの回りの土などを取除きます。
- ② 油圧オイルフィルタは手でゆるまない場合には専用工具（市販品）を使用して、外します。
- ③ 油圧オイルフィルタを交換したときは、オイルフィルタの容量分オイルが多く入るので、5分間運転してエンジン停止し5分以上たってからオイルレベルゲージで確認し不足している場合は、オイルレベルゲージの刻み線「上限」まで補給します。



#### 取扱いのポイント

- 油圧オイルフィルタを取付けるときはパッキン面にオイルを塗り、油圧オイルフィルタを手で締め、パッキンがシール面に接触してから約2/3回転締付けてください。

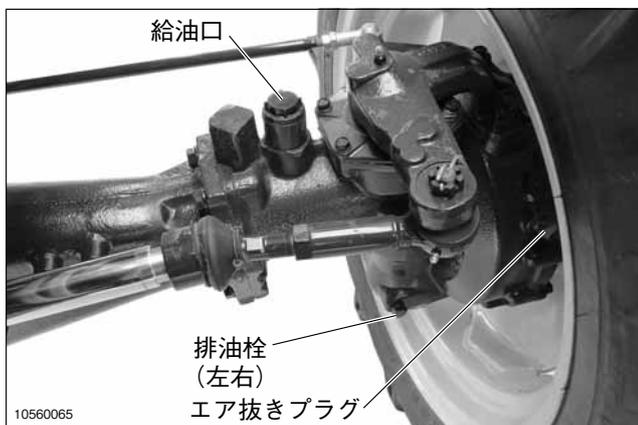
## 11. フロントアクスルオイルの点検と交換

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆フロントアクスルオイルの点検および交換するときは平坦な場所に置き、エンジンを停止して行なってください。

### ① 点検・補給

給油口を外し穴から中の軸を見て軸の中心までオイルが入っていれば適量です。不足している場合はオイルを補給します。



### ② オイルの交換

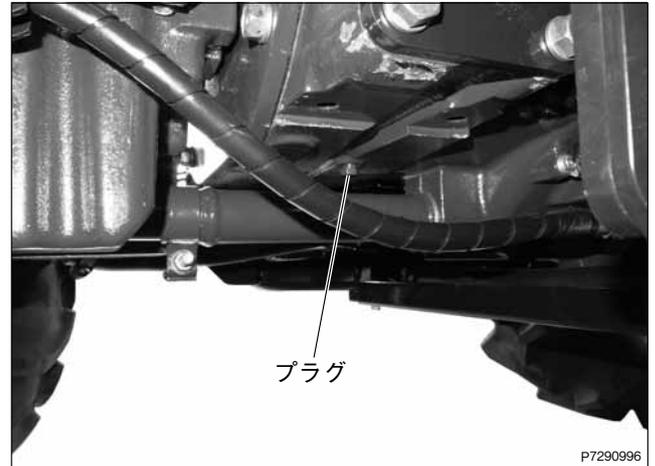
- (1) 排油栓（左右2箇所）を外し、オイルを抜きます。
- (2) 排油栓のネジ部にシールテープを巻き締め付けます。
- (3) 新しいギヤオイルを給油口（左）より規定量給油します。

### 取扱いのポイント

- オイルの量は、エンジン始動前に調べてください。

## 12. クラッチ室の水抜き

クラッチ室下部のプラグを抜き、オイル漏れがないか点検してください。

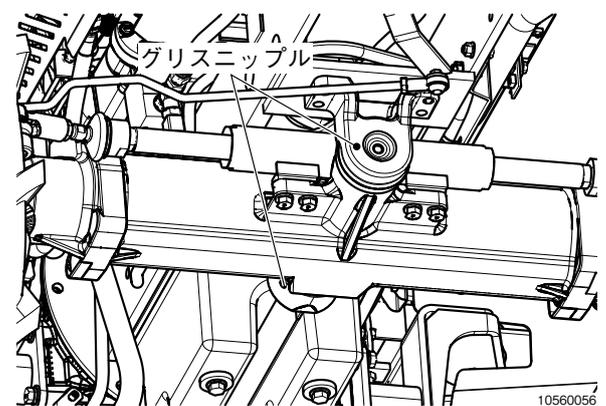


## 13. 各部の給脂

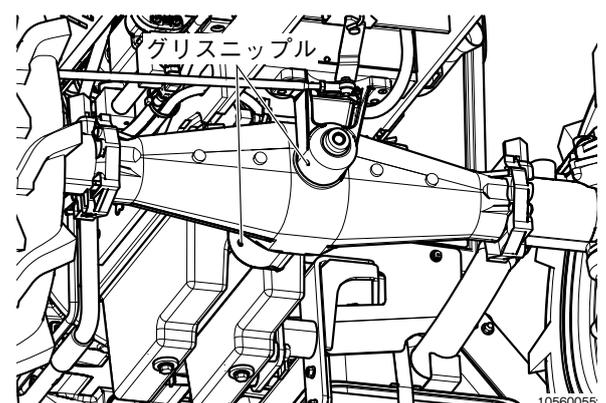
### ① フロントアクスル

・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。

[28・30・32・36型]



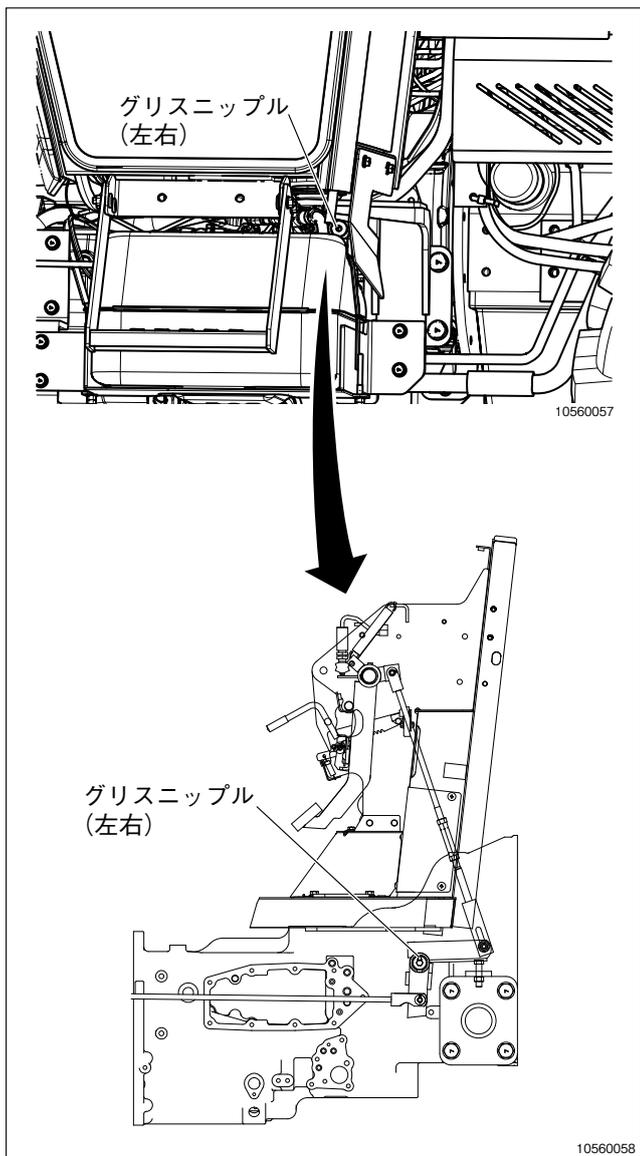
[41・46・50型]



## 手入れのしかた

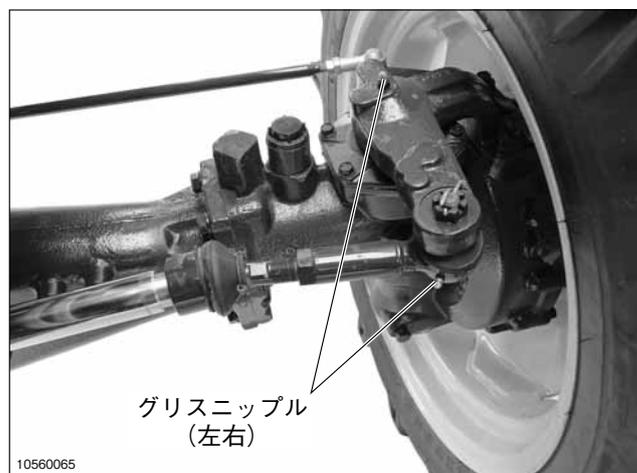
### ② ブレーキリンク

- ・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。



### ③ ロッドエンド

- ・グリスニップルよりグリスを適量給脂します。  
(4箇所)



### ④ リヤウインドウヒンジ

- ・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。(2箇所)
- ・リヤウインドウの開閉が重いとき、または開閉時に音がする場合は注油します。

### ⑤ サイドウインドウヒンジ

- ・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。(2箇所)
- ・サイドウインドウの開閉が重いとき、または開閉時に音がする場合は注油します。

## ⑥ ドアヒンジ

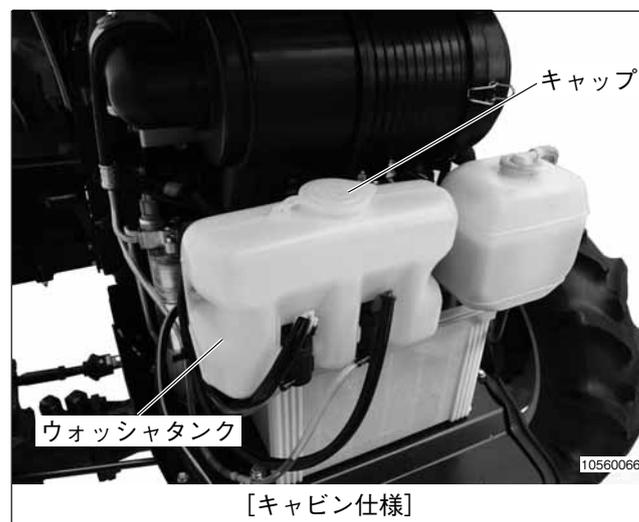
- ・ヒンジ部へギヤオイルを適量注油します。  
(片側2箇所)
- ・ドアの開閉が重いとき、または開閉時に音がする場合は注油します。



## 14. ウォッシュ液の給水

### ① ウォッシュタンク

- ・タンクキャップを外し、ウォッシュ液を給水します。
- ・容量……2.2L



### 3. 各部の掃除のしかた

#### 1. エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたまま使用すると、エンジン内部が摩耗します。また出力が低下します。

- ① ボンネットを開きます。
- ② クランプ（3箇所）を外し、エアクリーナのカバーを取り外します。



- ③ エレメントを取出します。



- ④ エレメント・エアクリーナボディの内部を掃除します。

エアクリーナのカバーの取付けは「TOP」が上図の位置になるよう固定します。

#### 取扱いのポイント

- コンプレッサで吹きつける場合は、空気圧「686 kPa {7 kgf/cm<sup>2</sup>} 以下」で行なってください。
- エレメントは1年間使用後に交換が必要です。

#### 2. ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除

**⚠警告** ヤケド防止のために

◆ラジエータ・ラジエータスクリーンの掃除をするときは、エンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

- ① ボンネットを開きます。
- ② ラジエータスクリーンを持ち上げます。



- ③ ラジエータスクリーンの「ゴミ・ワラ」などを取除きます。
- ④ ラジエータフィンを目詰まりを点検し、詰まっている場合は、まずラジエータ前面の手で取れる大きな「ゴミ・ワラ」などを取除き、エアをエンジンファン側より吹きつけ「ホコリ・ゴミ」などを取除きます。

### 3. コンデンサフィン、コンデンサスクリーンの掃除 [キャビン仕様機]

**警告** ヤケド防止のために

◆コンデンサフィン・コンデンサスクリーンの掃除をするときは、エンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。

- ① ボンネットを開きます。
- ② コンデンサスクリーンを上方に抜取ります。



- ③ コンデンサスクリーンの「ゴミ・ワラ」などを取除きます。
- ④ コンデンサフィンの目詰まりを点検し、詰まっている場合は、まずコンデンサフィン前面の手で取れる大きな「ゴミ・ワラ」などを取除き、エアをエンジンファン側より吹きつけ「ホコリ・ゴミ」などを取除きます。

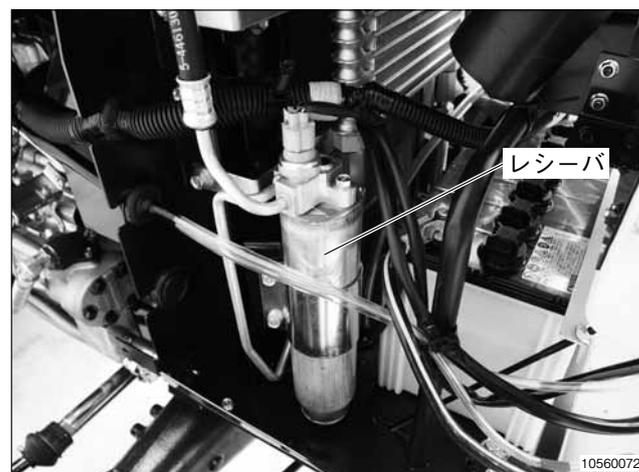
#### 取扱いのポイント

- [キャビン仕様] はラジエータの前にコンデンサがありますので、同時に掃除してください。

### 4. エアコンの掃除 [キャビン仕様機]

**警告** 傷害事故防止のために

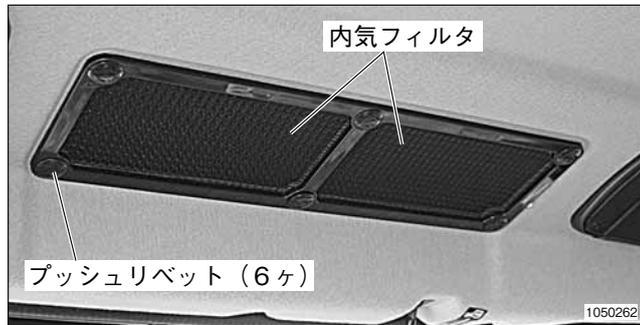
◆コンプレッサおよびレシーバへのスチーム洗浄は、冷媒ガスの圧力が上昇して破裂を引起こし、傷害事故の原因となりますのでスチーム洗浄はさけてください。



## 手入れのしかた

### ① 内気フィルタの掃除

フィルタが汚れて目詰まりすると、吹出し風量が少なくなりますので、水洗いまたは、圧縮エアでフィルタの網目を損傷させない様に汚れを落とします。

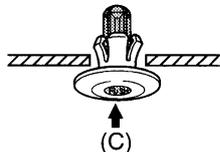
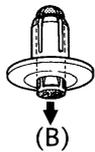


- (1) 内気フィルタを取外すには、プッシュリベットの(A)部を少し押ししてから、抜き取ります。  
(6個)

プッシュリベットを抜き取ると内気フィルタは外れます。



- (2) 取り付け方は、内気フィルタを元の位置に押し付け、プッシュリベットで固定します。固定の仕方は、プッシュリベットの中央(B)部を少し押し出し、室内エアフィルタにプッシュリベットを差込んでから中央(C)部を押し固定します。

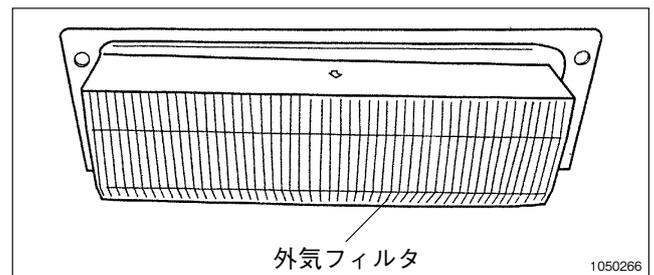
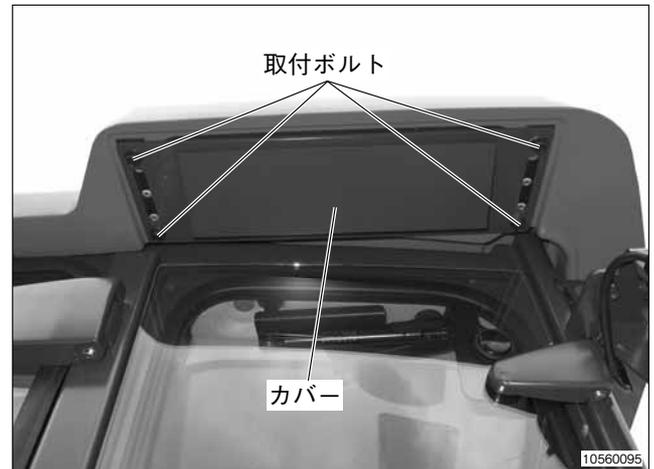


#### 取扱いのポイント

- 汚れがいちじるしいときは、家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、動かしながら洗浄し、清水でよくすすぎます。  
その後、完全に自然乾燥させてから取付けてください。
- 洗浄にガソリン、シンナーなどを使用しないでください。

### ② 外気フィルタの掃除

- (1) キャビン左側後方の外気取入口の取付ボルト(4個)を外して、カバーを外します。  
(2) 外気フィルタも同時に外れますので圧縮エアで汚れを落とします。



#### 取扱いのポイント

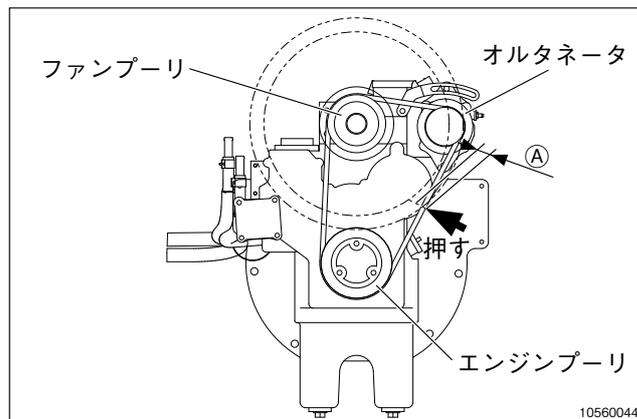
- 汚れがいちじるしいときは、家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、動かしながら洗浄し、清水でよくすすぎます。  
その後、完全に自然乾燥させてから取付けてください。
- 洗浄にガソリン、シンナーなどを使用しないでください。
- 外気フィルタをたたかないでください。  
外気フィルタが変形するとエアコンユニットにほこりが侵入し、エアコンを損傷する場合があります。

## 4. 各部の点検と調整のしかた

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き、エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

- ・各部は出荷のときに正しく調整されていますが、使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い、損耗の限度を超えた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。



- 損傷がある場合、張り調整代がなくなった場合は交換します。

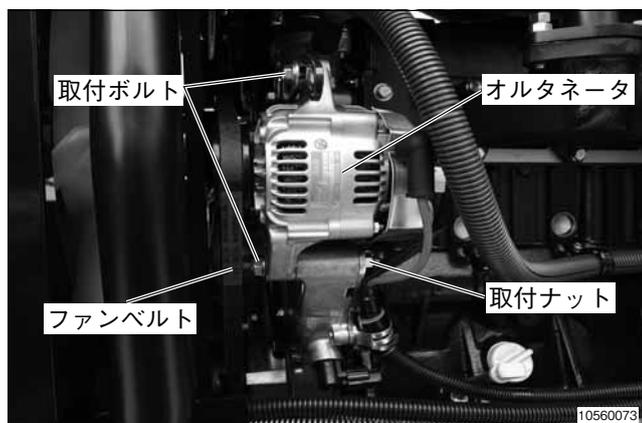
### 1. ファンベルトの点検・調整

#### ① 点検

ファンベルトの長い部分の中央部を約98N (10kgf) で押し、タワミ量(A) = 「15mm」 となっていますか。

#### ② 調整

- (1) オルタネータ取付ボルト、ナットをゆるめます。
  - 1) オルタネータを外側に倒しベルトを張りませ。
  - 2) オルタネータを内側に倒すとベルトはゆるみます。



## 2. トーインの点検・調整

### ⚠注意

◆トーインの調整が悪いと走行が不安定になることがあります。

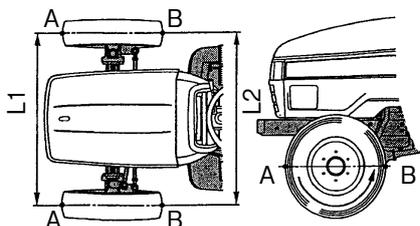
- ・トーインは車の走行安定性を左右する重要な役目を持っています。走行中にハンドルが取られやすくなったときはトーインが狂っている恐れがありますから点検調整します。
- ・トーインとは前輪を上から見て前部が後部より狭くなっていることを言います。

### ① 点検

- (1) トーインがタイヤ中心で「**2～6mm**」になっていますか。

$$\text{トーイン} = L2 - L1 = 2 \sim 6 \text{ mm}$$

- (2) トーインの点検は次の方法で行います。
- 1) トラクタを水平な場所に置き、前輪を真っ直ぐにします。
  - 2) 左右タイヤの中心線上と同一高さのタイヤの真ん中にチョークで印をつけます。(A点)
  - 3) 左右タイヤのA点間の幅 (L1) を測ります。
  - 4) トラクタを前進させ、前輪タイヤを半回転させます。
  - 5) A点が、半回転してB点となったときの左右タイヤのB点間の幅 (L2) を測ります。
  - 6) L2からL1を差し引いたものがトーインです。トーインが規定値であるか確認します。規定値でない場合は次の方法で調整してください。



1050270

※前輪タイヤを半回転させます。

### ② 調整

シリンダのストロークのエンドでのロッドの残りしろが左右同じになるように、次の要領でロッドを調整します。

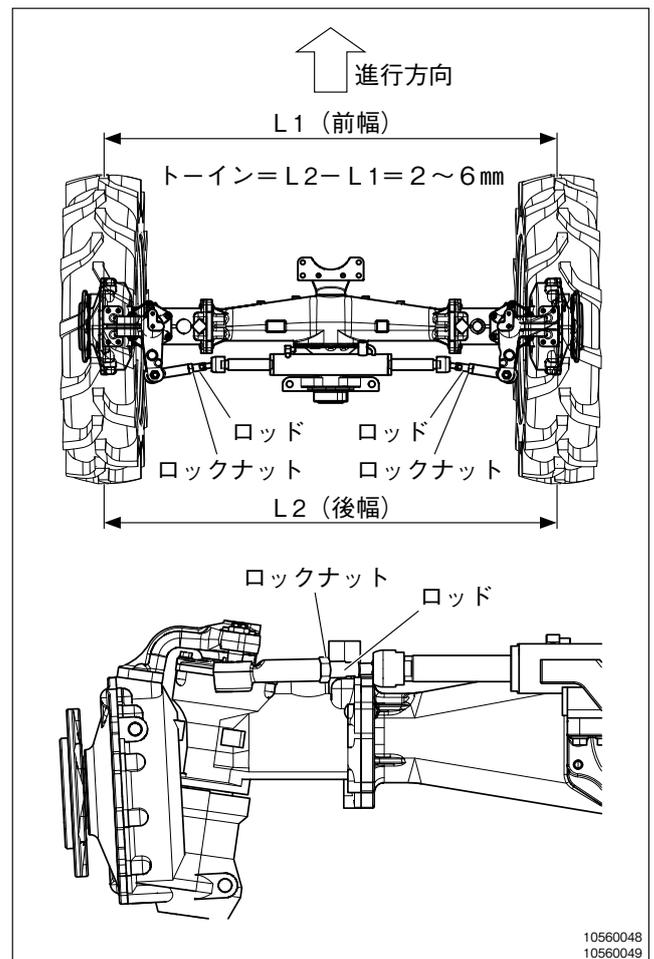
- (1) 前輪の遊びがないことを確かめてから調整を行います。
- (2) 調整する側のロッドのロックナット (2箇所) をゆるめます。
- (3) ロッドを回してロッドエンドを伸縮させてトーインを調整します。
- (4) 調整後はロックナットを確実に締付けて、フロントタイヤの前端を手で左右に振ってみて異常な遊びのないことを確かめます。

締付トルク：98～118N・m (10～12kgf・m)

[28・30・32・36型]

147～167N・m (15～17kgf・m)

[41・46・50型]



10560048  
10560049

### 3. ブレーキペダルの点検・調整

**⚠警告** 傷害事故防止のために

◆調整時左右のブレーキペダルの踏込み量を合わせてください。  
ブレーキの効きが悪かったり、片効きなどがあると転落、転倒事故の原因となります。

・ブレーキペダルの遊び調整

#### ① 点検

左右のブレーキペダルの遊び量が各々「20～30mm」になっていますか。

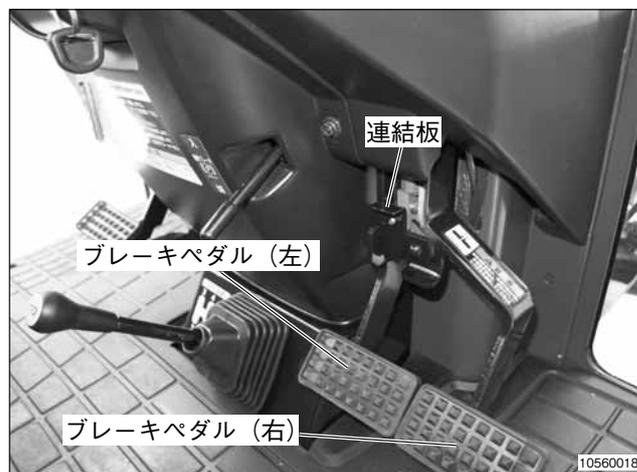
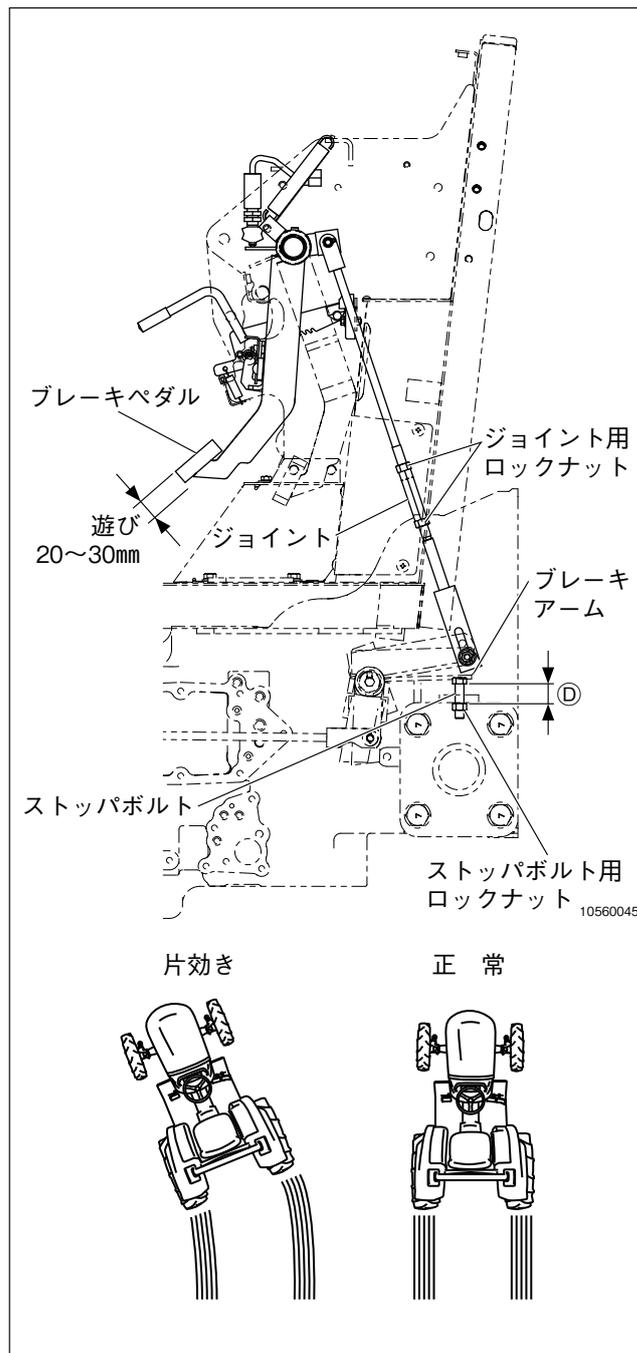
#### ② 調整

- (1) ジョイント用ロックナットをゆるめます。
- (2) ジョイントを回して調整します。  
ねじ込む…遊びが少なくなります。  
ねじ戻す…遊びが多くなります。
- (3) ジョイント用ロックナットを締付けます。
- (4) ストップ用ロックナットをゆるめます。
- (5) ストップボルトがブレーキアームに当たるまで①寸法を伸ばし、ブレーキアームを押し上げる方向にさらにネジ山1回転程度伸ばします。
- (6) ストップボルト用ロックナットを締付けます。

#### ③ 確認

左右ともに正規の寸法が出たら次の要領で確認します。

- (1) 効き…片輪制動その場旋回をしてみてブレーキの効きを確かめます。(左右)
- (2) 片効き…左右ブレーキペダルを連結板で連結し、普通走行で走り、両方のブレーキペダルを一緒に踏んで、タイヤスリップ跡により片効きの有無を確かめます。トラクタが真っ直ぐ止まれば正常ですが、曲がって止まる場合は再調整します。



手入れのしかた

## 4. タイヤの点検

**⚠警告** 死傷事故防止のために

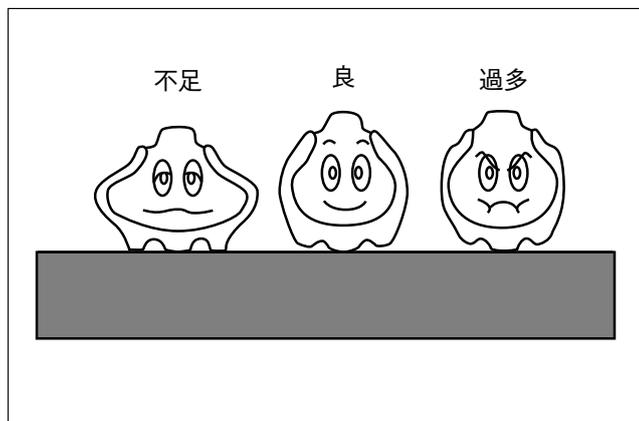
- ◆タイヤの空気は入れすぎないでください。  
空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と、  
タイヤが破裂し、死傷事故につながるこ  
とがあります。
- ◆タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に  
達している場合は、タイヤが破裂するおそ  
れがありますので、使用しないでください。
- ◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理  
は「お買いあげ先」に相談してください。

### ① 点検

- (1) タイヤにキレツなど損傷がないか点検します。  
パンクなど損傷のひどい場合は、タイヤを交換  
します。
- (2) タイヤの空気圧を作業前に点検します。  
空気圧が [ 前輪150kPa (1.5kgf/cm<sup>2</sup>)  
後輪100kPa (1.0kgf/cm<sup>2</sup>) ]  
になるようにします。（[ ] 内は標準空気圧で  
す。）

### ② 調整

標準空気圧になるよう調整します。



## 取扱いのポイント

- フロントローダ使用の場合は前輪の空気圧を250  
kPa (2.5kgf/cm<sup>2</sup>) にしてください。

## 5. ハンドルの点検

**⚠警告** 傷害事故防止のために

- ◆ハンドルに著しいガタや遊びがないか点検  
してください。著しいガタや遊びがあると  
思わぬ事故になることがあります。

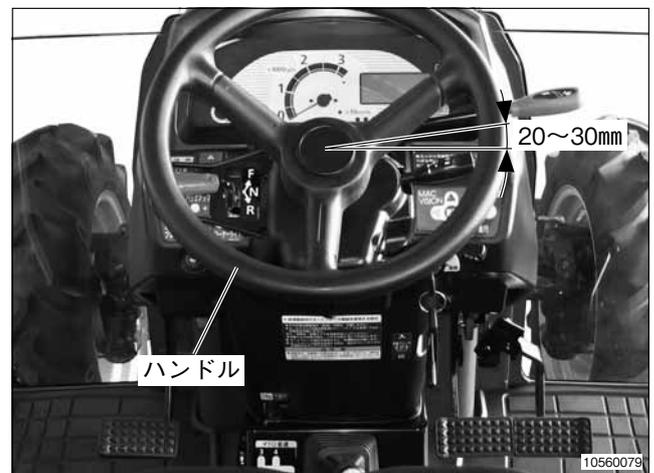
### ① 点検

ハンドルの遊び量が適正でないと、ハンドルが  
重くなったり直進性が悪くなります。遊び量を点  
検します。

エンジンを始動させ、ハンドルを軽く左右に動  
かして遊び量がハンドルの外側で20~30mmであら  
ば適正です。

### ② 遊び量が適正值でない場合

遊び量が適正でない場合はただちに「お買いあ  
げ先」で点検を受けます。



## 6. ホース類の点検

### ⚠️ 危険 火災防止のために

燃料ホースの損傷（割れ、破れ、継ぎ部のゆるみ）、外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれていないか確認し、もれている場合は、火災の原因となりますので交換してください。

### ⚠️ 警告 ヤケド、火災、傷害事故防止のために

ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると、熱湯が吹き出します。パワーステアリングホースの継ぎ部のゆるみや、油もれがないか点検してください。油がもれるとパワーステアリングがきかなくなり事故を引起こす原因になります。

#### ① 点検

燃料ホース、ラジエータホース、パワーステアリングホースなど老化や傷による燃料もれ水もれ油もれがないか、また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

#### ② 処置

燃料もれ、水もれ、油もれ、締付バンドのゆるみがある場合はただちに「お買いあげ先」で点検を受けます。

### 取扱いのポイント

- 燃料ホース、パワーステアリングホースは定期交換部品ですので異常がなくても2年ごとに交換してください。
- 燃料ホースを交換したときは、エア抜きをしてください。(91ページ参照)

#### ③ パワーステアリングホースを交換したら

パワーステアリングホースを交換したときは、左右一杯にハンドルを切って、油圧回路中のエア抜きをしてください。

## 7. ウォータホース エアコン配管点検

### ⚠️ 警告 ヤケド、火災、傷害事故防止のために

◆ウォータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ウォータホースが外れると、熱湯が吹き出します。

#### ① 点検

ウォータホース、エアコン配管に老化や傷によるガスもれ、水もれ油もれがないか、また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

#### ② 処置

ガスもれ、水もれ、油もれ、締付バンドのゆるみがある場合はただちに「お買いあげ先」で点検を受けます。

## 8. 電気配線の点検と掃除

**⚠警告** 火災防止のために

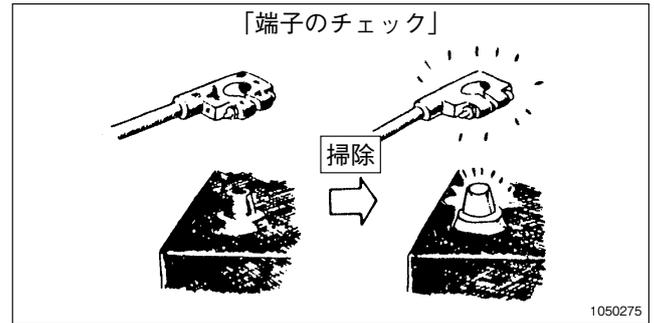
- ◆電気配線の点検時には、キーを《切》にし、バッテリーコードのアース側⊖端子を外してください。
- ◆ワイヤハーネスおよびバッテリー⊕コードが損傷していると、ショートや漏電または焼損などで火災や損傷の原因となりますので交換してください。
- ◆エンジン、バッテリー、電気配線まわりのワラクスなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

### ① 電気配線の点検

- (1) 配線の端子部の「ゆるみ」や「接続不良」または配線が「損傷」していると電気部品の性能を損なうだけでなく、「ショート（短絡）」などをする場合があります。
- (2) 傷んだ配線は、交換、修理します。

### ② 電気配線の掃除

- (1) エンジン、バッテリー、電気配線部にたまっている「ワラやゴミ」などは「火災」の原因になりますので取除きます。
- (2) バッテリー端子にバッテリー液がかかると、端子が「腐食」することがあります。バッテリー端子が腐食すると、「接触抵抗」が大きくなり、電流が流れにくくなりますので、「定期的」に汚れや腐食をサンドペーパーやブラシで取除きます。腐食防止のためにグリスを塗ります。



### 取扱いのポイント

- エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。  
エンジン始動不良の原因となります。

## 9. ヒューズの交換

**⚠警告** 火災防止のために

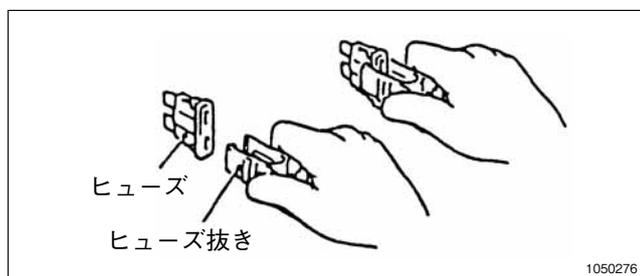
◆取付けてあるヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金、銀紙などをヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

配線の回路に異常を生じたとき、事故を未然に防止するためにヒューズを設けています。

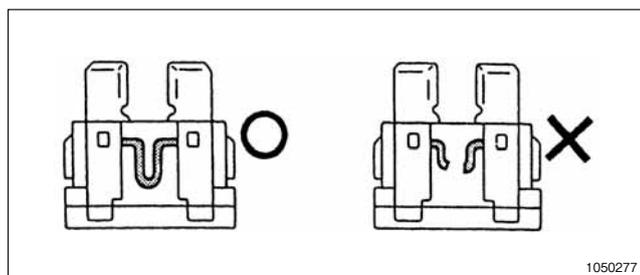
運転中、電気系統に異常を確認したときは、ヒューズが切れていないかチェックします。

### ① ヒューズボックスのヒューズ交換

- (1) キーを《切》にします。
- (2) ヒューズ抜きを使ってヒューズを引抜きます。  
(ヒューズ抜きはヒューズボックスの中に入っています。)



- (3) ヒューズが図の右側 (×印) のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。



### 取扱いのポイント

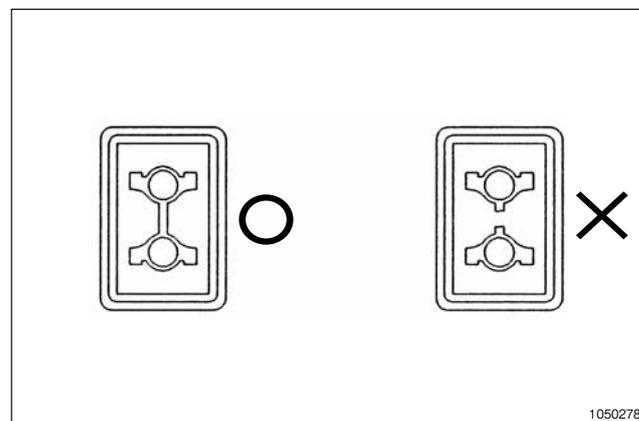
- 交換してもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

### ② ヒューズ (大電流用) の交換

**⚠警告** 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズ (大電流用) と異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金、銀紙などをヒューズ (大電流用) のかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

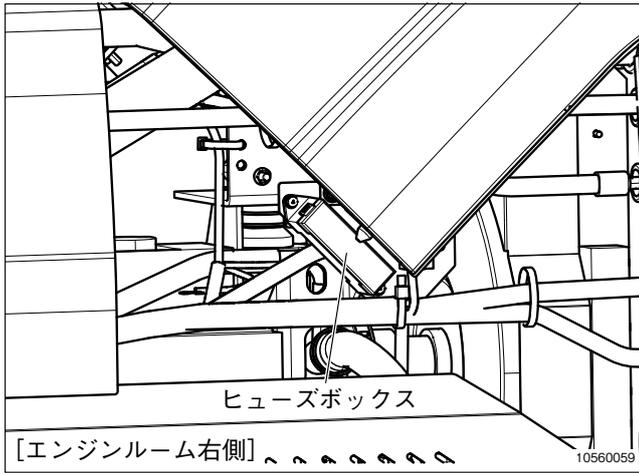
- (1) バッテリー (-) 端子を外します。
- (2) ヒューズ (大電流用) が下図右側 (×印) のようであればヒューズ切れです。指定のヒューズ (大電流用) と交換します。



### 取扱いのポイント

- 大電流用ヒューズが切れたときは、「お買いあげ先」で点検を受けてください。

# 手入れのしかた

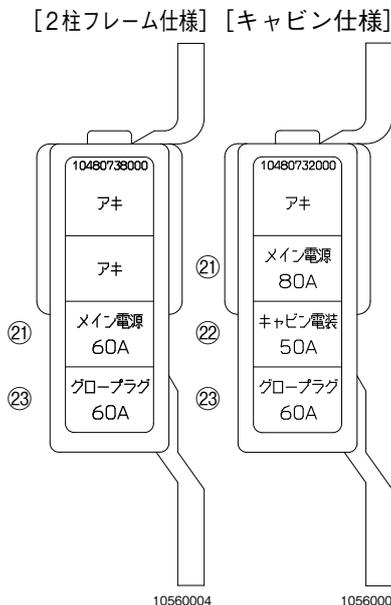


・ヒューズが溶断した場合、下記の機能が動作不能となります。

×：動作不能



影響の出る機能	前照灯	エンジン始動	方向指示器	コーナライタ	バック灯	ブレーキ灯	尾灯	車幅灯	ホーン	計器類のモニタランプ	マイコン機能	MACビジョン	MACビジョンの時計	フロントパネル	サイドパネル	倍速旋回	オートブレーキ旋回	4駆	ノンクラ走行	3点リンク	リフト	リフトロッド	PTO	作業機用電源	室内灯(キャビン)	カーステレオ(キャビン)	カーステレオメモリ・時計(キャビン)	シガライター(キャビン)	エアコンのファン(キャビン)	エアコン(キャビン)	後側作業灯(キャビン)	前側作業灯(キャビン)	ワイパ(キャビン)	ウォッシュャ(キャビン)					
ヒューズ No.(電流値)																																							
① (10A)	×																																						
② (15A)		×	×					×	×																														
③ (5A)																					×																		
④ (15A)																																							
⑤ (15A)																																							
⑥ (10A)																																							
⑦ (15A)																																							
⑧ (20A)																																							
⑨ (5A)																																							
⑩ (10A)																																							
⑪ (20A)																																							
⑫ (15A)																																							
⑬ (10A)																																							
⑭ (10A)																																							
⑮ (15A)																																							
⑯ (15A)																																							
⑰ (15A)																																							
⑱ (15A)																																							
⑲ (15A)																																							
⑳ (10A)																																							
大電流用																																							
⑳ (80A)																																							
㉑ (60A)																																							
㉒ (50A)																																							
㉓ (60A)																																							



## 10. バッテリーの点検と充電

この機械は出荷時には補水不要バッテリーが装備されています。

バッテリーの残存量の確認は110ページの③を参照してください。

指定バッテリー…80D26R	[28・30・32・36型2柱フレーム仕様]
95D31R	[28・30・32・36型キャビン仕様]
	[41・46・50型]

### **⚠危険** 火災や傷害事故防止のために

共通（補水不要なバッテリー、補水が必要なバッテリー）

- ◆ブースタケーブルを使用するときは、接続前にエンジンを停止してください。
- ◆ブースタケーブルは、100A以上の仕様のものを使用してください。  
容量の小さいケーブルを使用すると、ケーブルが焼損し、火災の原因となることがあります。
- ◆バッテリーを「着脱」したり充電器で「充電」するときは、エンジンを停止し、始動キーを抜取ってください。
- ◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆につなぐと電装品が焼損します。また、「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。
- ◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。
- ◆⊖端子を取付けたままで充電すると、発電器や電気配線を焼損することがあります。
- ◆バッテリーを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。
- ◆バッテリー液が皮膚に付着したり目に入ったときは、直ちに水洗いをし、医師の手当を受けてください。
- ◆衣服についたときは、水洗いし、弱アルカリ性石けんで、硫酸分を洗い流してください。

補水不要なバッテリー

◆密封タイプなので、急速充電や開封は厳禁です。

補水が必要なバッテリー

- ◆バッテリーは、充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し、「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり、「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。
- ◆「水素ガス」が滞留しないよう、風通しのよい場所で充電をしてください。  
失明や火傷をすることがあります。
- ◆バッテリー液（電解液）は、希硫酸で劇毒物ですので、こぼさないようにしてください。
- ◆バッテリーを充電するときは、液口栓をすべて取外してください。
- ◆バッテリーの液量が、側面に表示されている「下限」(LOWER LEVEL) 以下になった状態で使用したり充電すると、バッテリーの破裂（爆発）の原因となることがあります。
- ◆充電のとき、「バッテリー液」が飛散することがありますので、眼鏡などで目を守り、衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

### **⚠警告** 火傷や火災防止のために

共通（補水不要なバッテリー、補水が必要なバッテリー）

- ◆バッテリーを取外すときはバッテリー⊖コードを先にバッテリーの⊖端子（アース側）から外し、次にバッテリー⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリー⊕コードを先にバッテリー⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。

## 手入れのしかた

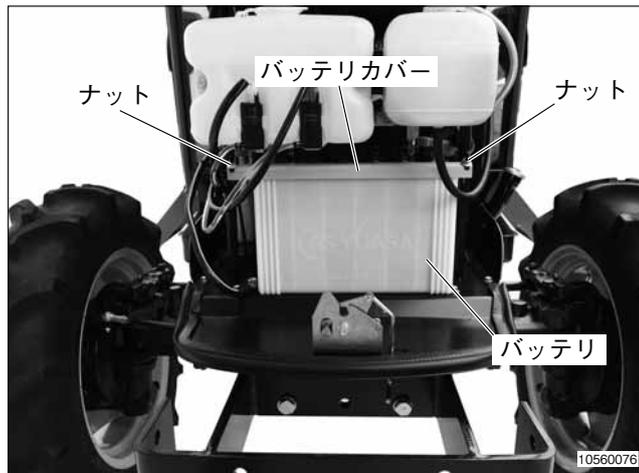
### ① バッテリー取付金具の点検

バッテリーの取付けがゆるいと、バッテリーが上下左右に動き、振動で電解槽やフタなどが摩耗したり、亀裂を起こすことがあります。

取付金具で、しっかり固定します。

取付金具などが腐蝕していれば、修理または取替えます。

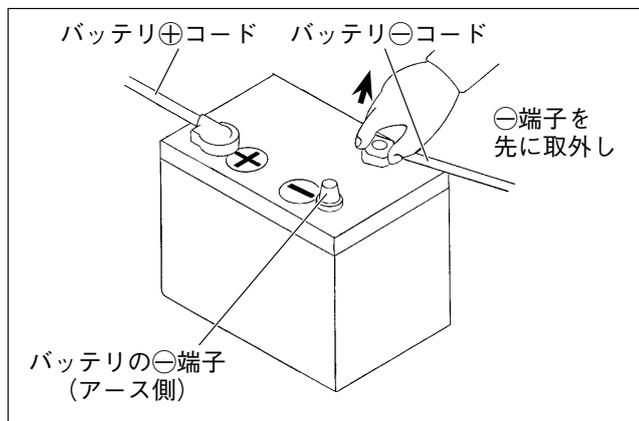
バッテリーは車体前方、フロントグリルを取外して点検します。



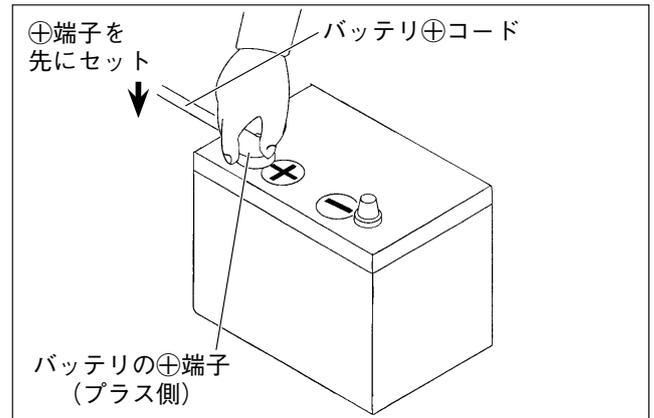
### ② バッテリー着脱時の注意

(1) バッテリーを「着脱」したり充電器で「充電」するときは、エンジンを停止し、スタータスイッチから「キー」を抜取ります。

(2) バッテリーコードを端子から取外すときは「⊖端子（アース側）」を先に外します。



(3) バッテリーコードを端子にセットするときは「⊕端子（プラス側）」を先に取付けます。



(4) バッテリー上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

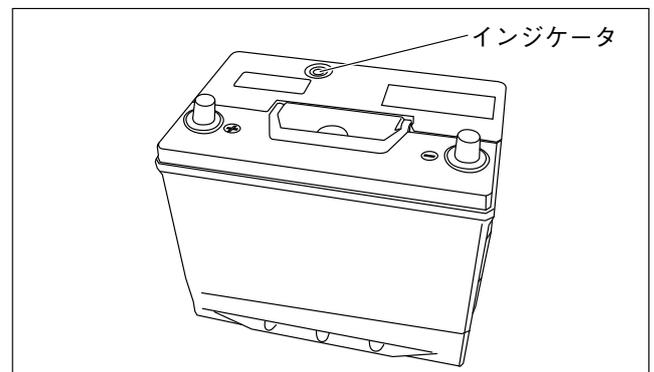
### ③ バッテリーの状態点検と、異常時の処理

(1) バッテリーは上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し、処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

#### 取扱いのポイント

●インジケータは真上から確認してください。



(2) バッテリーが破損して液もれが発生しているときは、交換してください。

#### 取扱いのポイント

●液もれが発生すると車体が腐蝕する原因となります。

4 充電・交換

**危険** 傷害事故防止のために

◆バッテリーは、以下の順序で取換えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。

- ・ 取外し… (-)端子側(アース側)から外す。
- ・ 取付け… (+)端子側を最初に接続する。

◆バッテリーを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液(希硫酸)のもれにより、失明や火傷をするおそれがあります。

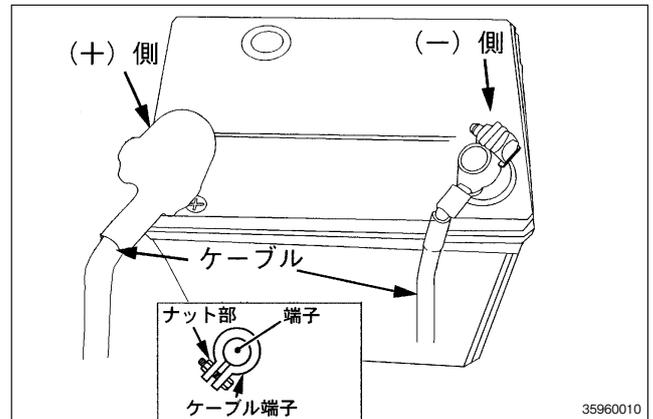
◆バッテリーを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリーの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリーを投げたり、落としたり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリーに入っている電解液(希硫酸)により、失明や火傷の原因となることがあります。

**警告**

◆バッテリーの取付け方向を間違えないでください。(+)と(-)が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。

1. バッテリーを機体から取外します。
  - (1) ナットをゆるめてフックを外します。
  - (2) ケーブル端子のナットをゆるめて、端子からケーブル端子を取外します。取外すときは、必ず(-)側から取外してください。



2. 充電を行うときは、平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また、充電は、バッテリーの(+)を充電器の(+)側に、バッテリーの(-)を充電器の(-)側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で(急速充電は厳禁です)行ってください。
3. 充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

**取扱いのポイント**

- バッテリーを交換するとき、バッテリーは下記指定のバッテリーを使用してください。電圧や容量が違くと故障の原因となります。

バッテリー形式：80D26R

[28・30・32・36型2柱フレーム仕様]

95D31R

[28・30・32・36型キャビン仕様]  
[41・46・50型]

- バッテリーはエンジン始動用ですから、ほかの用途には使用しないでください。
- バッテリーはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

**取扱いのポイント**

- バッテリーが完全に放電し、スタータスイッチを《入》にしても充電・オイルランプが点灯しない状態になった場合は、バッテリーを交換してください。他のバッテリーでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し、電装品を破損することがあります。

次のような状態が発生したときは充電を行ってください。また、充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリーの寿命ですので交換を行ってください。

- ・ スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- ・ アクセルの加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。
- ・ ホーンの音が、いつもより低い。

## 補水が必要なバッテリーの場合

(補水が不要なバッテリーの説明と異なる部分の説明です。)

### ⑤ 点検・補水

#### ⚠危険

◆バッテリーには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリーの2種類があります。補水が必要なバッテリーについては、以下のことを守ってください。

◆バッテリーは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。

LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。

すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

◆バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。

◆充電のとき、「バッテリー液」が飛散することがあるので、保護眼鏡などで目を守り、ゴム手袋を着用ください。

◆バッテリー液が皮膚に付着したり目に入ったときは、直ちに水洗いをし、医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし、弱アルカリ性石けんで、硫酸分を洗い流してください。

バッテリーの状態を点検し、異常があれば処置します。

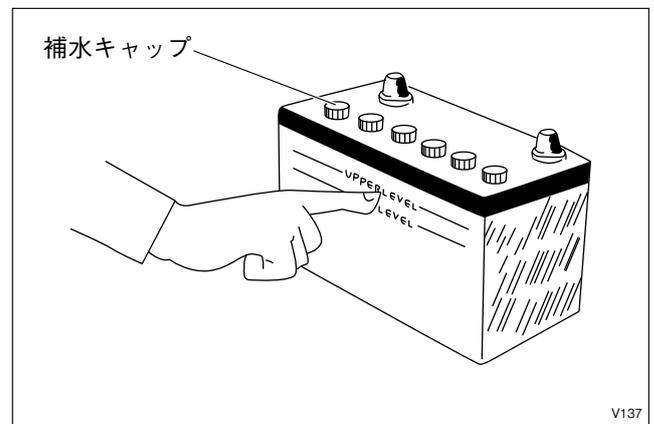
1. 残存容量の確認（補水が必要なバッテリー）
  - (1) バッテリー液の「比重」を測定する方法と、「バッテリーテスト」で測定する方法があります。
  - (2) 残存容量が低下していれば、ただちに補充電をします。

- (3) バッテリー液の比重が「1.220（20℃）」以下であれば補充電をします。

比重 (20℃)	放電電気量 (%)	残存容量 (%)
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

- (4) バッテリーテストで測定するときは、バッテリーテストの取扱説明書に従って測定と補充電を行ってください。

- (5) バッテリー液の量を点検し、「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し、不足しているときは補水します。



#### 取扱いのポイント

- バッテリー液が不足している極板が空気中に露出すると、バッテリー寿命は著しく短くなります。
- バッテリー液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
- バッテリーに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

⑥ 充電

**⚠危険** 傷害事故防止のために

◆充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1. 充電を行うときは、平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態でを行います。

また、充電は、バッテリーの (+) を充電器の (+) 側に、バッテリーの (-) を充電器の (-) 側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行ってください。

**取扱いのポイント**

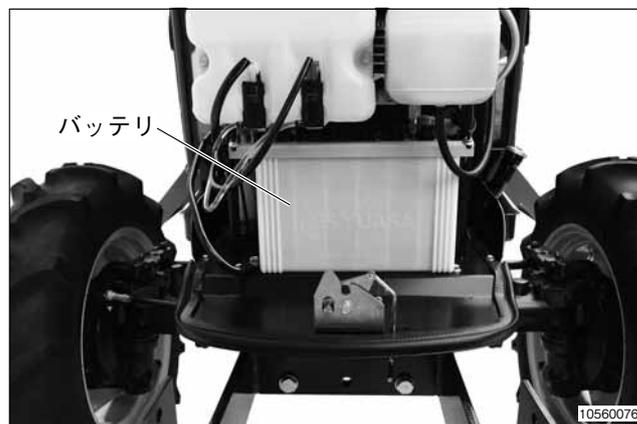
●急速充電を行ったときは、作業後必ず充電を行ってください。

2. 充電が終わったら補水キャップを全て取付けてください。

⑦ ブースタケーブルによるエンジン始動

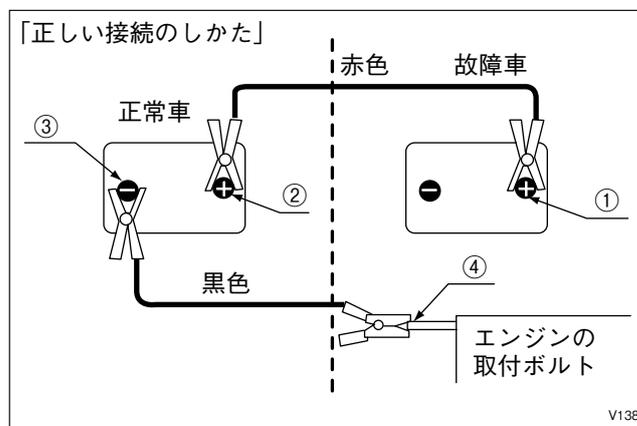
バッテリーが放電し、エンジンが始動できないとき、他車（12V仕様車）の良好なバッテリーを電源として始動する場合、ブースタケーブルを使用します。

このときは、次の手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

(1) 正常車のエンジンを停止して、①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。



接続順序④は、ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のエンジンの取付ボルトに接続します。

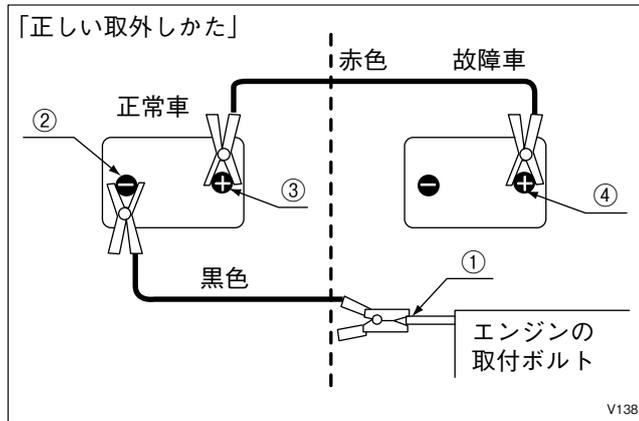
(2) 放電バッテリー搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときは、正常車のエンジンをスタートしてから、放電バッテリー搭載車のエンジンをスタートさせます。

手入れのしかた

## 手入れのしかた

### 「ブースタケーブルの取外し」

- ・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは、**接続の場合と逆の順序**で行います。



### ⑧ バッテリー単体での充電

共通(補水不要なバッテリー, 補水が必要なバッテリー)

- (1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し、スタータスイッチ(始動キー)を抜取ります。
- (2) 機体からバッテリーを取外します。
- (3) 「水素ガス」が滞留しないよう、風通しのよい場所で充電をします。
- (4) 「火気」を近づけたり「スパーク(短絡)」による電気火花が発生しないようにします。
- (5) 充電器のクリップを着脱するときは、充電器のスイッチを「切」にし、⊕端子(赤色)・⊖端子(黒色)を正しく取付けます。

#### 補水不要なバッテリー

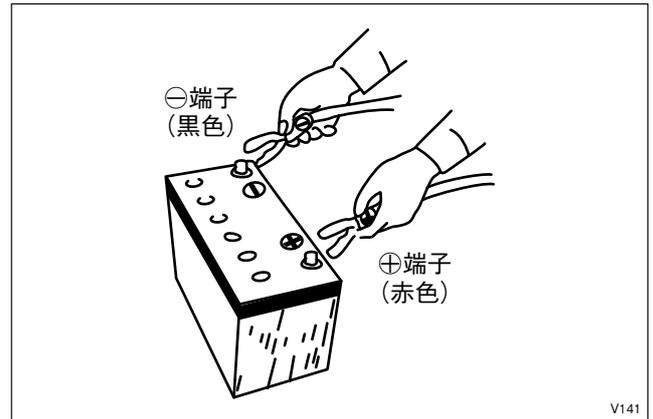
- (1) 急速充電厳禁。

#### 補水が必要なバッテリー

- (1) 充電前に「補水キャップ」をすべて取外します。



- (2) 急速充電はできるだけ避け、普通充電をし、液温が「45℃」を超えないようにします。



### 取扱いのポイント

- 各端子は、「ゆるみ」がないように締付けてください。
- 取付けのとき、バッテリー端子部は布で油などを拭き取っておきます。取付け後バッテリー端子部には、腐蝕防止のためグリースを塗布してください。
- バッテリー⊕端子のゴムブーツを、取付けておきます。
- 厳寒時は、機械を格納するときに、バッテリーを取外して暖かい所に保管してください。
- 亀裂や変形のあるバッテリーは、新品と取替えてください。汚れていれば、清水で洗浄してください。洗浄後は、水分を拭き取ってください。

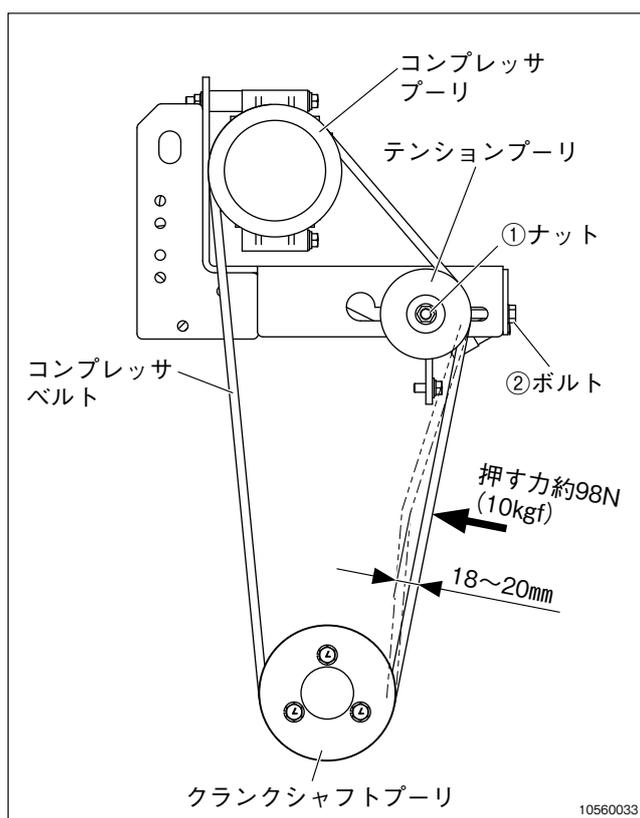
## 11. コンプレッサベルトの張り調整 [キャビン装備機]

### ① 点検……

- (1) コンプレッサベルトのタワミは、下図のように中央部を押して {押す力約98N (10kgf)} 18~20mmの範囲であれば良好です。

### ② 調整……

- (1) アワメータが100時間経過後、コンプレッサベルトの張り調整を行います。
- 1) テンションプーリの①ナットをゆるめます。
  - 2) テンションプーリの②ボルトを右に回して調整します。
  - 3) テンションプーリの①ナットを締付けます。  
締付トルク 44~54N・m (4.5~5.5kgf・m)



- 4) コンプレッサおよびレシーバへのスチーム洗浄は、冷媒ガスの圧力が上昇して危険ですので避けてください。

### 取扱いのポイント

- ベルトに損傷を発見した場合、張り調整してもベルトのタワミが18~20mmにならない場合はベルトを交換してください。

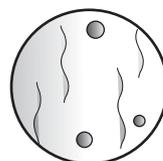
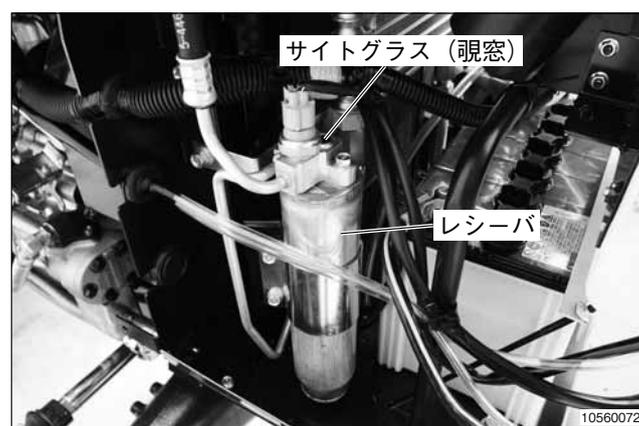
## 12. 冷媒 (ガス)

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。

下記要領で点検し、冷媒が不足しているときは、「お買いあげ先」で点検および補充をしてもらいます。

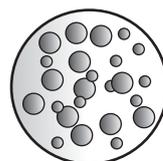
### ① 点検

- (1) エアコンを以下の条件で運転します。
- エンジン回転数 : 約1500rpm
  - 温度コントロールレバー : 最強冷位置 (左端)
  - ファンスイッチ : 最強風 (H I)
  - エアコンスイッチ : ON
- (2) サイトグラスにより、流れている冷媒の状態を確認します。



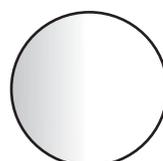
#### 適正

視窓を覗いて、気泡がほとんど流れてこない状態が正常です。



#### 不足

視窓を覗いて、気泡が連続的に通過していく場合 (気泡が多い) は冷媒不足です。



#### なし

視窓を覗いて、クーラガスの流れが見えない場合 (気泡も全く無し) は冷媒がない状態です。

# 長期格納のしかた

## 1. 機械の掃除・洗浄・格納

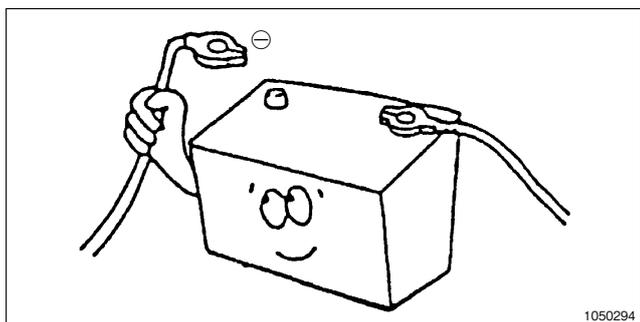
トラクタを保管するときは各部の汚れをよく掃除したうえで次の処置をします。

- ① 金属露出部、ネジ部にグリスやオイルを塗って錆止めします。
- ② 油もれ箇所、各部の油量を点検し約5分間エンジンを回してオイルを各部にゆきわたらせます。
- ③ 不凍液の濃度を調整します。(93ページ参照)
- ④ 燃料タンクに軽油を満タンにします。
- ⑤ タイヤの老化を防止するために空気圧を標準空気圧にしてタイヤの下に板などを敷いて直接地面に置かないようにします。
- ⑥ 作業機（ロータリなど）を地面におろします。

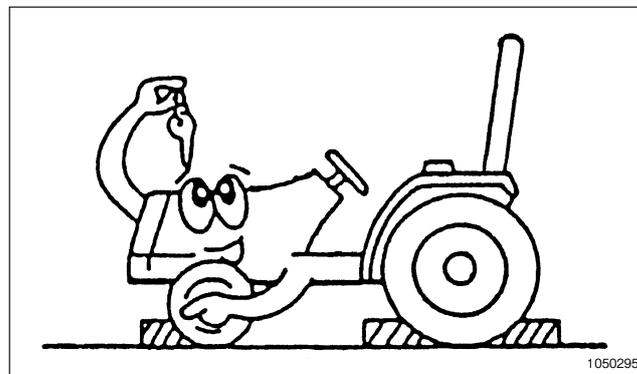
**警告** 火災防止のために

◆機械にシートカバーを掛けるときはエンジンが冷えてから行なってください。  
エンジンが熱いときにシートカバーを掛けると火災の原因になることがあります。

- ⑦ 保管場所は屋内とする。やむをえず屋外におく場合は風雨にさらさないようシートカバーを使用します。また停止直後の「熱い状態」ではシートカバーを掛けないようにします。
- ⑧ ウェイト類を取り外します。
- ⑨ 保管中の不意な漏電、発火を防ぐためバッテリーを車体から取り外し、風通しの良い屋内に保管します。また機体に取付けたまま保管するときはバッテリーのコードのアース側⊖端子を外しておきます。



- ⑩ 保管中、不意にトラクタが動き出すのを防ぐため、タイヤに歯止めをし、キーを抜き取っておきます。



### 取扱いのポイント

- 錆の発生を防止するため、塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。

● 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械の破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

**警告** ヤケド、火災、傷害事故防止のために

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散し、2m以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

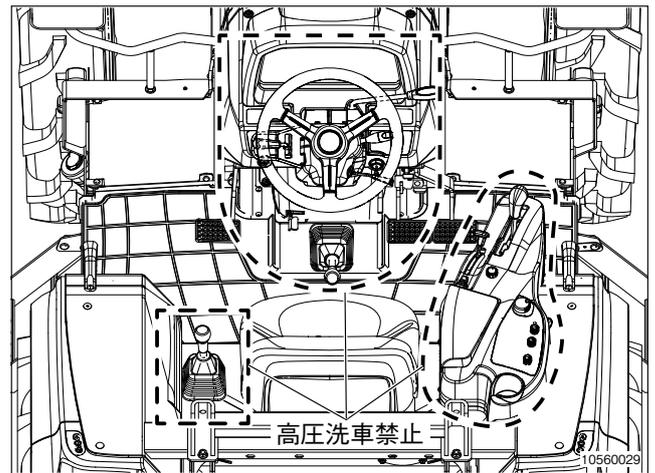
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすことがあります。
2. 油圧ホース破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例)

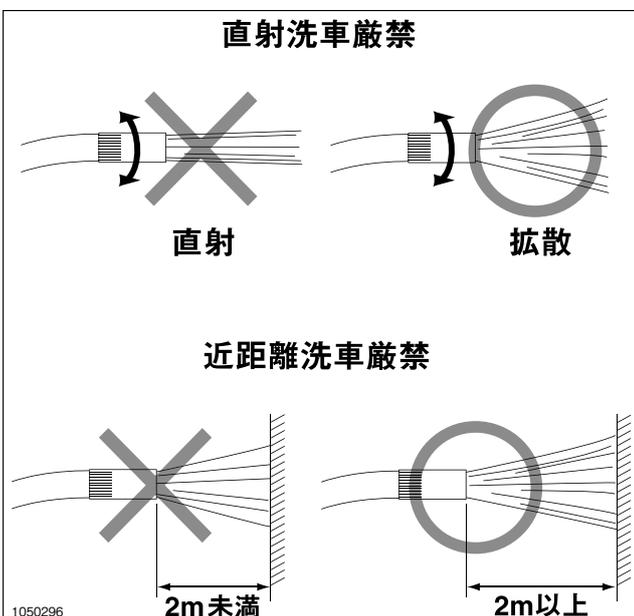
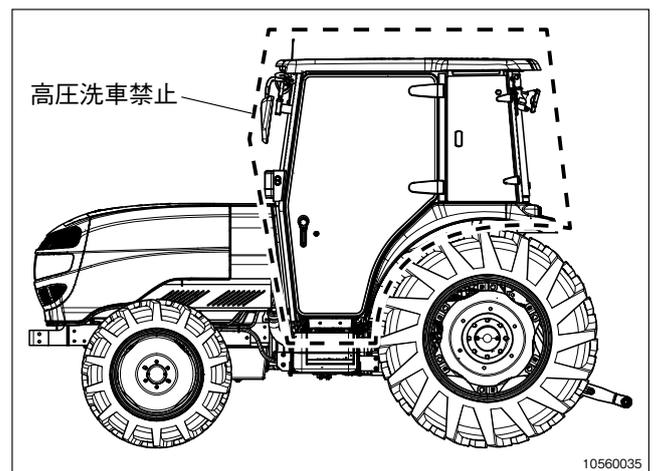
- (1) シール・ラベルの剥がれ
- (2) 電装部品、エンジン・ラジエータ、キャビン室内などへの侵入による故障
- (3) クローラ、タイヤ、オイルシールなどゴム類、化粧カバーなどの樹脂部品、ガラスなどの破損
- (4) 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

取扱いのポイント

高圧洗車機などによる洗車の際には、メータパネル、ステアリングポスト回り、ポンパレバー、ホーンボタン回り、バッテリー、エンジン回りの電気配線・電装品（および電子油圧操作部）には、圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因となります。



安全キャブのガラス部、ルーフ部の洗車の際には、圧力水をかけないでください。（圧力を下げるか水流を広げてください。）電気部品の故障の原因となります。



の長期格納

### 2. 格納中の手入れ

- ① 1ヶ月に1度、防錆、バッテリー補充電のためエンジンを約10分間運転します。
- ② 金属露出部、ネジ部を点検し、防錆処置をします。
- ③ 油もれ、水もれの有無を点検し不具合のある場合は処置します。

#### 取扱いのポイント

- エンジンを回す前に **1. 機械の掃除・洗浄・格納** で処置した項目を点検し復元してください。

### 3. 再使用にあたって

格納後、はじめて使用するときには各部の点検を入念に行なった後に運転します。

- ① **1. 機械の掃除・洗浄・格納** で処置した項目を点検し、復元します。
- ② 運転前の点検を確実にを行います。

# 不調時の処置

- ・不調が発生したら、すぐにその原因を調べて処置をし、故障を大きくしないようにします。
- ・原因がわからない場合や、調整しても再発するときは「お買いあげ先」に相談し、点検を受けてください。
- ・そのときは不調の状況とあわせて「型式」・「機械番号」をお知らせください。

## 警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整・整備は、機械を平坦な場所に置き、駐車ブレーキをかけ、作業機を降ろしエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

◆エンジンまわりを点検・整備するときは、エンジンが冷えてから行なってください。

## 1. エンジン部

### 1. 始動しない、または始動困難

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①キーを回しても、スタータが回らない	○バッテリーの放電	・バッテリーを充電または交換する	109～114
	○バッテリー端子の外れ、ゆるみ、腐食	・端子部を掃除して確実に締付け、グリスを塗布し防錆しておく	109～114
	○ヒューズ⑳の溶断	・「お買いあげ先」で点検を受ける	107～108
②スタータは回るが、エンジンがかからない	○燃料タンクに燃料がない	・補給する	—
	○燃料フィルタ詰まり	・フィルタの掃除または交換をする	91
	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	91
	○ヒューズ㉓の溶断	・「お買いあげ先」で点検を受ける	107～108
	○ヒューズ㉒の溶断	・配線をチェックし、ヒューズを交換する。	107～108

2. エンジン出力不足およびエンジン自然停止

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①エンジン 回転が不規則	○燃料系統にエア混入	・エア抜きを行う	91
	○燃料フィルタの水・ゴミ詰まり	・フィルタの掃除または交換をする	91
	○パイプ系の燃料もれ	・クランプの締付け, パイプ交換をする	—
	○噴射ノズルの水・ゴミ詰まり	・「お買いあげ先」で修理する	—
②エンジン が過回転する	○ガバナにゴミなどが詰まっている	・「お買いあげ先」で修理する	—
③運転中エンジンが突然停止した	○燃料不足	・燃料補給とエア抜きを行う	91
	○ヒューズ⑳の溶断	・「お買いあげ先」で点検を受ける	107～108
	○ヒューズ㉑の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	107～108
	○ノズル不良	・「お買いあげ先」に依頼し交換する	—
	○オイル不足によるエンジン焼付き	・「お買いあげ先」に依頼する	—
	○ラジエータの目詰まり	・ラジエータスクリーンを掃除する	98
④エンジン が過熱する	○冷却水の不足	・冷却水を補給する	92～93
	○ファンベルトのゆるみ, 破損	・ベルトの張り調整または交換をする	101
	○エンジンオイル量が少ない	・規定量まで補給する	89～90
⑤エンジン の排気色が 白い (除く 始動直後)	エンジンオイル量が多すぎる	・点検し適正量にする	89～90
⑥エンジン の排気色が 黒すぎる	○エアクリーナが詰まっている	・エレメントの掃除をする	98
	○燃料が悪い	・正規の燃料に入替える	90
⑦エンジン の出力不良	○エアクリーナの詰まり	・エレメントを掃除する	98
	○燃料不足, 燃料フィルタの詰まり	・燃料系統をチェックする	90
⑧運転中オイルランプ が点灯する	○エンジンオイル量が少ない	・規定量まで補給する	88～89
	○エンジンオイルの粘度が低い	・適正粘度のオイル交換する	88～89
	○エンジンオイルフィルタの目詰まり	・オイルフィルタを交換する	89
⑨運転中に チャージランプ が点灯する	○ファンベルトのゆるみまたは破損	・張り調整またはベルト交換をする	101

## 2. 走行・運転操作部

### 1. 走らない、ブレーキがきかない

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①クラッチがすべる	○クラッチペダルセンサの不良	・「お買いあげ先」で修理する	—
	○クラッチの摩耗・焼付き	・「お買いあげ先」で修理する	—
②クラッチが切れない	○クラッチペダルセンサの不良	・「お買いあげ先」で修理する	—
	○クラッチの摩耗・焼付き	・「お買いあげ先」で修理する	—
③ブレーキの効きが悪いまたは片効きである	○ブレーキペダルの遊び量が大きすぎる	・ペダルの遊びを調整する	103
	○ブレーキライニング摩耗・焼付き	・「お買いあげ先」でブレーキディスクを交換する	—
	○左右の踏込み量が異なる	・踏込み量を左右同じにする	103
④ブレーキペダルの戻りが悪い	○ブレーキ戻しスプリングの損傷	・スプリングを交換する	—
	○各摺動部のグリス切れ	・グリスアップをする	95
⑤オートブレーキ旋回が作動しない	○ヒューズ⑥⑧⑩の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	107
⑥変速しても前進（後進）しない	○ヒューズ③⑥⑧⑩の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	108
	○油圧系統の不良	・「お買いあげ先」で修理する	—
	○電装・センサ類の不良	・「お買いあげ先」で修理する	—
	○油圧クラッチの不良	—	—
⑦変速できない	○ヒューズ③⑥⑧⑩の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	108
	○油圧系統の不良	・「お買いあげ先」で修理する	—
	○電装・センサ類の不良	・「お買いあげ先」で修理する	—

2. パワーステアリング

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①ハンドル が空転する	○油量不足 (ミッションオイル)	・油 (ミッションオイル) を規定量ま で補給する	93
	○配管の損傷, 油もれ	・増締め, または交換する	—
	○ポンプの故障	・「お買いあげ先」で修理する	—
②ハンドル が重い ハンドル が取られる	○タイヤ空気圧の不揃い	・左右共に規定空気圧にする	104
	○ロッドエンドの遊び発生	・「お買いあげ先」で交換する	—
	○使用オイルの粘性大	・オイル交換または暖機運転を十分に 行う	93
	○トーイン不良	・修正をする	102
③前輪のふ らつき (ハ ンドルの遊 びが多い)	○各締付部のゆるみ発生	・「お買いあげ先」で点検を受ける	—
	○ロッドエンドの遊び発生	・「お買いあげ先」で交換する	—
	○トーイン不良	・修正をする	102
	○油圧シリンダにエア混入	・油量 (ミッションオイル) を点検し エア抜きをする	22~23
④油圧回路 系の異常音	○油量不足 (ミッションオイル)	・油 (ミッションオイル) を規定量ま で補給する	93
	○暖機運転不足	・暖機運転を十分に行う	—
	○油圧オイルフィルタの詰まり	・油圧オイルフィルタの交換	94
		・パイプのつぶれなどは修理	—

### 3. 油圧部

#### 1. 油圧関係

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①油圧回路の異常音	○油量不足 (ミッションオイル)	・油 (ミッションオイル) を規定量まで補給する	93
	○暖機運転不足	・暖機運転を十分に行う	—
	○油圧オイルフィルタの詰まり	・油圧オイルフィルタの交換をする ・パイプのつぶれなどは修理する	94 —
②リフトアームが上がらない	○油量不足 (ミッションオイル)	・油 (ミッションオイル) を規定量まで補給する	93
	○油圧オイルフィルタの詰まり	・交換する	—
	○ギヤポンプの故障 ○コントロールバルブの故障	・「お買いあげ先」で修理する ・「お買いあげ先」で修理する	— —
③配管に油もれがある	○各部ジョイントのゆるみ	・増締めを行う	—
	○パイプの亀裂	・「お買いあげ先」で交換する	—
④リフトアームが下がらない	○作業機降下速度調節グリップが《固定》位置になっている	・《速い》の方向に操作する	53
	○コントロールバルブの故障	・「お買いあげ先」で修理する	—

## 4. 電気・自動制御部

### 1. 電気関係

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①電装品各部が作動しない	○ヒューズの溶断	・配線をチェックし各ヒューズを交換する	107～108
②ランプ、インジケータが点灯、点滅しない	○電球 (バルブ) 切れ	・各電球を交換する	128

### 2. 自動制御関係

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①マイコンが作動しない	○ヒューズ⑥の溶断	・配線をチェックしヒューズを交換する	107～108
②ポジションコントロールが作動しない	○作業機降下速度調節グリップが《固定》されている	・《速い》方向に操作する	53
	○上げ高さボリュームが《油圧》になっている ○ヒューズ⑦の溶断	・上げ高さボリュームを設定する ・配線をチェックしヒューズを交換する	37 107～108
③深さ自動が作動しない	○耕深カプラが外れている	・接続し、深さ自動スイッチにする	42
	○上げ高さボリュームが《油圧》になっている	・上げ高さボリュームを設定する	37
	○深さ自動スイッチが《切》になっている ○おまかせが《走行》になっている	・深さ自動スイッチを押す ・おまかせを作業モードに切替える	40 32～33
④作業機が水平にならない	○傾き設定ボリューム (スイッチ付) が《水平》になっていない	・傾き設定ボリューム (スイッチ付) を《水平》にする。	44

### 取扱いのポイント

- 各不調時の点検は、配線接続部の外れ、接触不良およびアース不良の点検も合わせて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

## 5. キャビン部

### 1. キャビン関係

状 況	原 因 (点検箇所)	処 置	参照ページ
①電装品各部が作動しない	○ヒューズ切れ	・配線をチェックし各ヒューズを交換する	107～108
②各スイッチが作動しない	○ウォッシュ液不足	・補給する	97
③室内灯が点灯しない	○電球 (バルブ) 切れ	・電球 (バルブ) を交換する	128
④作業灯が点灯しない	○電球 (バルブ) 切れ	・電球 (バルブ) を交換する	128
⑤冷・暖房がきかない	○エアコンスイッチが《OFF》になっている	・《ON》にする	81～83
⑥風量が少ない	○フィルタ目詰まり	・フィルタを掃除する	100～101

#### 取扱いのポイント

- 各不調時の点検は、配線接続部の外れ、接触不良およびアース不良の点検も合わせて行ってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは点検を受けてください。

# 付 表

## 1. 主要諸元

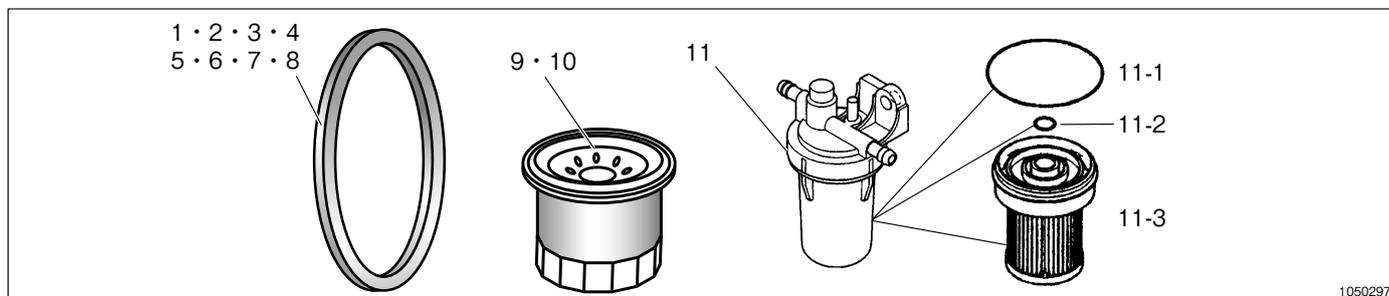
型 式	三菱GA28	三菱GA30	三菱GA32	三菱GA36	三菱GA41	三菱GA46	三菱GA50		
車 両 型 式 名	三菱EDM-GT28E	三菱EDM-GT36C			三菱EDM-GT46F		三菱EDM-GT50D		
駆 動 方 式	4 輪 駆 動								
機 体 寸 法	全 長 (mm)	3270			3645				
	全 幅 (mm)	1520			1700				
	全 高 (mm)	2465[2100]	2450[2085]	2475[2110]		2490[2275]	2515[2300]		
	軸 距 (mm)	1665	1675	1700	1730	1930		1970	
	前 輪 ト レ ッ ド (mm)	1070	1115			1220		1250	
	後 輪 ト レ ッ ド (mm)	1050~1130	1095~1395		1110~1410	1220~1510			
	最 低 地 上 高 (mm)	335	320	355		360	385		
	質 量 [キャビン] (kg)	1460[1630]	1515[1685]	1530[1700]		1810[2015]	1820[2025]	1865[2070]	
エ ン ジ ン	型 式 名	E3CD	E3CG			E4CG		E4DE	
	種 類	水冷4サイクル3気筒ディーゼル				水冷4サイクル4気筒ディーゼル			
	総 排 気 量 (L)	1.498	1.647			2.197		2.955	
	出力/回転数 (kw/PS/rpm)	21.2   28.8 / 2500	22.7   30.9 / 2500	24.0   32.6 / 2600	26.6   36.1 / 2600	30.2   41.1 / 2500	33.5   45.6 / 2500	36.8   50 / 2500	
	燃 焼 室 型 式	渦流室							
	使 用 燃 料	ディーゼル軽油, JIS 2号, 3号, 特3号							
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	38				55			
	バ ッ テ リ	フレーム車: 80D26R / キャビン車: 95D31R				95D31R			
走 行 部	前 輪 タ イ ヤ	7-16-4PR		8-16-4PR		8-18-4PR	8.3-20-4PR		
	後 輪 タ イ ヤ	11.2-24-4PR	12.4-24-4PR	12.4-26-4PR	13.6-24-4PR	13.6-26-4PR	13.6-28-4PR		
	ク ラ ッ チ 形 式	湿式多板							
	ブ レ ー キ 形 式	湿式ディスク式							
	か じ 取 方 式	パワーステアリング (全油圧式)							
	変 速 方 式	常時噛み合い式							
	変 速 段 数	F24, R24 (高速車F32, R32)				F32, R32			
	走 行 速 度 (km/h)	標 準	前 進	0.20~14.53	0.23~14.55	0.23~14.72		-	-
後 進			0.19~14.09	0.22~14.11	0.22~14.28		-	-	-
高 速		前 進	-	0.18~27.53	0.20~28.25		0.19~27.52	0.20~28.62	0.20~29.14
		後 進	-	0.17~26.70	0.19~27.39		0.19~27.22	0.20~28.30	0.20~28.82
最 小 旋 回 半 径 (m)	2.0				2.4				
P T O	回 転 速 度 (rpm)	正 転	565, 746, 949, 1210		588, 776, 987, 1258		562, 763, 957, 1207		
		逆 転	746		776		763		
	軸 径 (mm)	35 (6 スプライン)							
作 業 機 昇 降 装 置	油 圧 制 御	ポジションコントロール							
	装 着 方 式	3点リンクJIS I形							

[ ] 内の値はキャビン装備機を示す。

※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

## 2. 主な消耗部品

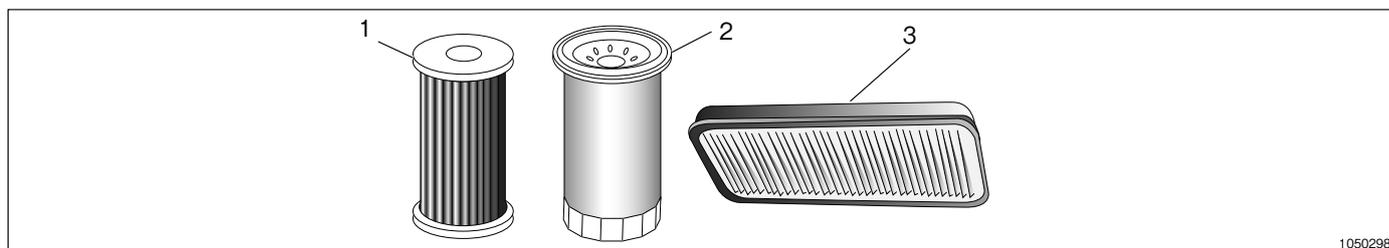
### 1. エンジン関係



1050297

見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型 寸	備 考
1	9988 0000 030	ファンベルト	1		28型用
2	9988 0000 040	ファンベルト	1		28X・30・32・36型用
3	9988 0000 050	ファンベルト	1		30X・32X・36X・41・41X・46・46X型用
4	9988 0000 060	ファンベルト	1		50・50X型用
5	1056 0833 000	V-ベルト (エアコンコンプレッサ)	1		28型用
6	1056 0831 000	V-ベルト (エアコンコンプレッサ)	1		30・32・36型用
7	1057 0831 000	V-ベルト (エアコンコンプレッサ)	1		41・46型用
8	1057 0817 000	V-ベルト (エアコンコンプレッサ)	1		50型用
9	9911 0000 660	フィルタアセンブリ	1		28型用
10	9988 0000 020	フィルタアセンブリ	1		30・32・36・41・46・50型用
11	31A62-00300	フュエルフィルタ	1		
11-1	31A62-00318	O-リング (大)	1		
11-2	31A62-00319	O-リング (小)	1		
11-3	31A62-00317	エレメント	1		

### 2. エアクリーナ・油圧ライン関係

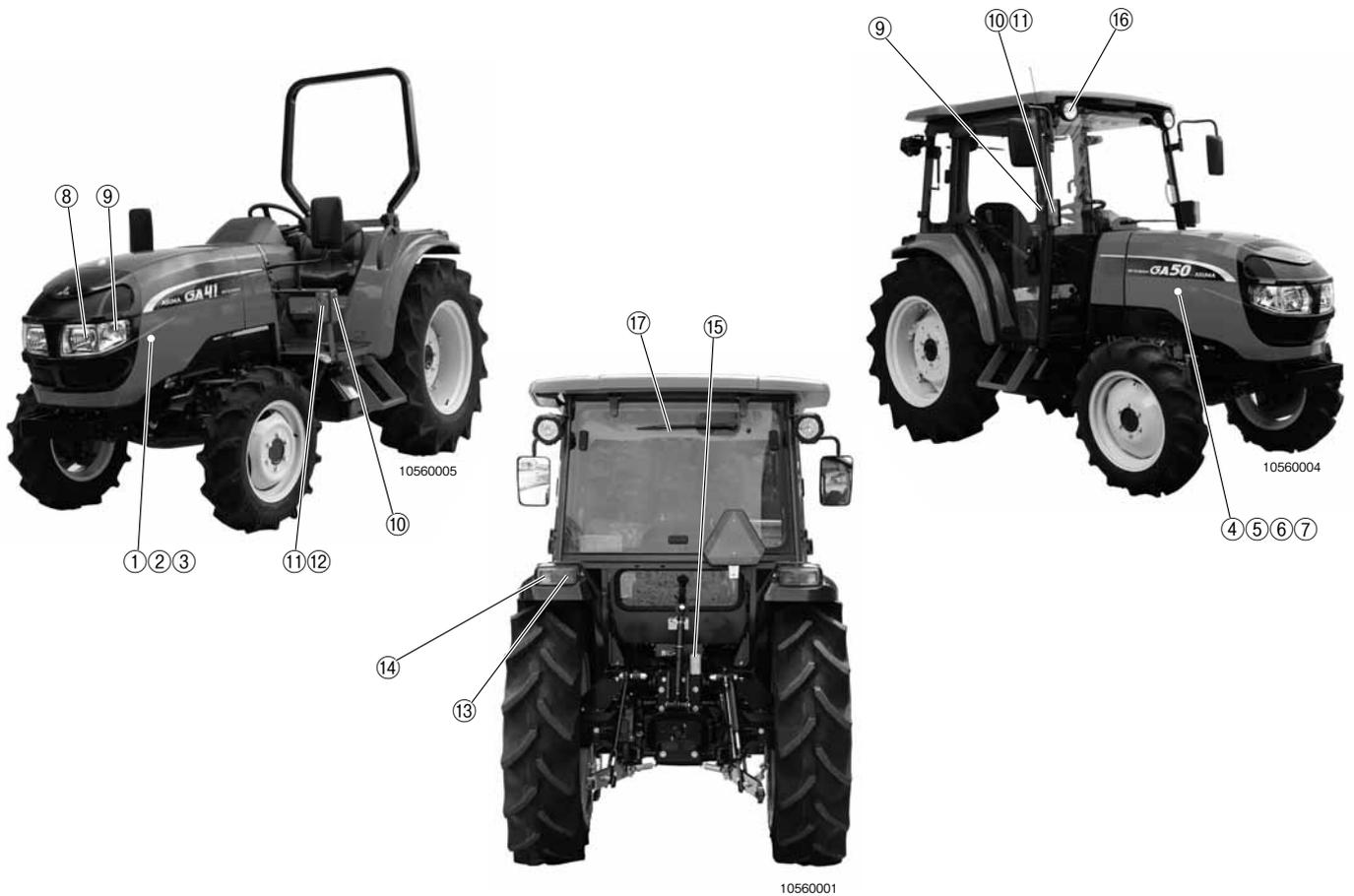


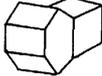
1050298

見出番号	部品番号	部品名称	台当個数	型 寸	備 考
1	1056 0411 200	エレメント (エアクリーナ)	1		
2	704E 5082 000	油圧フィルタ	1		
3	1044 6145 000	エレメント (キャビンフィルタ)	1		

・ご用命のときは、「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

3. 電装関係



No.	部品番号	部品名称	定格	備考	形状
1	1037 5581 200	ヒューズ (大容量)	50A	キャビン仕様	
2	1037 5502 200	ヒューズ (大容量)	60A	共通	
3	1782 7425 200	ヒューズ (大容量)	80A		
4	0980 1000 506	ヒューズ	5 A	共通	
5	0980 1001 006	ヒューズ	10A		
6	0980 1001 506	ヒューズ	15A		
7	0980 1002 006	ヒューズ	20A		
8	1040 5511 500	バルブ (前照灯)	12V 55/60W	ハロゲン (H4) 共通	
9	1039 2813 200	バルブ (コーナーライト)	12V 18W	共通	
10	0980 8120 508	バルブ (方向指示灯・側面)	12V 5W	共通	
11	0980 8122 104	バルブ (方向指示灯・前)	12V 21W	共通	
12	0980 8121 001	バルブ (車幅灯・前)	12V 10W	共通	
13	1956 6731 200	バルブ (制動灯・後/尾灯・後)	12V 21/5W	共通	
14	0980 8122 104	バルブ (方向指示灯・後)	12V 21W		
15	0980 8122 104	バルブ (後退灯)	12V 21W		
16	3565 0904 100	バルブ (作業灯・前)	12V 35W	ハロゲン (H3) キャビン仕様	
17	0980 8120 508	バルブ (室内灯)	12V 5W	キャビン仕様	

## 3. アタッチメント一覧表 (参考)

[28・30・32・36型]

	コードNo	名 称	型 式	28型	30型	32型	36型	備 考
1	32101 50051	バンパーウエイト	BW-201	○	○	○	○	20kg 3個まで装着可
2	32101 50161	バンパーウエイト	BW-F1	○	○	○	○	20kg 6個まで装着可
3	32101 50171	バンパーウエイト	BW-F2	○	○	○	○	22kg 6個まで装着可
4	32101 50270	バンパーウエイト	BW-30MT	○	○	○	○	30kg 6個まで装着可
5	9911 0033 810	ヒッチ (トレーラ) セット	DH-GA36	○	○	○	○	
6	9911 0033 820	リンク (トレーラ延長)	DH-GA36	○	○	○	○	
7	32116 50170	フード	2F-GOMGXM	○	○	○	○	
8	1208 7730 000	ワーキングランプ	EWL-GOM	○	○	○	○	安全フレーム専用
9		燃料ポンプ	T331PKIT	○	○	○	○	
10	32539 11060	草巻付き防止棒キット	KB-KIT19		○	○	○	RB193S用
11	32546 20210	延長レベラキット	EXL-GO	○	○	○	○	
12	32583 10610	アダプターキット	ADAPTER-GO	○	○	○	○	
13	32124 12160	サブバルブ	D1-36GA	○	○	○	○	安全フレーム専用 1連カブラ付
14	32124 12170	サブバルブ	D2-36GA	○	○	○	○	安全フレーム専用 2連カブラ付
15	32124 12180	サブバルブ	D1-36GA CAB	○	○	○	○	キャビン車用電磁バルブ式 1連カブラ付
16	32124 12190	サブバルブ	D2-36GA CAB	○	○	○	○	キャビン車用電磁バルブ式 2連カブラ付
17	32811 13160	オートローダ	GLD-36GA	○	○	○	○	制限重量4.7KN (480kg) 安全フレーム専用 手動レバー式
18	32811 13170	オートローダ	GLD-36GA PC	○	○	○	○	制限重量4.7KN (480kg) 安全フレーム専用 PCレバー式
19	32811 13180	オートローダ	GLD-36GA EC	○	○	○	○	制限重量4.7KN (480kg) 安全フレーム専用 ECレバー式
20	32814 15000	バケット	B-1014HLD	○	○	○	○	作業幅1037mm 容量0.14m <sup>3</sup>
21	32814 15350	大容量バケット	DB-1540HLD	○	○	○	○	作業幅1545mm 容量0.4m <sup>3</sup>
22	32814 15500	爪付バケット	TB-10145HLD	○	○	○	○	作業幅1037mm 爪数5×容量0.14m <sup>3</sup>
23	32814 15370	大容量爪付バケット	DTB-1540HLD	○	○	○	○	作業幅1545mm 爪数7×容量0.4m <sup>3</sup>
24	32814 16000	マニアフォーク	M-1066HLD	○	○	○	○	作業幅1025mm タイン長600mm×数6
25	32814 16500	ハイフォーク	H-14117HLD	○	○	○	○	作業幅1478mm タイン長1100mm×数7
26	32814 17000	バレットフォーク	P-1182HLD	○	○	○	○	作業幅1150mm タイン長805mm×数2
27	32814 15300	コンテナバケット	CB-1110HLD	○	○	○	○	作業幅1165mm
28	32814 17300	グレーダ	G-15HLD	○	○	○	○	作業幅1533mm
29	32816 12910	Vローダ	VLD36GA-WB	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) 安全フレーム専用 広幅バケット
30	32816 12920	Vローダ	VLD36GA-WBD	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) 安全フレーム専用 広幅爪付バケットDX
31	32816 12930	Vローダ	VLD36GA-WCB	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) 安全フレーム専用 広幅爪付バケット
32	32816 12940	Vローダ	VLD36GA-LB	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) 安全フレーム専用 大容量バケット

# 付 表

	コードNo	名 称	型 式	28型	30型	32型	36型	備 考
33	32816 12950	Vローダ	VLD36GA-LBD	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) 安全フレーム車用 大容量爪付バケットDX
34	32816 12960	Vローダ	VLD36GA-LCB	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) 安全フレーム車用 大容量爪付バケット
35	32816 12970	Vローダ	VLD36XGA-WB	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) キャビン車用 広幅バケット
36	32816 12980	Vローダ	VLD36XGA-WBD	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) キャビン車用 広幅爪付バケットDX
37	32816 12990	Vローダ	VLD36XGA-WCB	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) キャビン車用 広幅爪付バケット
38	32816 13000	Vローダ	VLD36XGA-LB	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) キャビン車用 大容量バケット
39	32816 13010	Vローダ	VLD36XGA-LBD	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) キャビン車用 大容量爪付バケットDX
40	32816 13020	Vローダ	VLD36XGA-LCB	○	○	○	○	制限重量3.24KN (330kg) キャビン車用 大容量爪付バケット
41	32501 60200	延長ロータリパイプ	EXP-GOMC	○				RB142C, RB152C用 延長幅150mm×2
42	32501 60210	延長カバー	EXC-GOMC	○				RB142C, RB152C用 延長幅150mm×2
43	32542 10441	代掻きロータ (サイド用)	PRS-142F2	○	○			RB145S用
44	32542 10451	代掻きロータ (サイド用)	PRS-152F2	○	○			RB155S用
45	32542 11300	代掻きロータ (センター用)	PRC-14AL1	○	○			RB142C用
46	32542 10506	代掻きロータ (センター用)	PRC-25F2	○	○			RB152C用
47	32556 10246	ニューサンレベラ	MC1650DF2	○	○			RB155S, RB165S用
48	32559 10216	クイックレベラ	JKL-1640 DXF2	○	○			RB155S, RB165S用
49	32505 11641	固定式畦立器サポート	TB-GSF23N	○	○	○	○	固定式
50	32505 11150	反転式畦立器サポート	TBL-GSF23N-OP	○	○	○	○	ワンタッチ反転式
51	32505 11240	畦立器45型	RR45-F123-N	○	○	○	○	底幅135mm
52	32505 11250	畦立器6型	RR6-F123-N	○	○	○	○	底幅180mm
53	32521 11191	反転式片培土器 (右)	FKR12-GON.GX	○	○	○	○	縦反転式 (右用) 底幅120mm
54	32521 11211	反転式片培土器 (右)	FKR19-GON.GX	○	○	○	○	縦反転式 (右用) 底幅190mm
55	32521 11450	反転式片培土器 (左)	FKL12-GON.GX	○	○	○	○	縦反転式 (左用) 底幅120mm
56	32521 11460	反転式片培土器 (左)	FKL19-GON.GX	○	○	○	○	縦反転式 (左用) 底幅190mm

## [41・46・50型]

	コードNo	名 称	型 式	41型	46型	50型	備 考
1	32101 50051	バンパウエイト	BW-201	○	○	○	20kg 3個まで装着可
2	32101 50161	バンパウエイト	BW-F1 20K	○	○	○	20kg 6個まで装着可
3	32101 50171	バンパウエイト	BW-F2	○	○	○	22kg 6個まで装着可
4	32101 50270	バンパウエイト	BW-30MT	○	○	○	30kg 6個まで装着可
5	9911 0033 830	ヒッチ (ドローパー)	DH-GA50	○	○	○	
6	32505 11910	強力畦立器45型	DX45-F23-NK	○	○	○	底幅135mm
7	32505 11920	強力畦立器60型	DX60-F23-NK	○	○	○	底幅180mm
8	32505 11930	強力畦立器70型	DX70-F23-NK	○	○	○	底幅210mm
9	32505 11630	強力固定サポート	F23NK	○	○	○	固定式
10	32521 11191	反転式片培土器 (右)	FKR12-GON,GX	○	○	○	縦反転式 (右用) 底幅120mm
11	32521 11211	反転式片培土器 (右)	FKR19-GON,GX	○	○	○	縦反転式 (右用) 底幅190mm
12	32521 11450	反転式片培土器 (左)	FKL12-GON,GX	○	○	○	縦反転式 (左用) 底幅120mm
13	32521 11460	反転式片培土器 (左)	FKL19-GON,GX	○	○	○	縦反転式 (左用) 底幅190mm
14	32602 4243A	サンソワー	RS405(MF-22)	○	○	○	安全フレーム取付
15	32602 4253A	サンソワー	RS805(MF-22)	○	○	○	安全フレーム取付
16	32602 4378A	サンソワー	RS805(RT-5)-3	○	○	○	ロータリ取付
17	32602 4391A	フロントサンソワー	SF135	○	○	○	
18	32602 4392A	フロントサンソワー	SF185	○	○	○	
19	32602 4261A	フロントサンソワー	SF405(JH-1)	○	○	○	
20	32602 4264A	フロントサンソワー	SF805(JH-1)	○	○	○	
21	32572 11810	ニューアゼディスク	ADM41P(5S)	○	○	○	
22	32572 11870	ニューアゼディスク	ADM41S(5S)	○	○	○	
23	32572 10819	反転ディスク	SD41VN(5S)	○	○	○	
24	32577 50050	ニューサイドスキ	MSS-16H(5S)	○	○	○	
25	32577 50060	ニューサイドスキ	MSS-16HK(5S)	○	○	○	標準仕様+コールドタ
26	32577 50070	ニューサイドスキ	MSS-16HA(5S)	○	○	○	ビーム延長
27	1208 7730 000	作業灯キット	EWL-GOM	○	○	○	安全フレーム車用 (部品扱い)
28	32124 12200	サブバルブ	D1-50GA	○	○	○	安全フレーム車用 1連カブラ付
29	32124 12210	サブバルブ	D2-50GA	○	○	○	安全フレーム車用 2連カブラ付
30	32124 12220	サブバルブ	D1-50GA CAB	○	○	○	キャビン車用電磁バルブ式 1連カブラ付
31	32124 12230	サブバルブ	D2-50GA CAB	○	○	○	キャビン車用電磁バルブ式 2連カブラ付
32	32811 13190	オートローダ	GLD-4146GA PC	○	○		制限重量5.68KN (580kg) 安全フレーム車用 PCレバー式
33	32811 13200	オートローダ	GLD-4146GA EC	○	○		制限重量5.68KN (580kg) 安全フレーム車用 ECレバー式
34	32811 13210	オートローダ	GLD-50GA PC			○	制限重量6.66KN (680kg) 安全フレーム車用 PCレバー式

# 付 表

	コードNo	名 称	型 式	41型	46型	50型	備 考
35	32814 1A010	バケツ	B-1014HLD	○	○	○	作業幅1037mm 容量0.14m <sup>3</sup>
36	32814 1A020	バケツ	B-1217HLD	○	○	○	作業幅1234mm 容量0.17m <sup>3</sup>
37	32814 1A030	バケツ	B-1522HLD	○	○	○	作業幅1545mm 容量0.22m <sup>3</sup>
38	32814 1A040	バケツ	B-1725HLD	○	○	○	作業幅1700mm 容量0.25m <sup>3</sup>
39	32814 1A400	爪付バケツ	TB-10145HLD	○	○	○	作業幅1037mm 容量0.14m <sup>3</sup> 爪5本
40	32814 1A410	爪付バケツ	TB-12176HLD	○	○	○	作業幅1234mm 容量0.17m <sup>3</sup> 爪6本
41	32814 1A430	爪付バケツ	TB-17258HLD	○	○	○	作業幅1700mm 容量0.25m <sup>3</sup> 爪8本
42	32814 1A480	大容量バケツ	DB-1540HLD	○	○	○	作業幅1545mm 容量0.4m <sup>3</sup>
43	32814 1A490	大容量バケツ	DB-1745HLD	○	○	○	作業幅1700mm 容量0.45m <sup>3</sup>
44	32814 15370	大容量爪付バケツ	DTB-1540HLD	○	○	○	作業幅1545mm 容量0.4m <sup>3</sup> 爪7本
45	32814 1A520	大容量爪付バケツ	DTB-1745HLD	○	○	○	作業幅1700mm 容量0.45m <sup>3</sup> 爪8本
46	32814 1B020	マニアフォーク	M-1066HLD	○	○	○	作業幅1025mm タイン長600mm×数6
47	32814 1B040	マニアフォーク	M-1267HLD	○	○	○	作業幅1228mm タイン長600mm×数7
48	32814 1B060	マニアフォーク	M-1278HLD	○	○	○	作業幅1228mm タイン長800mm×数7
49	32814 1B090	マニアフォーク	M-1598HLD	○	○	○	作業幅1533mm タイン長800mm×数9
50	32814 16520	ハイフォーク	H-14117HLD	○	○	○	作業幅1478mm タイン長1100mm×数7
51	32814 16530	ハイフォーク	H-17814HLD	○	○	○	作業幅1700mm タイン長1400mm×数8
52	32814 17300	グレーダ	G-15HLD	○	○	○	作業幅1533mm 排土容量0.4m <sup>3</sup>
53	32814 17160	パレットフォーク	P-1182HLD	○	○	○	作業幅1150mm フォーク長さ805mm
54	32814 1A610	コンテナバケツ	CB-1110HLD	○	○	○	作業幅1165mm 奥行1045mm
55	32116 50260	フード	2F-GOV.GXV	○	○	○	安全フレーム用

## 4. 潤滑油について

オイルは三菱純正オイルをお奨めします。

### 1. エンジンオイルについて

メーカ	商 品 名	
三菱農機純正油	スーパーマルチGDオイル (CF級)	(部品番号：3520150210)
シェル石油	リムラX 10W30 (CH-4級)	(部品番号：CH-4-10W30)

#### 取扱いのポイント

- やむをえず他メーカーのオイルを使用される場合はAPIサービス分類CF級（またはCF-4, CH-4級）のオイルをお使いください。

### 2. ミッション、フロントアクスルオイルについて

APIサービス分類 GL-4 級以上のオイルで湿式ブレーキ適性のあるもの。

銘柄 (メーカー)	オ イ ル 商 品 名	
三菱農機純正油	スーパーマルチGBオイル	(SAE・80W)
	スーパーマルチSTOUオイル	(SAE・10W-30)
	低粘度オイル L1339	(SAE・75W-80W)
JX日鉱日石エネルギー	ファームギヤB	(SAE・80)
	ファームユニバーサル	(SAE・10W-30)
全 農	クミアイトラクタオイル	(SAE・80W)

※商品名は変更することがあります。

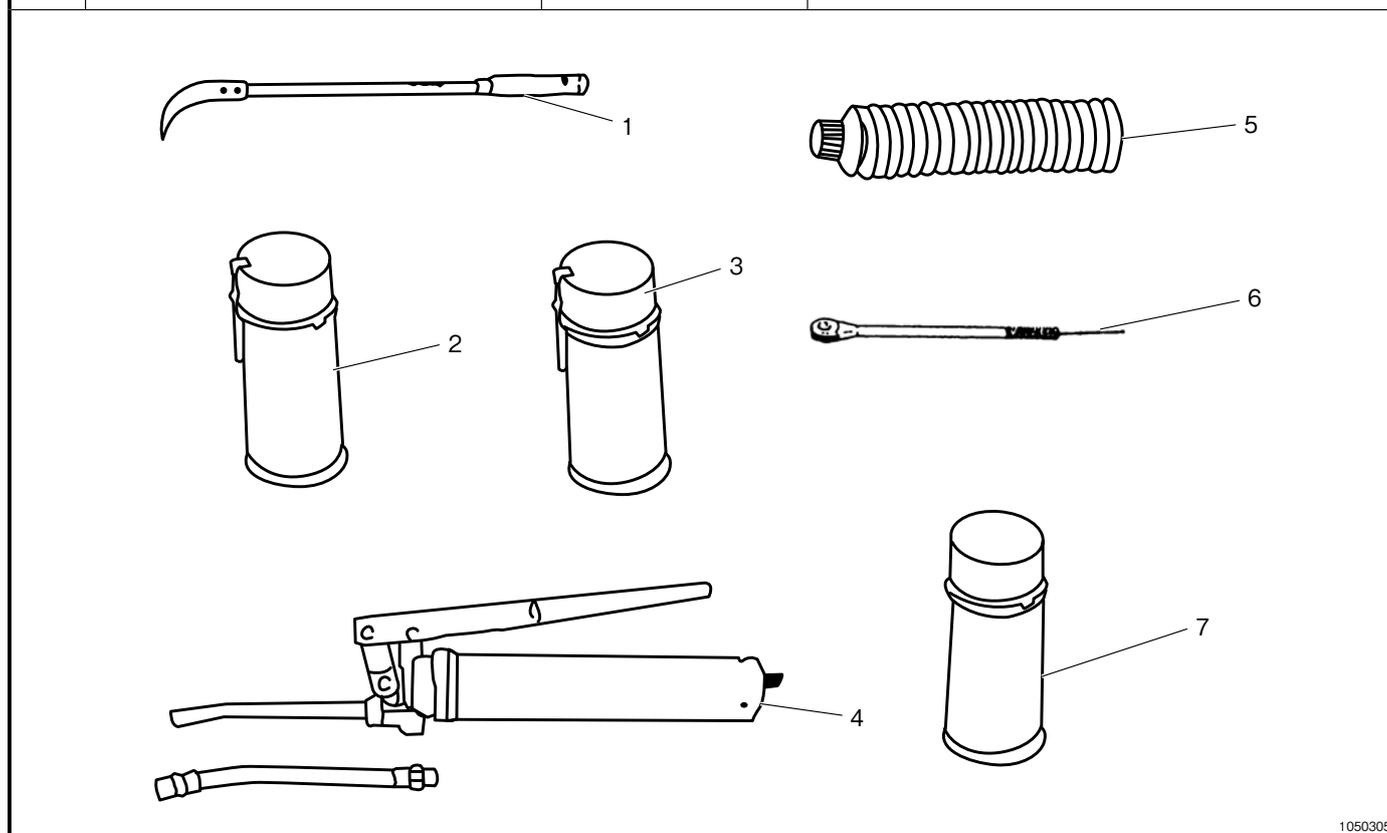
#### 取扱いのポイント

- トランスミッションオイルは、低粘度オイル L1339 (SAE・75W-80W) をお使いください。

## 5. トラクタ関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商 品 名	商 品 番 号	
1	万能鎌 (ノコ刃)	S309DX	土, ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー (防錆・潤滑)	K1-420DX	金属部品の防錆, 潤滑
3	スプレーグリス	SP300	〃
4	グリスポンプ	N850-666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰め替え用
6	ラチェットレンチ (17)	HT3100	爪の脱着, 増締
7	カラスプレー (赤)	0975 0000 490	補修用塗料
	〃 (白)	0975 0000 160	
	〃 (黒)	0975 0000 470	



1050305

・ご用命のときは、「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

# 農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

平成25年度 農業・食品産業技術 総合研究機構	
型式名：三菱 CFA28	
合格番号：213031	
種類：安全キャブ	
依頼者名：三菱農機株式会社 住所：島根県松江市東出雲町 掛屋667番地1	



## I 装着可能トラクター

1. 型式名  
三菱 GA28

2. 主要諸元（最大トラクター）

- 型式名：三菱 GA28
- 種類：4輪駆動
- 質量（キャブ付き）kg：1650
- 軸距 mm：1665
- 機関出力/回転速度 kW (PS) /rpm：21.2(28.8)/2500

## II 構造の概要

1. 構造及び装着法

供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してトランスミッションケース部及びリアアクスルハウジング部にボルトで装着。

ウインドストレーン、ドア（両側）、側窓、後窓を装備。

シートベルト（2点式）、換気・暖房装置、電動ワイパー（前・後）

3. 主要寸法 ※

- 座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ：86.0 cm
- フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ：130.5 cm
- 座席基準点上方81cmの高さにおけるキャブの内幅：84.0 cm
- ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅：99.0 cm
- 戸口の幅（上部）：76.0 cm
- （中部）：80.5 cm
- （下部）：33.0 cm
- （フートプレートから）：120.5 cm
- 戸口の高さ
- 最低ステップの高さ
- キャブ装着時のトラクターの全高（キャブ上端まで）：43.5 cm
- キャブの全幅（フェンダーを含む）：209.0 cm
- 座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離：125.0 cm
- 座席基準点上方26.0cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離：26.0 cm

※1. 三菱 GA28（タイヤサイズ：前輪 7-16 4PR 後輪 11.2-24 4PR）に装着時。

2. トラクターシートの特徴形式：難燃プレス工業、N291590

3. ステアリングホイールの中心は中央位置に間隔。

4. 主要材料

- フレーム：STK 400, STKR 400, STKM 13 C, SS 400, SPHC, SPCC, SPC
- 装着ブラケット：STKM 13 A, SS 400
- 装着ボルト：S 45 C

## III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、側部右側、側部右側に対して実施。

- 基準質量：1670 kg
- 基準軸距：1665 mm
- 所要吸収エネルギー：後部負荷 1.00 kJ (102 kgf・m)  
前部負荷 1.34 kJ (137 kgf・m)  
側部負荷 2.92 kJ (298 kgf・m)
- 圧壊力：33.40 kN (3406 kgf)

2) 試験後のキャブの永久変位

- 後部（前方へ）：右側 -1.0 cm 左側 0.5 cm
- 前部（前方へ）：右側 -0.5 cm 左側 0.5 cm
- 側部（左側方へ）：前部 8.0 cm 後部 7.0 cm
- 上部（下方へ）：前部 右側 0.0 cm 左側 1.5 cm  
後部 右側 -1.0 cm 左側 1.5 cm

3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：8.5 cm

2. 騒音 ※

- 79.0 dB(A) [三菱 GA28]

※ 7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

## IV 付記

強度試験はコードⅡにより実施した。

本成績表のⅡの3. 主要寸法における座席基準点は、平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり、平成21年度までの座席基準点とは位置が異なる。

# 農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

平成25年度 農業・食品産業技術 総合研究機構	型式名：三菱 CFA36
	合格番号：213032
種類：安全キャブ	依頼者名：三菱農機株式会社 住所：島根県松江市東出雲町 掛屋667番地1

## I 装着可能トラクター

- 型式名  
三菱 GA36 三菱 GA32 三菱 GA30
- 主要諸元（最大トラクター）
  - 型式：三菱 GA36
  - 種類：4輪駆動
  - 質量（キャブ付き）：1725 kg
  - 軸距：1730 mm
  - 機関出力/回転速度 kW (PS) /rpm：26.6 (36.1) /2600

## II 構造の概要

- 構造及び装着法  
供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してトランスミッションケース部及びリアアクスルハウジング部にボルトで装着。  
ウインドスクリーン、ドア（両側）、側窓、後窓を装備。
  - 主な装備  
シートベルト（2点式）、換気・暖房装置、電動ワイパー（前・後）
  - 主要寸法 ※
    - 座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ：86.0 cm
    - フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ：130.0 cm
    - 座席基準点上方81cmの高さにおけるキャブの内幅：84.0 cm
    - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅：99.0 cm
    - 戸口の幅（上部）：76.0 cm
    - （中部）：80.5 cm
    - （下部）：33.0 cm
    - （フートプレートから）：120.5 cm
    - 戸口の高さ：45.5 cm
    - 最低ステップの高さ：211.0 cm
    - キャブ装着時のトラクターの全高（キャブ上端まで）：125.0 cm
    - キャブの全幅（フェンダーを含む）：26.0 cm
    - 座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離：26.0 cm
- ※1. 三菱 GA36（タイヤサイズ：前輪 8-16 4PR 後輪 13.6-24 4PR）に装着時。  
※2. トラクターシートの座席形式：離波プレス工業、N291590  
※3. ステアリングホイールの中心は中央位置に偏離。

## 4. 主要材料

- 主フレーム：STK 400, STKR 400, STKM 13 C, SS 400, SPHC, SPCC, SPC
- 装着ブラケット：STKM 13 A, SS 400
- 装着ボルト：S 45 C

## III 検査成績

### 1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、前部右側、側部右側に対して実施。

- 基準質量：1750 kg
- 基準軸距：1730 mm
- 所要吸収エネルギー：後部負荷 1.13 kJ (115 kgf・m)  
前部負荷 1.38 kJ (141 kgf・m)  
側部負荷 3.06 kJ (312 kgf・m)
- 圧壊力：35.00 kN (3569 kgf)

2) 試験後のキャブの永久変位

- 後部（前方へ）：右側 -1.0 cm 左側 1.0 cm
- 前部（前方へ）：右側 -0.5 cm 左側 1.0 cm
- 側部（左側方へ）：前部 8.0 cm 後部 7.5 cm
- 上部（下方へ）：前部 右側 0.0 cm 左側 2.0 cm  
後部 右側 -1.0 cm 左側 2.0 cm

3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：8.0 cm

### 2. 騒音 ※

- 79.0 dB(A) [三菱 GA36]

※ 7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

## IV 付記

強度試験はコードIIにより実施した。  
本成績表のIIの3. 主要寸法における座席基準点は、平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり、平成21年度までの座席基準点とは位置が異なる。

# 農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

平成25年度 農業・食品産業技術 総合研究機構	
型式名：三菱 CFA50	
合格番号：213033	
種類：安全キャブ	
依頼者名：三菱農機株式会社 住所：島根県松江市東出雲町 掛屋667番地1	

## I 装着可能トラクター

1. 型式名	三菱 GA50	三菱 GA46	三菱 GA41
--------	---------	---------	---------

## 2. 主要諸元（最大トラクター）

■ 型式	三菱 GA50
■ 種類	4輪駆動
■ 質量（キャブ付き）	kg：2085
■ 軸距	mm：1970
■ 機関出力/回転速度	kW(PS)/rpm：36.8(50)/2500

## II 構造の概要

1. 構造及び装着法  
供試キャブは、鋼管及び鋼板を主材とした溶接による一体構造であり、防振ゴム・取付金具を介してトランスミッションケース部及びリアアクスルハウジング部にボルトで装着。

2. 主な装備  
ウインドスクリーン、ドア（両側）、側窓、後窓を装備。  
シートベルト（2点式）、換気・暖房装置、電動ワイパー（前・後）

3. 主要寸法 ※  
■ 座席基準点から屋根部材（内張下面）までの高さ：98.5 cm  
■ フートプレートから屋根部材（内張下面）までの高さ：144.5 cm  
■ 座席基準点上方81cmの高さにおけるキャブの内幅：100.0 cm  
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のキャブの内幅：101.5 cm  
■ 戸口の幅（上部）：76.5 cm  
（中部）：85.0 cm  
（下部）：37.5 cm  
（フートプレートから）：136.0 cm

■ 戸口の高さ  
■ 最低ステップの高さ  
■ キャブ装着時のトラクターの全高（キャブ上端まで）：231.0 cm  
■ キャブの全幅（フエントナーを含む）：130.5 cm  
■ 座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からキャブ後部までの水平距離：42.5 cm

※ 1. 三菱 GA50（タイヤサイズ：前輪 8.3-20 4PR 後輪 13.6-28 4PR）に装着時。  
2. トラクターシートの座席形式：宇島 W09041  
3. ステアリングホイールの中心は中央位置に偏離。

## 4. 主要材料

- 主フレーム：STK 400, STKR 400, STKM 13 C, SS 400, SPHC, SPCC, SPCE
- 装着ブラケット：STKM 13 A, SS 400
- 装着ボルト：S 45 C

## III 検査成績

### 1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、キャブの後部左側、側部右側に対して実施。

- 基準質量：2100 kg
- 所要吸気エネルギー：後部負荷 2.94 kJ {300 kgf・m}  
側部負荷 3.68 kJ {375 kgf・m}
- 圧縮力：42.00 kN {4283 kgf}

2) 試験後のキャブの永久変位

- 後部（前方へ）：右側 3.0 cm 左側 6.0 cm
- 前部（前方へ）：右側 3.5 cm 左側 6.0 cm
- 側部（左側方へ）：前部 13.0 cm 後部 12.5 cm
- 上部（下方へ）：前部 右側 1.0 cm 左側 3.0 cm  
後部 右側 -1.0 cm 左側 3.0 cm

3) 側部負荷試験時のキャブの最大変位と残留変位との差：10.0 cm

### 2. 騒音 ※

- 79.5 dB(A) [三菱 GA50]

※ 7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のキャブ内騒音（運転者の耳もと）

## IV 付記

強度試験はコードIにより実施した。  
本成績表のIIの3. 主要寸法における座席基準点は、平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり、平成21年度までの座席基準点とは位置が異なる。

# 農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

平成25年度  
農業・食品産業技術  
総合研究機構



型式名：三菱 2FA28

合格番号：213034

種類：安全フレーム（2柱式）

依頼者名：三菱農機株式会社  
住所：島根県松江市東出雲町  
掛屋667番地1

## I 装着可能トラクター

1. 型式名  
三菱 GA28

2. 主要諸元（最大トラクター）

- 型式名：三菱 GA28
- 種類：4 輪駆動
- 質量（フレーム付き）kg：1470
- 軸距 mm：1665
- 機関出力/回転速度 kW(PS)/rpm：21.2(28.8)/2500

## II 構造の概要

1. 構造及び装着法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり、防振ゴム・取付金具を介してトランスミッションケース部及びリヤアクスルハウジング部にボルトで装着。

なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2. 主な装備

シートベルト（2点式）

3. 主要寸法 ※
- 座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ：122.5 cm
  - フロントプレートから屋根部材（下面）までの高さ：166.5 cm
  - 座席基準点上方81cmの高さにおけるフレームの内幅：89.5 cm
  - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅：-cm
  - 戸口の幅（上部）：-cm
  - （中部）：-cm
  - （下部）：-cm
  - （フロントプレートから）：-cm
  - 戸口の高さ：-cm
  - 最低ステップの高さ：44.0 cm
  - フレーム装着時のトラクターの全高（屋根部材上面まで）：245.5 cm
  - フレームの全高（フェニター含む）：125.5 cm
  - 座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離：41.5 cm

※1. 三菱 GA28（タイヤサイズ：前輪 7-16 4PR 後輪 11.2-24 4PR）に装着時。

2. トラクターシートの特徴形式：難燃プレス工業、N291520

3. ステアリングホイールのベルトは中央位置に調節。

4. 主要材料

- 主フレーム：STKR 400, STKM 13 C, SS 400, SM 490 B, SPHC, SPCC, SPCE, SCM 435, S 45 C, S 25 C
- 装着ブラケット：STKM 13 A, SS 400
- 装着ボルト：S 45 C

## III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平荷重試験は、フレームの後部左側、前部右側、側部右側に対して実施。

- 基準質量：1500 kg
- 基準軸距：1665 mm
- 所要吸収エネルギー：後部負荷 0.90 kJ { 92 kgf・m }  
前部負荷 1.25 kJ { 127 kgf・m }  
側部負荷 2.63 kJ { 268 kgf・m }
- 圧壊力：30.00 kN { 3059 kgf }

2) 試験後のフレームの永久変位

- 後部（前方へ）：右側 -4.5 cm 左側 -2.5 cm
- 側部（左側方へ）：12.5 cm
- 上部（下方へ）：右側 0.0 cm 左側 2.0 cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：12.0 cm

2. 騒音 ※

- 83.0 dB(A) [三菱 GA28]

※ 7.5km/hに近い速度で、けん引負荷をかけた時のフレーム騒音（運転者の耳もと）

## IV 付記

強度試験はコードIIにより実施した。

本成績表のIIの3. 主要寸法における座席基準点は、平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり、平成21年度までの座席基準点とは位置が異なる。

# 農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

平成25年度 農業・食品産業技術 総合研究機構	
型式名：三菱 2FA36	
合格番号：213035	
種類：安全フレーム（2柱式）	
依頼者名：三菱農機株式会社 住所：島根県松江市東出雲町 掛屋667番地1	



## I 装着可能トラクター

- 型式名  
三菱 GA36 三菱 GA32 三菱 GA30
- 主要諸元（最大トラクター）
  - 型式名：三菱 GA36
  - 種類：4輪駆動
  - 質量（フレーム付き）kg：1555
  - 軸距 mm：1730
  - 機関出力/回転速度 kW(PS)/rpm：26.6(36.1)/2600

## II 構造の概要

- 構造及び装着法  
供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり、防振ゴム・取付金具を介してトランスミッションケース部及びリヤアクスルハウジング部にボルトで装着。  
なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

- 主な装備  
シートベルト（2点式）
- 主要寸法 ※
  - 座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ：122.0 cm
  - フロントプレートから屋根部材（下面）までの高さ：165.0 cm
  - 座席基準点上方81cmの高さにおけるフレームの内幅：89.5 cm
  - ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅：-cm
  - 戸口の幅（上部）：-cm
  - （中部）：-cm
  - （下部）：-cm
  - （フロントプレートから）：-cm
  - 戸口の高さ：46.0 cm
  - 最低ステップの高さ：247.0 cm
  - フレーム装着時のトラクターの全高（屋根部材上面まで）：125.5 cm
  - フレームの全高（フェンダー含む）：41.5 cm
  - 座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離：-

※1. 三菱 GA36（タイヤサイズ：前輪 8-16 4PR 後輪 13.6-24 4PR）に装着時。  
2. トラクターシートの特徴型式：難波プレス工業、N291520  
3. ステアリングホイールのベルトは中央位置に調節。

- 主要材料
  - 主フレーム：STKR 400, STKM 13 C, SS 400, SM 490 B, SPHC, SPCC, SPCE, SCM 435, S 45 C-QD, S 25 C
  - 装着ブラケット：STKM 13 A, SS 400
  - 装着ボルト：S 45 C

## III 検査成績

- 強度試験  
1) 水平負荷試験は、フレームの後部左側、前部右側、側部右側に対して実施。
  - 基準質量：1570 kg
  - 基準軸距：1730 mm
  - 所要吸収エネルギー：後部負荷 1.02 kJ (104 kgf・m)  
前部負荷 1.29 kJ (132 kgf・m)  
側部負荷 2.75 kJ (280 kgf・m)
  - 圧壊力：31.40 kN (3202 kgf)
- 試験後のフレームの永久変位
  - 後部（前方へ）：右側 -3.0 cm 左側 -1.0 cm
  - 側部（左側方へ）：13.5 cm
  - 上部（下方へ）：右側 0.0 cm 左側 2.0 cm
- 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：12.0 cm

## 2. 騒音 ※

- 84.5 dB(A) [三菱 GA36]
- ※ 7.5km/hに近い速度で、けん引負荷をかけた時のフレーム騒音（運転者の耳もと）

## IV 付記

強度試験はコードIIにより実施した。  
本成績表のIIの3. 主要寸法における座席基準点は、平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり、平成21年度までの座席基準点とは位置が異なる。

# 農用トラクター（乗用型）用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表

平成25年度 農業・食品産業技術 総合研究機構	
型式名：三菱 2FA50	
合格番号：213036	
種類：安全フレーム（2柱式）	
依頼者名：三菱農機株式会社 住所：島根県松江市東出雲町 掛屋667番地1	



## I 装着可能トラクター

1. 型式名	三菱 GA50	三菱 GA46	三菱 GA41
--------	---------	---------	---------

## 2. 主要諸元（最大トラクター）

■ 型式	三菱 GA50
■ 種類	4輪駆動
■ 質量（フレーム付き）	kg : 1880
■ 軸距	mm : 1970
■ 機関出力/回転速度	kW(PS)/rpm : 36.8(50)/2500

## II 構造の概要

### 1. 構造及び装着法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり、防振ゴム・取付金具を介してトランスミッションケース部及びリヤアクスルハウジング部にボルトで装着。  
なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

### 2. 主な装備

シートベルト（2点式）

### 3. 主要寸法 ※

■ 座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ	: 121.5 cm
■ フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ	: 164.0 cm
■ 座席基準点上方81cmの高さにおけるフレームの内幅	: 89.5 cm
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	: -cm
■ 戸口の幅	: -cm
■ 戸口の幅	: -cm
■ 最低ステップの高さ	: 50.5 cm
■ フレーム装着時のトラクターの全高	: 250.5 cm
■ フレームの全高	: 130.5 cm
■ 座席基準点上方81cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	: 49.0 cm

- 三菱 GA50（タイヤサイズ：前輪 8.3-20 4PR 後輪 13.6-28 4PR）に装着時。
- トラクターシートの座席型式：難波プレス工業、N291520
- ステアリングホイールのベルトは中央位置に調整。

## 4. 主要材料

- 主フレーム : STKR 400, STKM 13 C, SS 400, SM 490 M, SPHC, SPCC, SPCE, SCM 435, S 45 C, S 25 C
- 装着ブラケット : STKM 13 A, SS 400
- 装着ボルト : S 45 C

## III 検査成績

### 1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、フレームの後部左側、側部右側、側部右側に対して実施。

- 基準質量 : 1900 kg
- 所要吸収エネルギー : 後部負荷 2.66 kJ {271 kgf・m}  
側部負荷 3.33 kJ {340 kgf・m}  
前部負荷 0.67 kJ {68 kgf・m}
- 圧破力 : 38.00 kN {3875 kgf}

2) 試験後のフレームの永久変位

- 後部（前方へ） : 右側 9.5 cm 左側 11.5 cm
- 側部（左側方へ） : 15.5 cm
- 上部（下方へ） : 右側 -0.5 cm 左側 1.5 cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差 : 15.0 cm

## 2. 騒音 ※

- 87.0 dB(A) [三菱 GA50]

※ 7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のフレーム騒音（運転者の耳もと）

## IV 付記

強度試験はコードIにより実施した。  
本成績表のIIの3. 主要寸法における座席基準点は、平成22年度の「農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレームの型式検査の主要な実施方法及び基準」の改正により変更されたものであり、平成21年度までの座席基準点とは位置が異なる。

# お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買いあげ先へお問合わせください。

- ご使用機の型式，機械番号(製造番号)，キーナンバーは…？

型 式

---

機械番号(製造番号)

---

キーナンバー

---

- ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

- どのくらい使用されましたか？

(約 \_\_\_\_\_ アール使用后)

- トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



どんなに小さなことでも，  
お気軽にお問合わせ  
ください。

(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL ( )

 **三菱農機株式会社**

<b>本 社</b>	〒699-0195 島根県松江市東出雲町揖屋 6 6 7 - 1	☎ (0852) 52-2111(代)
<b>事業本部(東京事務所)</b>	〒340-0203 埼玉県久喜市桜田 2 - 1 3 3 - 4	☎ (0480) 58-7050(代)

**販売会社** (販売会社は広域販売会社のみを記載)

<b>三菱農機販売株式会社</b>	〒340-0203 埼玉県久喜市桜田 2 - 1 3 3 - 4	☎ (0480) 58-9524
<b>北 海 道 支 社</b>	〒066-0077 北海道千歳市上長都 1 0 4 6	☎ (0123) 22-1234
<b>東 北 支 社</b>	〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 3 丁目 1 - 1	☎ (022) 207-3711
<b>関 東 甲 信 越 支 社</b>	〒340-0203 埼玉県久喜市桜田 2 - 1 3 3 - 4	☎ (0480) 58-9521
<b>東 海 支 社</b>	〒453-0862 愛知県名古屋市中村区岩塚町字高道 1 (三菱重工業株式会社 岩塚工場内)	☎ (052) 419-6721
<b>北 陸 支 社</b>	〒918-8231 福井県福井市問屋町 2 - 3 8	☎ (0776) 27-3078
<b>西 日 本 支 社</b>	〒701-4254 岡山県瀬戸内市邑久町豆田 1 6 1 - 1	☎ (0869) 24-0820
<b>九 州 支 社</b>	〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜 7 - 1	☎ (0942) 84-1888